

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第491集

の ぎ と か み な か や し き う え
野里上Ⅱ遺跡・中屋敷上遺跡
発掘調査報告書

一般国道4号小鳥谷バイパス建設事業関連遺跡発掘調査

2007

国土交通省東北地方整備局
岩手河川国道事務所

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

野里上Ⅱ遺跡・中屋敷上遺跡 発掘調査報告書

一般国道4号小鳥谷バイパス建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料であります。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、一般国道4号小鳥谷バイパス建設事業に関連して平成17年度に発掘調査された野里上Ⅱ遺跡、中屋敷上遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では、縄文時代の竪穴住居跡が4棟見つかри、当時の小規模な集落跡であることが明らかになりました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査および報告書作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、一戸町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成19年1月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 武田 牧雄

例 言

- 1 本報告書は、岩手県二戸郡一戸町小鳥谷字野里上63ほかに所在する野里上Ⅱ遺跡、一戸町小鳥谷字中屋敷上24-2ほかに所在する中屋敷上遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、一般国道4号小鳥谷バイパス建設事業に伴う緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会と国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所との協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
- 3 岩手県遺跡台帳に登録されている遺跡番号・遺跡略号以下の通りである。
野里上Ⅱ遺跡…遺跡番号JF30-2021・遺跡略号NZKⅡ-05
中屋敷上遺跡…遺跡番号JF30-2040・遺跡略号NYU-05
- 4 発掘調査面積は以下の通りである。
野里上Ⅱ遺跡…6,365㎡
中屋敷上遺跡…356㎡
- 5 発掘調査期間及び発掘担当者は以下の通りである。
野里上Ⅱ遺跡…平成17年4月14日～30日・6月1日～7月14日 村木 敬
平成17年4月14日～7月14日 藤原大輔
平成17年5月1日～5月31日 木戸口俊子
中屋敷上遺跡…平成17年7月15日～7月29日 村木 敬・藤原大輔
- 6 室内整理期間及び整理担当者は以下の通りである。
野里上Ⅱ遺跡…平成17年11月1日～平成18年3月31日 村木 敬
中屋敷上遺跡…平成18年3月15日～平成18年3月31日 藤原大輔
- 7 野外での写真撮影は調査員、遺物写真撮影は写真撮影技師が行った。
- 8 本報告書の執筆は、第Ⅰ章(1)調査に至る経過は国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所に依頼している。それ以外は基本的に村木が担当しているが、Ⅵ章中の調査区南側で検出された遺構・遺物は村木、北側で検出されたものは藤原が担当している。また第Ⅷ章3は共同で執筆している。
- 9 デジタル図化及び編集、分析鑑定は下記の機関に委託した。
石材鑑定…花崗岩研究会
デジタル調整図化及び編集…株式会社セビマス
- 10 発掘調査、本報告書作成にあたっては下記の方々にご協力・ご指導を頂いた(敬称略)。
国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、一戸町教育委員会、森 一欽
- 11 調査結果は、これまでに現地公開資料や『平成17年度発掘調査報告書』第490集に掲載してきたが、本書がこれらに優先するものである。
- 12 土層の色調は、「新版標準土色帖」(農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1993)を使用している。
- 13 本報告で使用した地形図は、国土地理院発行1:50,000「一戸」を使用している。
- 14 緯度と経度は日本測地系から世界測地系に変換して表記している。
- 15 本書で得られた一切の資料は岩手県立埋蔵文化財センターで保管している。

目 次

I	調査に至る経緯	1
II	遺跡概観	1
1	位置・立地	1
2	地理的環境	2
3	周辺の遺跡	2
III	調査方法	7
1	野外調査の方法	7
2	調査経過	10
3	室内整理の方法	10
4	凡 例	11
IV	基本層序	12
1	野里上Ⅱ遺跡	12
2	中屋敷上遺跡	13
V	分類基準	14
1	土 器	14
2	石 器	16
VI	野里上Ⅱ遺跡の調査成果	22
1	概 略	22
2	縄文時代の遺構・遺物	24
3	中世以降の遺構・遺物	78
VII	中屋敷上遺跡の調査成果	103
1	概 略	103
2	出土した遺物	103
VIII	ま と め	105
1	遺 構	105
2	遺 物	106
3	竪穴建物跡の検討	107
4	ま と め	109
	報告書抄録	140

図版目次

第1図	遺跡位置図	第37図	ブロック2出土遺物(1)	54
第2図	地形地質図	第38図	ブロック2出土遺物(2)	55
第3図	周辺遺跡分布図(1)	第39図	ブロック3出土遺物	56
第4図	周辺遺跡分布図(2)	第40図	ブロック4出土遺物	57
第5図	配置図	第41図	遺構外出土土器(1)	60
第6図	グリッド配置図	第42図	遺構外出土土器(2)	61
第7図	凡例	第43図	遺構外出土土器(3)	62
第8図	基本層序	第44図	遺構外出土土器(4)	63
第9図	器形分類図	第45図	遺構外出土土器(5)	64
第10図	野里上Ⅱ遺跡遺構配置図	第46図	遺構外出土土器(6)	65
第11図	野里上Ⅱ遺跡(調査区南側)遺構配置図	第47図	遺構外出土土器(7)	66
第12図	野里上Ⅱ遺跡(調査区北側)遺構配置図	第48図	遺構外出土土器(8)	67
第13図	中屋敷上遺跡出土状況図	第49図	遺構外出土土器(9)	68
第14図	S I 01	第50図	遺構外出土土器(10)	69
第15図	S I 01遺物出土状況	第51図	遺構外出土石器(1)	70
第16図	S I 01出土遺物(1)	第52図	遺構外出土石器(2)	71
第17図	S I 01出土遺物(2)	第53図	遺構外出土石器(3)	72
第18図	S I 01出土遺物(3)	第54図	遺構外出土石器(4)	73
第19図	S I 01出土遺物(4)	第55図	遺構外出土石器(5)	74
第20図	S I 02	第56図	遺構外出土石器(6)	75
第21図	S I 02遺物出土状況	第57図	遺構外出土石器(7)	76
第22図	S I 01出土遺物(1)	第58図	遺構外出土石器(8)	77
第23図	S I 01出土遺物(2)	第59図	S I 05・06	78
第24図	S I 03	第60図	S I 05	80
第25図	S I 03出土遺物	第61図	S I 06	81
第26図	S I 04(1)	第62図	S I 06出土遺物(1)	82
第27図	S I 04(2)	第63図	S I 06出土遺物(2)	83
第28図	S I 04出土遺物	第64図	S K 11~18	85
第29図	S R 01・S N 01~03・S K 01~03	第65図	S K 19・20	87
第30図	S K 04~10	第66図	野里上Ⅱ遺構配置図	88
第31図	S R 01・S K 08・09出土遺物	第67図	柱穴(1)	89
第32図	ブロック分布図	第68図	柱穴(2)	90
第33図	ブロック1遺物分布図	第69図	柱穴(3)	91
第34図	ブロック2・3遺物分布図	第70図	遺物出土状況	102
第35図	ブロック1出土遺物(1)	第71図	遺構外出土遺物	104
第36図	ブロック1出土遺物(2)	第72図	竪穴建物跡散布図	109

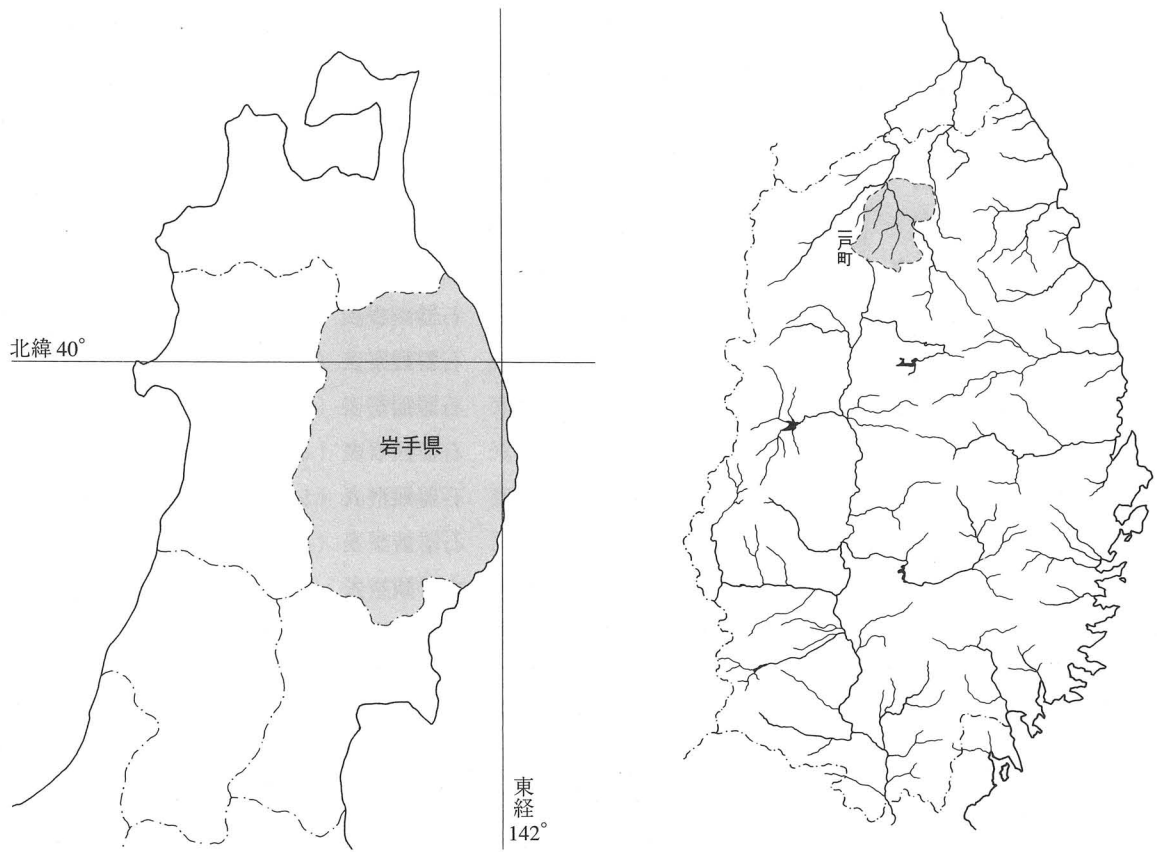
表 目 次

第1表	遺構名新旧表	11	第14表	土器観察表(3)	94
第2表	出土土器一覧表	22	第15表	土器観察表(4)	95
第3表	出土石器一覧表	23	第16表	土器観察表(5)	96
第4表	S I 04炉石観察表	37	第17表	土器観察表(6)	97
第5表	ブロック別出土遺物一覧	47	第18表	石器観察表(1)	98
第6表	ブロック1出土遺物一覧	48	第19表	石器観察表(2)	99
第7表	ブロック2出土遺物一覧	49	第20表	石器観察表(3)	99
第8表	ブロック3出土遺物一覧	49	第21表	石器観察表(4)	100
第9表	ブロック4出土遺物一覧	49	第22表	石器観察表(5)	101
第10表	S I 06出土礫観察表	82	第23表	石器観察表(6)	102
第11表	柱穴観察表	87	第24表	土器観察表	104
第12表	土器観察表(1)	92	第25表	一戸町出土の竪穴建物跡集成表	108
第13表	土器観察表(2)	93			

写真図版目次

写真図版1	遺跡遠景	113	写真図版14	出土土器(3)	126
写真図版2	遺跡完掘	114	写真図版15	出土土器(4)	127
写真図版3	S I 01	115	写真図版16	出土土器(5)	128
写真図版4	S I 02	116	写真図版17	出土土器(6)	129
写真図版5	S I 03・04	117	写真図版18	出土土器(7)	130
写真図版6	S I 05・作業風景	118	写真図版19	出土土器(8)	131
写真図版7	S I 06	119	写真図版20	出土土器(9)	132
写真図版8	S R 01・S N 01~03・S K 01~03	120	写真図版21	出土土器(10)	133
写真図版9	S K 04~12	121	写真図版22	出土石器(1)	134
写真図版10	S K 13~20	122	写真図版23	出土石器(2)	135
写真図版11	完掘・基本層序	123	写真図版24	出土石器(3)	136
写真図版12	出土土器(1)	124	写真図版25	出土石器(4)	137
写真図版13	出土土器(2)	125	写真図版26	出土石器(5)	138
			写真図版27	出土石器(6)	139

1 位置・立地



第1図 遺跡位置図

I 調査に至る経緯

「野里上Ⅱ遺跡」と「中屋敷上遺跡」は、小鳥谷バイパス改築工事に伴って、その事業区内に存することから発掘調査を実施することになったものである。

一般国道4号は、東京都中央区を起点として青森県青森市に至る延長約858kmのわが国最長の国道で、東北地方の大動脈を担っている主要幹線道路である。

小鳥谷バイパスは、二戸郡一戸町大字小鳥谷字中村を起点とし同町大字岩館字子守を終点とした国道4号の人家密集、幅員縮小による交通混雑と急カーブの連続、冬期間の凍結、降雪等による交通隘路の解消を図り、交通安全の確保、沿道環境の改善を図ると共に周辺市町村と連携を強化して地域活性化の支援を目的とする道路として、延長約4.3kmとして昭和63年度に事業着手し、平成7年度に用地着手、平成16年度に工事着手し平成17年度は、起点側の新稲荷橋（仮称）に工事着手した。

平成19年度に起点から野中橋までの約2.6kmを暫定2車線供用を目標に鋭意事業を進めている。

この区間の埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が平成元～2年に分布調査を実施し、「野里上Ⅱ遺跡」と「中屋敷上遺跡」を確認している。同遺跡の試掘は平成16年度に試掘調査を実施している。その結果に基づいて岩手県教育委員会は岩手河川国道事務所と協議を行い、発掘調査を財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることとした。

これにより、平成17年4月1日付けで岩手河川国道事務所と岩手県文化振興事業団理事長と受託契約を締結し、「野里上Ⅱ遺跡」と「中屋敷上遺跡」の発掘調査に着手した。その結果、「野里上Ⅱ遺跡」は堅穴住居等の遺構と土器、「中屋敷上遺跡」は土器の確認がなされた。

(国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所)

II 遺跡概観

1 位置・立地

野里上Ⅱ遺跡は岩手県二戸郡一戸町小鳥谷字野里上63ほか、中屋敷上遺跡は同町小鳥谷字中屋敷上24-2ほかにある。両遺跡共にいわて銀河鉄道小鳥谷駅から約1km南西方向に位置し、平糠川の左岸に形成された段丘上に立地している。

野里上Ⅱ遺跡は調査区が南北2カ所に分かれ、それぞれ異なる段丘上に立地している。調査区南側は標高200m前後の丘陵尾根部の縁辺部、北側は標高185m前後の段丘平坦部上にある。

中屋敷上遺跡は東を向く標高210mの河岸段丘上の斜面上にある。

野里上Ⅱ遺跡の両調査区及び中屋敷遺跡が立地する段丘面は異なる。中屋敷上遺跡がある面、野里上Ⅱ遺跡の南側調査区がある面、同遺跡の北側調査区がある面と3つの段丘面が存在しており、それらは標高を少しずつ下げて形成されている。

今年度は小鳥谷地区において、同一事業に伴い当該遺跡以外にも野里上遺跡、野中遺跡の調査が行われている。それらの遺跡は野里上Ⅱ遺跡の北側に隣接して存在している。また、過去に調査が行われた仁昌寺Ⅱ・Ⅲ、五月館跡などは南方に位置している。

2 地理的環境

ここでは遺跡が立地する平糠川兩岸及び遺跡内に限って概観する。遺跡が所在する小鳥谷地区は平糠川が北流することで開析された地形である。現況は平糠川に沿って一段高い砂礫段丘が当該地区の中では比較的広範囲に広がり、その両脇に標高の低い尾根部との間に高低差を持って狭小な段丘が複数存在している。河川沿いに広がる一段高い砂礫段丘には市街地が形成され、それより上位段丘には宅地もしくは田圃・畑地が広がる。

地形は、左岸は平糠川によって複数の河岸段丘が形成され比較的平坦な面が存在している。それに対して、右岸は小起伏山地及び中起伏山地で占められており、それより低い段丘の数及び面積は少ない。地質と土壌は兩岸共にほぼ同じである。地質は砂岩と泥岩、安山岩質岩石により形成されている。土壌は概ね黒ボク・淡色黒ボクにより形成され、遺跡の南東方向のみ褐色森林土で占められている。

上述したように遺跡周辺の小鳥谷地区は、平糠川兩岸において地質と土壌はほとんど変わらず、同河川によって開析された地形のみが異なっていることが窺える。

両遺跡は、地形は砂礫段丘Ⅰ・Ⅱ、地質は砂礫、土壌は細粒灰色・淡色黒ボクに該当する。

野里上Ⅱ遺跡は調査区は南北に分かれていることは先述した通りであるが、各調査区内は下記のような地形である。南側は痩せ尾根上の先端部にある。南東方向から張り出して形成された地形は、全体的に北と東方向に向かって傾斜しており、調査区内において大きく2枚の平坦面がある。北側は東向きの河岸段丘上にある。表土除去後は調査区南半は北向きの緩斜面、調査区北半は東向きの斜面が形成されている。極端に平坦面が狭くなり、現況とは大きく異なる地形を示している。両調査区を挟むように平糠川の支流が存在している。

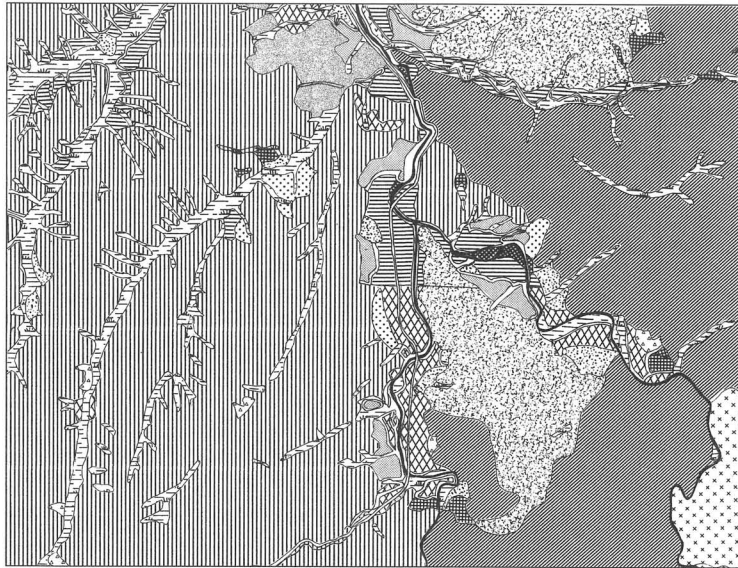
中屋敷上遺跡は概ね東向きの段丘上にあるが、表土を除去した状況も同様である。本遺跡から南西から北東方向に走る旧河道が確認された。

3 周辺の遺跡

本遺跡が所在する一戸町には数多くの遺跡が登録されている。縄文時代早期から近世にかけての時期が認められるが、その大半は縄文時代である。それらの遺跡は、馬淵川流域及びその支流沿いに分布している。特に小鳥谷地区周辺の遺跡の様相は『仁昌寺Ⅱ遺跡・仁昌寺遺跡発掘調査報告書』（岩文埋2002）で詳細に報告がなされているので参照願いたい。今回の調査によって縄文時代から中世にかけての遺構と遺物が確認できた。ここでは成果が得られている周辺遺跡に限って各時期ごとに概観していく。

遺跡周辺は、縄文時代の遺跡が多数を占め、それらは馬淵川・平糠川及びそれに注ぐ支流沿いに存在している。それ以外の時期の遺跡は極めて少ない。調査成果が認められている周辺の遺跡は以下の通りである。

縄文時代は、平糠川沿いはほとんどが中期末から晩期にかけての遺跡である。平成12年度に調査された中期末から後期初頭の集落遺跡である仁昌寺Ⅱ遺跡は約1km南にある（岩文埋2002）。仁昌寺Ⅱ遺跡に隣接する仁昌寺遺跡からは縄文時代晩期末から弥生時代の遺物が少量ながらも確認されている（岩埋文2002）。縄文時代晩期の土器片が出土している野里遺跡は約0.6km北にある（一戸町教育委員会1993）。当該地区以外では、国指定史跡である中期末の集落遺跡である御所野遺跡（一戸町教育委



- | | |
|------------|-----------|
| 大起伏山地 | 砂礫段丘Ⅲ |
| 中起伏山地 | 岩石段丘 |
| 小起伏山地 | 扇状地 |
| 山麓地及び他の緩斜面 | 崖錐性扇状及び沖積 |
| 丘陵地Ⅰ | 谷底平野 |
| 丘陵地Ⅱ | 氾濫平野 |
| 砂礫段丘Ⅰ | 火山灰砂台地 |
| 砂礫段丘Ⅱ | |



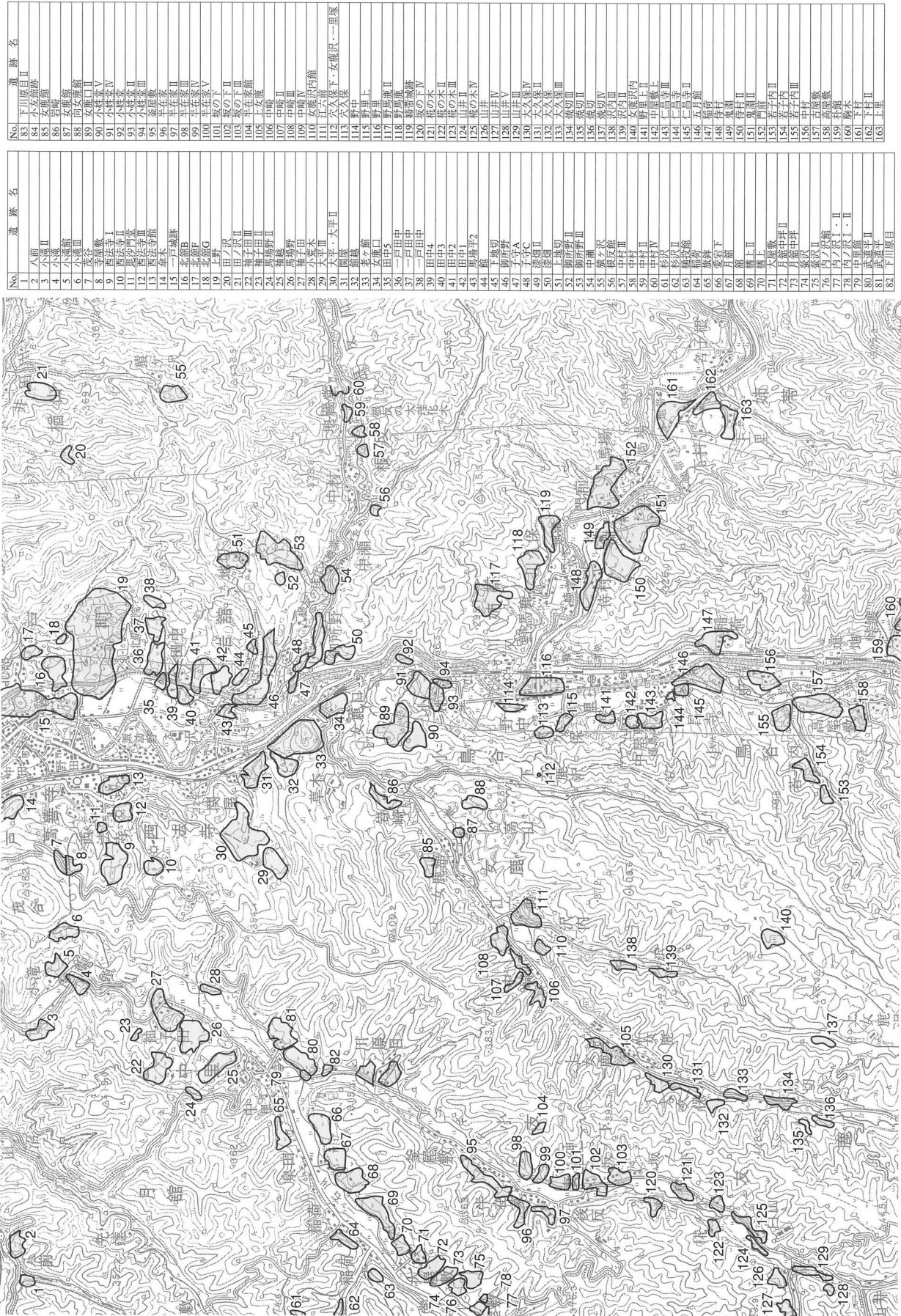
- | | |
|-------------|--------|
| 砂礫 | 珪岩質岩石 |
| 碎屑物 | 砂岩 |
| 砂礫 | 輝緑凝灰岩 |
| 砂岩 | ローム |
| 泥岩(粘板岩及び頁岩) | 安山岩質岩石 |
| 安山岩質岩石 | |



- | | |
|---------|---------|
| 岩石地 | 褐色森林土 |
| 黄色土 | 乾性褐色森林土 |
| 細粒灰色低地土 | 厚層黒ボク土 |
| 粗粒灰色低地土 | 岩屑性土 |
| 多湿黒ボク土 | 黒ボク土 |
| 湿性褐色森林土 | 淡色黒ボク土 |

第2図 地形・地質図

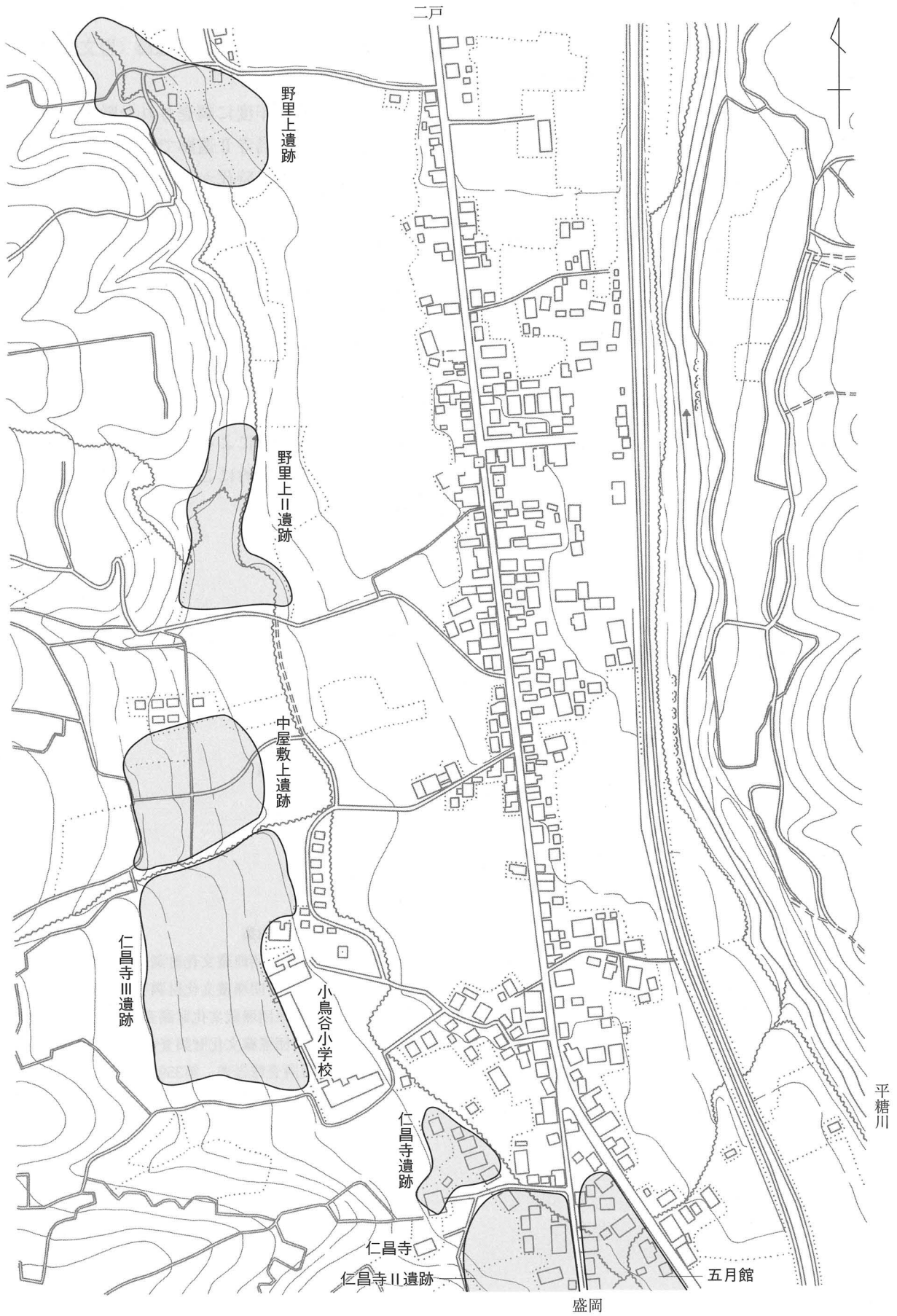
3 周辺の遺跡



No.	遺跡名
1	八前
2	小丸跡
3	小丸跡
4	小丸跡
5	小丸跡
6	小丸跡
7	小丸跡
8	小丸跡
9	小丸跡
10	小丸跡
11	小丸跡
12	小丸跡
13	小丸跡
14	小丸跡
15	小丸跡
16	小丸跡
17	小丸跡
18	小丸跡
19	小丸跡
20	小丸跡
21	小丸跡
22	小丸跡
23	小丸跡
24	小丸跡
25	小丸跡
26	小丸跡
27	小丸跡
28	小丸跡
29	小丸跡
30	小丸跡
31	小丸跡
32	小丸跡
33	小丸跡
34	小丸跡
35	小丸跡
36	小丸跡
37	小丸跡
38	小丸跡
39	小丸跡
40	小丸跡
41	小丸跡
42	小丸跡
43	小丸跡
44	小丸跡
45	小丸跡
46	小丸跡
47	小丸跡
48	小丸跡
49	小丸跡
50	小丸跡
51	小丸跡
52	小丸跡
53	小丸跡
54	小丸跡
55	小丸跡
56	小丸跡
57	小丸跡
58	小丸跡
59	小丸跡
60	小丸跡
61	小丸跡
62	小丸跡
63	小丸跡
64	小丸跡
65	小丸跡
66	小丸跡
67	小丸跡
68	小丸跡
69	小丸跡
70	小丸跡
71	小丸跡
72	小丸跡
73	小丸跡
74	小丸跡
75	小丸跡
76	小丸跡
77	小丸跡
78	小丸跡
79	小丸跡
80	小丸跡
81	小丸跡
82	小丸跡
83	小丸跡
84	小丸跡
85	小丸跡
86	小丸跡
87	小丸跡
88	小丸跡
89	小丸跡
90	小丸跡
91	小丸跡
92	小丸跡
93	小丸跡
94	小丸跡
95	小丸跡
96	小丸跡
97	小丸跡
98	小丸跡
99	小丸跡
100	小丸跡
101	小丸跡
102	小丸跡
103	小丸跡
104	小丸跡
105	小丸跡
106	小丸跡
107	小丸跡
108	小丸跡
109	小丸跡
110	小丸跡
111	小丸跡
112	小丸跡
113	小丸跡
114	小丸跡
115	小丸跡
116	小丸跡
117	小丸跡
118	小丸跡
119	小丸跡
120	小丸跡
121	小丸跡
122	小丸跡
123	小丸跡
124	小丸跡
125	小丸跡
126	小丸跡
127	小丸跡
128	小丸跡
129	小丸跡
130	小丸跡
131	小丸跡
132	小丸跡
133	小丸跡
134	小丸跡
135	小丸跡
136	小丸跡
137	小丸跡
138	小丸跡
139	小丸跡
140	小丸跡
141	小丸跡
142	小丸跡
143	小丸跡
144	小丸跡
145	小丸跡
146	小丸跡
147	小丸跡
148	小丸跡
149	小丸跡
150	小丸跡
151	小丸跡
152	小丸跡
153	小丸跡
154	小丸跡
155	小丸跡
156	小丸跡
157	小丸跡
158	小丸跡
159	小丸跡
160	小丸跡
161	小丸跡
162	小丸跡
163	小丸跡

No.	遺跡名
1	八前
2	小丸跡
3	小丸跡
4	小丸跡
5	小丸跡
6	小丸跡
7	小丸跡
8	小丸跡
9	小丸跡
10	小丸跡
11	小丸跡
12	小丸跡
13	小丸跡
14	小丸跡
15	小丸跡
16	小丸跡
17	小丸跡
18	小丸跡
19	小丸跡
20	小丸跡
21	小丸跡
22	小丸跡
23	小丸跡
24	小丸跡
25	小丸跡
26	小丸跡
27	小丸跡
28	小丸跡
29	小丸跡
30	小丸跡
31	小丸跡
32	小丸跡
33	小丸跡
34	小丸跡
35	小丸跡
36	小丸跡
37	小丸跡
38	小丸跡
39	小丸跡
40	小丸跡
41	小丸跡
42	小丸跡
43	小丸跡
44	小丸跡
45	小丸跡
46	小丸跡
47	小丸跡
48	小丸跡
49	小丸跡
50	小丸跡
51	小丸跡
52	小丸跡
53	小丸跡
54	小丸跡
55	小丸跡
56	小丸跡
57	小丸跡
58	小丸跡
59	小丸跡
60	小丸跡
61	小丸跡
62	小丸跡
63	小丸跡
64	小丸跡
65	小丸跡
66	小丸跡
67	小丸跡
68	小丸跡
69	小丸跡
70	小丸跡
71	小丸跡
72	小丸跡
73	小丸跡
74	小丸跡
75	小丸跡
76	小丸跡
77	小丸跡
78	小丸跡
79	小丸跡
80	小丸跡
81	小丸跡
82	小丸跡

第3図 周辺遺跡分布図(1)



第4図 周辺遺跡分布図(2)

員会1993)、その北側に隣接する縄文時代中期の集落である田中遺跡と馬場平Ⅱ遺跡(一戸町教育委員会2003、1983)、後期の集落である柵の木(岩文埋1997)、晩期の集落である上野遺跡(岩文埋2000)、晩期の包含層が確認されている山井遺跡(一戸町教育委員会1995)がある。

古代は、平糠川沿いでは僅かに確認されているだけであったが、今年度に調査された野里上遺跡から奈良時代の竪穴住居2棟が確認されている(岩文埋2006)。また、仁昌寺Ⅱ遺跡では11世紀後半から13世紀に位置づけられる遺物が出土している。当該地区以外では、奈良時代から平安時代の集落である上野遺跡・田中遺跡(岩文埋2000、一戸町教育委員会2003)がある。

中世は、五月館跡(岩文埋2003)、仁昌寺Ⅱ遺跡(岩文埋2002)がある。前者は本遺跡より南方1.3kmにあり、曲輪等が確認されている。後者は五月館の北方300mに位置し、14世紀末～15世紀初頭の陶磁器が出土している竪穴建物6棟、鍛冶工房2棟が検出されている。今年度に調査された野中遺跡から洪武通宝などが出土している(岩文埋2006)。当該地区以外では姉帯城と一戸城があり、本遺跡から一戸城は北東4.7km、姉帯城は北東1.5kmに位置している(一戸町教育委員会1984、1999)。また竪穴建物跡が複数棟確認されている上野遺跡と田中遺跡がある(岩文埋2000、一戸町教育委員会2003)。

平成12年度から行われている小鳥谷バイパス建設事業に伴う発掘調査によって、当該地区は縄文時代中期末から中世にかけての様相が明らかとなり、当時から人々は断続的にこの地を利用し時間と共に生活する段丘面を移動しながら生活していたことが窺える。

参考文献

(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターを岩文埋とする)

- 一戸町教育委員会 1991 『一戸町の遺跡(Ⅰ)』 一戸町文化財調査報告書 第25集
 一戸町教育委員会 1992 『一戸町の遺跡(Ⅱ)』 一戸町文化財調査報告書 第28集
 一戸町教育委員会 1993 『一戸町の遺跡(Ⅲ)』 一戸町文化財調査報告書 第33集
 一戸町教育委員会 1993 『一戸町の遺跡(Ⅳ)』 一戸町文化財調査報告書 第35集
 一戸町教育委員会 1993 『一戸町の遺跡(Ⅴ)』 一戸町文化財調査報告書 第37集
 一戸町教育委員会 1993 『一戸町の遺跡(Ⅵ)』 一戸町文化財調査報告書 第38集
 一戸町教育委員会 1993 『御所野遺跡』 一戸町文化財調査報告書 第32集
 一戸町教育委員会 2003 『田中遺跡』 一戸町文化財調査報告書 第46集
 一戸町教育委員会 1984 『一戸城』 一戸町文化財調査報告書 第8集
 一戸町教育委員会 1999 『姉帯城』 一戸町文化財調査報告書 第41集
 一戸町教育委員会 1995 『山井遺跡』 一戸町文化財調査報告書 第36集
 岩文埋 1997 『柵の木遺跡』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第263集
 岩文埋 2002 『仁昌寺Ⅱ遺跡・仁昌寺遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第400集
 岩文埋 2003 『五月館遺跡・仁昌寺Ⅲ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第424集
 岩文埋 2006 『野里上遺跡』『平成17年度発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第490集
 岩文埋 2006 『野中遺跡』『平成17年度発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第490集
 岩文埋 2000 『上野遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第359集
 岩手県教育委員会 2000 『平成13年度 遺跡台帳』

Ⅲ 調査方法

1 野外調査の方法

(1) グリッド設定

野里上Ⅱ遺跡と中屋敷上遺跡のグリッドは、隣接する野里上遺跡・野中遺跡を網羅するように設定しており、調査区内に平面直角座標・第Ⅹ系（日本測地系）に従って基準点2箇所と補点4箇所の計6点を設置している。なお、南に位置する仁昌寺Ⅱ遺跡等は同一事業であることから、それらと対比できるように本来同様の方針を採らなければならないが、デジタル図化に伴う作業上の都合から下記のような新規のグリッドを採用している。

大グリッドは北から南に向かってA～U、西から東に向かってⅠ～Ⅵとした。大グリッドは1辺が100m、小グリッドは各辺を10等分して1辺が5mになるようにしている。小グリッドは北西隅を1、北東隅を10、南東隅を100としている。各グリッド名称は北西隅の杭名称による。

	X	Y	H	グリッド名
基準点1	18800.000	40400.000	181.169	QV1
基準点2	18710.000	40300.000	201.219	RⅢ81
補点1	18785.000	40400.000	181.040	QV31
補点2	18650.000	40300.000	202.423	TⅢ1
補点3	18505.000	40265.000	212.529	VⅡ94
補点4	18480.000	40265.000	212.205	WⅡ44

野里上Ⅱ遺跡は、大グリッドP～T、Ⅱ～Ⅴが該当する。

中屋敷上遺跡は、大グリッドⅤ・Ⅶ、Ⅱが該当する。

(2) 粗掘・遺構検出・精査・遺物の取り上げ

任意にトレンチを数箇所設定し、堆積状況や遺物包含層、遺構検出面の確認を行った後、重機及び人力で遺構検出面まで掘り下げた。遺構確認は鋤簾と両刃鎌で行い、遺構の把握を行った。

検出された遺構は、遺構の性格を把握できそうにないものにはサブトレンチを入れた。それらの記録は台帳や野帳にまとめて記載している。

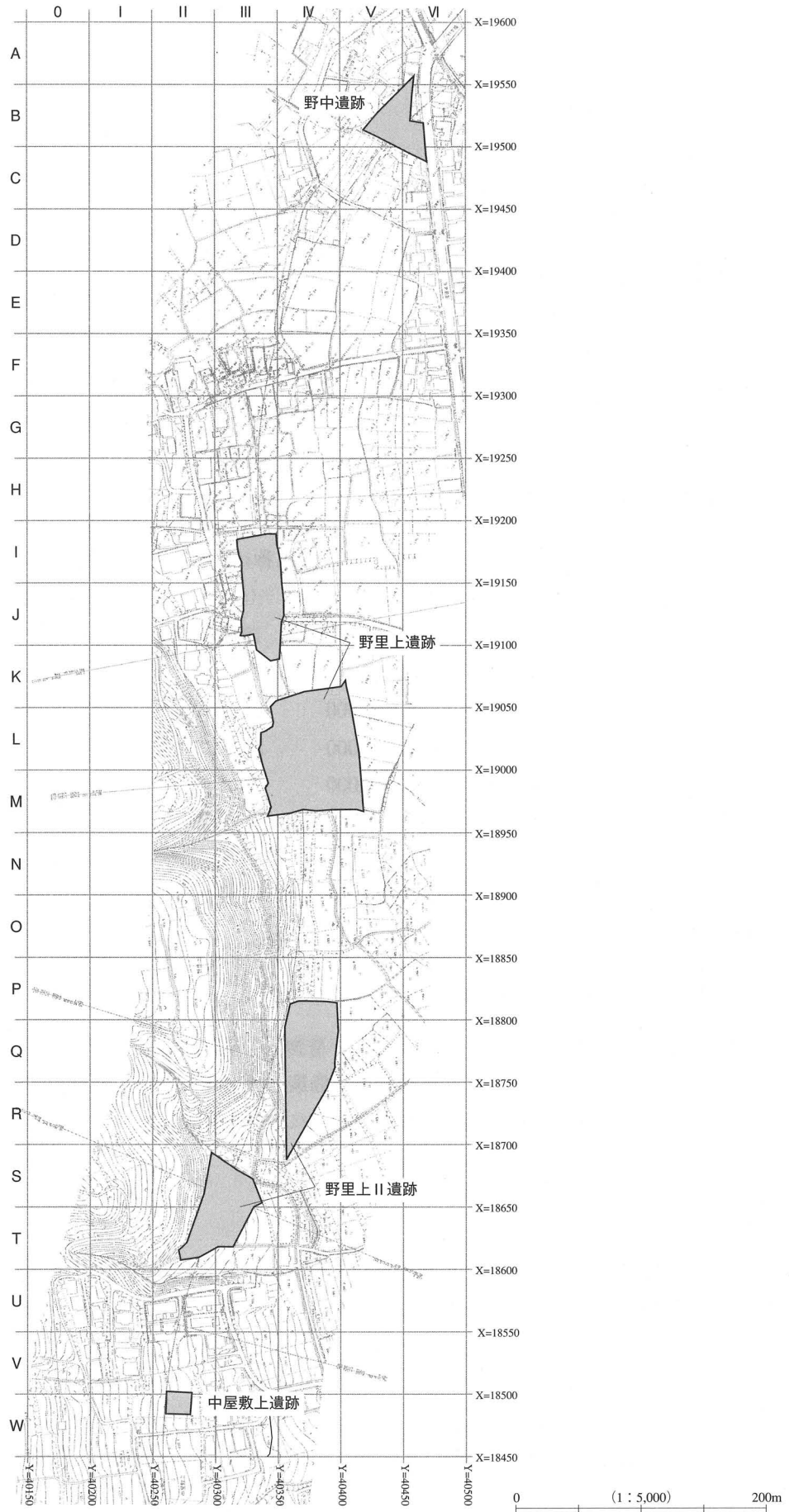
(3) 実 測

遺構の平面・断面実測はデジタルカメラにより撮影することで図化している。遺物の取り上げに関しては、時間的制約からデジタル写真で捉えたものと図化されたオルソ図と合わせて位置を確定している。

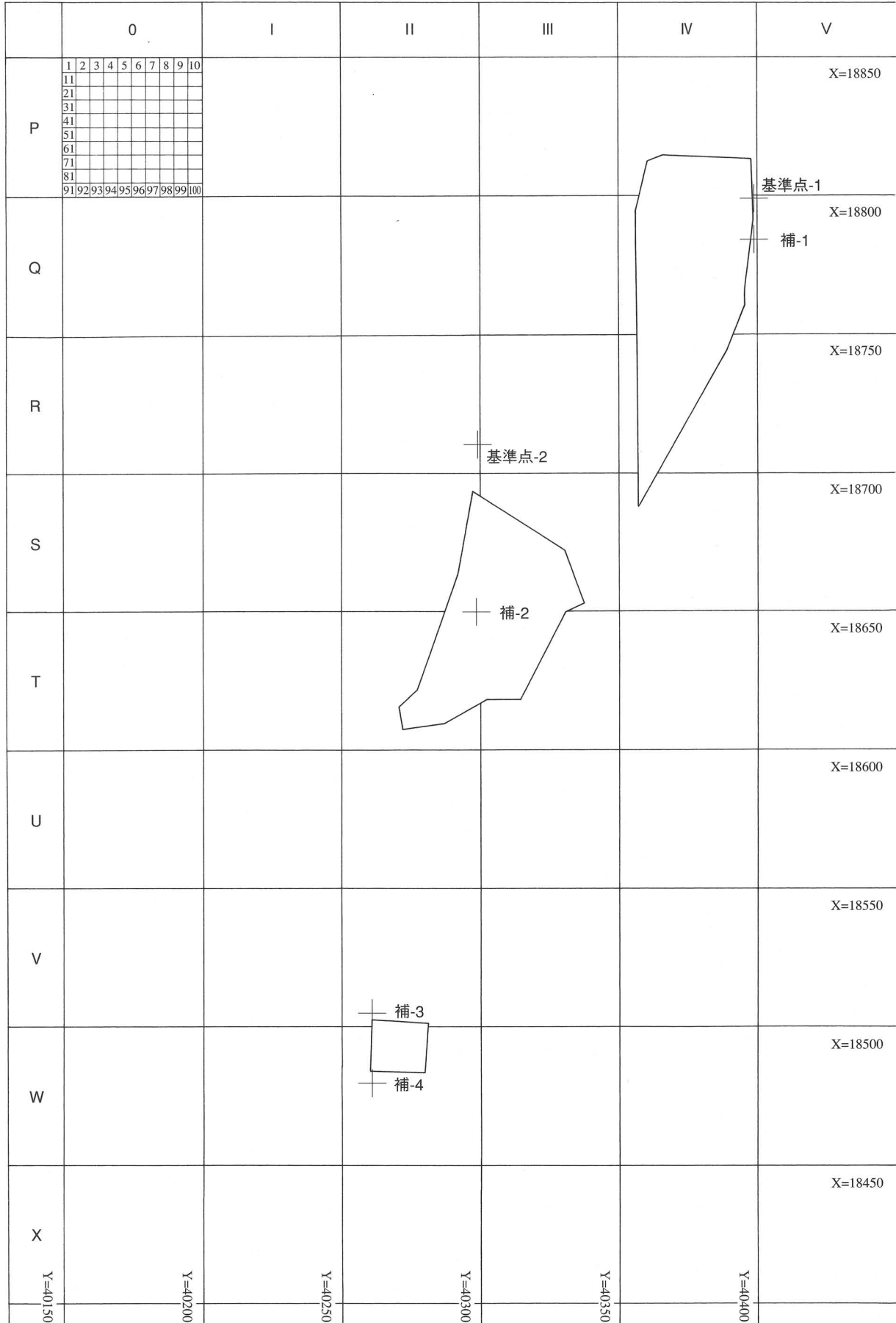
(4) 写 真 撮 影

写真撮影は、35mm判カメラ2台（モノクロ・リバーサル）を使用し、遺構と遺物の検出状況に応じて行っている。補助的にデジタルカメラで撮影している。

1 野外調査の方法



第5図 配置図



第6図 グリッド配置図

2 調査経過

野里上Ⅱ・中屋敷上遺跡の調査経過は以下の通りである。

平成17年4月14日：器材を搬入し調査を野里上Ⅱ遺跡を開始する。

平成17年4月25日：業者により基準点設置を行う。

平成17年5月16日：委託者と当センターにより今後の作業工程を確認するため現地協議を行う。

平成17年6月14日：S I 01・02・06の精査を開始する

平成17年7月14日：S I 04の精査を終え野里上Ⅱ遺跡を終了する。

平成17年7月15日：中屋敷上遺跡開始。

平成17年7月19日：両遺跡合わせて航空撮影を行う。

平成17年7月22日：両遺跡合わせて現地公開を行う。

平成17年7月25日：県教委、委託者、当センターにより終了確認を行う。

平成17年7月29日：中屋敷上遺跡の器材を搬出し終了する。

3 室内整理の方法

(1) 作業手順

出土遺物は、水洗、注記、接合復元した後に、掲載遺物の登録を行った、それらの作業後は、実測、遺物写真撮影、遺物トレース、図版及び観察表を作成した。また、先述した作業と平行して原稿執筆を行っている。

(2) 遺構

遺構はデジタルカメラによる写真測量を実施したことから、基本的に従来のような整理作業を行っていない。基本的には写真撮影後、紙図で提出されたもので複数回にわたり校正を行い、そのまま版下に取り込んでデジタル化した。

(3) 遺物の掲載基準

土器と石器の実測は出土量が少ないことから積極的に行った。土器は、復元できたもの、口縁部形態を確認できるもの、体部への立ち上がりを確認できる底部片を図化している。

石器は二次加工が認められるものを全て図化している。

縮尺は、土器が1/3、剥片石器が3/4、礫石器1/2～1/4である。

(4) 報告書作成

遺構図版は上述したような手順を踏んでいる。遺物図版はトレースまでは従来と同様の手法であるが、トレース後は遺構図と同様に版下はデジタル化している。遺構写真は35mm（モノクロ・カラー）のフィルム、遺物写真はデジタルカメラで撮影したものから写真図版を作成している。すべてデジタルによる版下作成を行っていることから従来通りの版下作業工程は採っていない。

4 凡例

遺構名称については以下の略号を付している。

SI・・・竪穴住居跡・竪穴建物跡 SK・・・土坑 SR・・・埋設土器

SN・・・焼土遺構 Pit・・・柱穴

・石器石材は以下のように略す。

珪質頁岩・・・Ssh、頁岩・・・Sh、凝灰岩・・・Tu、砂岩・・・San、玉随・・・Cha、瑪瑙・・・Aga

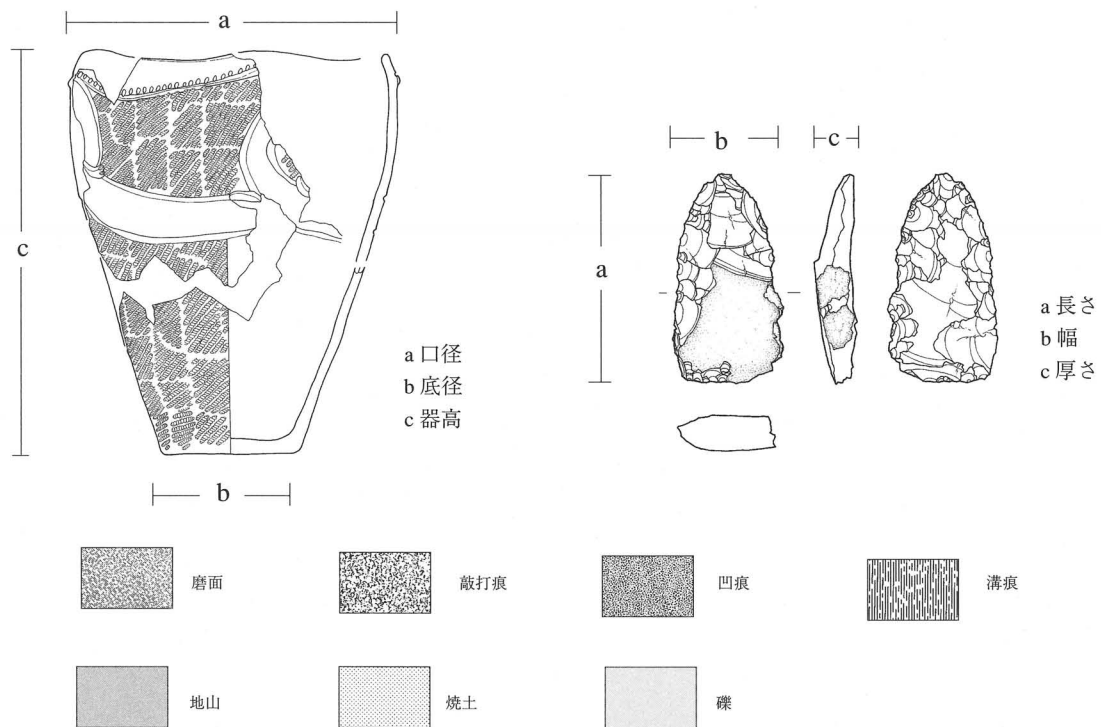
安山岩・・・An、蛇紋岩・・・Ser、赤色頁岩・・・Rsh、チャート・・・Ch、デイサイト・・・Dac

閃緑岩・・・Dio、粘板岩・・・Sla、花崗閃緑岩・・・Grano、玢岩・・・Por

・遺構名は報告書作成に伴い振り直している。ただし遺物注記等は旧名で記したままであり、遺構名変更に伴って再度訂正を行っていない。

第1表 遺構名新旧表

新	旧	区	新	旧	区	新	旧	区	新	旧	区
SI01	SI01	南	SK10	SK13	北	Pit01	P01	南	Pit16	Pit17	北
SI02	SI02	南	SK11	SK02	南	Pit02	P02	南	Pit17	Pit01	北
SI03	SI05	北	SK12	SK01	北	Pit03	P03	南	Pit18	Pit02	北
SI04	SI06	北	SK13	SK02	北	Pit04	P04	南	Pit19	Pit03	北
SI05	SI03	南	SK14	SK03	北	Pit05	P05	南	Pit20	Pit04	北
SI06	SI04	南	SK15	SK04	北	Pit06	P06	南	Pit21	Pit05	北
SK01	SK01	南	SK16	SK05	北	Pit07	P07	南	Pit22	Pit06	北
SK02	SK03	南	SK17	SK06	北	Pit08	P08	南	Pit23	Pit07	北
SK03	SK04	南	SK18	SK07	北	Pit09	P09	南	Pit24	Pit08	北
SK04	SK05	南	SK19	SK08	北	Pit10	P10	南	Pit25	Pit09	北
SK05	SK06	南	SK20	SK10	北	Pit11	P11	南	Pit26	Pit10	北
SK06	SK07	南	SN01	SN01	南	Pit12	Pit13	北	Pit27	Pit11	北
SK07	SK08	南	SN02	SN01	北	Pit13	Pit14	北	Pit28	Pit12	北
SK08	SK09	南	SN03	SN02	北	Pit14	Pit15	北			
SK09	SK10	南	SR01	SR01	南	Pit15	Pit16	北			



第7図 凡例

IV 基本層序

野里上Ⅱ遺跡は調査区が2カ所に分かれていることと、中屋敷上遺跡も隣接しているが立地する段丘面が違うことは、「立地・地形」で述べた。それに伴って基本層序も異なるため、それぞれ分けて報告する。

1 野里上Ⅱ遺跡

本遺跡において南北の調査区の基本層序は以下の通りである。

(1) 調査区南側

- I a層 : 黒褐色土層 (10YR3/1) 粘性としまり共に並。現表土である。
- I b層 : 黒褐色土層 (10YR3/2) 粘性やや弱く、しまりやや強い。旧耕作土に十和田aテフラをブロック状に少量含む。
- II a層 : 黒色土層 (10YR2/1) 粘性並、しまりやや強い。遺物包含層である。
- II b層 : 黒色土層 (10YR2/1) 粘性やや弱く、しまり並。遺物包含層である。
- III層 : 黒色土層 (10YR2/2) 粘性、しまりやや共に強い。礫をやや多く含む。
- IV層 : 黒褐色土層 (10YR3/2) 粘性、しまりやや共に強い。遺構検出面。本層下部に十和田中振テフラをブロック状に少量含む。
- V層 : 黒褐色土層 (10YR3/4) 粘性、しまり共に強い。
- VI層 : 黄褐色スコリア層 (10YR5/6) 粘性、しまり共に強い。十和田八戸テフラが確認される。
- VII層 : にぶい黄褐色粘土層 (10YR4/3) 粘性、しまり共に強い。段丘基盤の礫が浮いており、それらを多く含んでいる。本層以下は段丘礫層のため層厚不明。

(2) 調査区北側

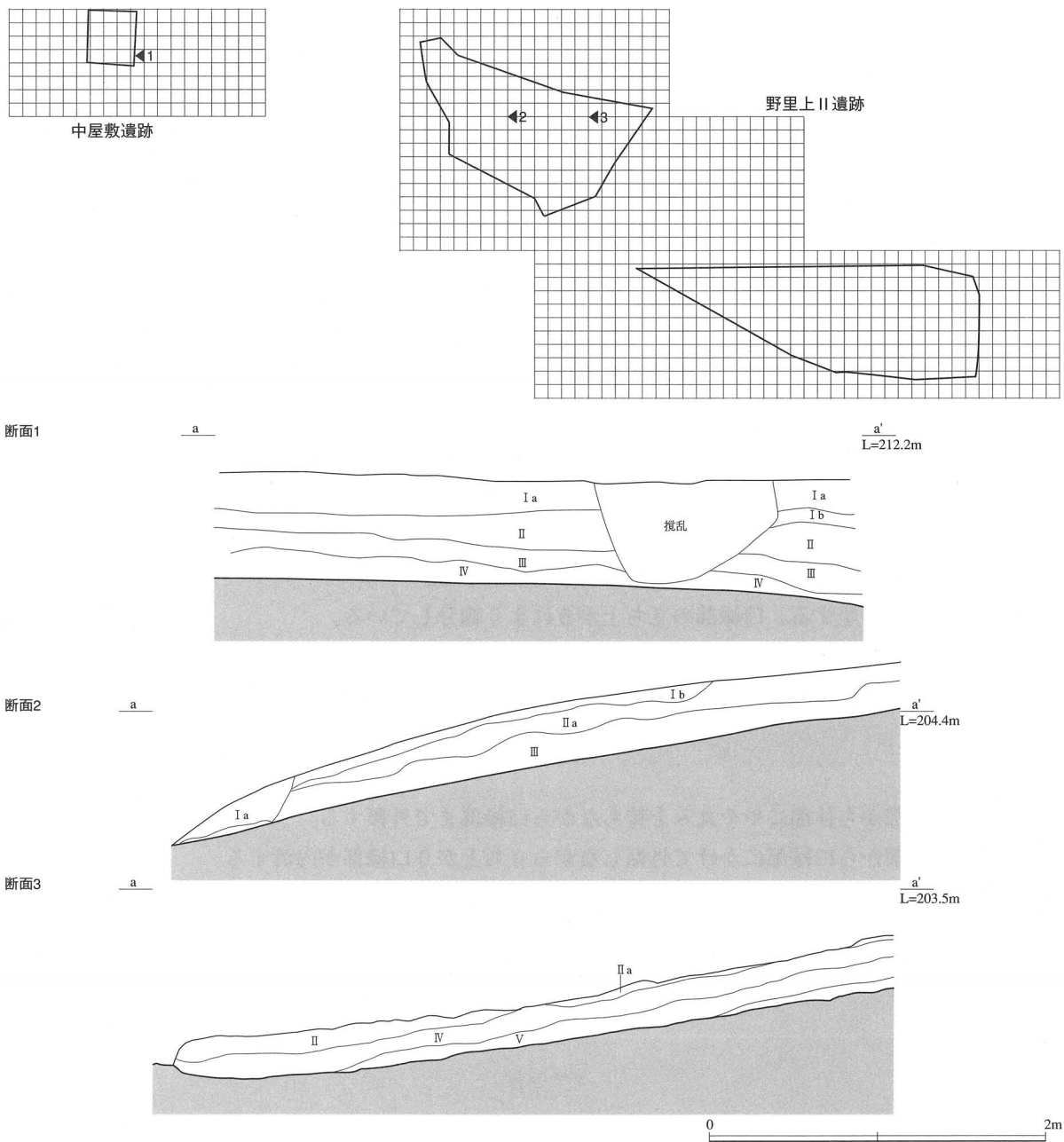
- I層 : 極暗褐色土層 (7.5YR 2/3) 粘性やや弱く、しまり並。現表土である。
- II層 : 黒色土層 (7.5YR 2/1) 粘性としまり共に並。遺構検出面。小礫を含む。北側調査区の中央付近では少なくなるが、上面には十和田aテフラが疎らにかかる。北側の範囲では層厚が増し、遺物包含層となる。
- III層 : 暗褐色土層 (7.5YR 3/4) 粘性並、しまりやや弱い。遺構検出面。小礫を多量に含む。北東側では層厚が大きく減少する。
- IV層 : 黒褐色土層 (7.5YR 2/2) 粘性やや弱く、しまりやや強い。遺構検出面。小礫を微量に含む。
- V層 : 褐色砂質シルト層 (7.5YR 4/3) 粘性やや強く、しまり並。小礫を微量に含む。

調査区北側と南側では段丘形成が異なることからほとんど対比できないが、遺物包含層である南側II a・b層と北側II層はほぼ同一層である。それ以外の層では対応する層位は認められない。

2 中屋敷上遺跡

基本層序は以下の通りである。

- I 層 : 黒褐色土層 (10YR3/2) 粘性やや弱く、しまり強い。現表土である。
- II 層 : 黒褐色土層 (10YR3/1) 粘性並、しまり強い。遺物包含層。
- III 層 : 黒褐色土層 (10YR3/2) 粘性、しまり共に強い。遺構検出面。本層の下部に十和田中振テフラがブロック状に少量混入する。
- IV 層 : 灰黄褐色粘土層 (10YR4/2) 粘性、しまり共に強い。十和田八戸テフラを多く含んでいる。



第8図 基本層序

1 土器

野里上Ⅱ遺跡と中屋敷上遺跡の基本層序で対応関係が認められたことから表記しておく。基本的に遺物包含層である野里上Ⅱ遺跡Ⅱa・b層と中屋敷上遺跡Ⅱ層は類似しているが、若干色調及び質感が異なる。同一層と考えられるのは、野里上Ⅱ遺跡南側Ⅳ層と中屋敷上遺跡Ⅲ層、野里上Ⅱ遺跡南側Ⅵ層と中屋敷上遺跡Ⅳ層である。

V 分類基準

土器・石器は分類基準は以下の通りである。資料が少ないことから統一した基準の基に整理を行いたいためこのような分類を用いている。

1 土器

本遺跡からは、深鉢・鉢・浅鉢・台付浅鉢・注口土器・壺・ミニチュア土器が出土している。深鉢と鉢は複数の器形が確認できたことから、以下の通りに分類している。なお他の器種は点数が少ないため行っていない。

(1) 深鉢

- I 類：底部から膨らみながら胴部まで立ち上がり、そこから内湾し口縁部へ長く外反する。
- II 類：口縁部が内傾する。内傾する変化点が最大径を持つ。
- III 類：胴部に最大径を持ち、内湾する胴部から口縁部が短く外反もしくは直立する。
- IV 類：口縁部まで外傾もしくは直立する。
- V 類：胴部がやや丸みの強い形状を呈し、頸部が直立して口縁部が短く外反もしくは直立する。
- VI 類：緩やかに丸みを持つ外傾する胴部から、口縁部が外傾する。
- VII 類：外傾もしくはやや膨らみながら立ち上がる胴部から、口縁部が外傾する。
- VIII 類：内湾気味に外傾しながら口縁部まで立ち上がる。
- IX 類：樽形を呈する。口縁部の立ち上がりにより細分している。
 - a：口縁部が外反する。
 - b：口縁部が直立する。

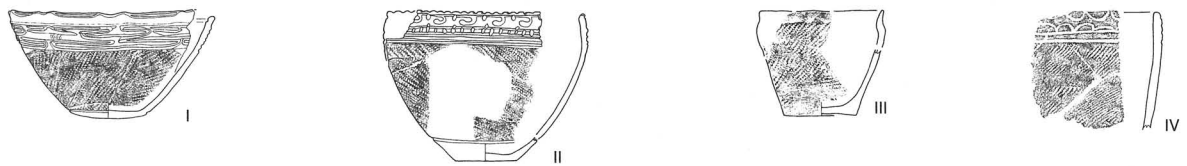
(2) 鉢

- I 類：底部から体部にやや丸みを持ちながら口縁部まで外傾する。
- II 類：底部から口縁部にかけて外傾しながら立ち上がり口縁部が内湾する。
- III 類：胴部に最大径を持ち、内湾する胴部から口縁部が短く外反もしくは直立する。
- IV 類：体部はほぼ直線的で外傾もしくは直立しながら立ち上がる。

深鉢



鉢



第9図 器形分類図

2 石 器

(1) 石 鏃

石鏃は「扁平で左右対称、先端部を形成した石器」を対象としている。

I 類：凹基無茎鏃。基部が二次加工により抉りが入り、形成されているもの。

II 類：円基鏃。基部が二次加工により円形を呈するもの。

III 類：有茎鏃。尖頭部と基部との境が明瞭なもの。

(2) スクレイパー類

スクレイパー類は「1側縁の半分以上に二次加工が加えられている石器」を対象としている。二次加工が施されている部位で分類している。

I 類：1側縁に二次加工が施されている。

II 類：2側縁に二次加工が施されている。

(3) 籠 状 石 器

籠状石器は「器中軸線が左右対称となり断面形状が菱形・台形状などで、平面形状が撥形・長方形を呈し、一端ないし両端に刃部が形成された石器」を対象としている。本遺跡では一点出土しているが、平面形状は撥形、断面が菱形である。

(4) 石 匙

石匙は「両側縁から二次加工を施し摘み部を一端に作出し、二次加工により刃部が形成された石器」を対象としている。摘み部を水平にして刃部の角度で分類しており、摘み部に対して刃部が平行・直交・斜交するもので3分類できる。本遺跡では斜交するものしか出土していない。

(5) 不 定 形 石 器

不定形石器は「1側縁の半分以下に二次加工が加えられている石器」を対象としている。ここでは部分的な二次加工もしくは微細剥離痕を有するものである。

(6) 楔 形 石 器

楔形石器は「2つの側縁から互いに向き合う方向の両端剥離が表裏面に生じている石器」を対象としている。側縁に形成されている剥離痕の数で分類している。

I 類：上下の一对の両極剥離痕を有するもの。

II 類：上下左右の二対の両極剥離痕を有するもの。

(7) 石 核

石核は剥片剥離作業が認められたものを対象としている。

(8) 磨製石斧

磨製石斧は「敲打・剥離により整形され、研磨が仕上げられた石斧」を対象としている。平面形状と研磨で分類している。

- I 類：両側縁及び頭部が研磨され、正裏面と側面に稜を持ち、断面形状が隅丸長方形を呈する。所謂「定格式磨製石斧」と呼ばれるものである。
- II 類：石材をそのまま利用し、一部に研磨を施し刃部を形成したものである。

(9) 礫石器

使用痕跡が認められる全ての礫を礫石器と総称し、使用痕跡により器種認定を下記の分類をもとに行っている。ここでは使用痕跡を表現している用語は以下の通りである。

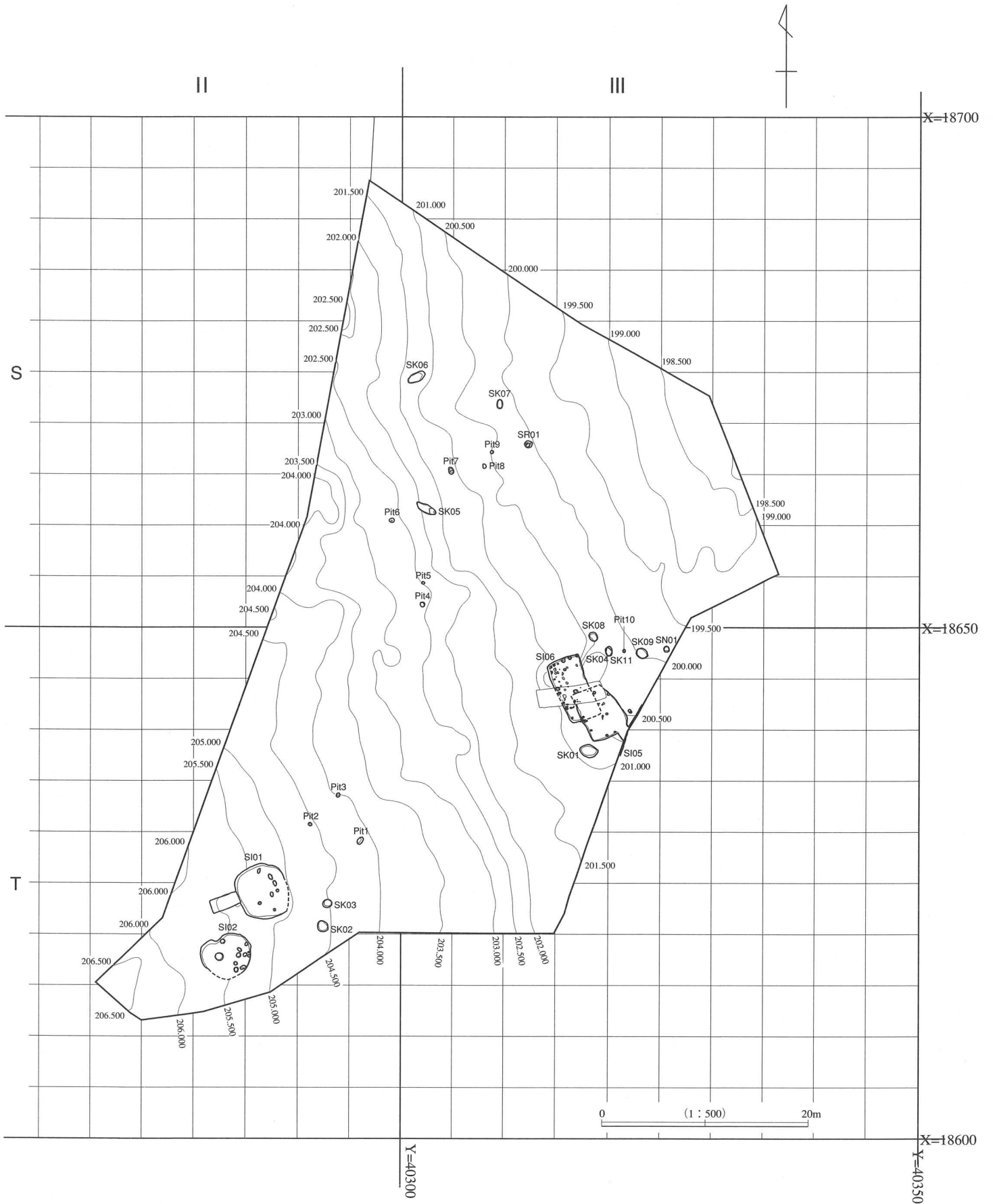
敲打痕～先端ないし側面に形成された敲打状の痕跡。

磨痕～正裏面や側面に形成された摩耗の痕跡。

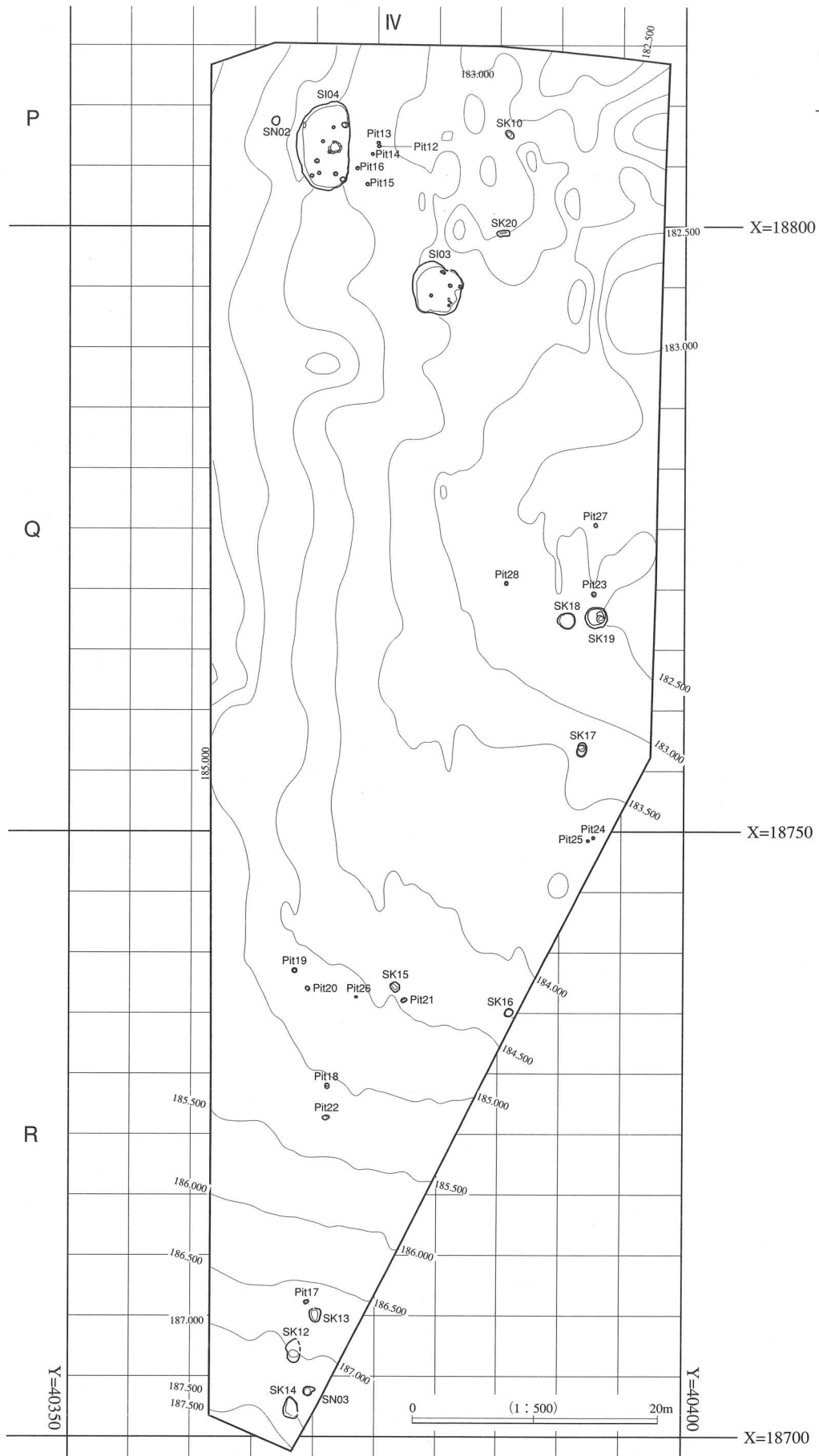
凹痕～平坦面に形成された敲打状の痕跡。

溝痕～礫面に形成された溝状の痕跡。

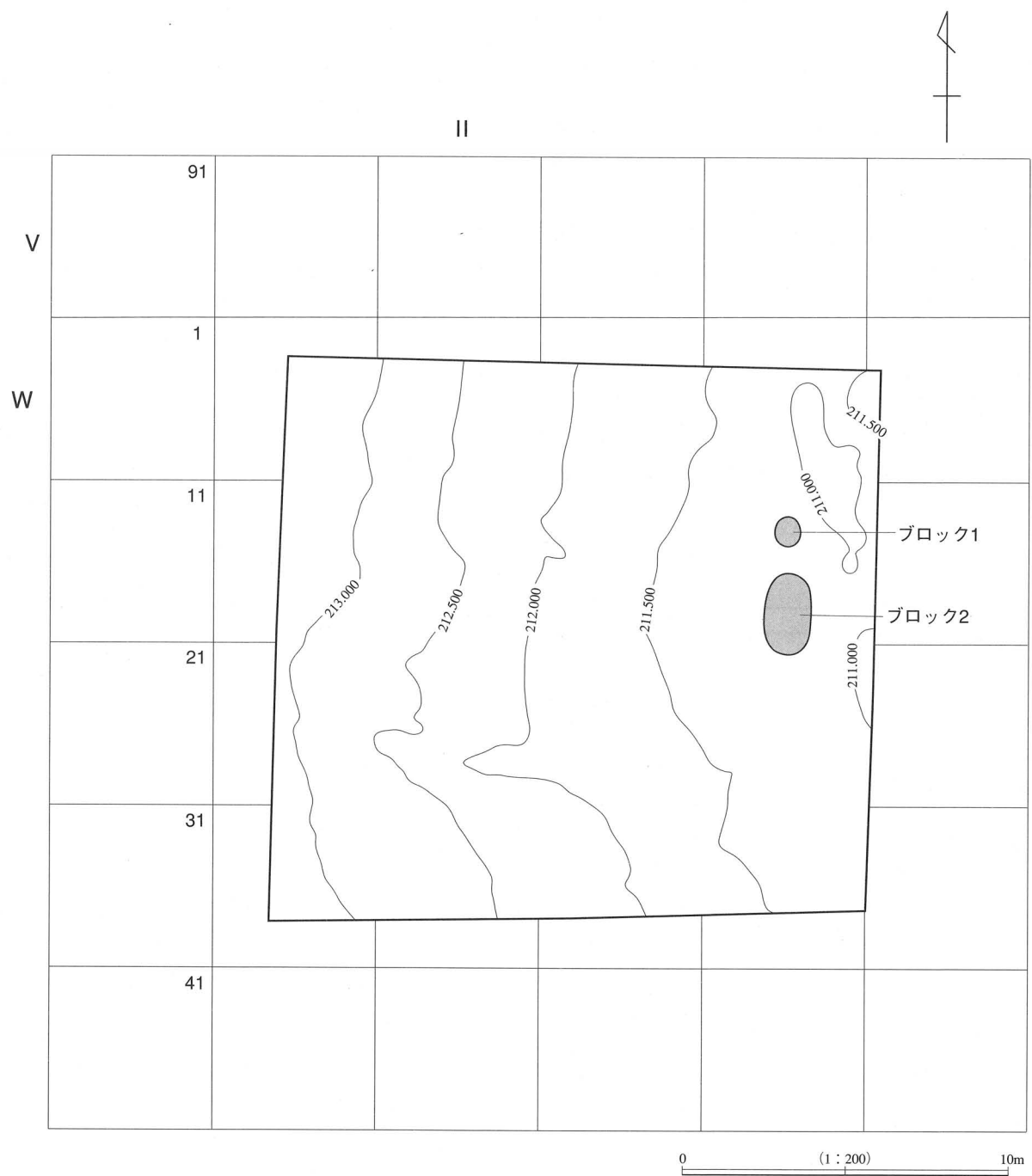
- I 類：敲打痕を有する石器。
- II 類：磨面を有する石器。
- III 類：凹面を有する石器。
- IV 類：I + III類の痕跡を有する石器。
- V 類：I + II類の痕跡を有する石器。
- VI 類：II + III類の痕跡を有する石器。
- VII 類：I 類と溝痕跡を有する石器。
- VIII 類：「石皿」で、平坦面に磨面で構成されたもの。
- IX 類：「台石」で、平坦面に敲打痕による凹みを有するもの。
- X 類：VIII + IX類の痕跡を有する石器。
- XI 類：礫器。刃部を伴うものである。



第11図 野里上Ⅱ遺跡（調査区南侧）遺構配置図



第12図 野里上Ⅱ遺跡（調査区北側）遺構配置図



第13図 中屋敷上遺跡出土状況図

VI 野里上II遺跡の調査成果

1 概 略

今回の調査において竪穴住居跡4棟、竪穴建物跡2棟、埋設土器1基、土坑20基、柱穴状土坑28個を検出した。これらは縄文時代・平安時代・中世以降にそれぞれ所属している。ここでは縄文時代と中世以降に分けて報告する。

第2表 出土土器一覧表

出土地点	層位	個数	重量 (g)
S I 01		370	5,827.5
S I 02		99	1,629.7
S I 03		142	1,563.8
S I 04		98	1,294.4
S I 05		7	40.4
S I 06		7	63.5
S R 01		51	1,163.3
S N 01		13	235.3
S K 01		2	13.3
S K 02		2	24.2
S K 04		3	26.1
S K 05		2	29.6
S K 06		6	41.7
S K 07		7	82.1
S K 08		19	178.5
S K 09		4	85.5
S K 11		2	45.3
S K 18		12	301.0
S K 19		2	4.7
P i t 07		4	21.3
P IV 87・88・97・98	II	158	1,755.4
R IV	II	20	474.4
R IV	IV	42	443.3
S II 60・70・80 S III 51・52	II b	428	5,131.9
S II 80	II b	128	3,500.4
S II 80	II～III	3	61.7
S III 41	II b	115	1,588.9
S III 52	II b	1	4.0
S III 53	III	2	18.5
S III 61	II b	158	2,207.2
S III 61	IV上面	9	47.8
S III 62	II b	90	2,359.8
S III 63	II b	1	20.7
S III 71	II b	5	95.5
S III 71	II～III	8	81.0
S III 72	II b	6	107.9
S III 75	II b	7	40.5
S III 81	II b	4	187.2
S III 85	II a	6	110.1
S III 85	IV上面	10	72.3
S III 87	II a	1	58.4
S III 94	II a	5	91.6

出土地点	層位	個数	重量 (g)
S III 94	IV上面	11	178.4
S III 94	V	17	314.4
S III 95	II a	11	92.6
T II 09	II a	1	7.1
T II 10	II a	1	123.7
T II 19	II a	73	1,736.9
T II 20	II a	29	1,187.2
T II 19・20	IV上面	3	14.9
T II 28	II a	6	60.3
T II 29	II a	10	110.2
T II 30	II a	169	2,554.5
T II 39	II a	5	60.5
T II 40	II a	33	581.4
T II 66	II a	8	180.9
T II 67	II a	2	23.9
T II 68	IV上面	12	209.6
T II 70	II a	7	68.8
T II 70	III	3	150.4
T II 77	II a	2	43.8
T III 01	II a	1	16.5
T III 04	II a	17	361.5
T III 05	II a	31	375.3
T III 05	V	21	197.4
T III 06	II a	46	1,117.5
T III 11	II a	68	612.4
T III 15	II a	29	421.9
T III 21	II a	67	794.3
T III 31	II a	34	532.3
T III 41	II a	134	1,782.4
T III 41	II～III	117	907.0
T III 51	II a	11	146.2
T III 52	II～IV	4	34.5
T III 53	II a	17	289.6
調査区南側	I	113	1,391.1
調査区南側	II a・b	178	3,076.1
調査区南側	III	10	151.7
調査区南側	IV上面	6	65.0
調査区南側	V上面	8	64.2
調査区南側	攪乱	14	151.0
調査区南側	表採	39	327.5
調査区北側	I	20	285.0
調査区北側	II	160	3,441.4
調査区北側	IV	1	16.1
調査区北側	表採	8	295.5

2 縄文時代の遺構・遺物

縄文時代の遺構は、南北の調査区で確認されている。調査区南側では竪穴住居跡2棟、土坑9基、遺物集中ブロック3カ所、調査区北側では竪穴住居跡2棟、土坑1基、遺物集中ブロック1カ所である。遺物が出土する主体層位は、前者はⅡa・b層、後者はⅡ層である。これらは基本層序で述べたようにほぼ同一層と判断している。

(1) 竪穴住居跡

S I 01

[位置] 調査区南側のTⅡ48・49・58・59グリッドに位置する。検出層位はⅣ層である。本遺構は調査区の中で最も高い標高約205mの面にあり、東に張り出した丘陵部の中央に存在している。S I 02は2m南西に位置する。本遺構の西壁は生涯学習文化課による試掘トレンチで削平されている。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は南北5.41×東西5.04mである。

[堆積土] 黒褐・暗褐色土が主体で4層に分層される。Ⅱb層に近似しているが、基本層序では主体層を確認できなかった。斜面に平行したなだらかなレンズ状の堆積が認められることから自然堆積である。

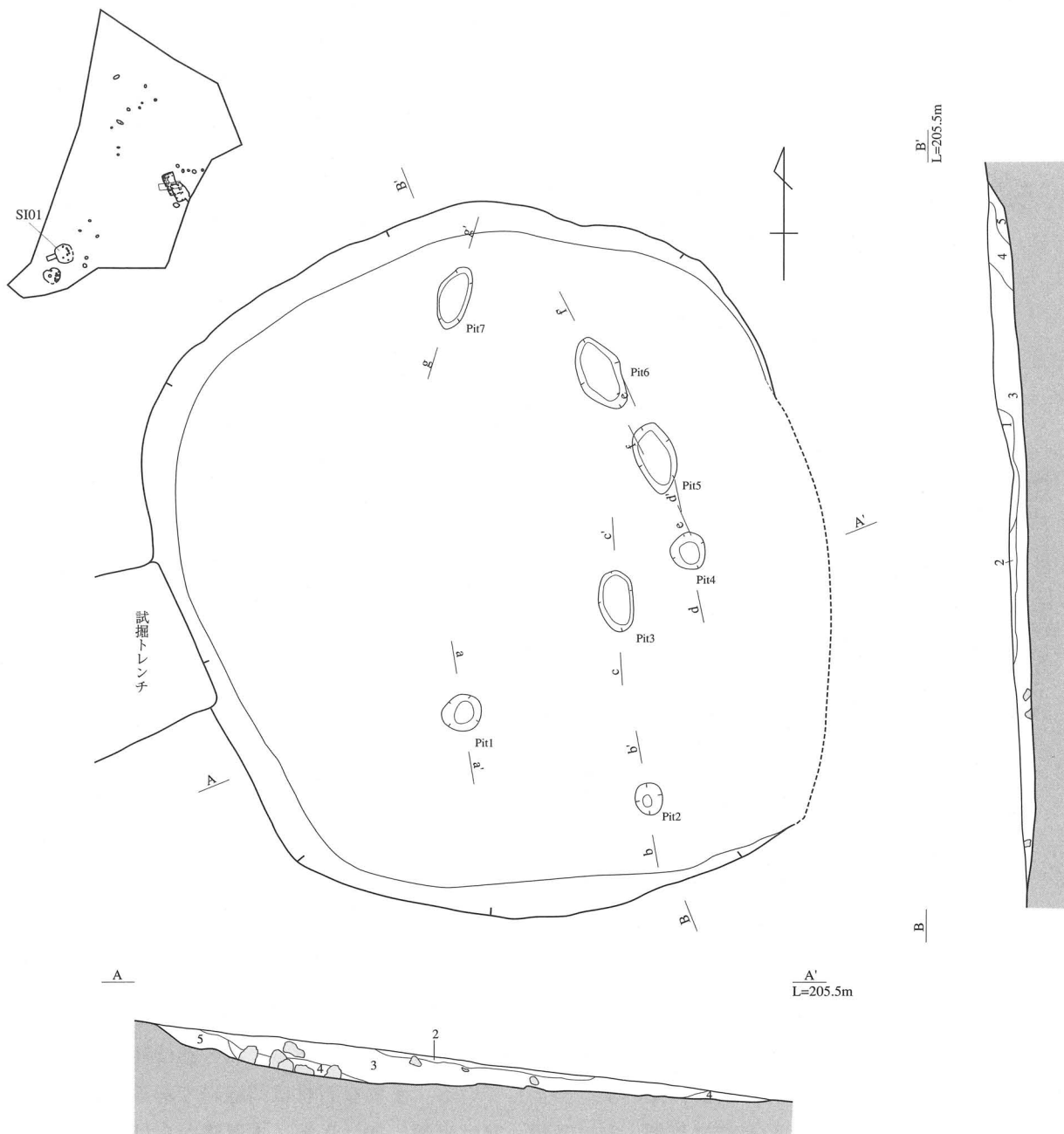
[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がる。残存状況の良い西壁は15cmになる。斜面下方にある東壁はほとんど立ち上がらない。床面はⅣ層を掘り込んで形成され、やや硬くしまる。地形とほぼ平行しており東に向かって緩やかに傾斜している。

[炉] 炉は検出されなかったが、住居の南東隅において焼土の広がりを確認できた。堆積がほとんど認められないため流出したものと想定されることから、設置箇所は不明だが床面において存在していたと考えられる。

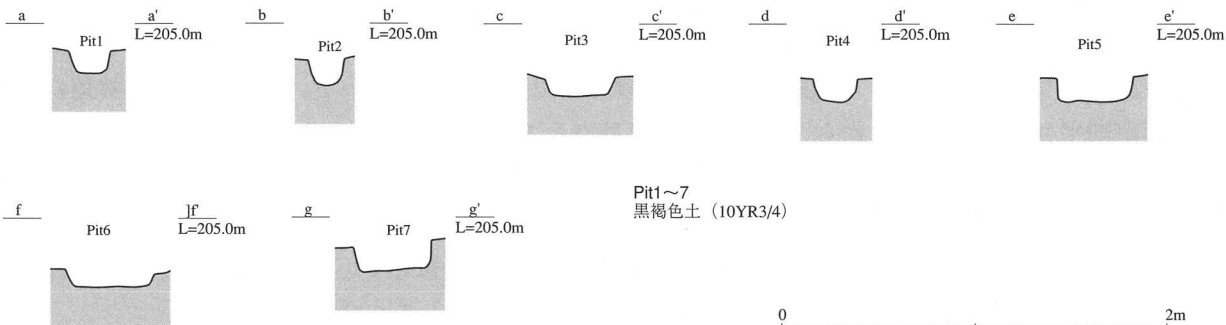
[柱穴・土坑] 柱穴7個を検出している。平面形は円形もしくは楕円形、開口部径は25～66cm、深さは10～16cmである。それらは斜面の低い東壁際で半円状に配置されている。

[出土遺物] 土器370点、石器105点が埋土中から床面にかけて出土している。それらの大半は床面中央付近にまとまっている。1～3・7・10～13・16～18・21・24・26・30・33～39は床面から、その他は埋土から出土した遺物である。

1・2は深鉢Ⅰ類。法量はそれぞれ異なる。1は口縁部から体部上半部のみが残存し、それより下位は住居内において認められない。口縁部は波状を呈しており、欠損しているものの4単位であったと思われる。S字文が施文され大木10式に比定される。3は深鉢Ⅵ類。文様は4本の横位縄文帯で区画されている。その間にJ字を縦位に配列し、一番下位にはJ字もしくはO字が認められる。縦位に配列されたJ字文を斜位状の縄文帯で区画している。4・5は深鉢の底部。両者共に網代痕がある。6・7・11・23は口縁部に隆帯が貼付けられ、6・7・11は波状縁と23は平縁である。7・11は細い隆帯を弧状に貼付けている。8・13・16は、口縁部に縄文を施文し、その下位には沈線を一条巡らしている。13は縄文帯に粘土粒が貼付けられ、8は沈線の下位に方形状もしくは楕円形状に沈線が施文されている。12・17・18・22は口縁部付近に沈線が認められ、12・17・18は深鉢Ⅱ類、22は器形不明だが波状縁を呈する。20・21は体部片。20はボタン状の粘土粒が貼付、21はJ字文が認められる。23は折り返し口縁部に縄文が施文され、その下位に沈線を巡らしている。19はK字文が認められ大洞C1式に比定される。9・10・14・15・18は粗製深鉢である。複数の器形が認められ、口縁部は波状縁と平

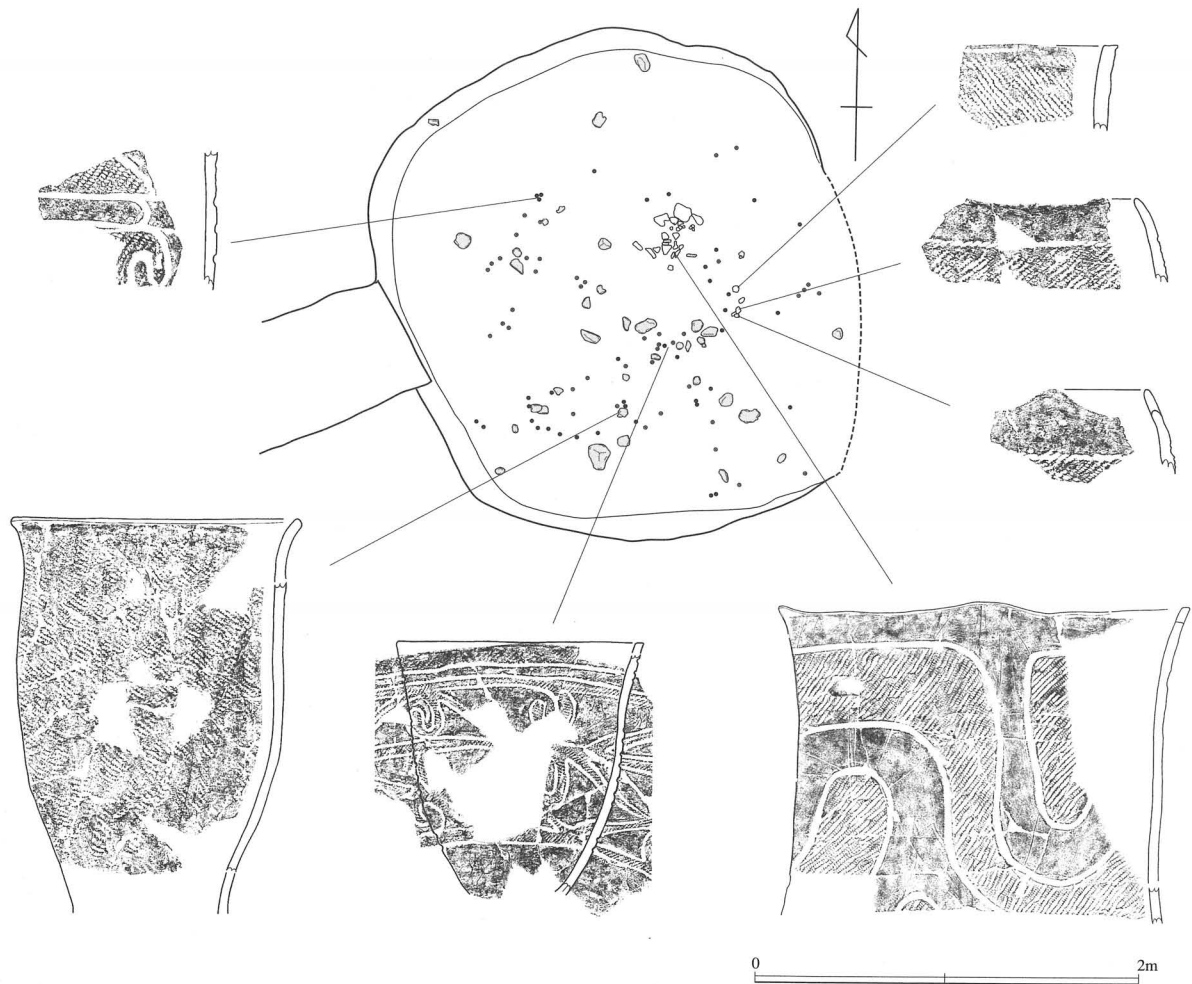


- SI01
- 1 攪乱
 - 2 黒褐色土層 (10YR3/1) 粘性やや強く、しまりやや弱い。
 - 3 黒色土層 (10YR2/1) 粘性並、しまりやや弱い。
 - 4 黒褐色土層 (10YR2/2) 粘性・しまり共にやや弱い。
 - 5 黒褐色土層 (10YR3/2) 粘性やや弱く、しまり弱い。地山崩落土。



Pit1~7
黒褐色土 (10YR3/4)

第14図 SI01



第15図 S I 01遺物出土状況

縁がある。19以外は中期末から後期初頭に属する土器群である。

剥片石器は製品は少なく剥片が多く割合を占め、製品の中でも楔形石器が多い。石材は主に頁岩が用いられている。24は両側縁に二次加工が施されている不定形石器である。25～28は楔形石器。すべてI類である。礫石器は剥片石器に比べ多く出土している。主要な石材は閃緑岩である。30・35・36・38はI類。29はII類。32と37はIV類。34はV類。31はVI類。39はIX類。本遺構からは加工する道具が多く出土していることが特徴である。

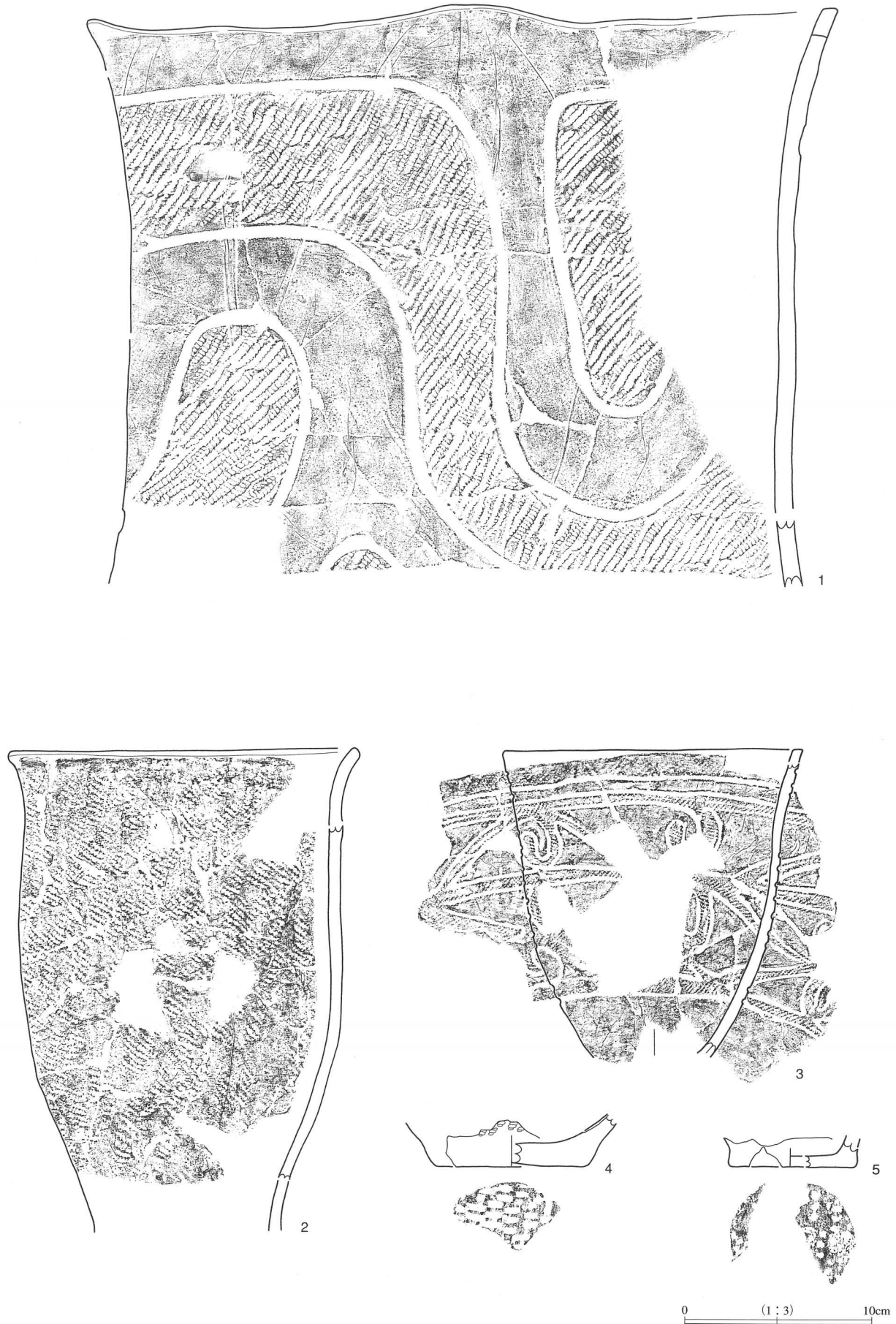
[所属時期] 出土遺物から縄文時代中期末から後期初頭と考えられる。

S I 02

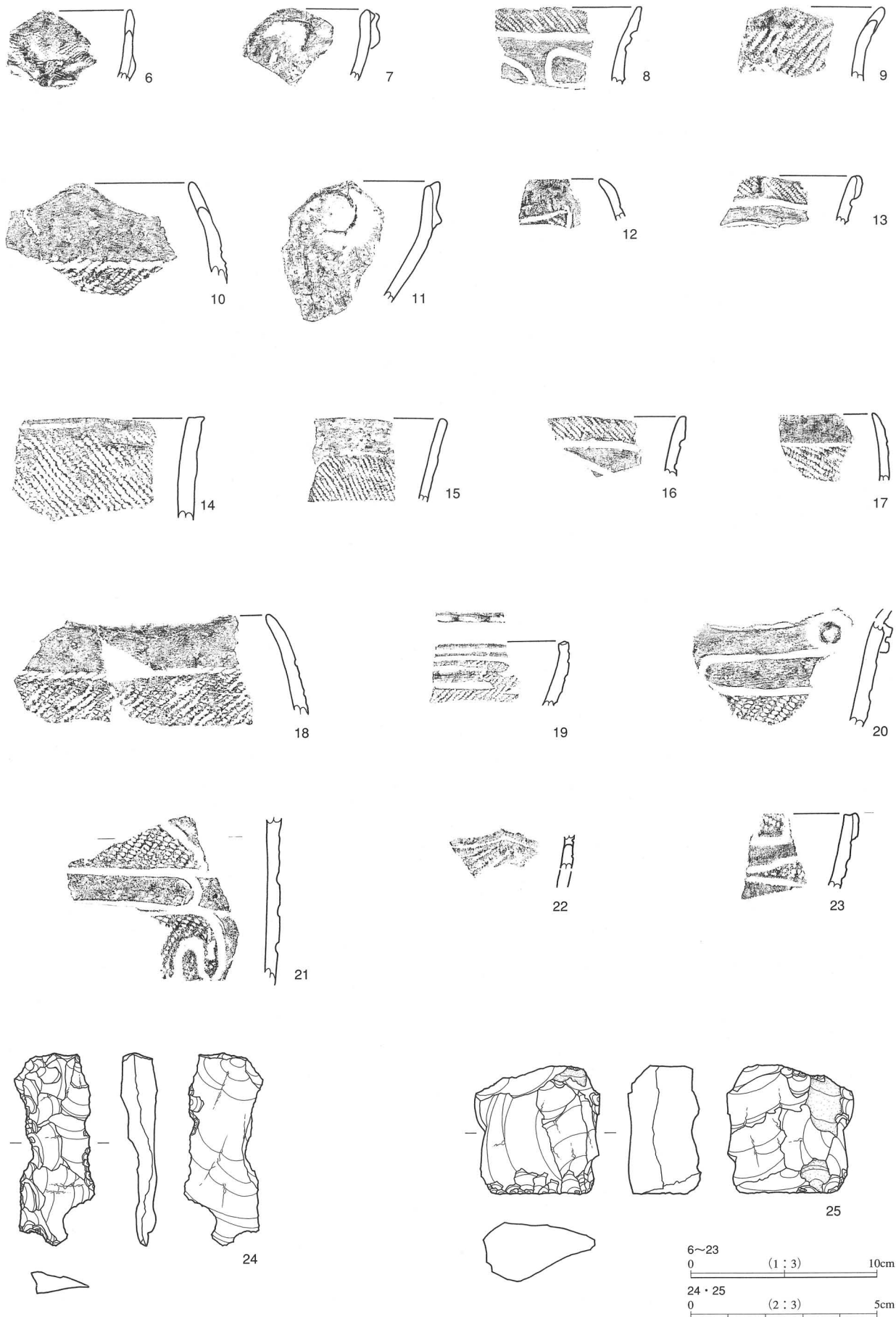
[位置] 調査区南側のT II 67・68グリッドに位置する。検出層位はIV層である。本遺構は、S I 01と同様の面にあり、東に張り出した標高205mの丘陵の縁辺部に存在している。この縁辺部は林道により斜面が削平されていることから、南壁の一部は残存していない。隣接するS I 01は2m北東に位置する。

[平面形・規模] 残存している平面形は不整楕円形である。規模は東西4.81×南北4.42mである。

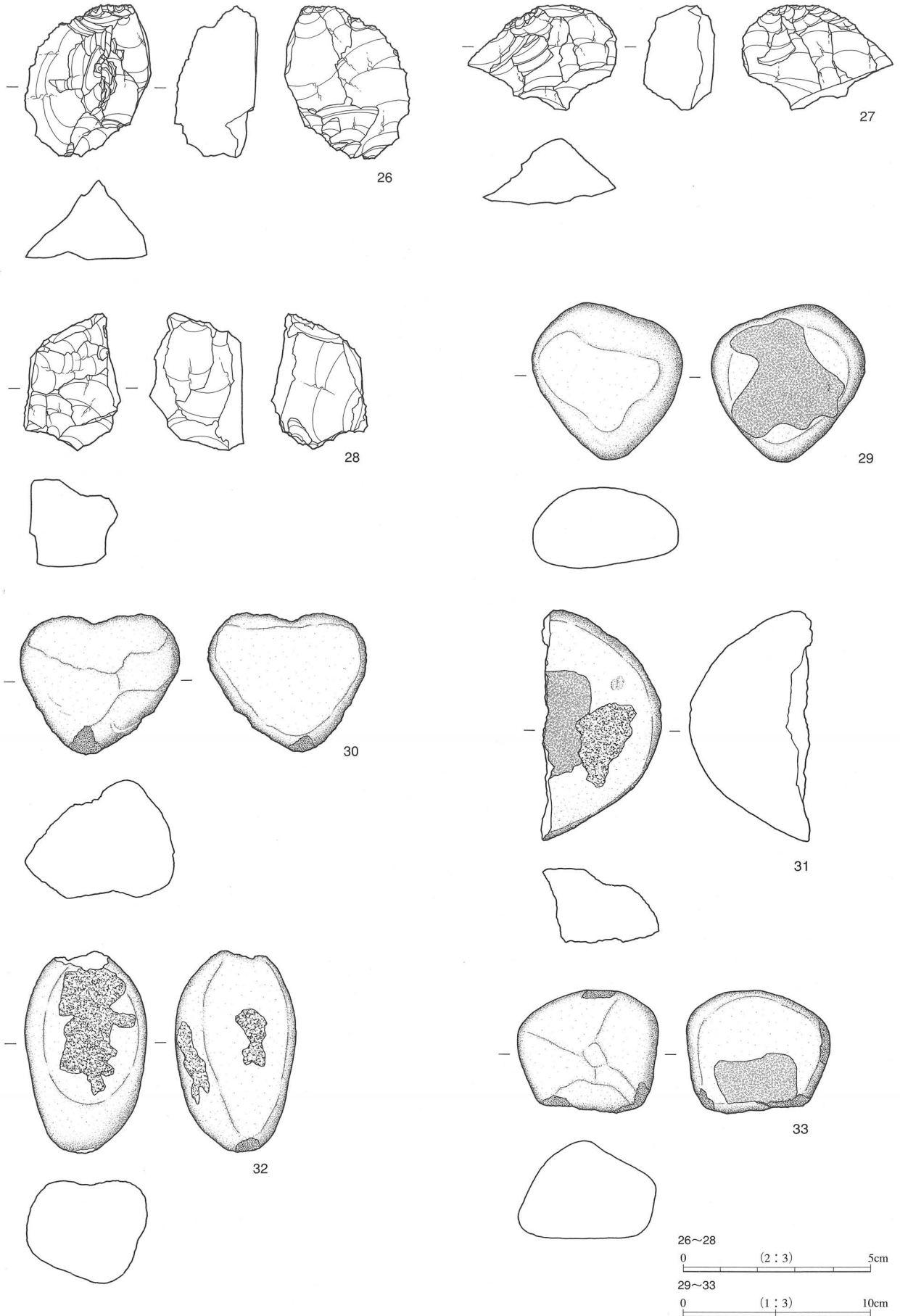
[堆積土] 黒色・暗褐色土が主体で5層に分層される。II b層に近似しているが、基本層序では主体層を確認できなかった。なだらかなレンズ状の堆積が認められることから自然堆積である。



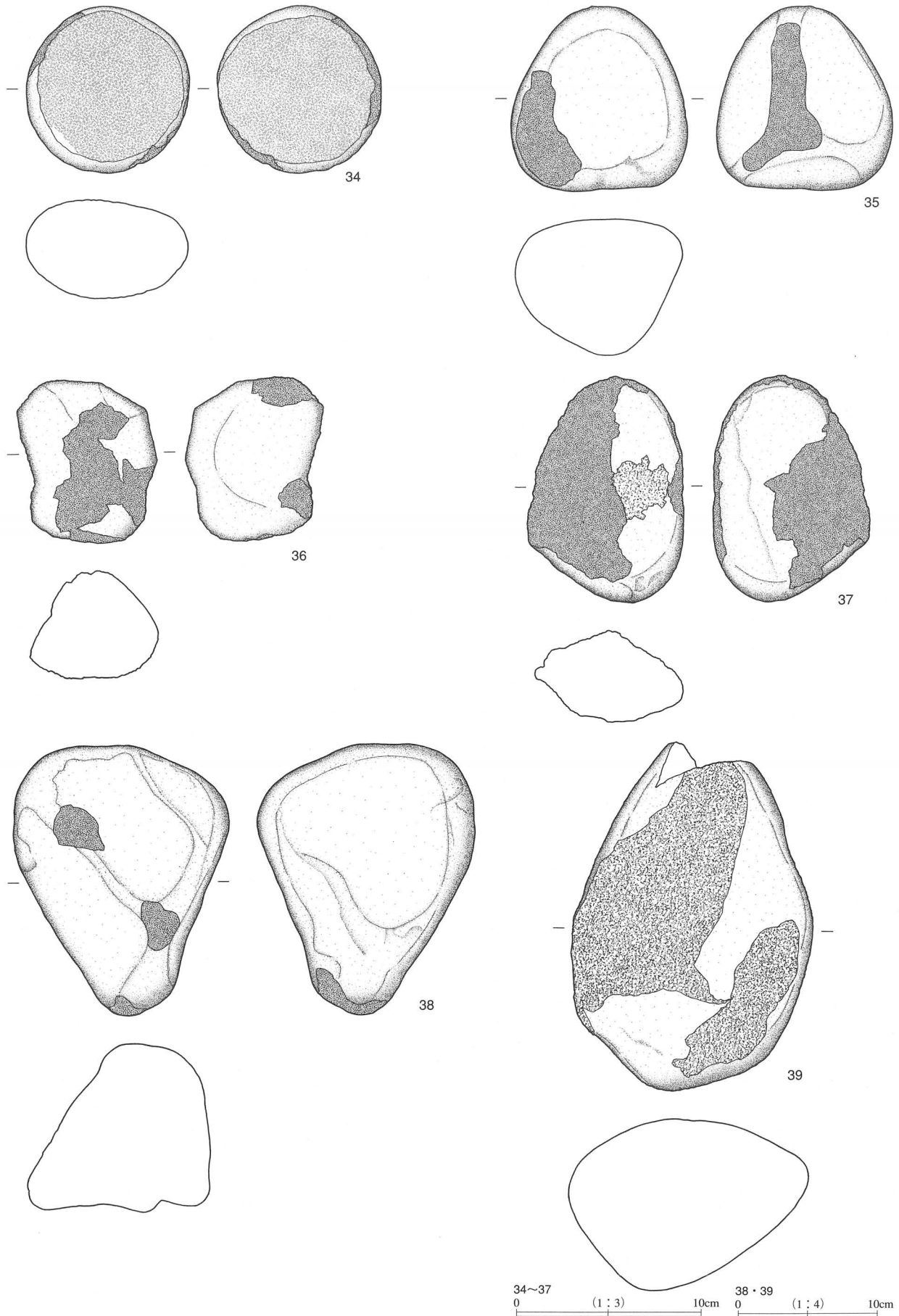
第16図 S I 01出土遺物 (1)



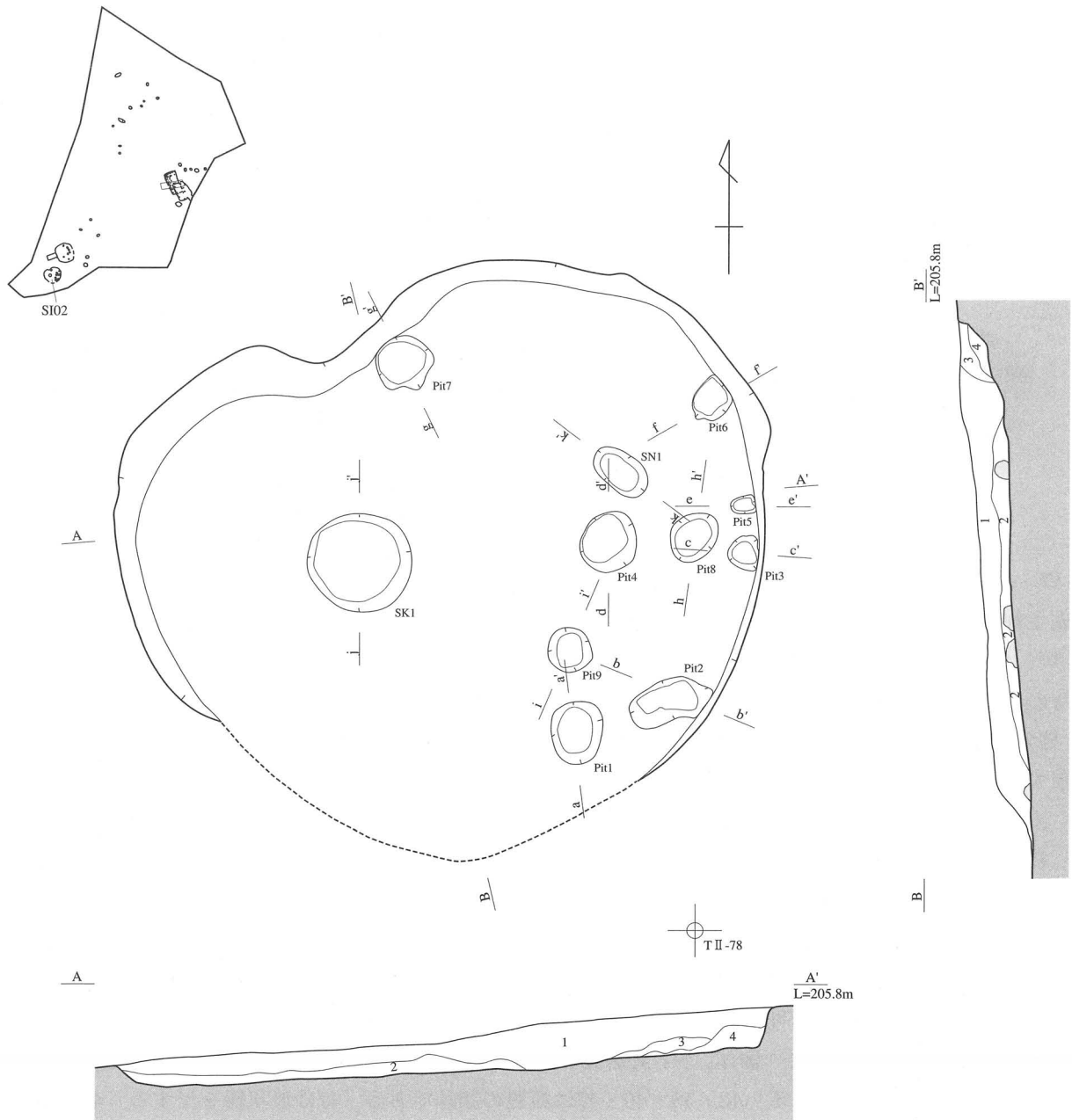
第17図 S I 01出土遺物(2)



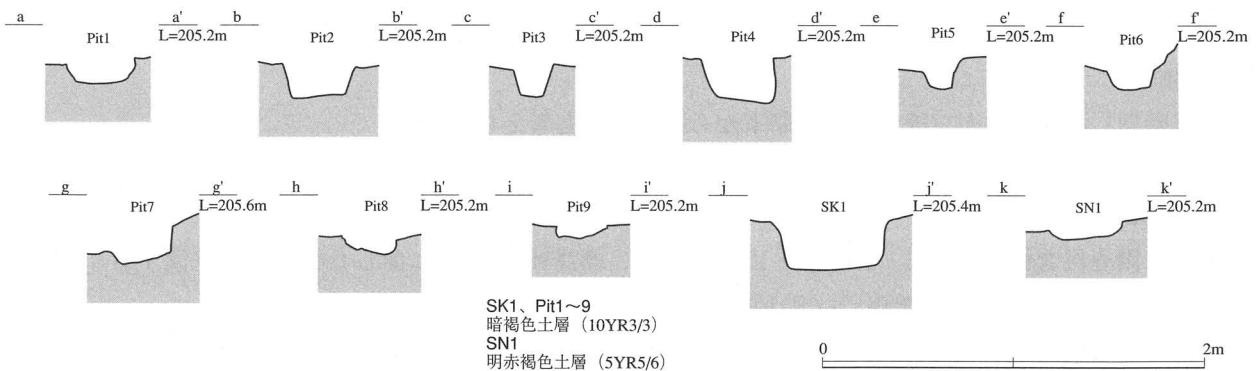
第18図 S I 01出土遺物 (3)



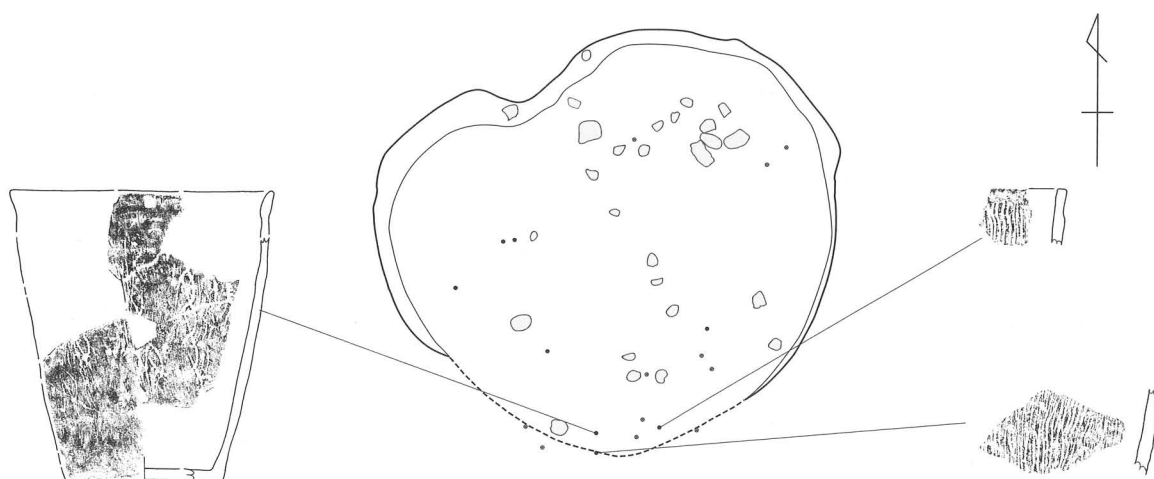
第19図 S I 01出土遺物 (4)



- SI02
- | | | |
|---|------------------|--------------------------|
| 1 | 黒色土層 (10YR1.7/1) | 粘性並、しまりやや弱い。 |
| 2 | 黒色土層 (10YR2/1) | 粘性・しまり共に並。地山ブロックを少量含む。 |
| 3 | 暗褐色土層 (10YR3/3) | 粘性・しまり共にやや弱い。 |
| 4 | 黒褐色土層 (10YR2/3) | 粘性・しまり共にやや弱い。地山崩落土を多く含む。 |
| 5 | 黒褐色土層 (10YR2/2) | 粘性やや弱く、しまり並。 |



第20図 SI02



第21図 S I 02遺物出土状況

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がる。残存が良好な西壁は28cmである。床面はIV層を掘り込んで形成されややしまり、東と南に緩やかに傾斜している。

[炉] 地床炉が1基確認された。床面中央よりやや東側にある。埋土は褐色土で単層あったが、精査時の不備により層厚が不明となった。堆積土中の下位から土器が出土している。

[柱穴・土坑] 柱穴9個、土坑1基を検出している。東壁際に配置され、斜面の下方にまとまって存在する。

土坑は床面中央より西壁側にある。平面形は円形、規模は77×72cm、深さは30cmである。

柱穴は斜面下方の東側に集中して存在している。平面形は円形もしくは楕円形、開口部径は18～62cm、深さは6～24cmである。壁際に設置されているPit 1・2・3・6・7は概ね半円状を呈している。

[出土遺物] 土器99点、石器20点が床面を中心に出土している。削平されている南壁側に集中して認められたことから流出した可能性が高い。49・52以外の遺物はすべて床面から出土したものである。40は深鉢Ⅶ類。41・44は同一個体。S字文が認められることから大木10式に比定される。43は口縁部に細い沈線が施文されている。42・45・46・47は粗製の深鉢である。47は波状縁を呈する。42と48は単軸絡条体が認められている。

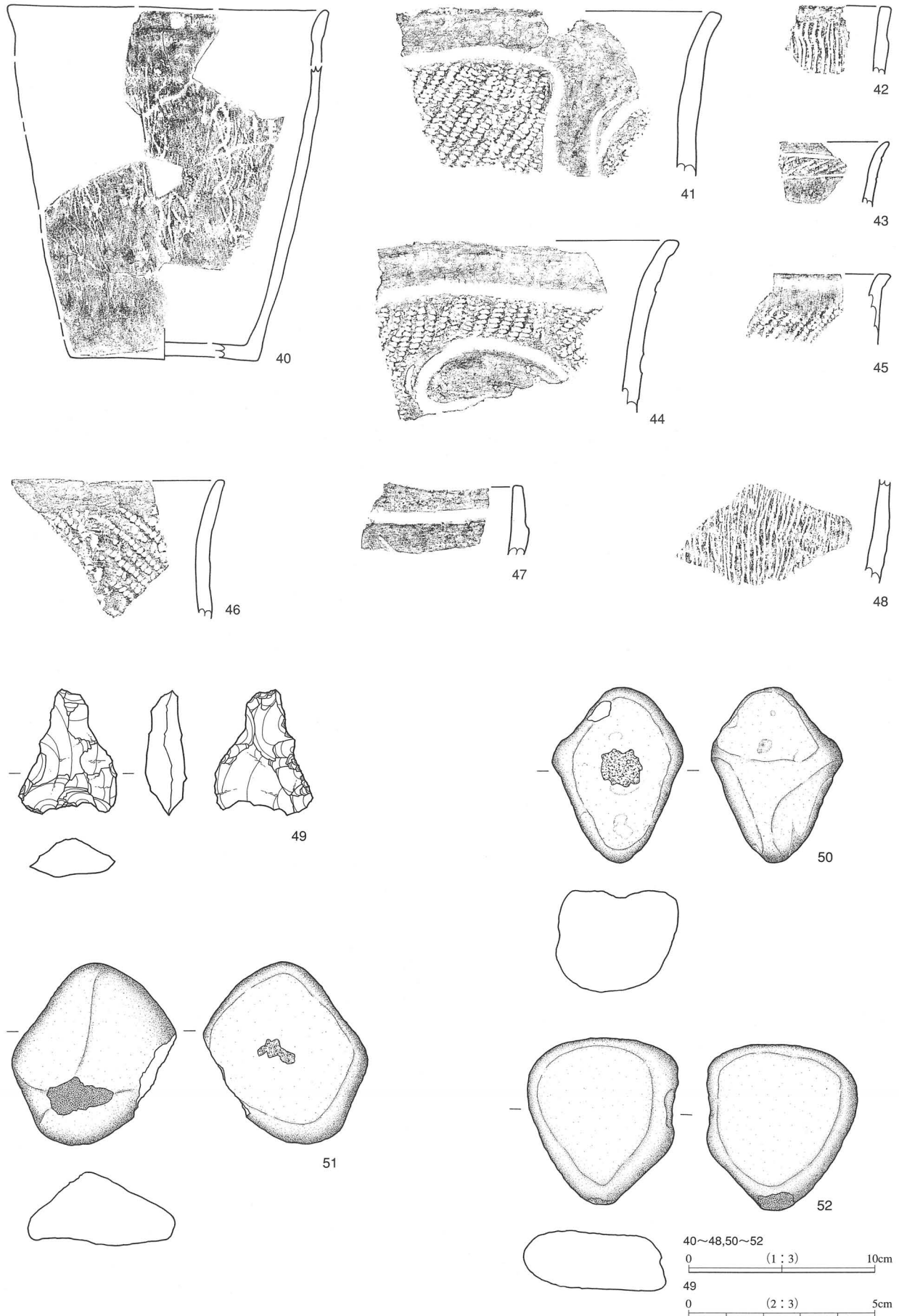
石器は剥片石器より礫石器が多い。この傾向はS I 01と同様である。剥片石器は製品よりも剥片が多く、石材は頁岩が多用されている。49は石鏃。剥離が製作段階で止められていることから失敗により廃棄された可能性が考えられる。礫石器はⅠ類及びその複合したものが多く出土している。石材は安山岩と凝灰岩が主体である。52・54はⅠ類。50はⅢ類。51・58はⅥ類。53・57はⅣ類。56はⅦ類。59はⅧ類。

[所属時期] 出土遺物から縄文時代中期末から後期初頭と考えられる。

S I 03

[位置] 調査区北側のQIV06・07・16・17グリッド、標高183mの東に面した緩斜面に位置する。検出層位はIV層である。約10m北西にはS I 04が存在する。

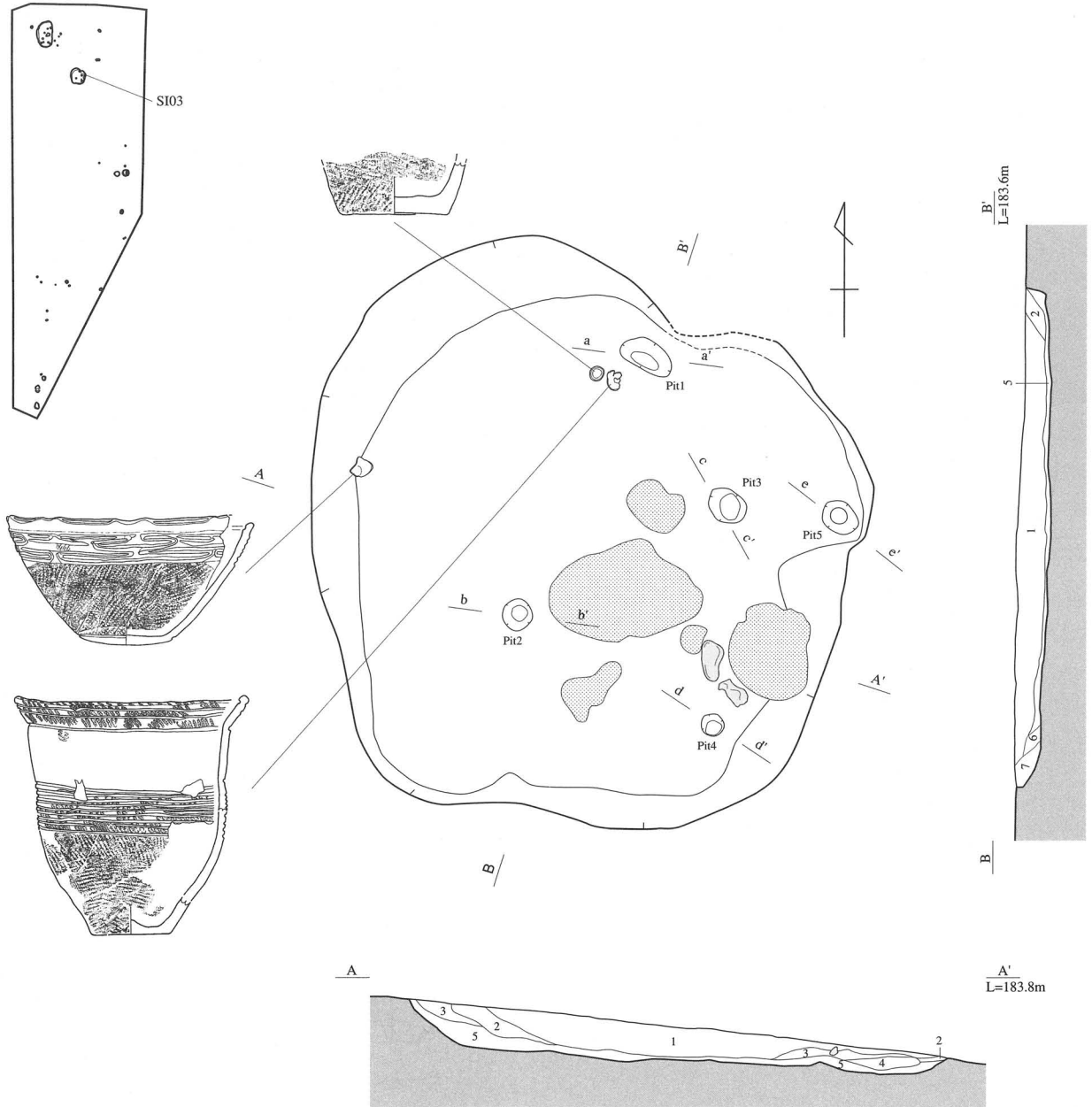
[平面形・規模] 平面形は不整円形。規模は4.64×4.28mである。



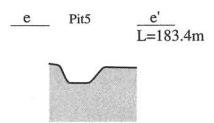
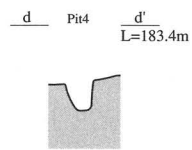
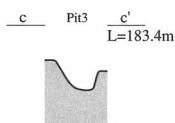
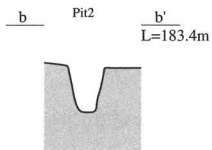
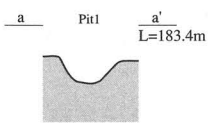
第22図 S I 02出土遺物 (1)



第23図 S I 02出土遺物 (2)



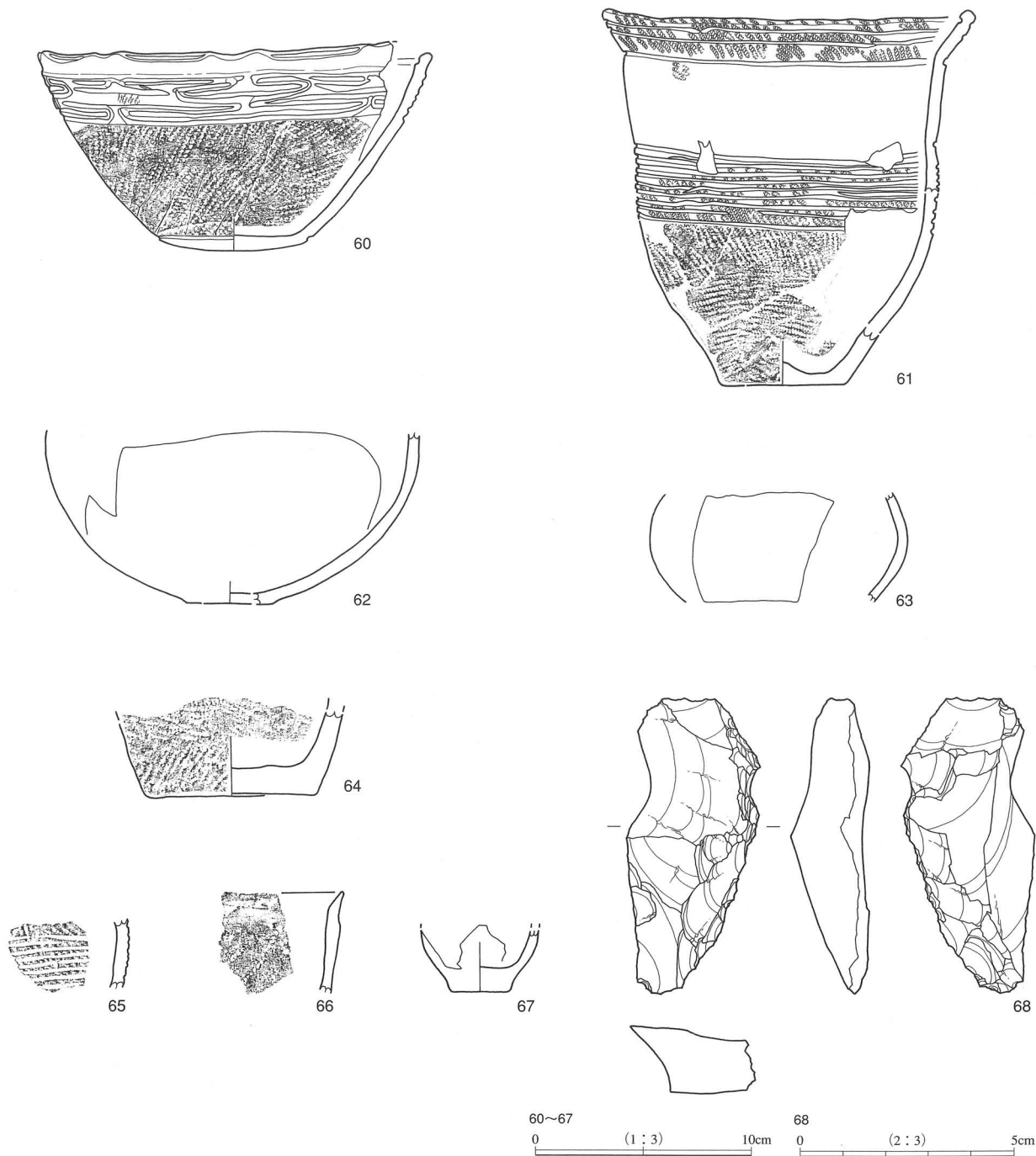
- SI03
- | | | |
|---|------------------|-----------------------------|
| 1 | 黒褐色土層 (10YR3/1) | 粘性やや強く、しまり並。 |
| 2 | 黒色土層 (10YR1.7/1) | 粘性やや弱く、しまり並。 |
| 3 | 黒褐色土層 (10YR2/2) | 粘性やや弱く、しまりやや強い。 |
| 4 | 黒色土層 (10YR2/1) | 粘性・しまり共にやや弱い。 |
| 5 | 黒色土層 (10YR2/1) | 粘性・しまり共にやや弱い。地山崩落土多く含む。 |
| 6 | 黒色土層 (10YR2/1) | 粘性並、しまりやや弱い。5層に類似するが崩落土が減る。 |
| 7 | 黒色土層 (10YR1.7/1) | 粘性やや強く、しまり並。 |



Pit1~5 黒色土層 (7.5YR 2/1)

0 2m

第24図 SI03



第25図 S I 03出土遺物

[堆積土] II層相当と思われる黒色土を主体とした7層に分層される。4層は焼土の含まれる層である。なだらかなレンズ状堆積が見られることから自然堆積と考えられる。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がる。残存状況の良い西壁の高さは約30cmになる。床面はV層上面までほぼ水平に掘り込まれており、礫の露出する部分もあるが概ね硬くしまっている。

[炉] 地床炉を床面中央付近で1基検出した。強い焼成痕と炭化粒が114×72cmの範囲で拡がる。堆積土中に見られた焼土層はこの地床炉に起因するものと思われる。

[柱穴・土坑] 柱穴5個を検出した。平面形は円形もしくは楕円形、開口部径は18~42cm、深さは12

～32cmである。これらは住居中央よりやや東側で不規則に配置されている。

[出土遺物] 埋土中から床面にかけて土器142点、石器1点が出土している。床面からは60・62～66が出土し、他の3点は埋土中からの遺物である。

60の鉢は沈線を両脇に施した2個一対の山形突起を有する口唇部。その山形突起の直下に2個一対の粘土瘤を貼り付けた変形工字文が施文されており、大洞A'式に比定できる。61は深鉢V類。肩部に複数条の沈線、頸部に幅が広く磨り消しの無紋帯、外傾する口縁部の内面に沈線を施すといった施文の特徴から二枚橋式土器に近似するものと思われる。

[所属時期] 出土遺物から縄文時代晩期末葉に属する。

S I 04

[位置] 調査区北側のPIV84・85・94・95グリッド、標高183mの東に面した斜面に位置する。検出層位はIV層である。約10m南東にはS I 03が存在する。

[平面形・規模] 平面形は不整楕円形である。規模は7.36×4.08mである。

[堆積土] II層相当と思われる黒色土を主体とした8層に分層される。自然堆積である。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がる。残存状況の良い西壁の高さは約40cmになる。床面はV層上面までほぼ水平に掘り込まれており、全体的に硬くしまっている。

[炉] 床面中央からやや東側で石囲炉1基を検出した。断面観察によって1層が埋土、以降の2～7層は焼成の度合いの差であり、掘り込みは浅いことが確認された。炉石に使用されていた礫の石材は安山岩4個、チャート3個、砂岩と頁岩がそれぞれ1個で総重量は66,671.5gである。

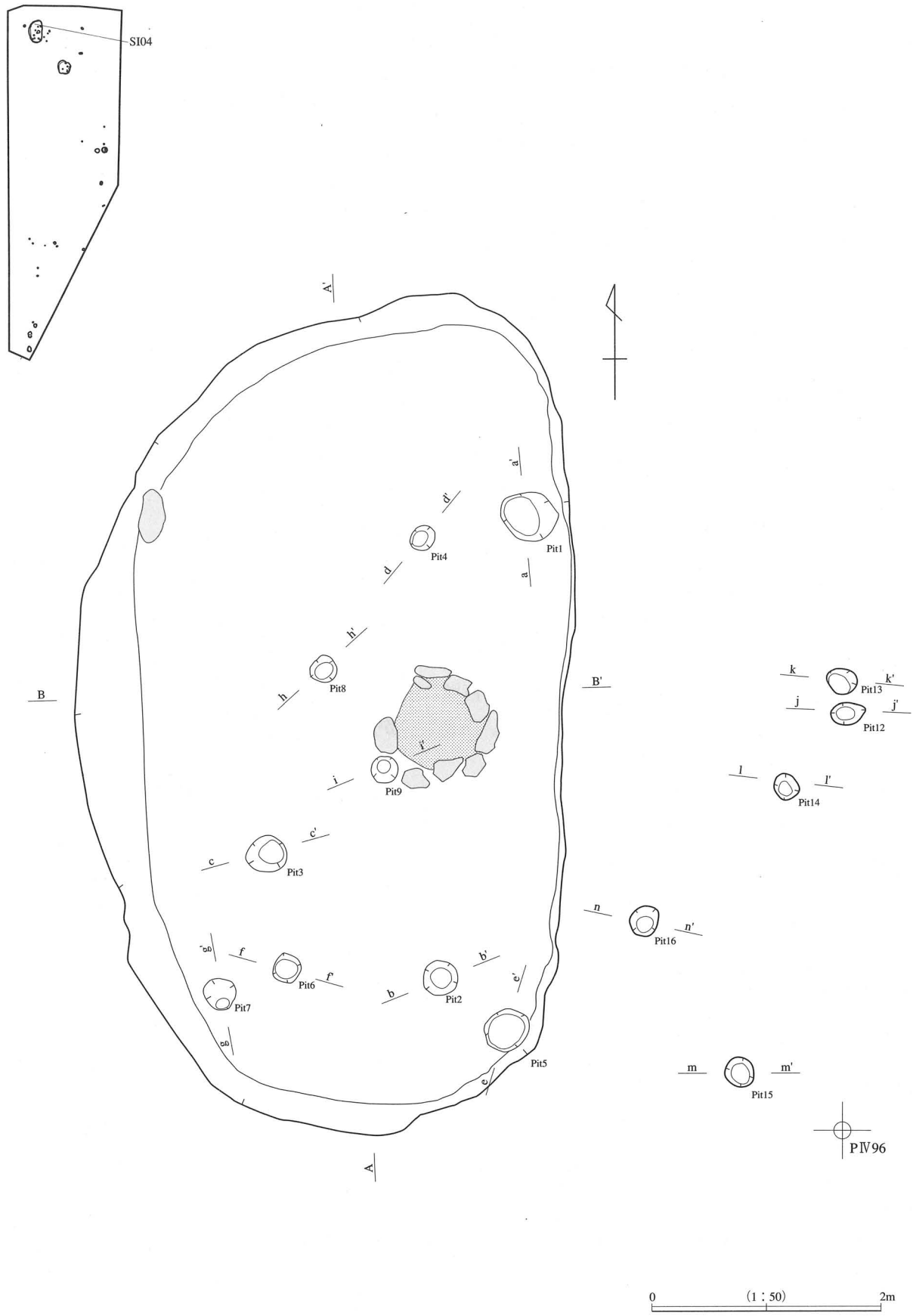
[柱穴・土坑] 柱穴9個を検出した。平面形は円形もしくは楕円形、開口部径は24～52cm、深さは10～40cmである。これらは炉の周囲で東側を欠き西壁に沿って半円状に配置されている。

[出土遺物] 埋土中から床面にかけて土器98点、石器17点が出土している。69・70・270は床面、他の14点は埋土中からの遺物である。

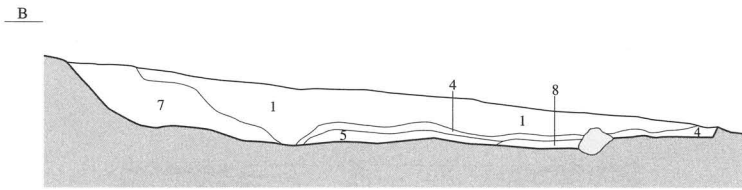
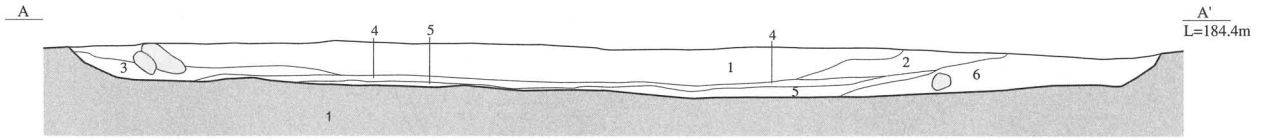
72・74の鉢は平行沈線及び刻み目、口縁部に細かい刻みが連続する波状口縁でそれぞれ施文されることからいずれも大洞C1式に比定できる。75の深鉢は入組三叉文が施文されることから大洞B式に比定できる。76の鉢・浅鉢は工字文が確認できることから大洞A式に比定できる。78・79は注口土器である。78は工字文が施文されることから大洞A式、79は磨消縄文によるX字文が施文されることから

第4表 S I 04炉石観察表

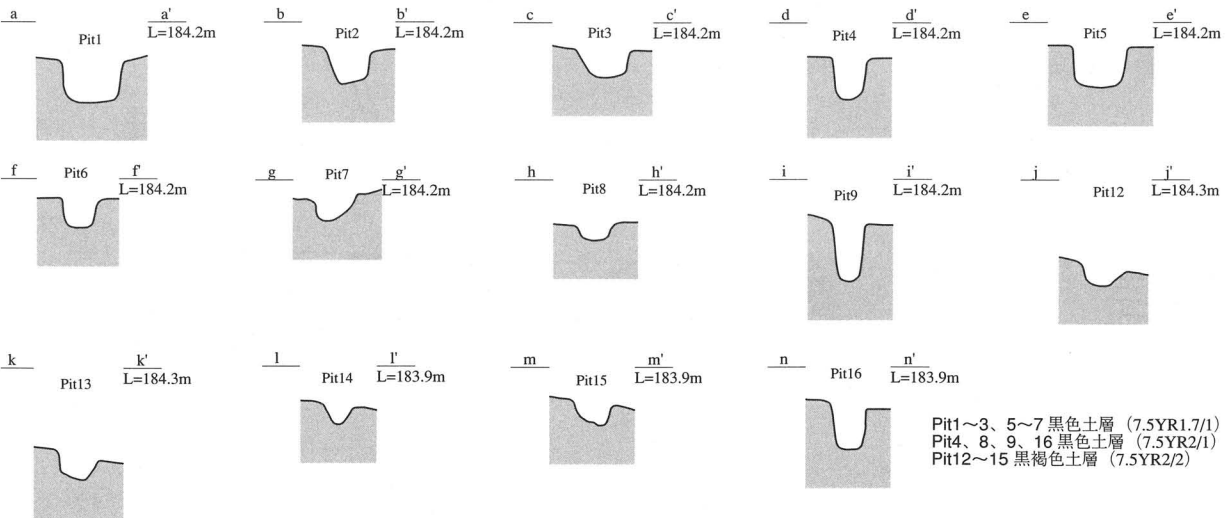
出土地点	出土層位	器種	重さ(g)	石材	産地(生成時期)	登録No
S I 04	床直	炉石	2,090.9	チャート	北上山地(中生代三畳紀～ジュラ紀)	377
S I 04	床直	炉石	3,329.0	頁岩	北上山地(中生代三畳紀～ジュラ紀)	378
S I 04	床直	炉石	10,000.0	砂岩	奥羽山脈(新生代新第三期)	383
S I 04	床直	炉石	7,963.0	安山岩	奥羽山脈(新生代)	382
S I 04	床直	炉石	13,742.4	安山岩	奥羽山脈(新生代)	376
S I 04	床直	炉石	5,000.0	チャート	北上山地(中生代三畳紀～ジュラ紀)	380
S I 04	床直	炉石	996.8	安山岩	奥羽山脈(新生代)	375
S I 04	床直	炉石	6,000.0	安山岩	奥羽山脈(新生代)	381
S I 04	床直	炉石	17,549.4	チャート	北上山地(中生代三畳紀～ジュラ紀)	379



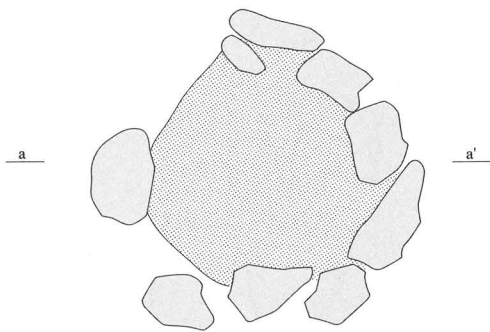
第26図 S104 (1)



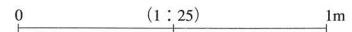
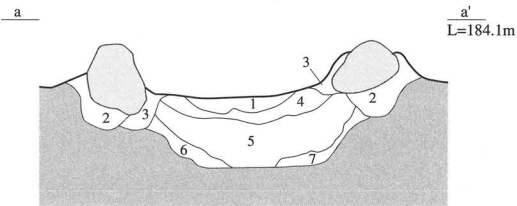
- SI04
- 1 黒色土層 (7.5YR 2/1) 粘性・しまり共に並。小礫を含む。
 - 2 黒色土層 (7.5YR 1.7/1) 粘性並、しまりやや強い。小礫を少量含む。
 - 3 黒色土層 (7.5YR 1.7/1) 粘性並、しまりやや弱い。小礫を微量に含む。褐色砂質シルトブロックを含む。
 - 4 黒色土層 (7.5YR 1.7/1) 粘性やや弱く、しまりやや強い。
 - 5 黒色土層 (7.5YR 2/1) 粘性並、しまりやや強い。
 - 6 黒褐色土層 (7.5YR 2/2) 粘性やや強く、しまり並。
 - 7 極暗褐色土層 (7.5YR 2/3) 粘性やや強く、しまり並。小礫を含む。
 - 8 黒褐色土層 (5YR 2/2) 粘性・しまり共に並。焼土粒、炭粒を微量に含む。



- Pit1~3、5~7 黒色土層 (7.5YR1.7/1)
- Pit4、8、9、16 黒色土層 (7.5YR2/1)
- Pit12~15 黒褐色土層 (7.5YR2/2)



- SI04 炉
- 1 極暗褐色土層 (5YR 2/3) 粘性・しまり共に並。炭粒を少量含む
 - 2 極暗褐色土層 (7.5YR 2/3) 粘性・しまり共にやや弱い。
 - 3 明赤褐色土層 (5YR 5/6) 粘性やや強く、しまりやや弱い。
 - 4 橙褐色土層 (5YR 6/6) 粘性やや強く、しまりやや弱い。
 - 5 明赤褐色土層 (5YR 5/6) 粘性やや強く、しまり並。
 - 6 にぶい赤褐色土層 (5YR 4/3) 粘性・しまり共にやや強い。
 - 7 にぶい赤褐色土層 (5YR 4/3) 粘性・しまり共にやや強い。



第27図 SI04 (2)



第28図 S I 04出土遺物

大洞C1式にそれぞれ比定できる。80の壺は変形工字文の施文がされることから大洞A'式に比定できる。69・70の鉢は頸部で内反し、無紋の口縁部で外反する。共に大洞A～A'式に類似する土器が認められる。

[所属時期] 出土遺物から縄文晩期末葉に属する。

[備考] 本遺構の東側で柱穴5個を検出した。これらは住居内において検出した半円状の柱穴配置の欠けている東側を補い、炉を中心とした円形の配置となる。また、住居内柱穴との埋土を比較すると概ね近似する。従って本遺構の床面、及び壁面が確認されなかった東側はⅡ層に相当する堆積土が形成される時期とほぼ同じ時期に斜面下方へ流出し、掘り込みの深い柱穴のみが痕跡として残ったという推定がされる。この流出以前とした推定規模及び平面形は直径7.3m程の円形となる。

(2) 埋 設 土 器

S R 01

[位置・検出層位] SⅢ63グリッドに位置する。検出層位はⅣ層上面である。本遺構は削平により土器の上半部が削平されている。

[埋設土器の状態] 土器は正立。土器は上半部が破損し体部下位から底部のみの残存していた。

[平面形・規模] 掘り方の平面形は不整形である。規模は79×67cmである。

[堆積土] 暗褐色土である。

[壁・底面] 壁は外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

[出土遺物] 土器51点出土している。これらは概ね個体に復元できた。埋設土器以外に別個体が1点ある。85は深鉢Ⅱ類。口縁部は波状縁を呈し、口縁部直下に列点が隆帯と平行して施文されており、大木10式に比定される。86は体部。埋設土器と別個体であるが、大木10式に比定される。斜面上方にあるブロック2からの流れ込みによるものと考えられる。

[所属時期] 出土遺物から縄文時代中期末に属する。

(3) 焼 土 遺 構

S N 01

[位置・検出層位] TⅢ6グリッドに位置する。検出層位はⅡ層中である。

[平面形・規模] 平面形は円形である。規模は59×57cm、層厚は6cmである。

[堆積土] 燈色土主体で3層に分層される。

[出土遺物] 土器13点出土している。時期不明の粗製土器である。

[所属時期] 検出層位から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明。

S N 02

[位置・検出層位] 調査区北側のPIV84グリッド、標高184.7mの東に面した斜面に位置する。検出層位はⅣ層である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は68×48cm、層厚は8cmである。

[焼成] 黒褐色のⅣ層土が赤褐色土に変化している。

[出土遺物] 焼土中から剥片が1点出土している。

[所属時期] 検出層位から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明。

S N 03

[位置・検出層位] 調査区北側のRⅣ94グリッド、標高187.1mの北に面した斜面に位置する。検出層位はⅣ層である。

[平面形・規模] 平面形は不整形である。規模は100×76cm、層厚は8cmである。

[焼成] 黒褐色のⅣ層土が赤褐色土に変化している。縁辺部にはぶい赤褐色土への漸移的な変化が見られる。

[出土遺物] なし。

[所属時期] 検出層位から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明。

(4) 土 坑

S K 01

[位置・検出層位] TⅢ24グリッドに位置する。検出層位はⅣ層である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は1.79×1.28m、深さは24cmである。

[堆積土] Ⅱa層に類似した黒色・黒褐色土を主体として3層に分層される。

[壁・底面] 壁は外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

[出土遺物] 埋土中から縄文土器2点が出土している。

[所属時期] 埋土主体層から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明。

S K 02

[位置・検出層位] TⅡ59グリッドに位置する。検出層位はⅣ層である。

[平面形・規模] 平面形は円形である。規模は1.15×1.01m、深さは14～32cmである。

[堆積土] Ⅱa層に類似した暗褐色土を主体として5層に分層される。

[壁・底面] 壁は直立して立ち上がる。底面は平坦である。

[出土遺物] 埋土中から縄文土器2点が出土している。

[所属時期] 埋土主体層から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明。

S K 03

[位置・検出層位] TⅡ59グリッドに位置する。検出層位はⅣ層である。

[平面形・規模] 平面形は円形である。規模は89×78cm、深さは12cmである。

[堆積土] Ⅱa層に類似した暗褐色土を主体として2層に分層される。

[壁・底面] 壁は概ね直立して立ち上がるが、西壁のみ内湾する。底面は平坦である。

[出土遺物] なし。

[所属時期] 埋土主体層から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明。

S K 04

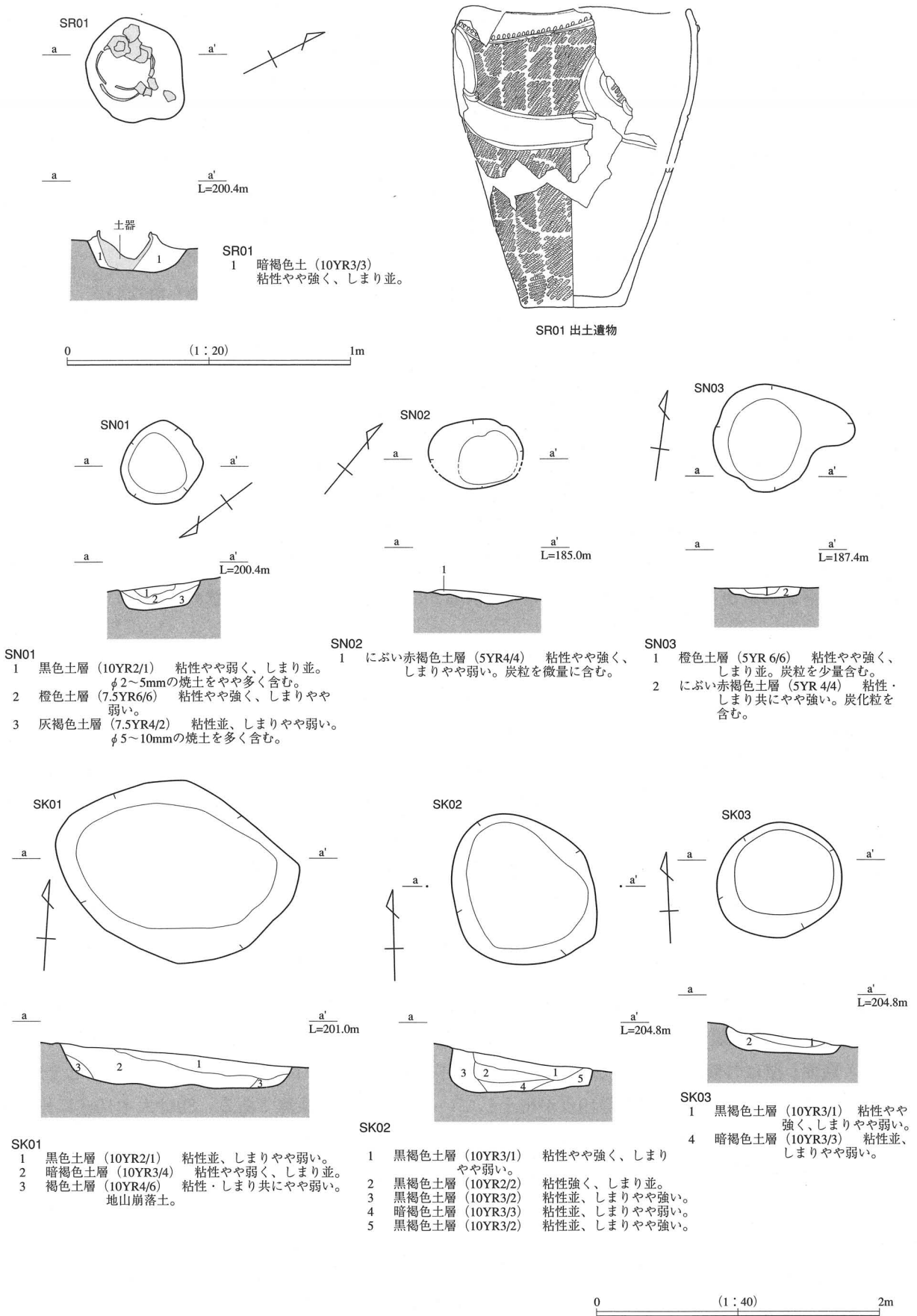
[位置・検出層位] TⅡ08・09グリッドに位置する。検出層位はⅣ層である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は85×57cm、深さは6cmである。

[堆積土] Ⅱa層に類似した黒色土である。

[壁・底面] 壁は外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、東側が若干高い。

[出土遺物] 埋土中から縄文土器3点が出土している。



第29図 SR01・SN01~03・SK01~03

[所属時期] 埋土主体層から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明。

S K 05

[位置・検出層位] SⅢ51グリッドに位置する。検出層位はⅣ層である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は2.12×0.81m、深さは16cmである。

[堆積土] Ⅱa層に類似した黒色土である。

[壁・底面] 壁は外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、東端は小穴の掘り込みを有する。

[出土遺物] 埋土中から縄文土器2点が出土している。

[所属時期] 埋土主体層から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明。

[備考] 平面形状から陥し穴の可能性も考えられるが、底面に逆茂木痕等は認められない。

S K 06

[位置・検出層位] SⅢ41・51グリッドに位置する。検出層位はⅣ層である。

[平面形・規模] 平面形状は楕円形である。規模は1.79×0.85m、深さは24cmである。

[堆積土] Ⅱa層に類似した黒色土である。

[壁・底面] 壁はほぼ直立して立ち上がる。底面は皿状である。

[出土遺物] 埋土中から縄文土器6点が出土している。

[所属時期] 埋土主体層から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明。

[備考] 平面形状から陥し穴の可能性も考えられるが、底面に逆茂木痕等は認められない。

S K 07

[位置・検出層位] SⅢ52グリッドに位置する。検出層位はⅣ層である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は88×55cm、深さは16cmである。

[堆積土] Ⅱb層に類似しているが、やや暗味の強い黒色土である。

[壁・底面] 壁は直立して立ち上がる。底面は皿状である。

[出土遺物] 埋土中から縄文土器7点が出土している。

[所属時期] 埋土主体層から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明。

S K 08

[位置・検出層位] TⅢ04グリッドに位置する。検出層位はⅣ層である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は93×74cm、深さは14cmである。

[堆積土] Ⅱb層に類似した黒色土を主体として3層に分層される。

[壁・底面] 壁は外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、東に向かって緩やかに傾斜している。

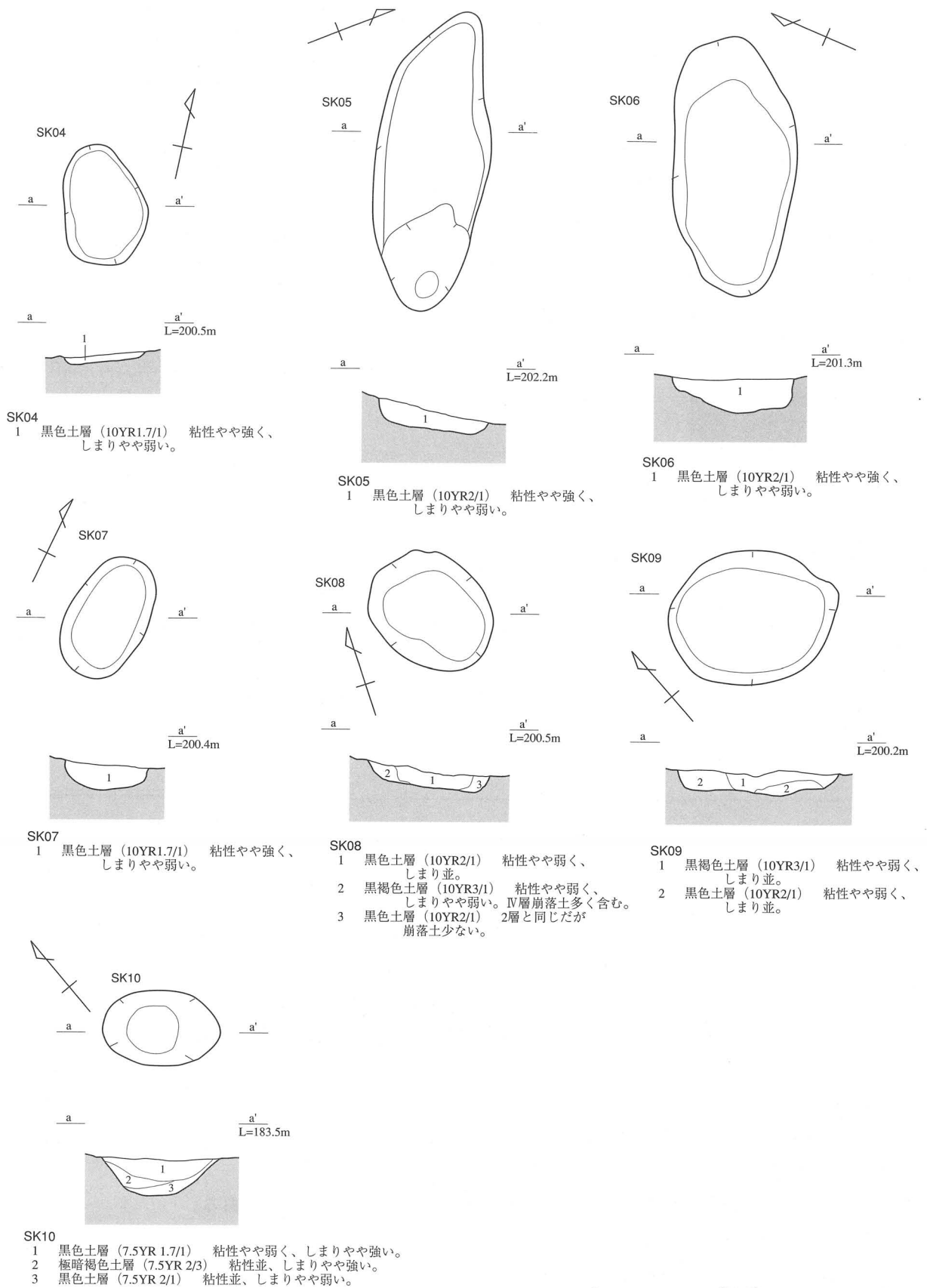
[出土遺物] 埋土中から縄文土器19点が出土している。88・89は深鉢である。89は大木10式に比定される。ブロック2から流れ込んだ可能性が高いと思われる。

[所属時期] 埋土主体層から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明。

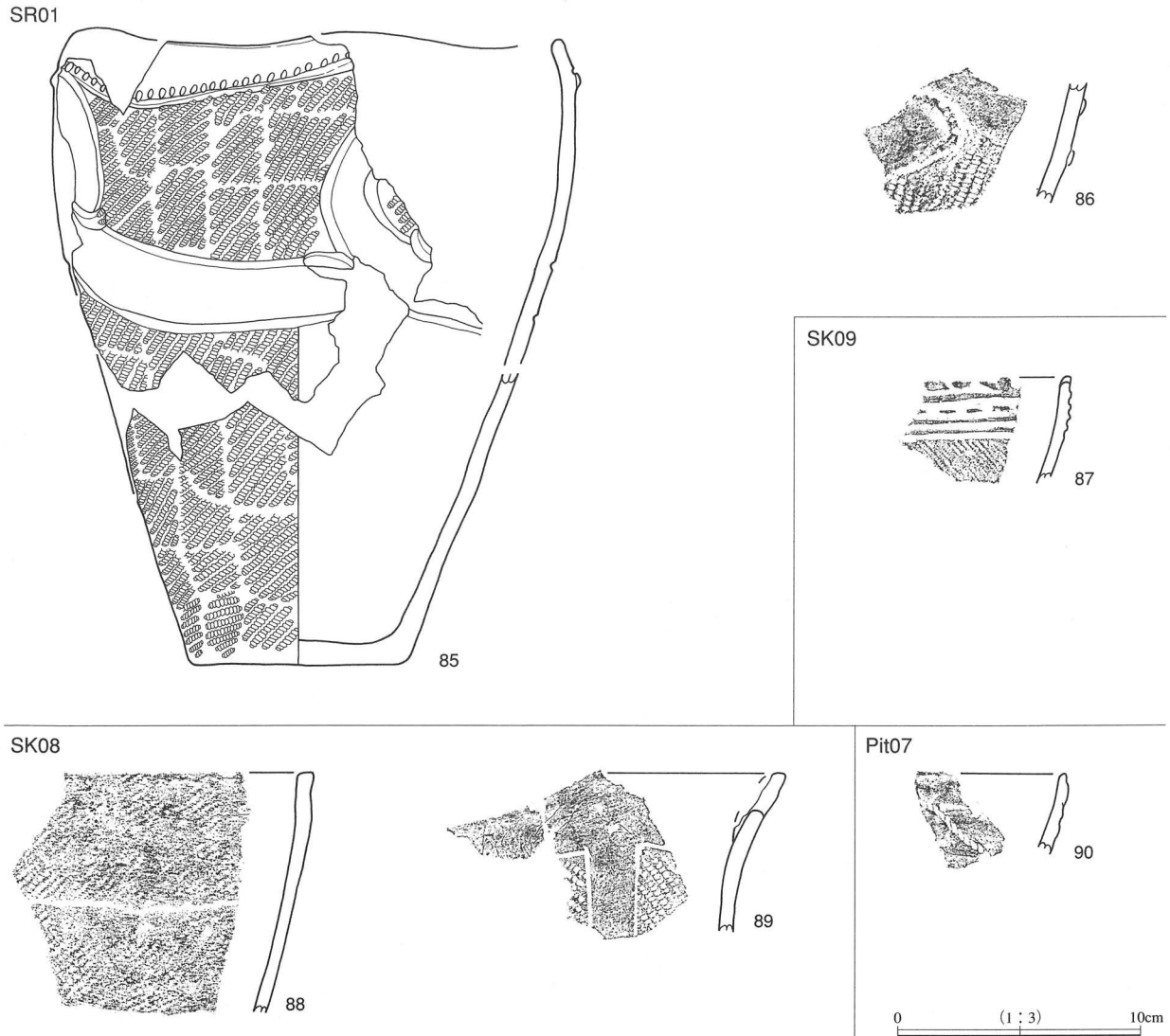
S K 09

[位置・検出層位] TⅢ15グリッドに位置する。検出層位はⅣ層である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は1.17×0.93m、深さは16cmである。



第30図 SK04~10



第31図 SR01・SK08・09出土遺物

[堆積土] II a層である黒色土を主体として2層に分層される。

[壁・底面] 壁は外傾して立ち上がる。底面は若干の凹凸があるもののほぼ平坦である。

[出土遺物] 埋土中から縄文土器4点が出土している。87は鉢I類、大洞C1式に比定される。本遺物はブロック3と同様、ブロック1から流れ込みによるものと思われる。

[所属時期] 埋土主体層から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明。

SK10

[位置・検出層位] 調査区北側のPIV88グリッド、標高183.7mの東に面した斜面に位置する。検出層位はIV層である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は82×52cm、深さは28cmである。

[堆積土] II層相当と思われる黒色土を主体として3層に分層される。

[壁・底面] 概ね平坦な底面から壁は外傾して立ち上がる。

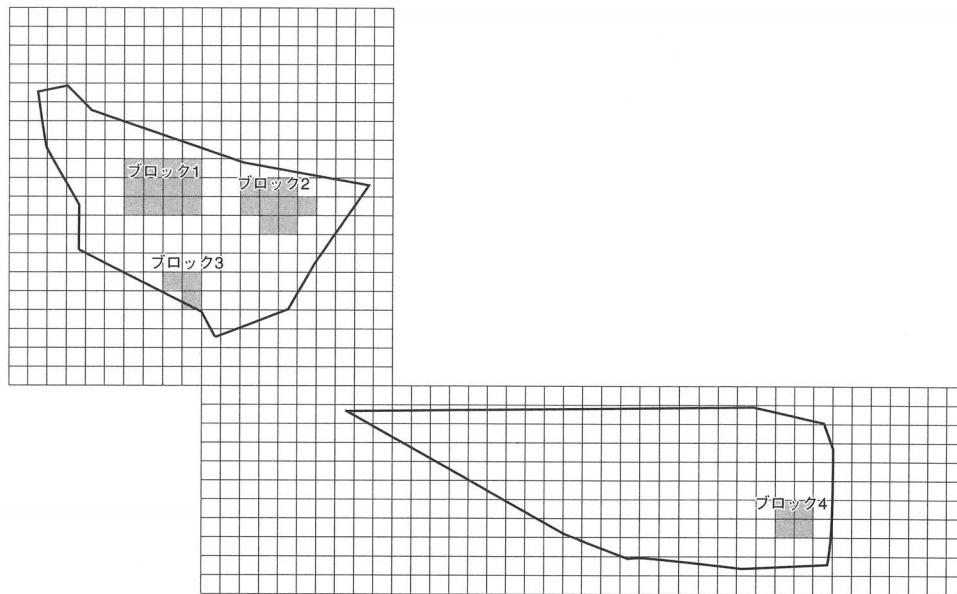
[出土遺物] なし。

[所属時期] 検出層位から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明である。

(5) 遺構外出土遺物

遺構内の出土遺物は上記の通りである。ここでは遺構外の出土遺物のみ記載を行うこととする。

遺構外において遺物がまとまって出土する範囲が大きく4カ所確認できた。それらのブロックを図に示しておいた。それらのブロック1～4から出土した遺物の特徴を抽出しておく。土器・石器の各ブロックごとの出土総量は第5表の通りである。



第32図 ブロック分布図

第5表 ブロック別出土遺物一覧

ブロック1	層位	土器		石器												
		個数	重量(g)	個数	重量(g)	石鏃	スクレイパー類	筥状石器	石匙	不定形石器	楔形石器	石核	磨製石斧	礫石器	剥片	他
	IIa層	491	8,317.0	28	9,169.8	—	2	1	—	—	—	1	1	5	18	—
	IV層上面	3	14.9	1	456.1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—

ブロック2	層位	土器		石器												
		個数	重量(g)	個数	重量(g)	石鏃	スクレイパー類	筥状石器	石匙	不定形石器	楔形石器	石核	磨製石斧	礫石器	剥片	他
	IIb層	931	14,995.6	18	18,384.0	—	—	—	—	—	3	2	1	7	5	—
	I~III層	11	142.7	1	1,060.5	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
	IV層上面	9	47.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ブロック3	層位	土器		石器												
		個数	重量(g)	個数	重量(g)	石鏃	スクレイパー類	筥状石器	石匙	不定形石器	楔形石器	石核	磨製石斧	礫石器	剥片	他
	IIa層	106	1,914.7	2	1,750.4	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
	IV層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	IV層	21	197.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ブロック4	層位	土器		石器												
		個数	重量(g)	個数	重量(g)	石鏃	スクレイパー類	筥状石器	石匙	不定形石器	楔形石器	石核	磨製石斧	礫石器	剥片	他
	IV層	158	1,755.4	57	794.5	2	2	—	—	—	2	1	—	1	49	—
	IV層上面	—	—	1	11.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—

ブロック1

南側調査区のTⅡ09～40、TⅢ01～31グリッド付近でⅡa層を中心に出土している。出土総量は、土器は493点、8,331.9g、石器は29点である。遺物の出土はTⅡ19・30グリッドが中心であり、土器はTⅡ30グリッド、石器はTⅡ20グリッドから主に出土している。土器と石器の出土傾向はほぼ同じである。本ブロックの約10m南にはSⅠ01・02が位置している。

土器は中期末から晩期まで多岐に渡るが、中期末から後期初頭に属するものが多く認められる。石器は剥片・磨製石斧・礫石器がある。遺物の詳細は後述する。

第6表 ブロック1 出土遺物一覧

ブロック1		土 器		石 器												
出土地点	層位	個数	重量 (g)	個数	重量 (g)	石 鏃	スクレイパー類	鏡状石器	石 匙	不定形石器	楔形石器	石 核	磨製石斧	礫石器	剥 片	他
TⅡ09	Ⅱ a	1	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TⅡ10	Ⅱ a	1	123.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TⅡ19	Ⅱ a	73	1,736.9	1	17.6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TⅡ19	Ⅳ	-	-	1	456.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
TⅡ20	Ⅱ a	29	1,187.2	13	831.2	-	1	1	-	-	-	-	-	1	10	-
TⅡ19・20	Ⅳ上面	3	14.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TⅡ29	Ⅱ a	10	110.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TⅡ30	Ⅱ a	169	2,554.5	4	7,667.8	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-
TⅡ39	Ⅱ a	5	60.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TⅡ40	Ⅱ a	33	581.4	1	306.4	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
TⅢ01	Ⅱ a	1	16.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TⅢ11	Ⅱ a	68	612.4	7	194.9	-	-	-	-	-	-	1	-	-	6	-
TⅢ21	Ⅱ a	67	794.3	2	151.9	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-
TⅢ31	Ⅱ a	34	532.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

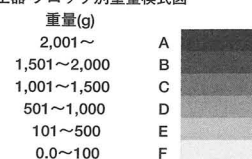
このブロック1が形成された主体時期は南側に隣接するSⅠ01と同時期である。

ブロック2

南側調査区のSⅡ80・SⅢ41～71グリッド付近でⅡb層を中心に、Ⅲ層とⅣ層からも出土している。総量は、土器は951点、15,186.1g、石器は19点である。今回検出した遺物集中ブロックの中で最も出土総量が多い。

S	Ⅱ99	Ⅱ100	Ⅲ91
	7.1	123.7	16.5
T	1,817.9	1,194.7	612.4
	110.2	2,554.5	794.3
	60.5	581.4	532.3

土器 ブロック別重量模式図



土器はSⅡ80、SⅢ61・62グリッドを中心に出土しているが、土器と石器の出土傾向において関係性は認められない。本ブロックの東側斜面下方にはSⅠ01、SⅠ01は約50m南方に位置しているが、周辺には竪穴住居などの遺構は検出されていない。

土器は中期末から後期初頭を中心としたものであり、他の時期に属するものはない。石器は楔形石器と礫石器が多く出土しているという特徴がある。遺物の詳細は後述する。

本ブロック周辺には先述したように当該期の遺構が存在していないことから、それらは調査区外に求められるものと考えられる。本ブロックの西側、調査区外に面積の狭い比較的平坦な面を確認できたことから、その範囲に遺構が存在していると想定される。このことは土器の出土量が多いことと比較的重量がある石皿などが認められていることから、本ブロックの近接した場所に生活空間を想定しても差し支えないと思われる。よってその平場に形成された遺構から流出した結果、本ブロックが形成されたもの

	Ⅱ40	Ⅲ31	Ⅲ32
	0.0	1,588.9	0.0
S	1,026.4	1,026.4	1,030.4
	1,026.4	2,255.0	2,359.8
	4,588.5	176.5	107.9

第7表 ブロック2出土遺物一覧

ブロック2		土器		石器												
出土地点	層位	個数	重量(g)	個数	重量(g)	石 鏃	ス ク レ イ バ ー 類	筥 状 石 器	石 匙	不 定 形 石 器	楔 形 石 器	石 核	磨 製 石 斧	礫 石 器	剥 片	他
S II 60・70・80, S III 51・52	II b	428	5,131.9	10	1,042.7	-	-	-	-	-	3	1	1	1	4	-
S II 80	II b	128	3,500.4	1	8,000.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
S II 80	II~III	3	61.7	1	1,060.5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
S III 41	II b	115	1,588.9	1	795.4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
S III 52	II b	1	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S III 61	II b	158	2,207.2	2	721.6	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-
S III 61	IV上面	9	47.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S III 62	II b	90	2,359.8	4	7,824.3	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-
S III 71	II b	5	95.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S III 71	II~III	8	81.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S III 72	II b	6	107.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第8表 ブロック3出土遺物一覧

ブロック3		土器		石器												
出土地点	層位	個数	重量(g)	個数	重量(g)	石 鏃	ス ク レ イ バ ー 類	筥 状 石 器	石 匙	不 定 形 石 器	楔 形 石 器	石 核	磨 製 石 斧	礫 石 器	剥 片	他
T III 05	II a	31	375.3	1	1,655.7	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
T III 05	V	21	197.4	1	94.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
T III 06	II a	46	1,117.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
T III 15	II a	29	421.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第9表 ブロック4出土遺物一覧

ブロック4		土器		石器												
出土地点	層位	個数	重量(g)	個数	重量(g)	石 鏃	ス ク レ イ バ ー 類	筥 状 石 器	石 匙	不 定 形 石 器	楔 形 石 器	石 核	磨 製 石 斧	礫 石 器	剥 片	他
P IV 87・88・97・98	II	158	1,755.4	57	794.5	2	2	-	-	1	2	1	-	1	48	-
P IV 87	IV上面	-	-	1	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

と現時点では判断したい。

ブロック3

南側調査区T III 05・06・15グリッド付近でII a層を中心に出土している。総量は、土器は127点、2,212.1g、石器は2点である。T III 06グリッドが中心である。所属時期が分かるものは、晩期に属する土器1点以外には所属時期が不明の粗製土器である。石器は礫石器と砥石であり、点数は極めて少ない。遺物の詳細は後述する。

本ブロック周辺には当該期の遺構は土坑のみであることから、斜面の上方20mに位置するブロック1からの流出したものと考えられる。砥石に限っては、形態から縄文時代に含まれるものとは考えられず、周辺には竪穴建物があることから、中世に属するものと思われる。

ブロック4

北側調査区PV87・88・97グリッド付近でII b層から出土している。総量は、土器は158点、1,755.4g、石器は58点である。土器は縄文時代晩期の大洞BC~A'式期に比定されるが、大半は大洞A~A'式に属するものである。石器は石鏃・楔形石器・石核・剥片などである。遺物の詳細は後述する。

本ブロック周辺にはS I 03・04が存在しており、S I 03は5m南西、S I 04は15m西に位置している。



第33図 ブロック1 遺物分布図

本ブロックの遺物の所属時期と S I 03・04がほぼ同時期にあり、それらの遺構より下位の緩斜面地に本ブロックが形成されていることから、それらの遺構から流出した結果と考えられる。

土 器

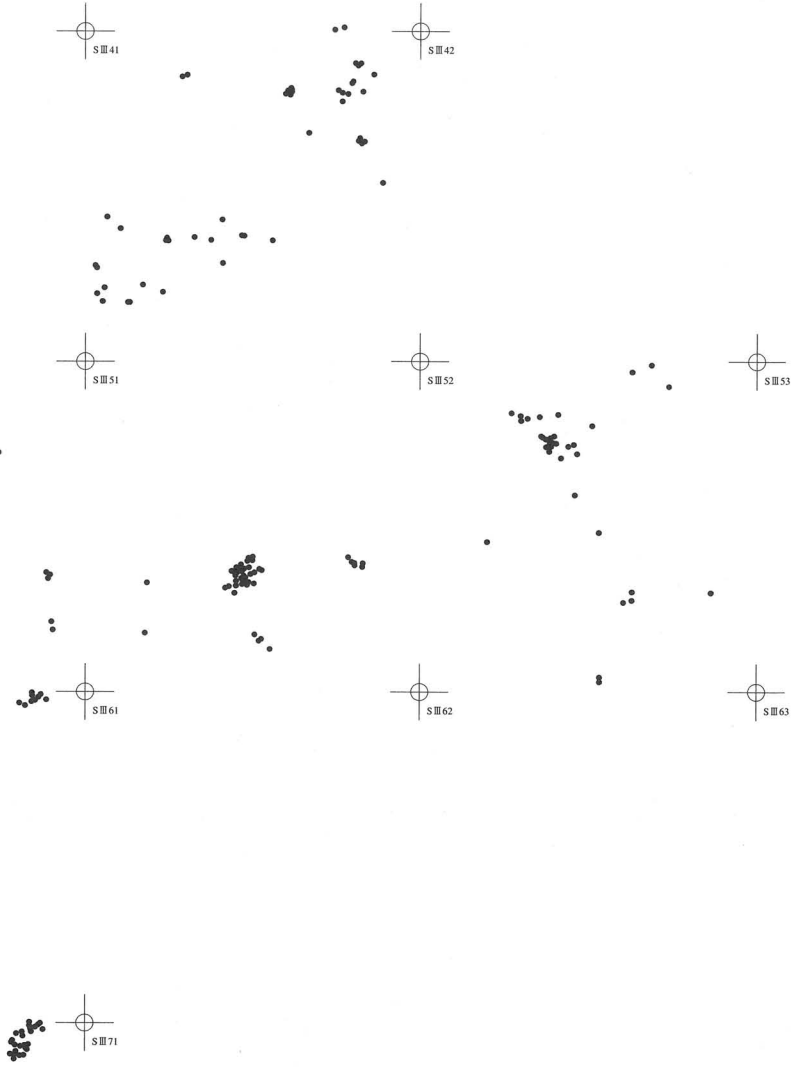
各ブロックと層位一括で取り上げた土器を出土層位ごと、さらにその中で型式ごとにまとめて掲載し報告しておく。出土した土器は以下のようなⅠ～Ⅳ群に分けられる。Ⅰ群は大木10式の土器群、Ⅱ群は馬立式を中心とした後期初頭の土器群、Ⅲ群は大洞BC～A'式にかけての土器群、Ⅳ群は時期不明の土器群である。

[Ⅰ群] (96～117)

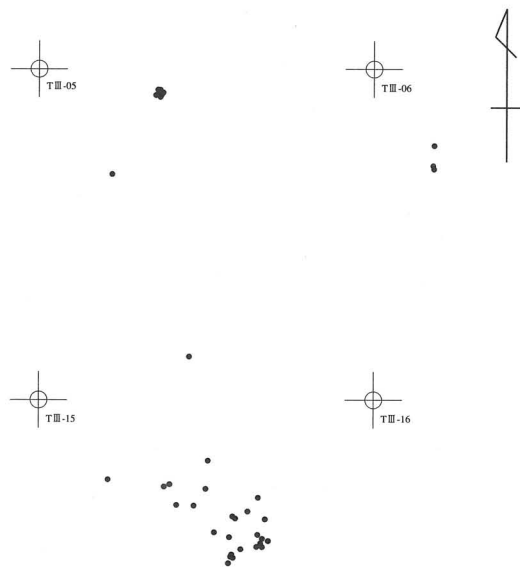
ブロック1・2から主に出土している。口縁部が確認できるものには波状縁と平縁がある。器形は破片が大半を占めているため不明な点が多いものの、深鉢Ⅰ・Ⅱ類が主体で一部にⅨ類が含まれている。

96は内面、98は外面にそれぞれ鱗状突起を有する。波状口縁を呈し頭頂部に刻みを伴う。100・102は逆U字状の沈線が認められる。104は橋状把手が剥落しているが、体部の立ち上がりから深鉢Ⅸ類と考えられる。その他は沈線と磨消縄文を組み合わせたS字文などで、粘土粒が貼付を伴うものと伴わないものが存在している。115・116は橋状把手。共に上下から穿孔されている。116は体部に縄文を伴うことから本群に含めているが、115は沈線が施文されていることからⅡ群に含まれる可能性が

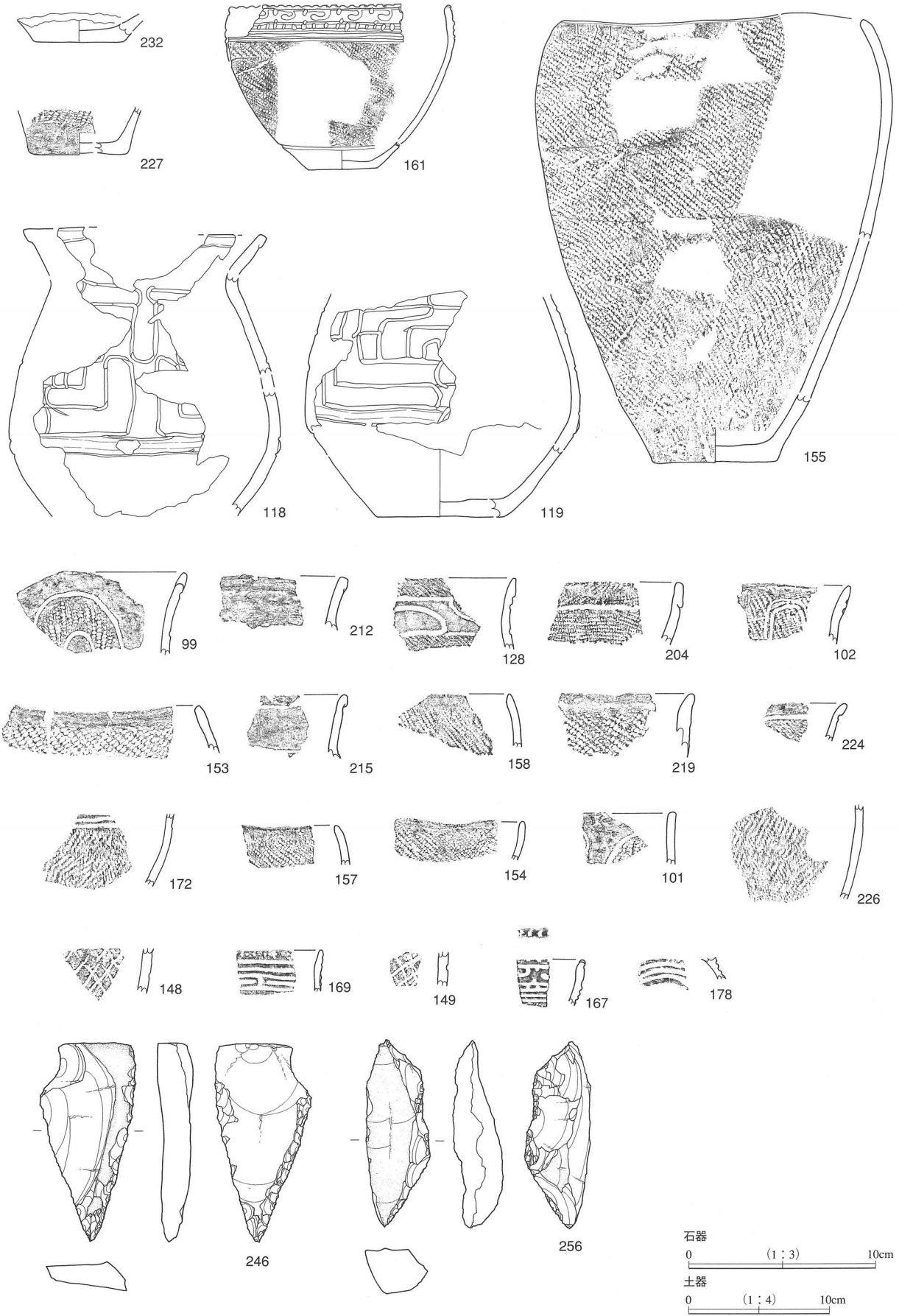
ブロック2



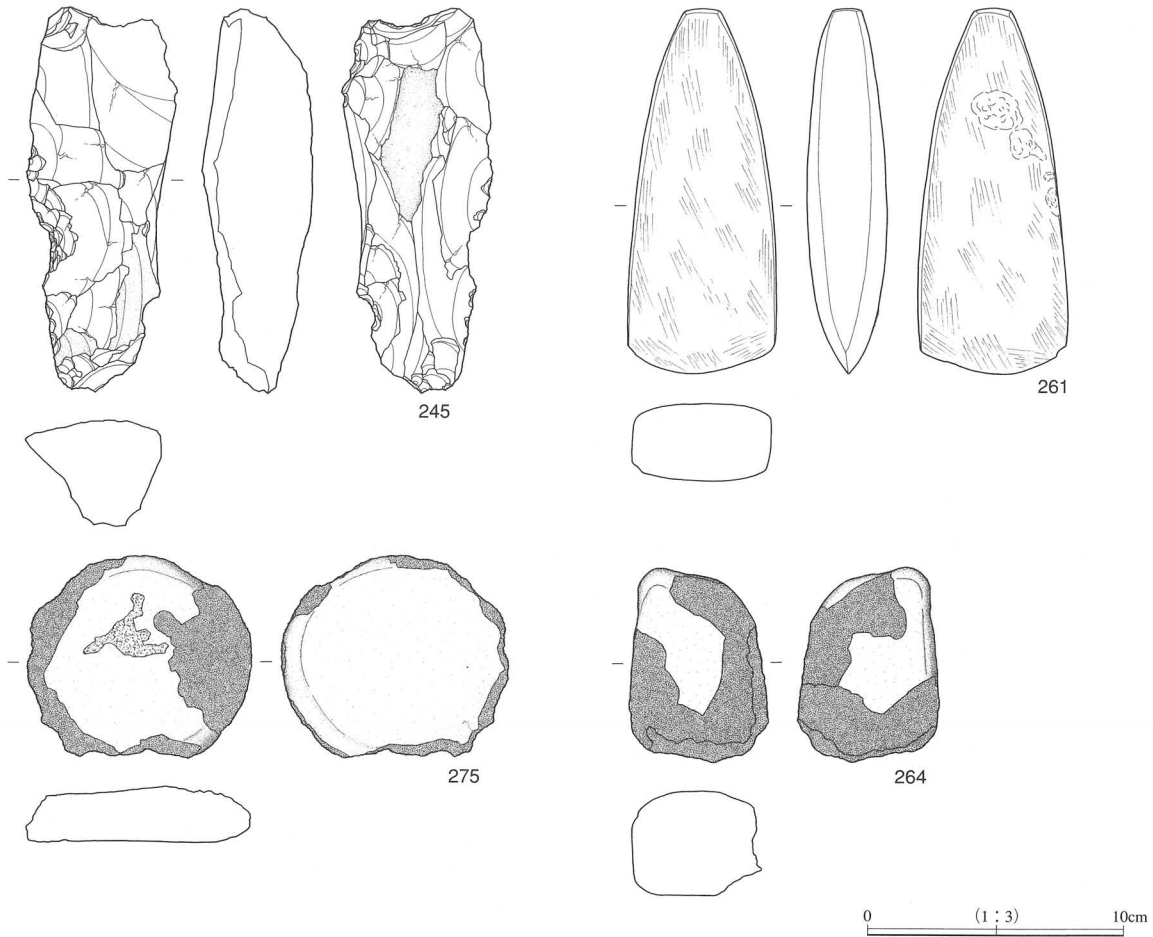
ブロック3



第34図 ブロック2・3遺物分布図



第35図 ブロック1 出土遺物(1)



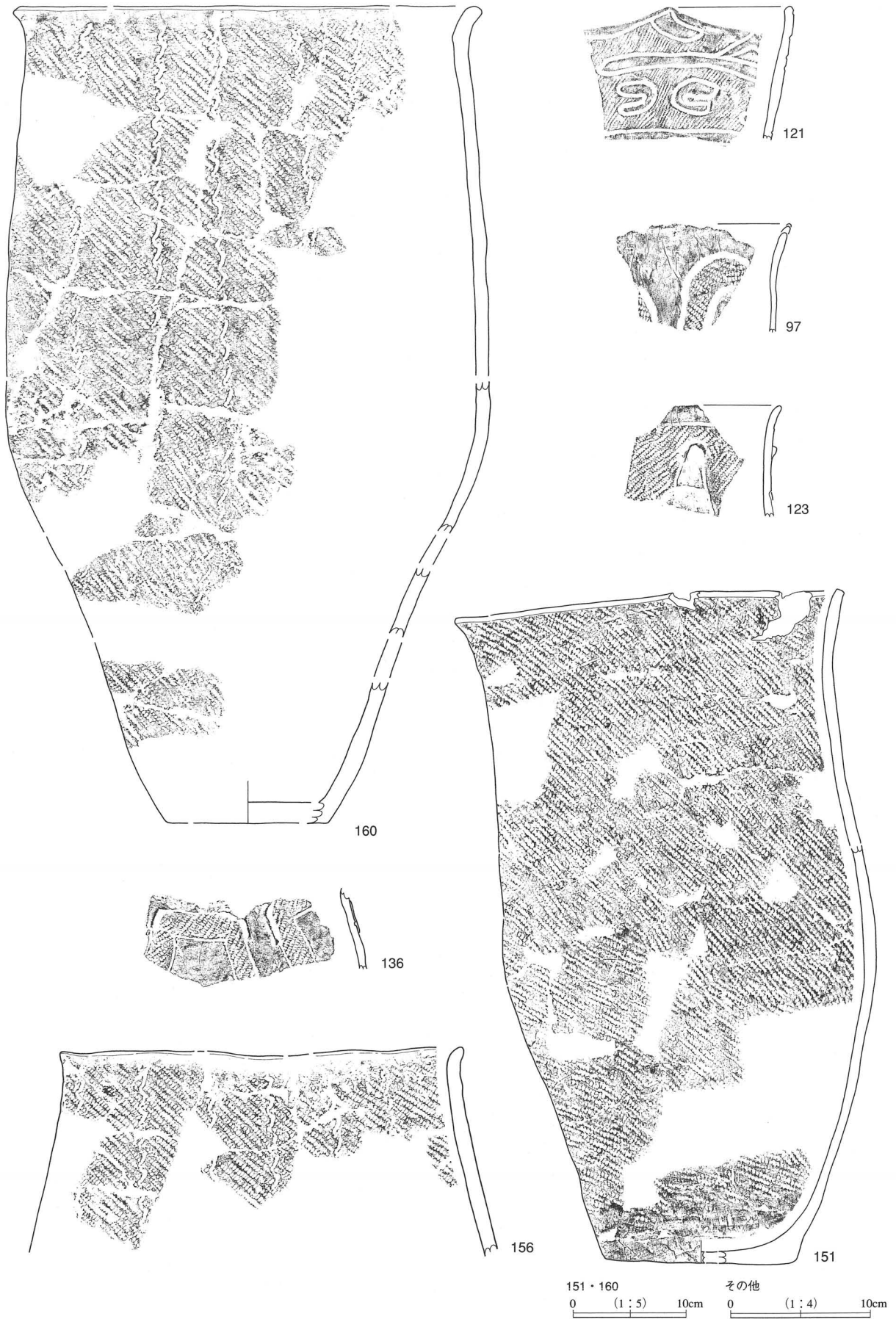
第36図 ブロック1出土遺物(2)

ある。

[II群] (118~150)

ブロック1・2から主に出土している。口縁部が確認できるものでは波状縁と平縁がある。器形は破片が大半を占めているため不明な点が多いものの、少なからずⅨ類が認められている。

118・119は同一個体で深鉢Ⅸa類である。体部下半に最大径があり、その最大径の部分に横位の隆帯が貼付られている。器面が磨かれ、沈線によりコ字状の文様が施文されている。これらは破損していることから全体の文様構成は不明であるが、残存部位から左右対称の可能性はある。120は口縁部は欠損しているものの球胴状を呈する胴部が認められることから深鉢Ⅸ類と思われる。J字と三角状の文様を磨消縄文で施文し、その下位に連弧文がある。121・122・126は口縁が波状を呈するが器形は不明である。121は口縁と平行した沈線がめぐり、その沈線の下に2対1組のコ字状の文様が磨消縄文により施文されている。122は縦・横・斜位の平行沈線が引かれ、波頂部直下に二重の円形状の文様がある。口唇部にも沈線が認められている。126は他とは異なる波頂部の形状を成し、口縁部に沿って沈線が施文されている。123・125は共に平縁であるが器形は不明である。長さの異なる逆U字状の隆帯が貼付られ、その直下の施文方法はそれぞれ異なる。123は磨消縄文と沈線、125は磨消縄文と隆帯を組み合わせている。127・130・139は細い沈線を平行もしくは鋸歯状に施文している。128・

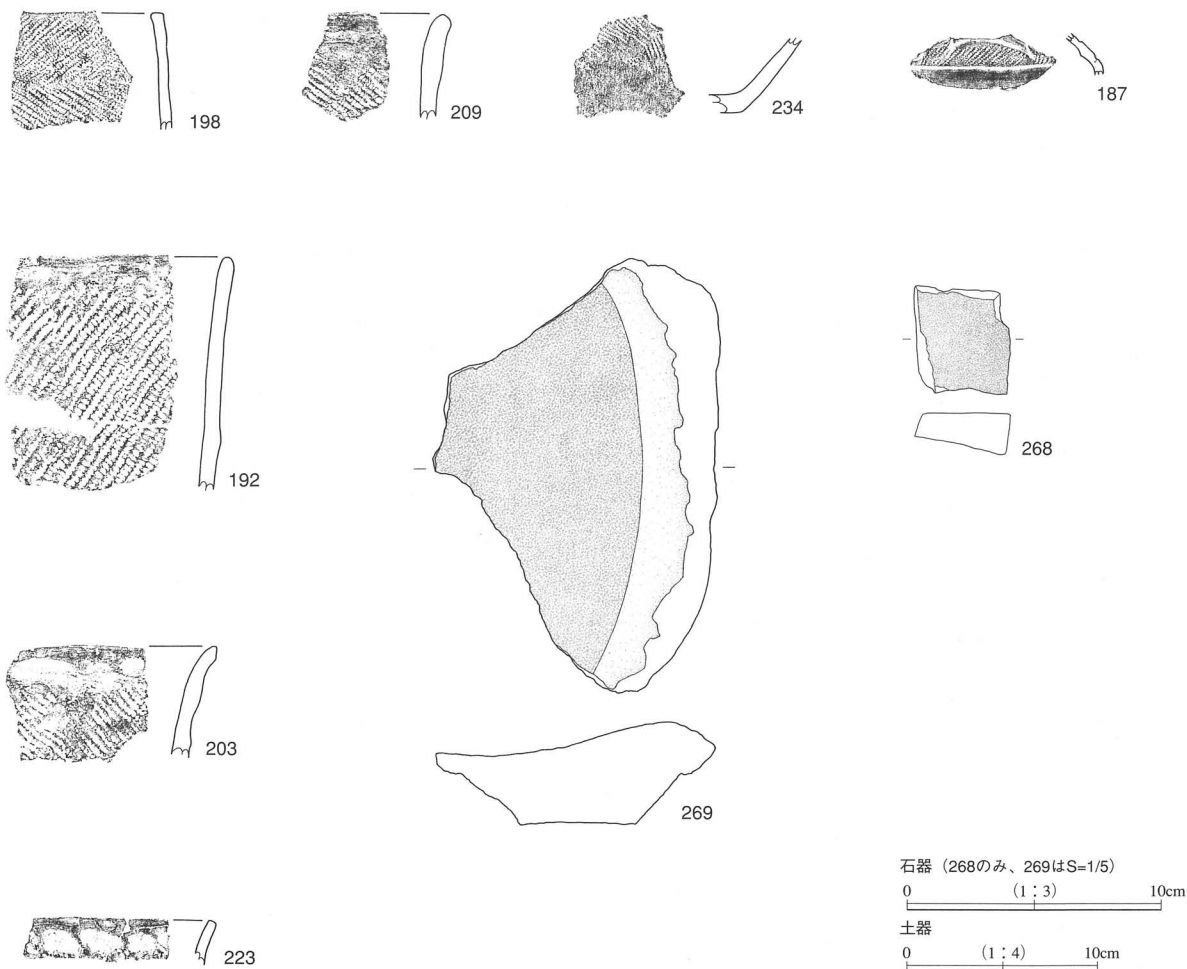


第37図 ブロック2出土遺物(1)



第38図 ブロック2出土遺物(2)

133・134は口縁部に縄文が施文され、その下に横位の沈線を巡らしている。さらにその直下は沈線により楕円状もしくは方形状の文様が横位に展開される。133のみ折り返し口縁である。131は側面圧痕が認められる。135・136は長形状の区画文があり、細い縦位隆帯貼付と沈線を組み合わせて施文している。137・138はボタン状の粘土粒を貼付けている。141・143は共に無文で細かな磨きを伴う。141は隆帯貼付けられ、118よりやや小形であるが同じⅨ類の器形を呈していると思われる。143は頸



第39図 ブロック3出土遺物

部に平行沈線を巡している。142は楕円形状が横位に展開するものと思われる。148～150は網目状撚糸が認められている。

包含層から出土した土器から後期のみを抽出した結果、馬立式の特徴に類似するものが多く認められることから一括してこのような扱いをした。当然これらの中には137や138のように異なる型式の土器が含まれていると思われるが、担当者の勉強不足と当該期の土器群が不明瞭であったためこのような体裁を採っている。

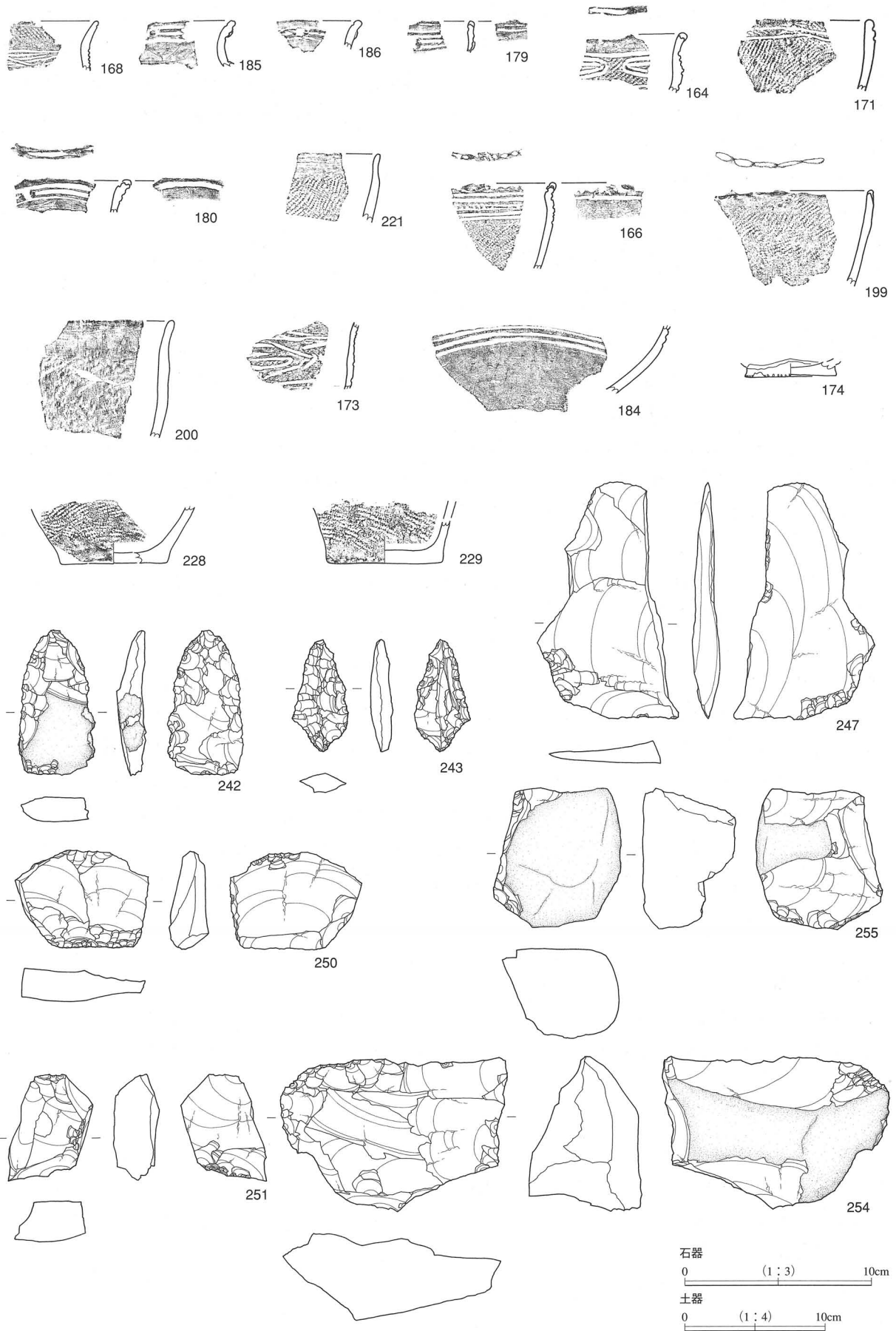
[Ⅰ～Ⅱ群] (151～160)

ブロック1・2から主に出土した深鉢である。深鉢Ⅰ類・Ⅱ類が主である。粗製であることからこのような時期を跨るような扱いをしている。159のように直立する口縁部が認められ、Ⅸ類も僅かに存在していることが窺える。

[Ⅲ群] (161～190)

94・95はⅠ層、他は全て遺物包含層であるⅡa・b層から出土した。

<大洞BC式>167は鉢Ⅰ類、161～163は鉢Ⅱ類、165・170は鉢Ⅳ類、175・176は台付鉢である。



第40図 ブロック4出土遺物

161・162・167は口縁部にC字状の沈線が施文される。163・170は口縁部に崩れた羊歯状文が2連山形突起と結合しながら施文される。165は口縁部に上下で対になる弧線文とその直下には2条の沈線がめぐる。175の口縁部はB字状突起を有する。肩部文様帯には羊歯状文が施文される。台部分は基部付近に沈線と刻みにより形成される粘土瘤が盛り上がったような意匠となる。これは176の台付鉢も同様の施文がなされている。

<大洞C1式>166・183は鉢、181・182は浅鉢、187は注口土器である。166は山形突起を含む波状口縁を成し、肩部には平行沈線の間に刻み目を有する。181～183・187にはそれぞれ部分的ではあるが磨消縄文によるX字文、またはK字文が施文される。

<大洞C2式>94は注口土器である。途中で貼り付けられた2個一対の粘土瘤を含む平行沈線が肩部に数条めぐっている。胴部は雲形文が施文されている。

<大洞A式>164・169・180は鉢、178は台付浅鉢である。169・180は共に工字文が施文される。164は2条の平行沈線が下方へ斜行しつつ工字文を形成するもので、大洞A式の中でも新段階と思われる。178は台の基部直下に平行沈線が数条めぐる。

<大洞A'式>168は鉢Ⅲ類、173は深鉢、179は浅鉢、185・186は壺である。179・185・186は変形工字文の施文された部分に2個一対の粘土瘤が貼り付けられる。173は矢羽状沈線文、もしくは波状工字文に近似する施文がなされる。168は頸部に細い数条の沈線が斜行し合い、煩雑な矢羽状沈線文が施文される。

<その他>171・172は鉢。171は口縁部に、172は胴部にそれぞれ簡素な平行沈線。184は浅鉢。体部下方に直線的な平行沈線を有する。

[Ⅳ群] (191～236)

基本的には粗製の深鉢である。上記のⅠ～Ⅲ群に含まれるものと思われる。時期区分が困難なことから本群に分類した。深鉢はⅣ・Ⅶ類が認められる。ここでは本群で扱っているものの時期が示唆できるものと文様が施文されているもののみまとめておく。

199・218は指頭圧痕による波状口縁と203・223は口縁部直下に指頭圧痕による凹列は、それぞれⅢ群の可能性はある。端部結節された縄文が施文されている201やなど口縁部が比厚で折り返し口縁気味な204・208・212・213・215などはⅡ群の可能性はある。205・214・215・224・225は沈線が横位に施文されている。

石 器

各ブロックから出土した石器を各出土層位ごと掲載し、器種ごとに報告する。先述したように土器と同様Ⅱa・b層を中心に出土しており、それ以外の層からの出土が僅かに認められる。

[石鏃] (242・243)

Ⅱ類が1点、Ⅲ類が1点出土している。石材は242が瑪瑙、243が頁岩である。両者共に剥離が中断していることから製作段階での失敗品である可能性がある。これらはブロック4から出土していることと使用石材がS I 04と同じであることから、竪穴住居の時期と同じ縄文時代晩期末葉に属するものと考えられる。

[石匙] (244)

1点出土している。基部側の左側縁に二次加工を施し、摘みが形成されていることから石匙として扱っている。刃部は基部に対して斜交している。

[篋状石器] (245)

1点出土している。側縁と両端に部分的に細かな調整が認められ、平面・断面形状から本石器としている。両面体を形成しているものの調整が全体に及んでいないことから、製作段階で廃棄されたと考えられる。

[スクレイパー類] (237・239・246・247・255・256)

I類5点、II類1点である。II類の先端部を作り出すような加工を施している246以外は、側縁もしくは末端に加工が施されている。二次加工の昨出方法は片面調整と両面調整がある。石材は頁岩が主体である。

[楔形石器] (248～253)

全器種の中で最も多く出土しており、調査区問わず認められている。すべてI類で、石材は頁岩が主体である。249・252・253は同一母岩である。

[不定形石器] (238・257・258)

剥片の一部に二次加工が施されているものである。石材は頁岩・珪質頁岩である。

[石核] (254・259)

4点出土している。254は剥片を素材とし、側縁に打面を設定し周回させながら剥離作業を行っている。259は打面転移を繰り返しながら剥離作業を行い、最終形態がサイコロ状を呈する。

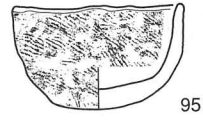
[磨製石斧] (240・260～262)

4点がII層を中心に出土している。I類が3点、II類が1点である。石材は蛇紋岩・粘板岩・閃緑岩である。I類は261以外はすべて欠損品である。II類は扁平の石材を用い端部に剥離を行うことで刃部を形成し、全体に研磨が施されている。

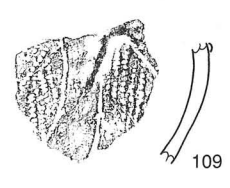
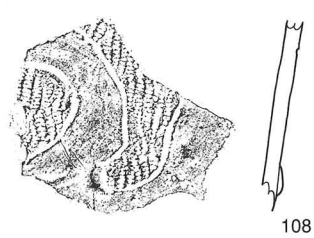
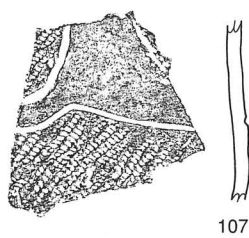
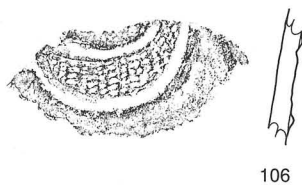
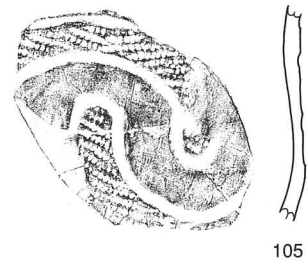
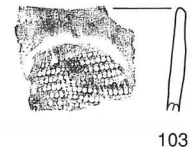
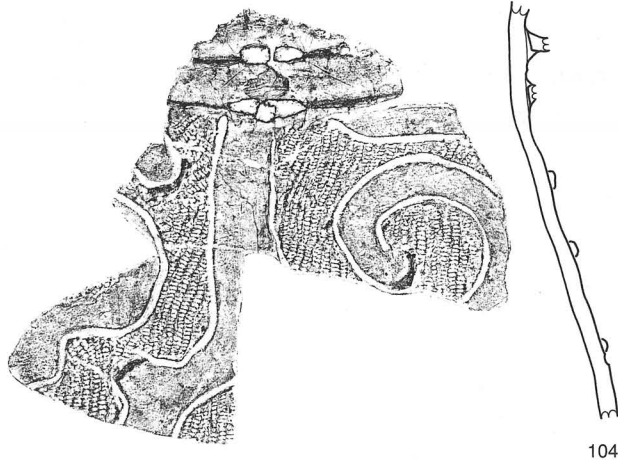
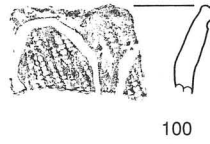
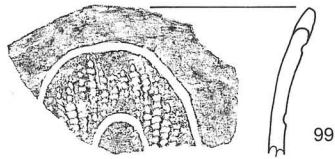
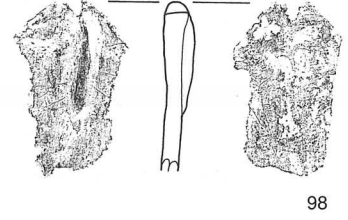
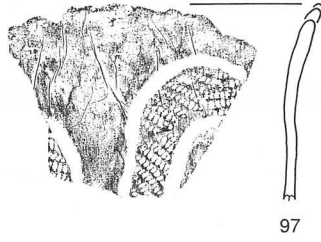
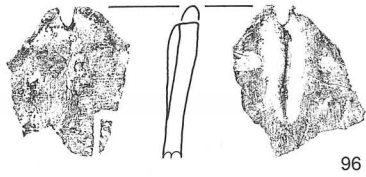
[礫石器] (241、263～276)

II層を中心に25点出土している。V・VI・VII類以外は全て認められ、I類が最も多い。石材は安山岩が主体である。263～266は円礫が用いられ、規模・形状共に類似している。267はXI類で末端に刃部を形成している。268は砥石である。先述したように形態から縄文時代のものとは考えられない。周辺に竪穴建物が存在することから流出してきたものと思われる。

I層

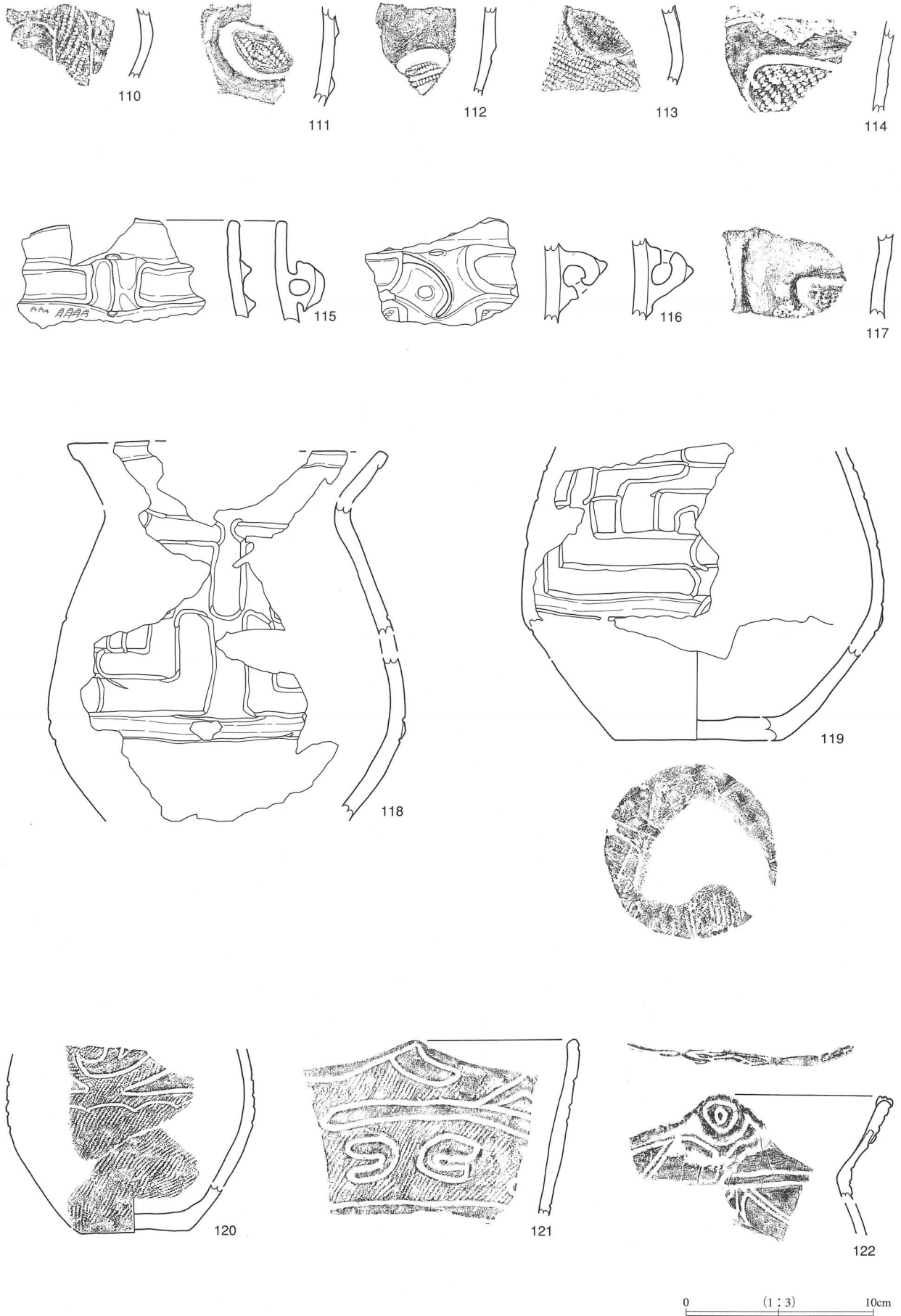


II層

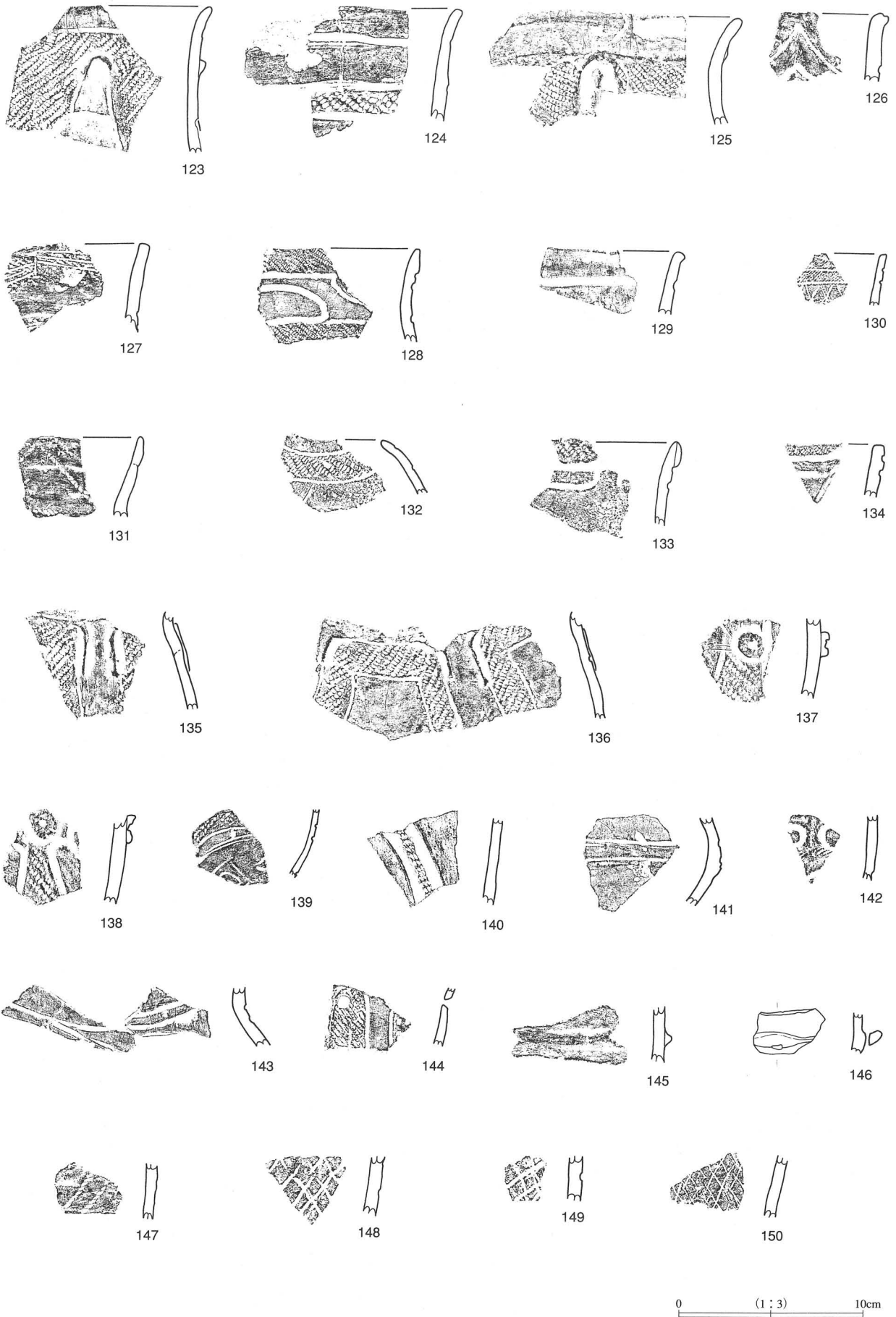


0 (1:3) 10cm

第41図 遺構外出土土器(1)



第42図 遺構外出土土器(2)



第43図 遺構外出土土器(3)



151



152



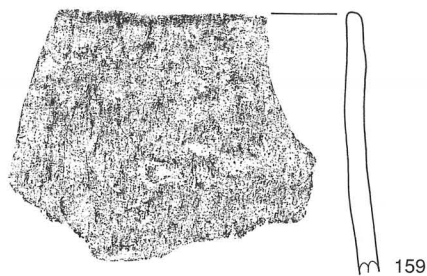
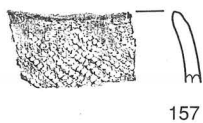
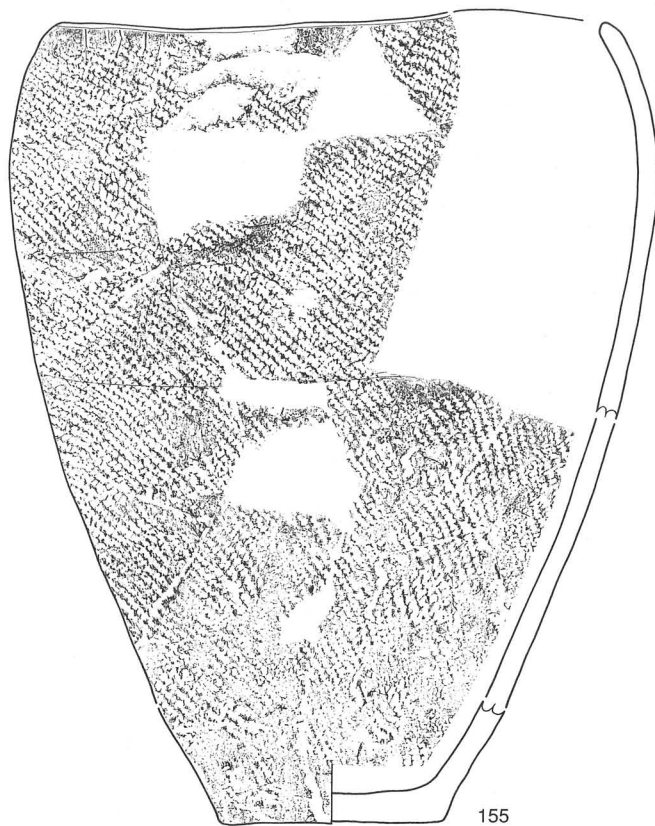
153



154

0 (1:3) 10cm

第44図 遺構外出土土器(4)



0 (1:3) 10cm

第45図 遺構外出土器(5)

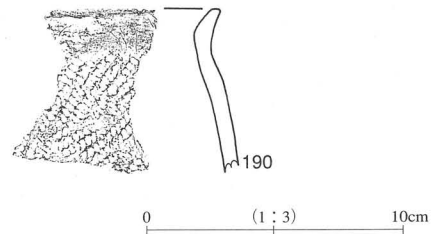
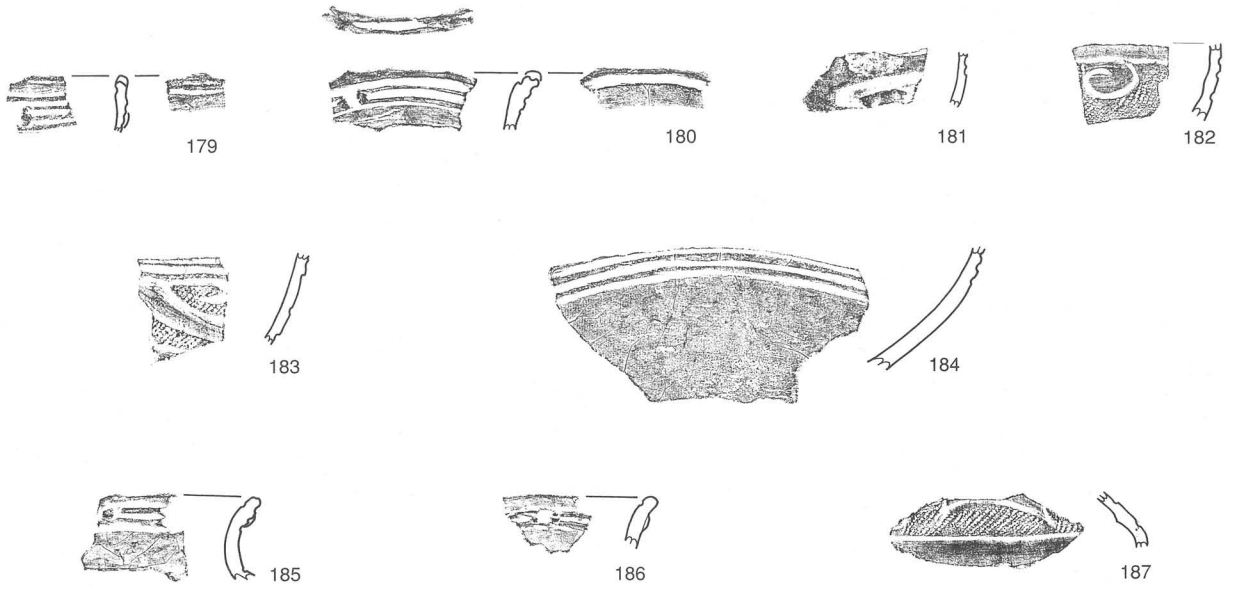


0 (1:3) 10cm

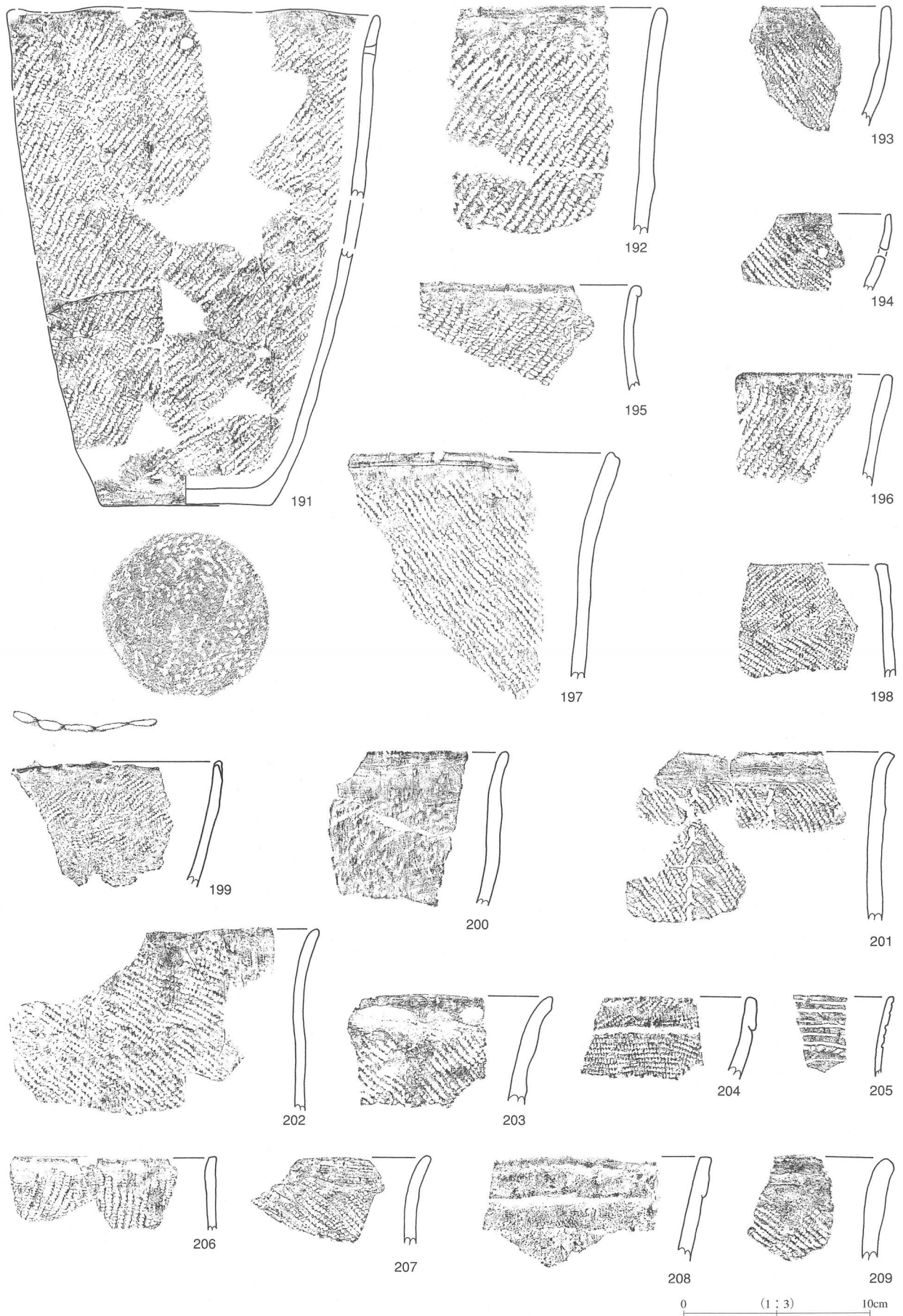
第46図 遺構外出土土器(6)



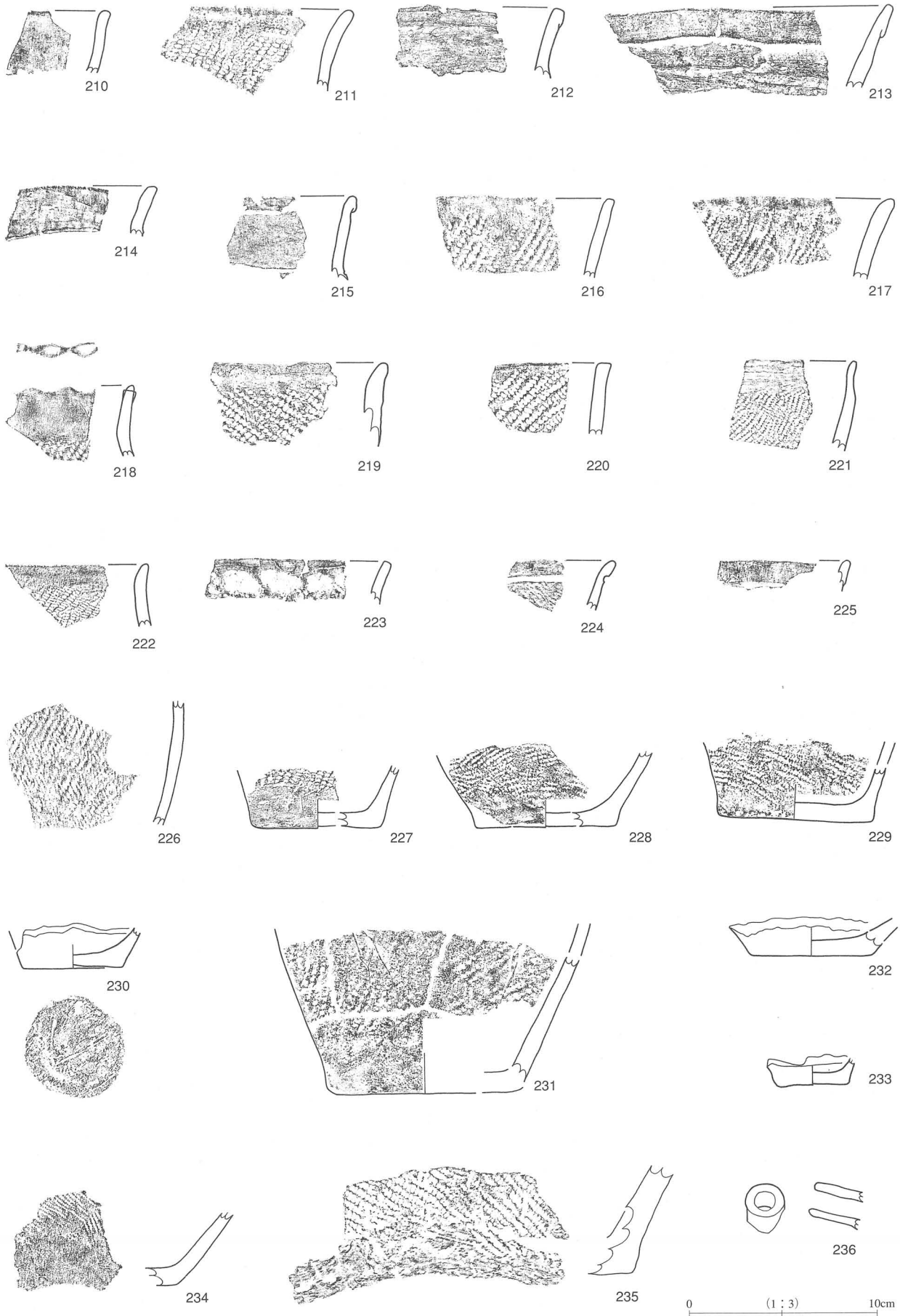
第47図 遺構外出土土器(7)



第48図 遺構外出土土器(8)

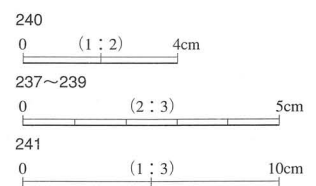
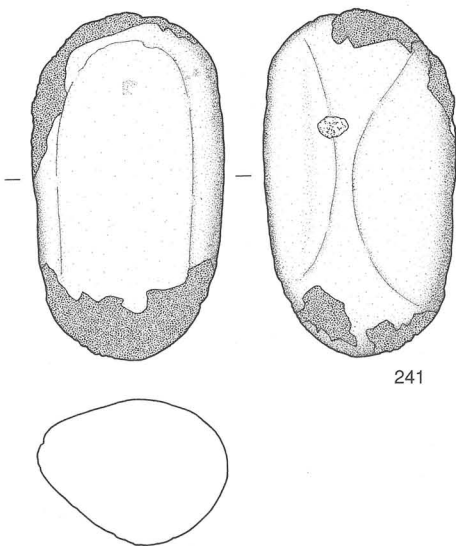
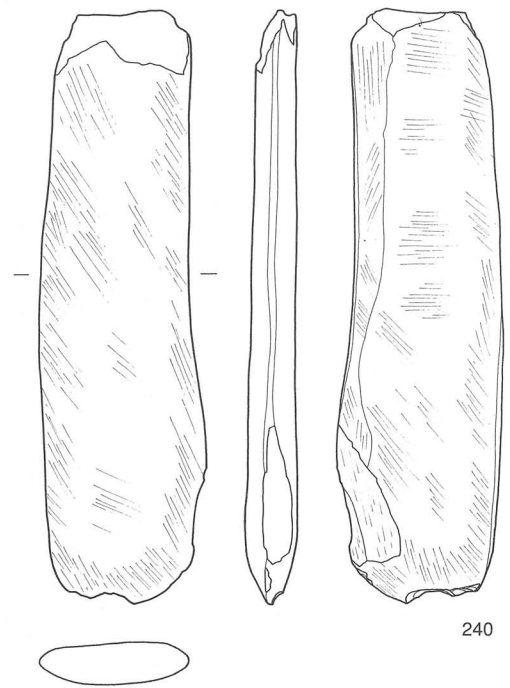
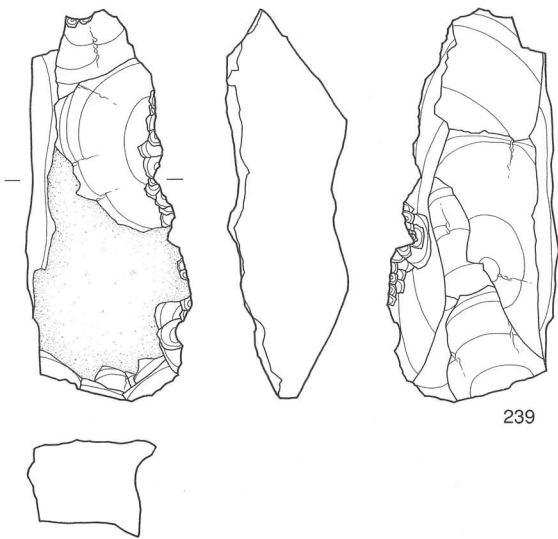
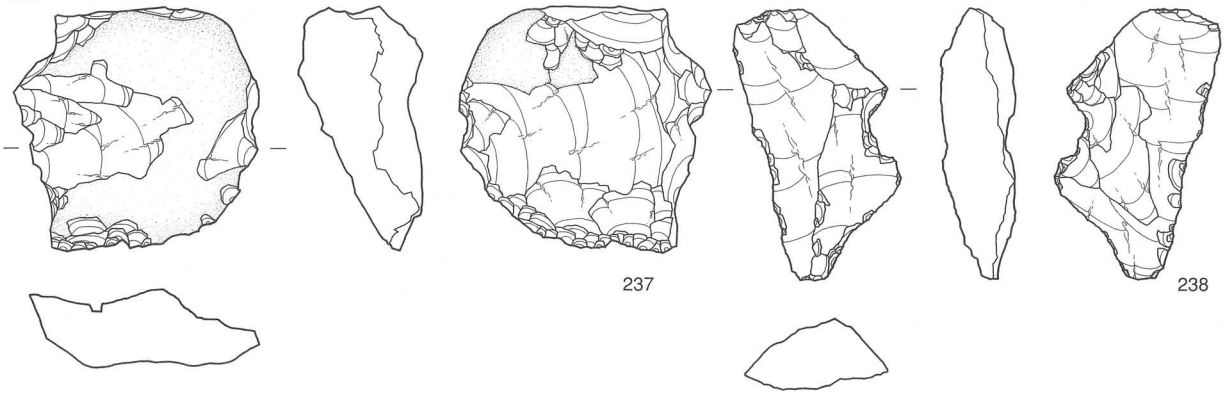


第49図 遺構外出土土器(9)



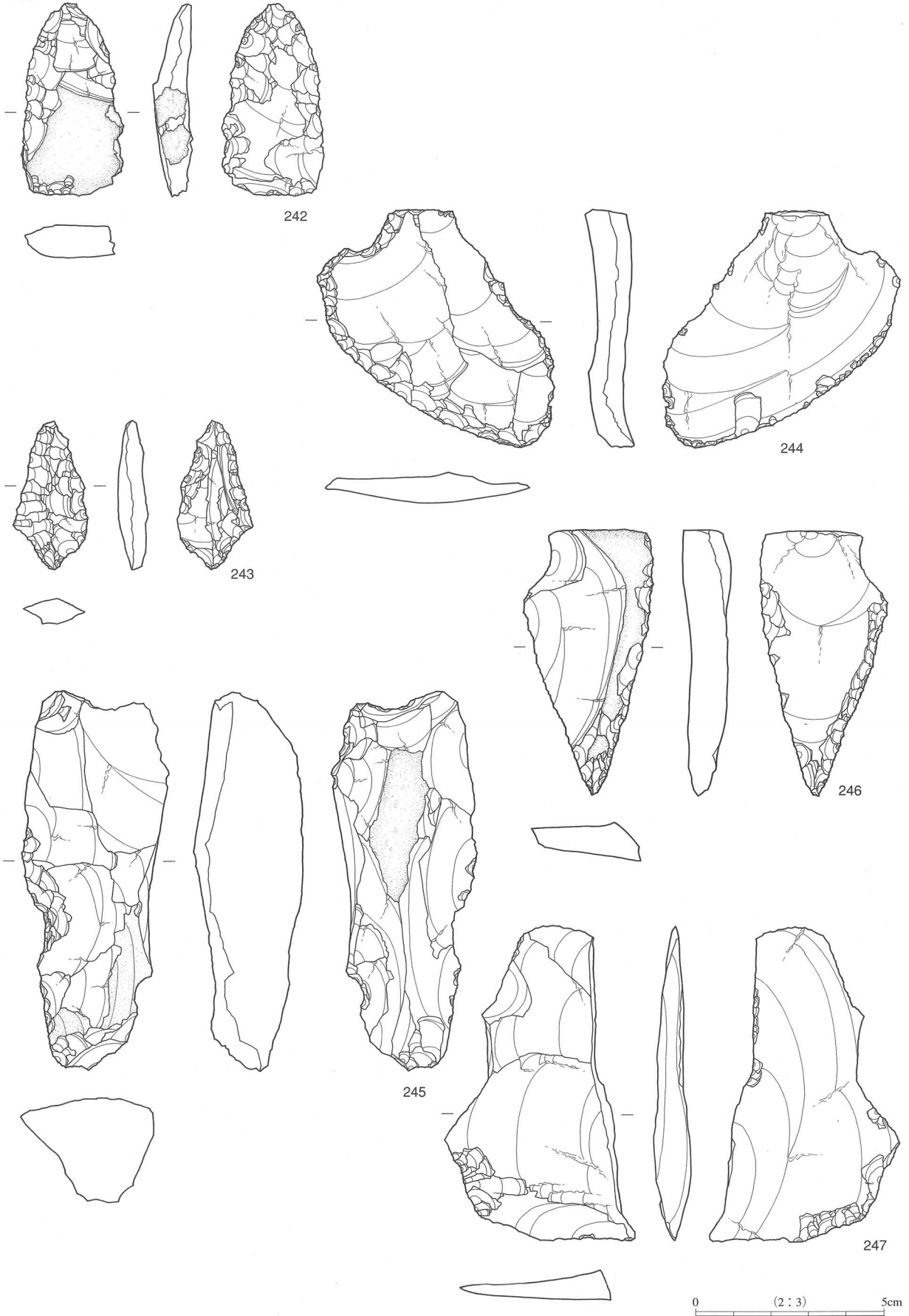
第50図 遺構外出土土器 (10)

I層

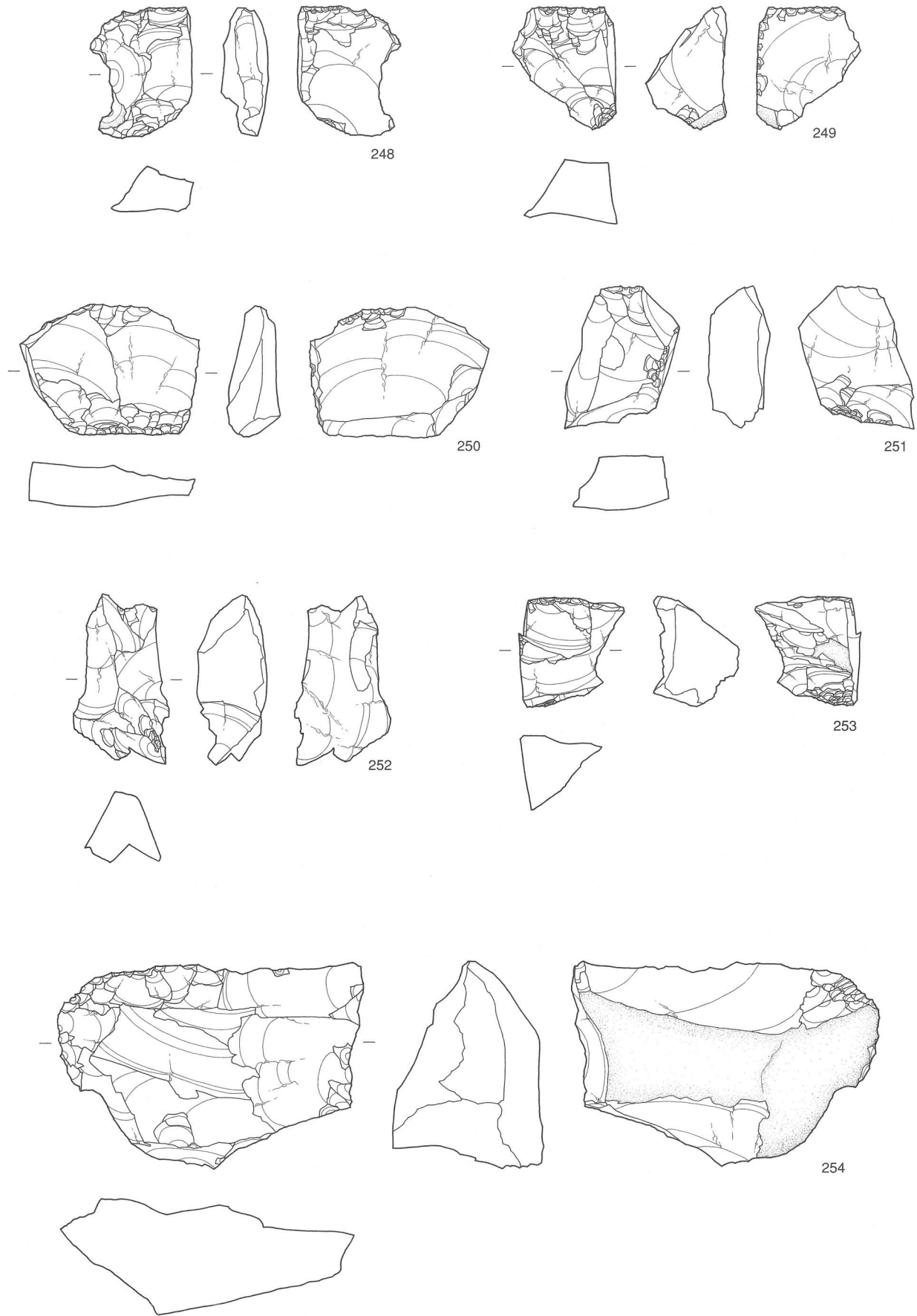


第51図 遺構外出土石器(1)

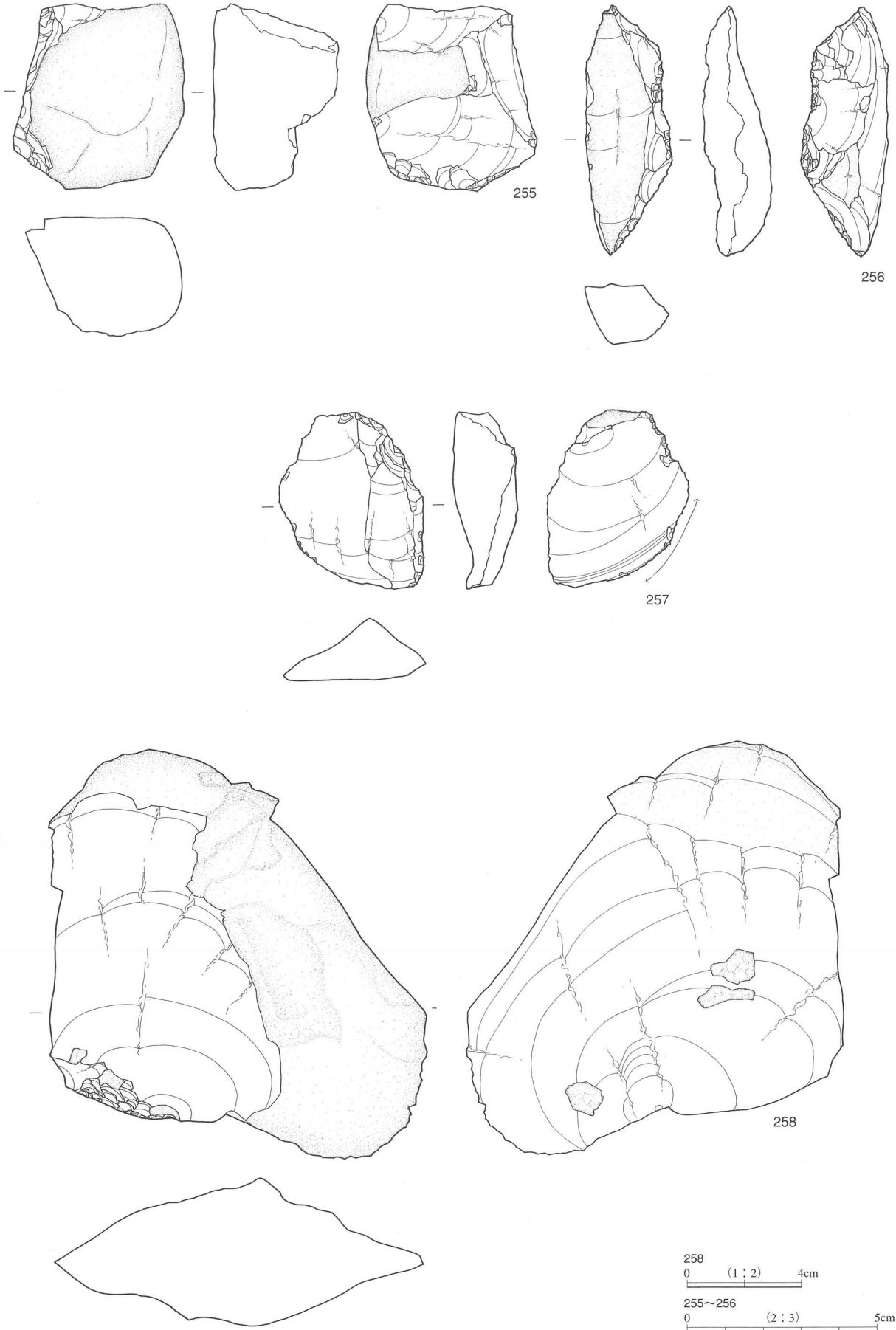
II層



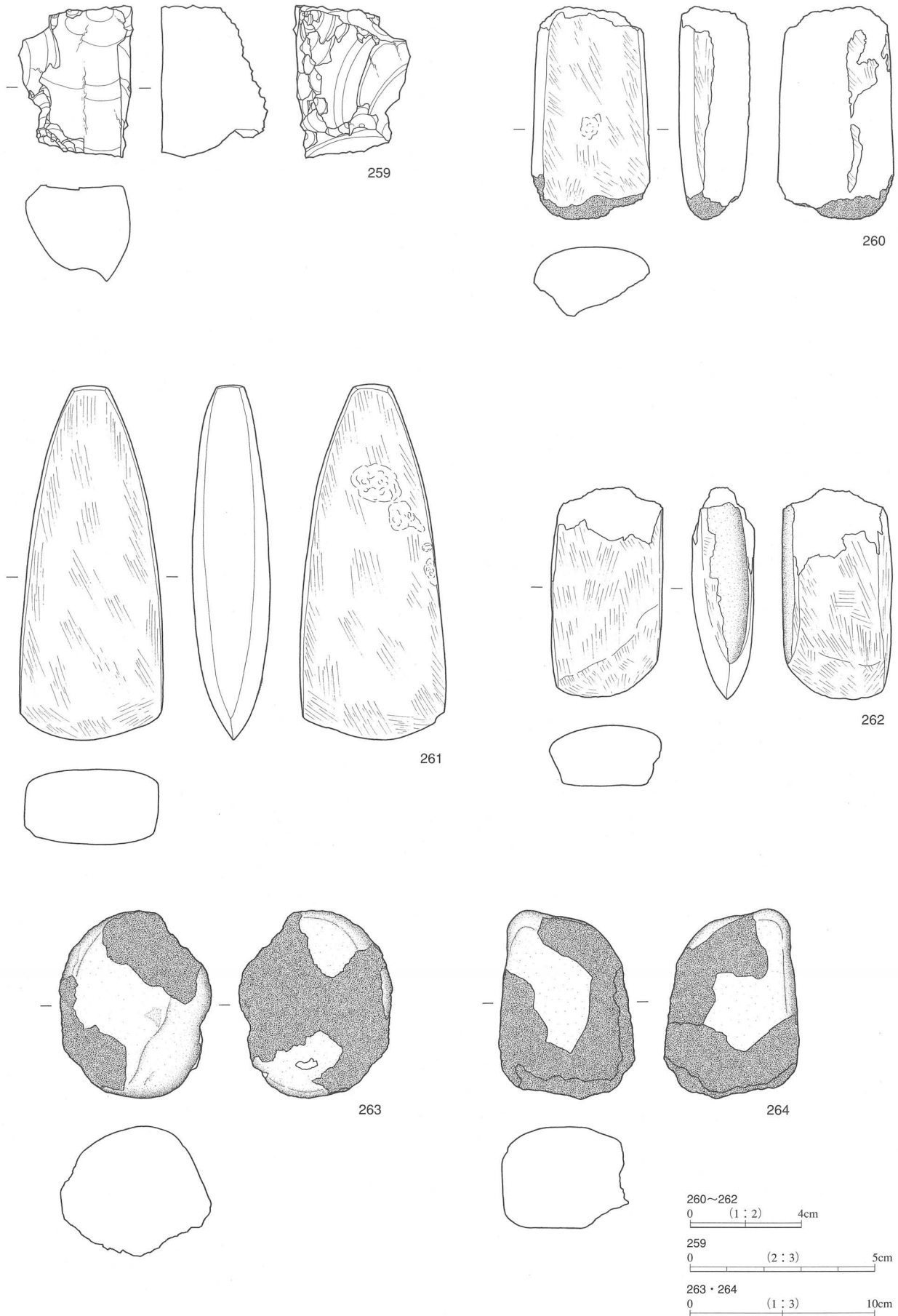
第52図 遺構外出土石器(2)



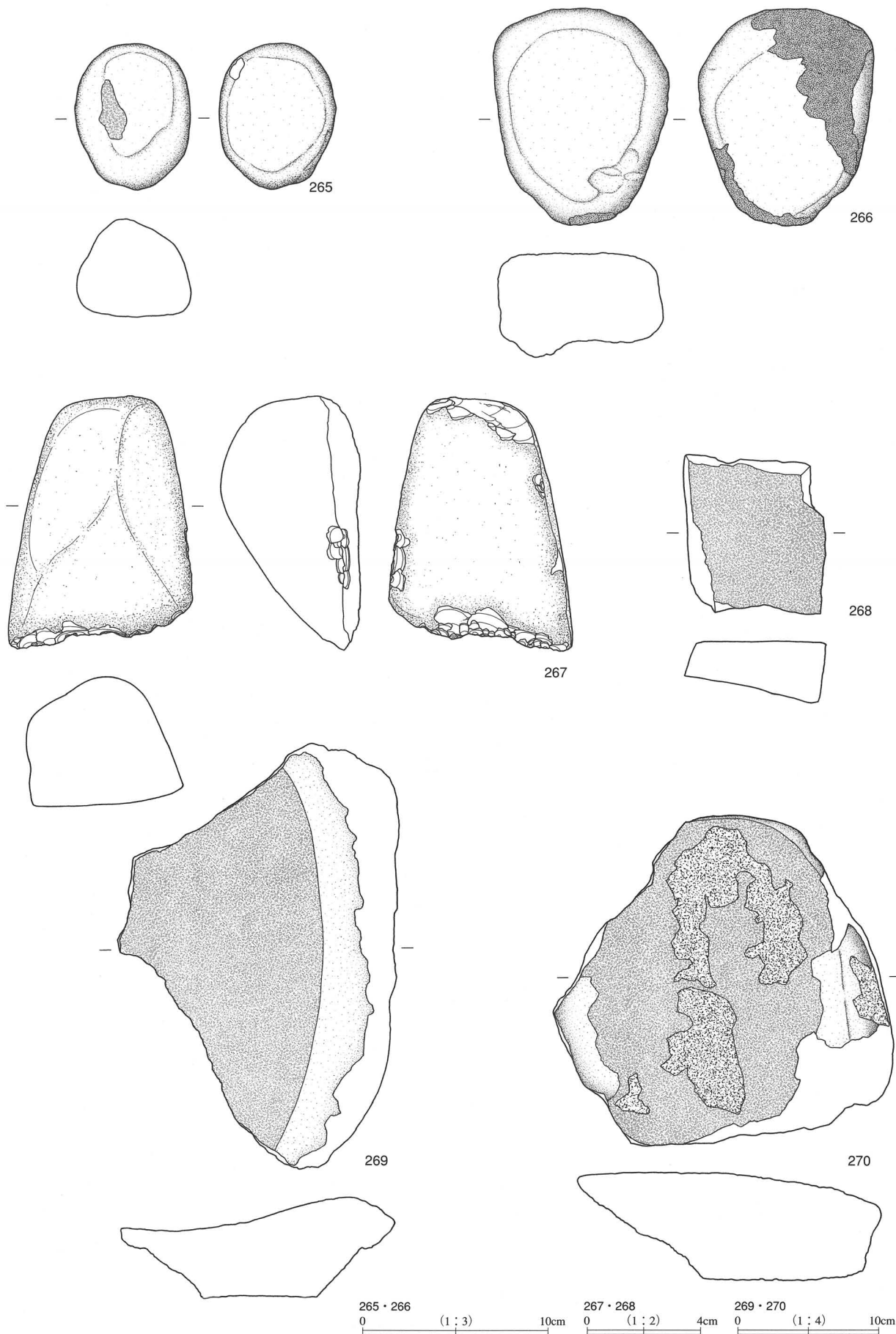
第53図 遺構外出土石器(3)



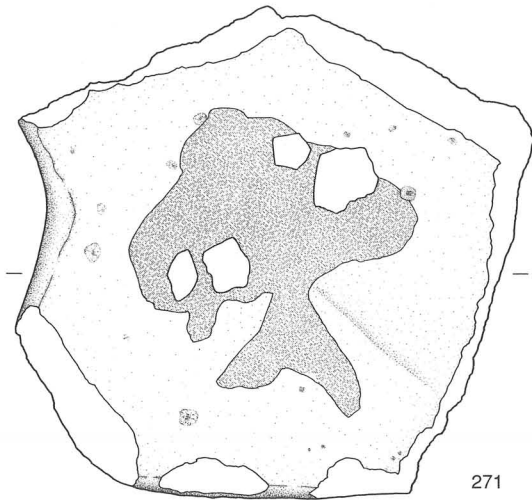
第54図 遺構外出土石器(4)



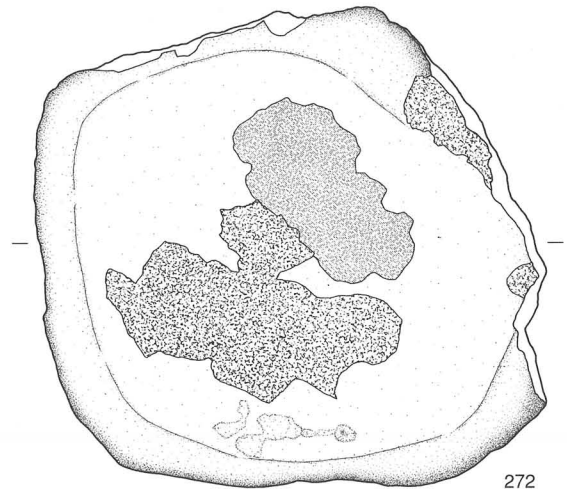
第55図 遺構外出土石器(5)



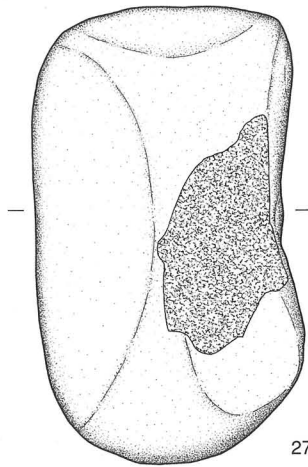
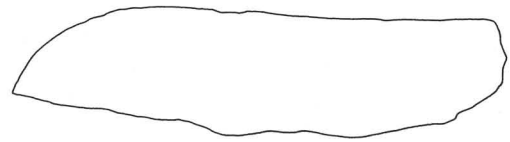
第56図 遺構外出土石器(6)



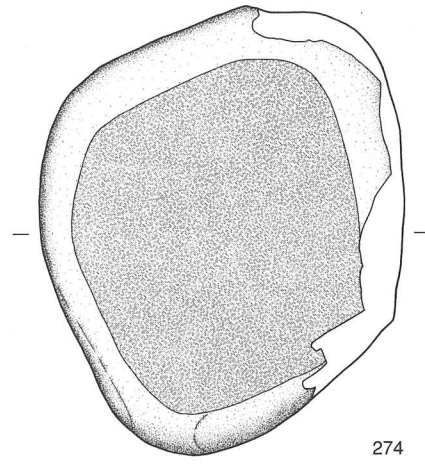
271



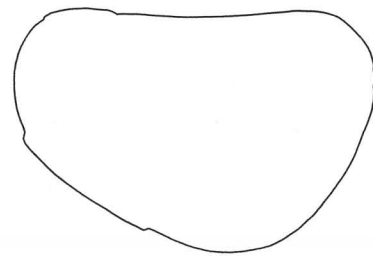
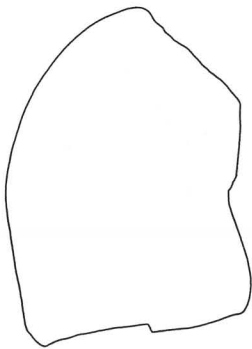
272



273

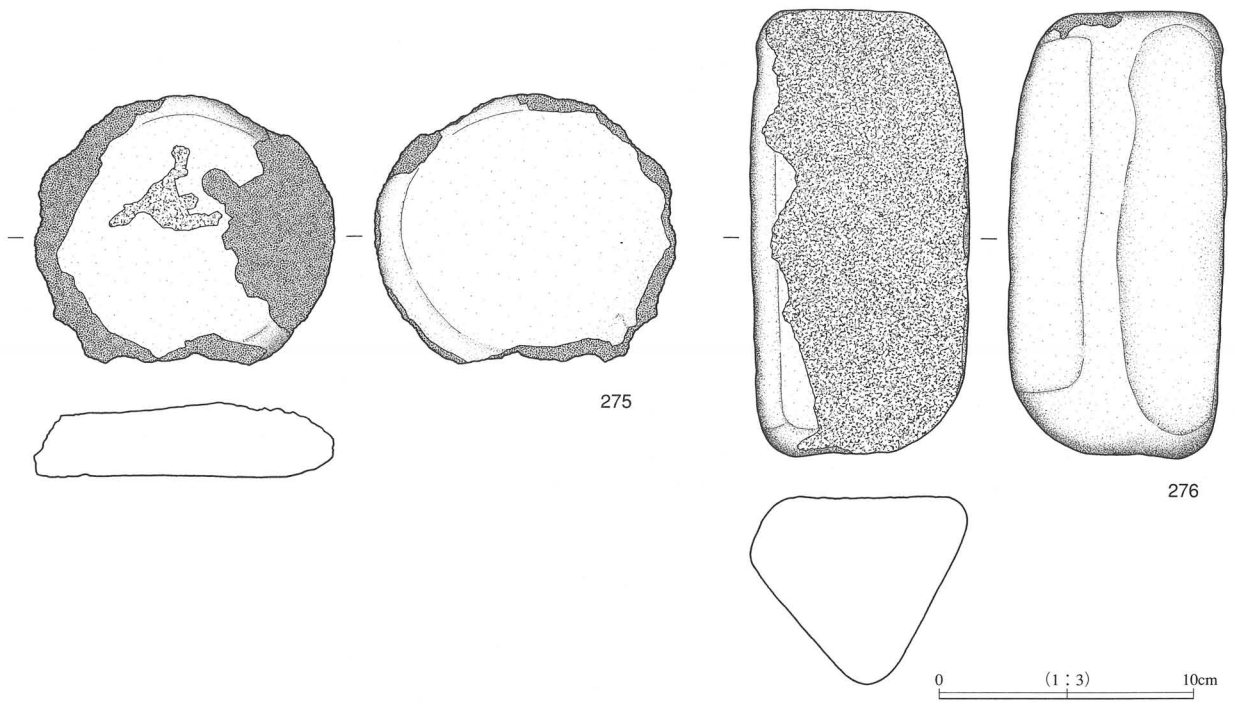


274



0 (1 : 4) 10cm

第57図 遺構外出土石器(7)



第58図 遺構外出土石器（8）

3 中世以降の遺構・遺物

中世以降の遺構及び時期不明の遺構は、調査区の中で散在している。中世と考えられる竪穴建物跡2棟、時期が特定できない土坑10基、柱穴28個ある。遺物は中世の可能性のある砥石以外は遺構内・外からも出土が認められない。

S I 05・06は重複して検出された。検出状況は以下の通りである。

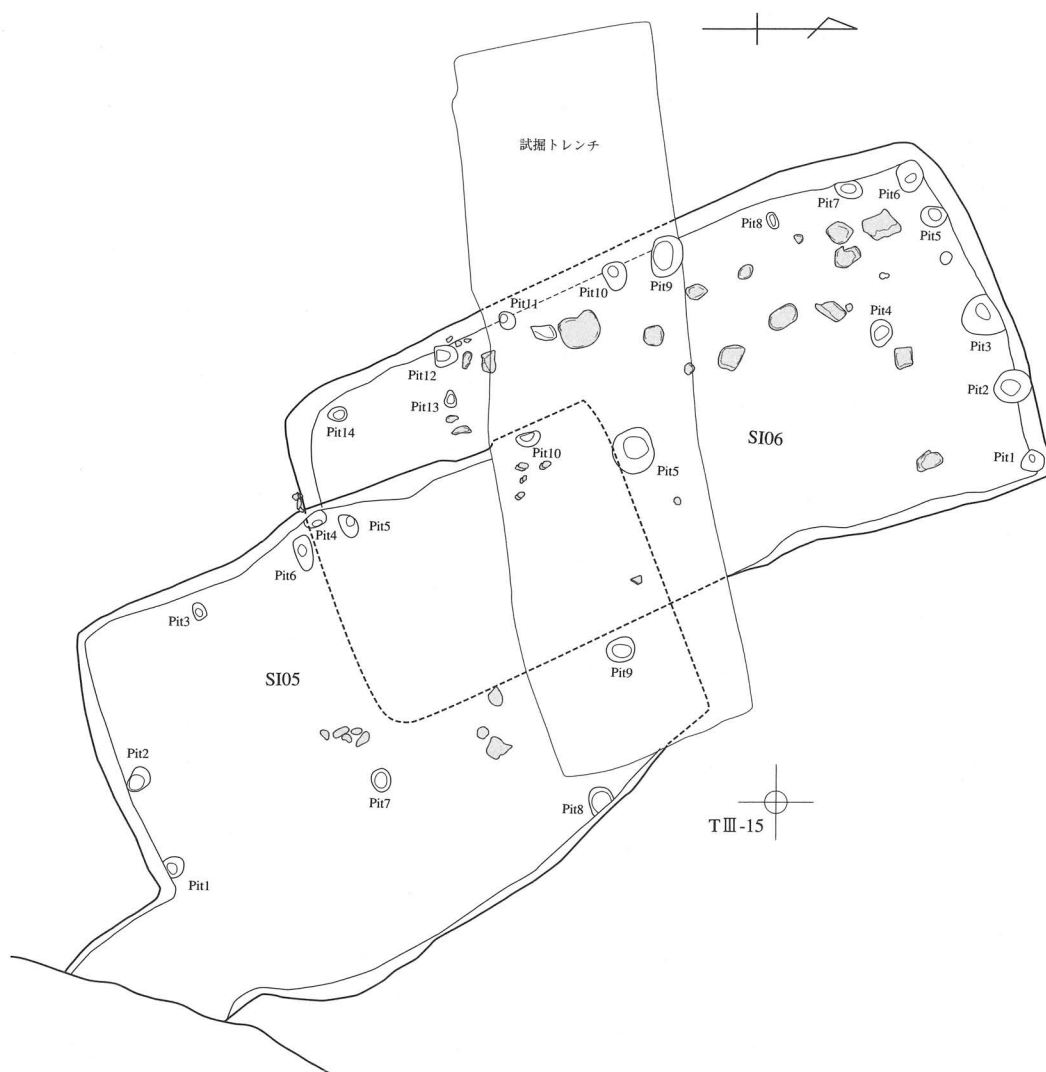
(1) 竪穴建物跡

S I 05

[位置・検出層位] TⅢ14・15・24・25グリッドに位置する。丘陵の先端部、比較的傾斜の緩やかな面に作られている。標高は約201mである。検出層位はⅡ層である。

[重複] S I 06と重複しており本遺構が新しい。

[軸線方向] N-23°-W。西壁を基準としており、軸線は等高線とほぼ平行している。



第59図 S I 05・S I 06

[平面形・規模] 平面形は長方形である。北壁は試掘トレンチにより削平されている。南東隅には方形形状と思われる張り出しが確認された。ただしこの張り出しは調査区外に延びていくため全容は不明である。確認できた規模は南北3.74×東西3.16mである。

[堆積土] 黒色土層を主体として7層に分層される。主体層位を基本層序では確認できていない。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がる。壁高は斜面上である西・南壁は16～32cm、斜面下である東壁は6cmである。床面はVI層上面まで掘り込まれ硬くしまり、ほぼ平坦である。

[柱穴] 柱穴10個を検出した。西壁沿いとそれに平行するように遺構の中央の合わせて2列が配置されている。柱穴の配置は、住居の平面形状とほぼ同じ長方形を呈する。柱間寸法は一定していない。

[出土遺物] 縄文土器7点が埋土上位から出土している。磨滅しているため図化していない。ブロック1からの流れ込みによるものと思われる。床面に礫が11点確認されたがすべて自然礫である。

[遺構の性格] S I 06とは異なり性格を示すものが認められなかったことから、本遺構の性格は不明である。

[所属時期] 遺構の平面形状と周辺遺跡の成果から中世に属する。

S I 06

[位置・検出層位] TⅢ3・4・13・14グリッドに位置する。S I 05と同様の立地条件と検出層位である。

[重複] S I 05と重複しており本遺構が古い。

[軸線方向] N-23°-W。西壁を基準としており、軸線方向はS I 05と同じである。

[平面形・規模] 平面形は長方形である。本遺構はS I 05と重複し、試掘トレンチにより削平されているため全容は不明である。おそらくS I 05と同様の平面形であったものと思われる。規模は南北4.99×東西2.54mである。

[堆積土] 黒褐色土層と主体として6層に分層される。主体層位を基本層序では確認できていない。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がる。壁高は斜面上である北・西壁は30～36cm、斜面下である東壁の壁高は14cmと他の壁に比べ低い。床面はVI層上面まで掘り込まれ硬くしまり、ほぼ平坦である。西壁付近の床面に西壁に沿って大きな礫が直線上に配置されていた。

[柱穴] 柱穴15個を検出した。東壁・西壁に沿って配置されている。平面形は円形、開口部径は12～30cm、深さはPit15以外はほぼ同じである。柱間寸法は一定していない。

[出土遺物] 土器7点、石器2点が出土している。石器のみを図化しており、他の遺物と同様、ブロック1からの流れ込みによるものと思われる。91は92と93の接合資料である。接合資料の背裏面は上下左右の方向から剥離作業が認められることから、頻繁に打面転移を繰り返していることが窺える。92と93は両者共に不定形石器である。

柱穴の内側、壁と平行して礫が一行に配置され、礫の半数は被熱している。

[遺構の性格] 床面において焼土は確認されなかったものの、配置されている礫の中に被熱しているものも窺えたことから、S I 05とは異なる性格が考えられる。

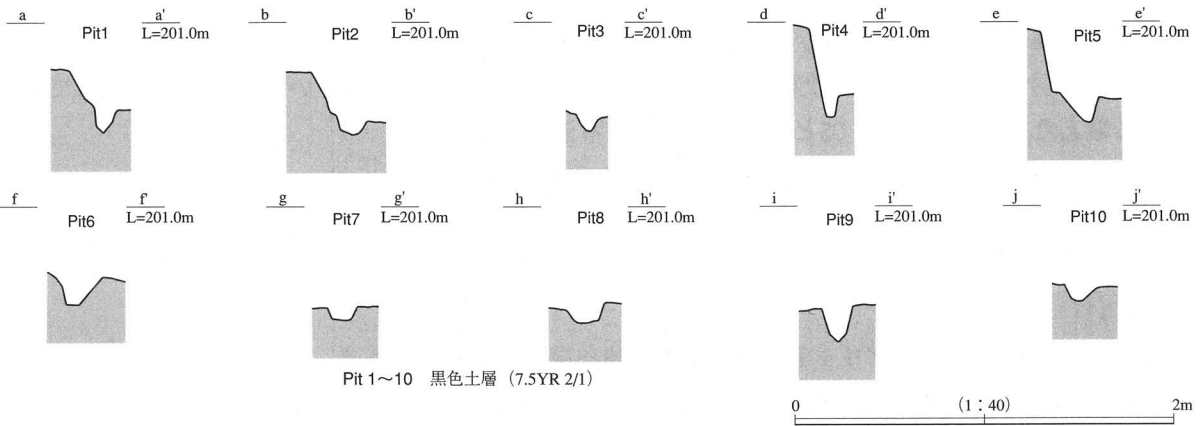
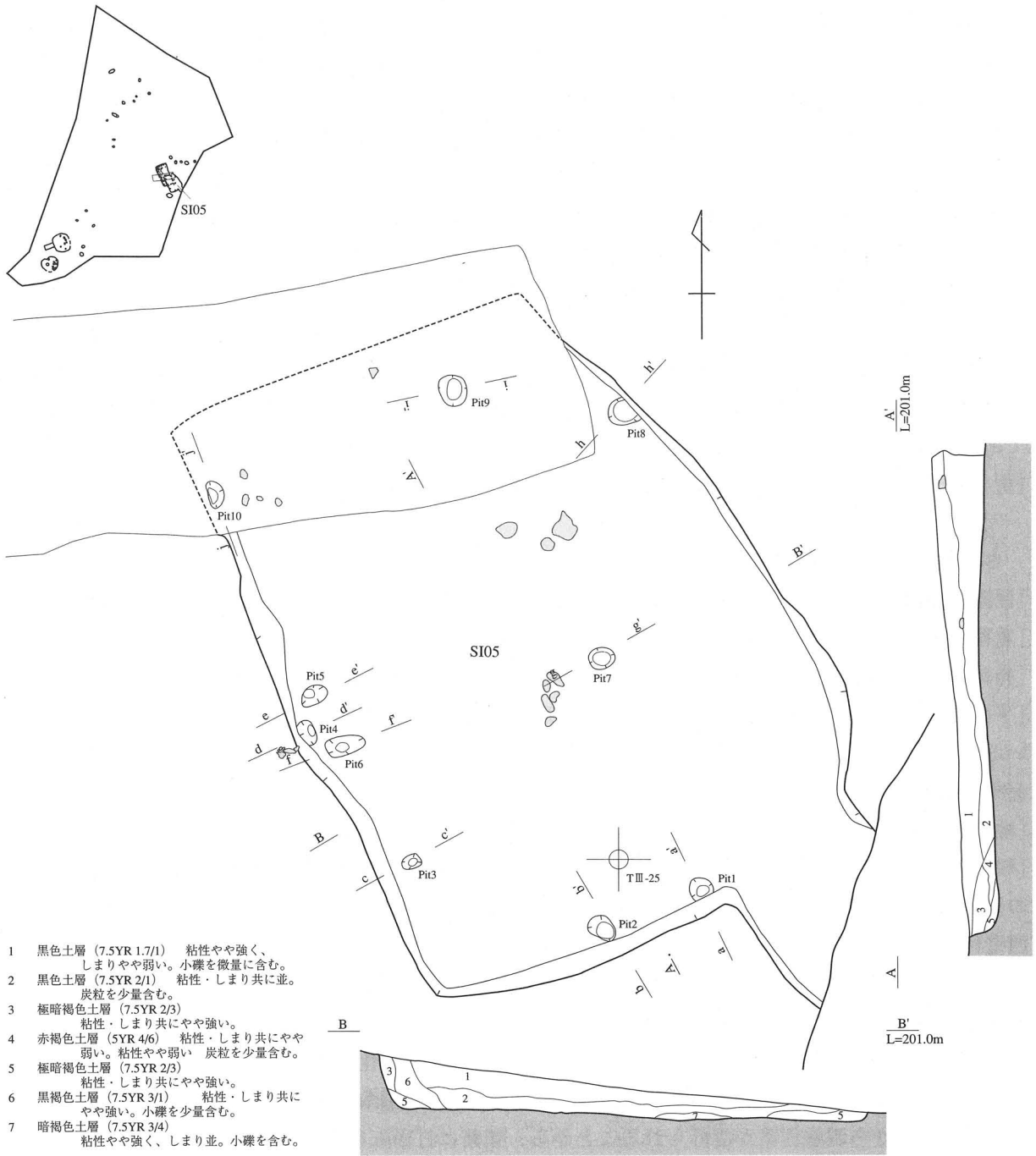
[所属時期] 遺構の平面形状と周辺遺跡の成果から中世に属する。

(2) 土 坑

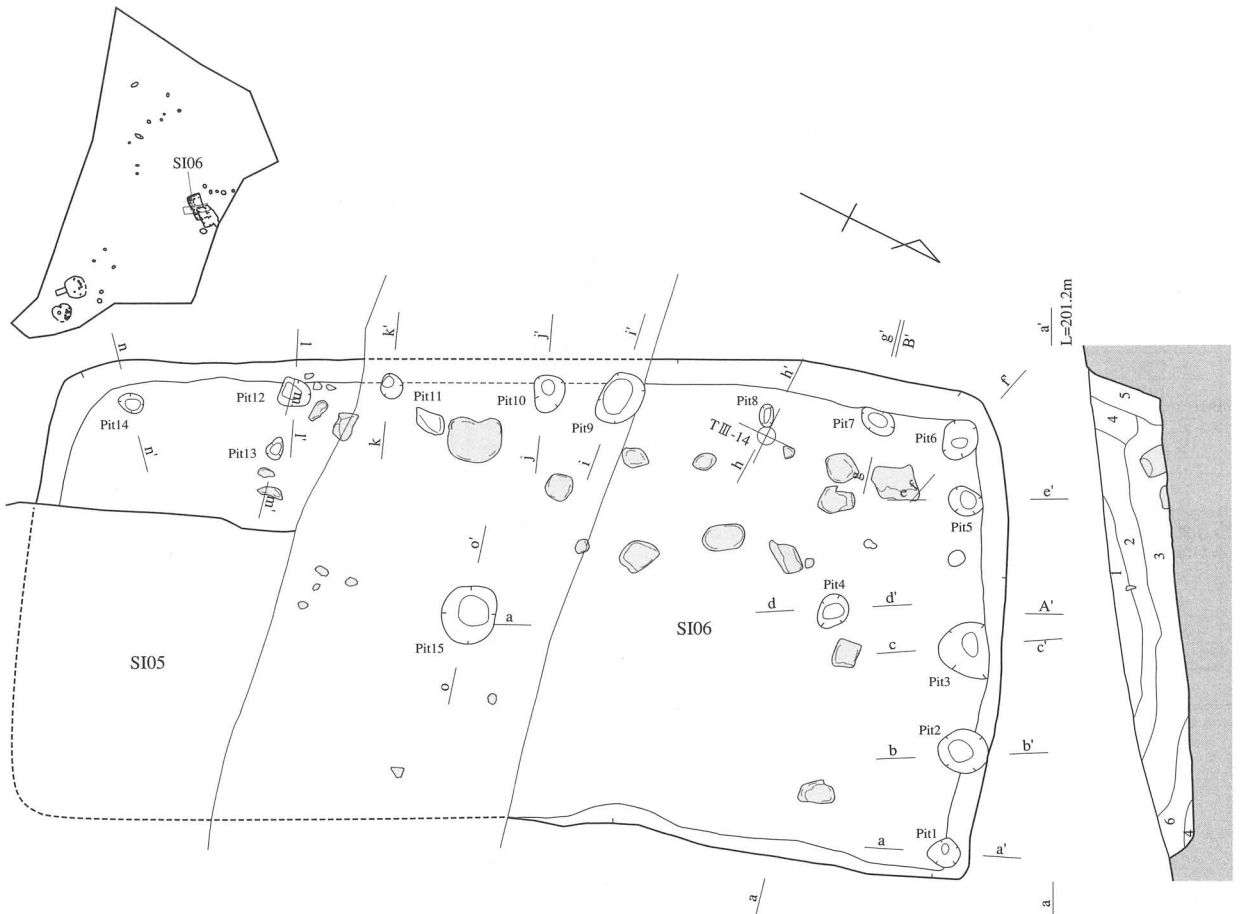
SK11

[位置・検出層位] TⅢ05グリッドに位置する。検出層位はII層中である。

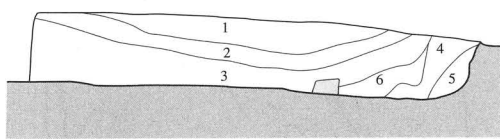
[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は92×54cm、深さは16cmである。



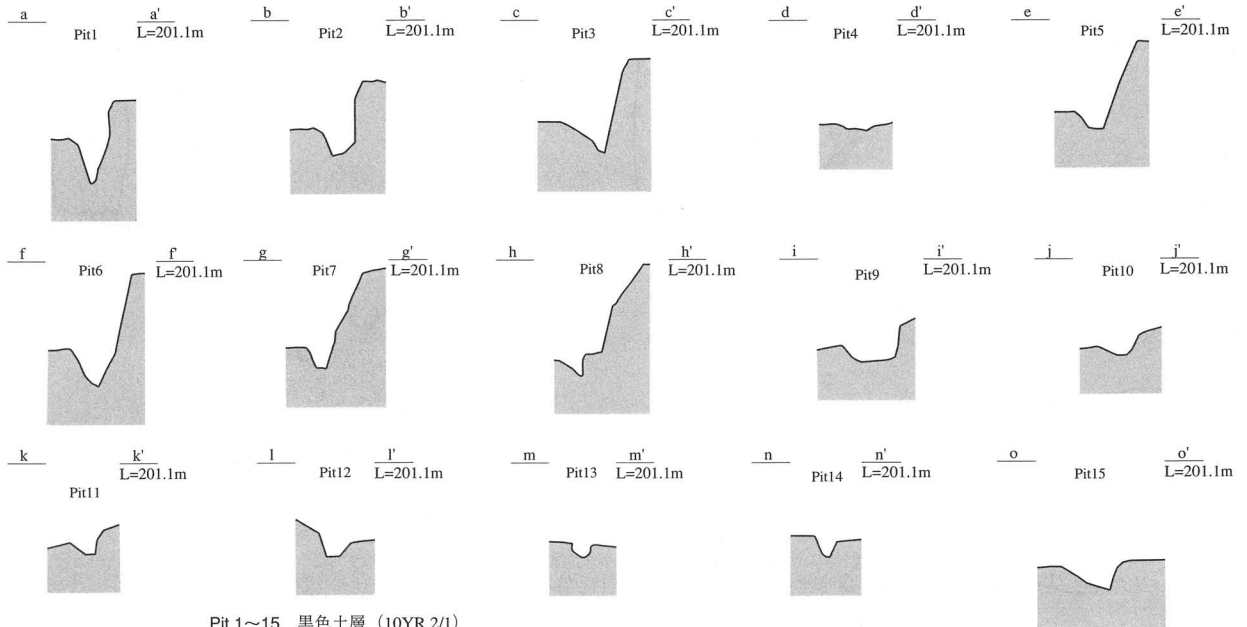
第60図 S I 05



A A' L=201.1m



- SI06
- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 1 黑色土層 (10YR2/1) | 粘性やや強く、しまりやや弱い。地山ブロックを多く含む。 |
| 2 黑色土層 (10YR1.7/1) | 粘性並、しまりやや弱い。1層より混入物は減る。 |
| 3 黒褐色土層 (10YR2/2) | 粘性・しまり共に並。 |
| 4 黒褐色土層 (10YR3/2) | 粘性やや弱く、しまり弱い。 |
| 5 黒褐色土層 (10YR2/2) | 粘性・しまり共にやや弱い。地山崩落土。 |
| 6 黒褐色土層 (10YR3/1) | 粘性やや弱く、しまり弱い。地山崩落土をやや多く含む。 |



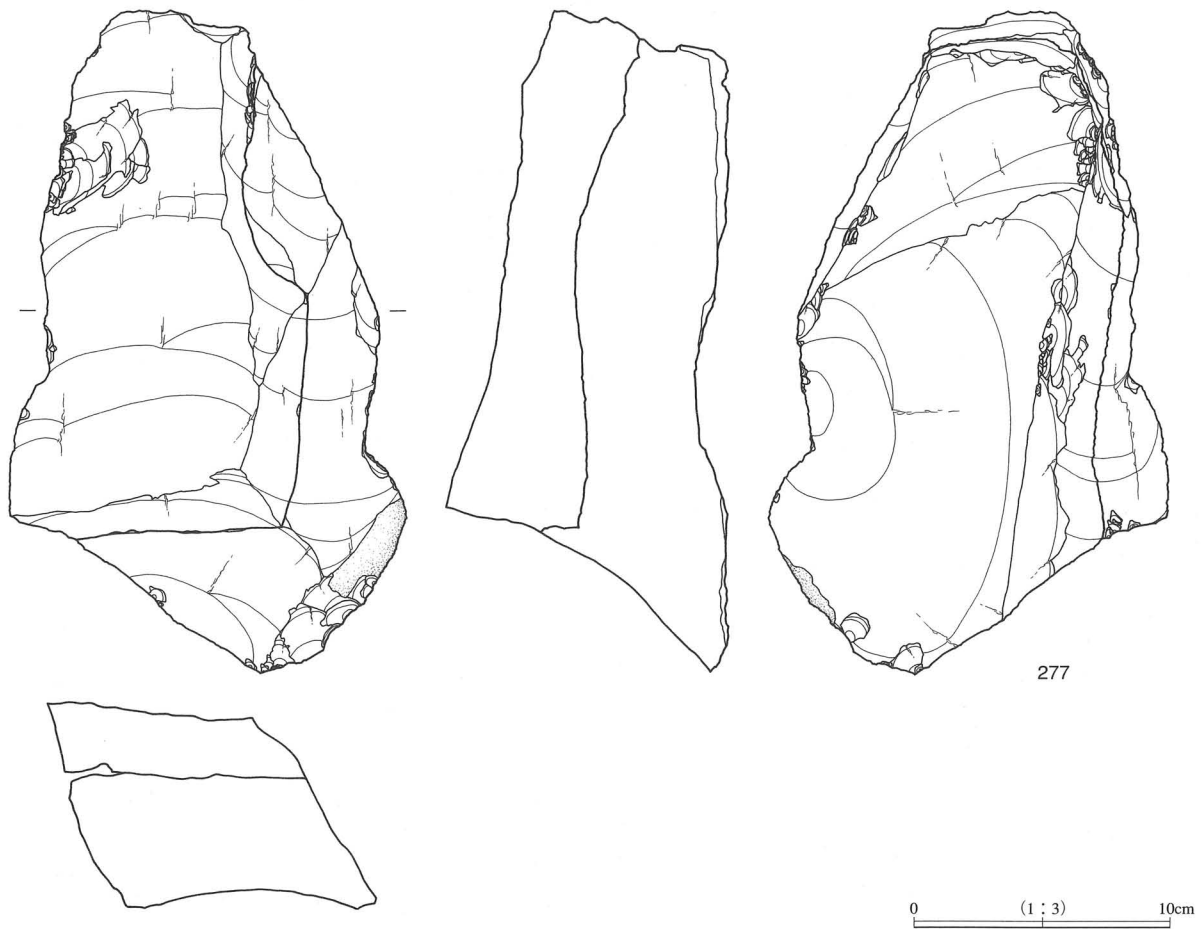
Pit 1~15 黑色土層 (10YR 2/1)

0 (1:40) 2m

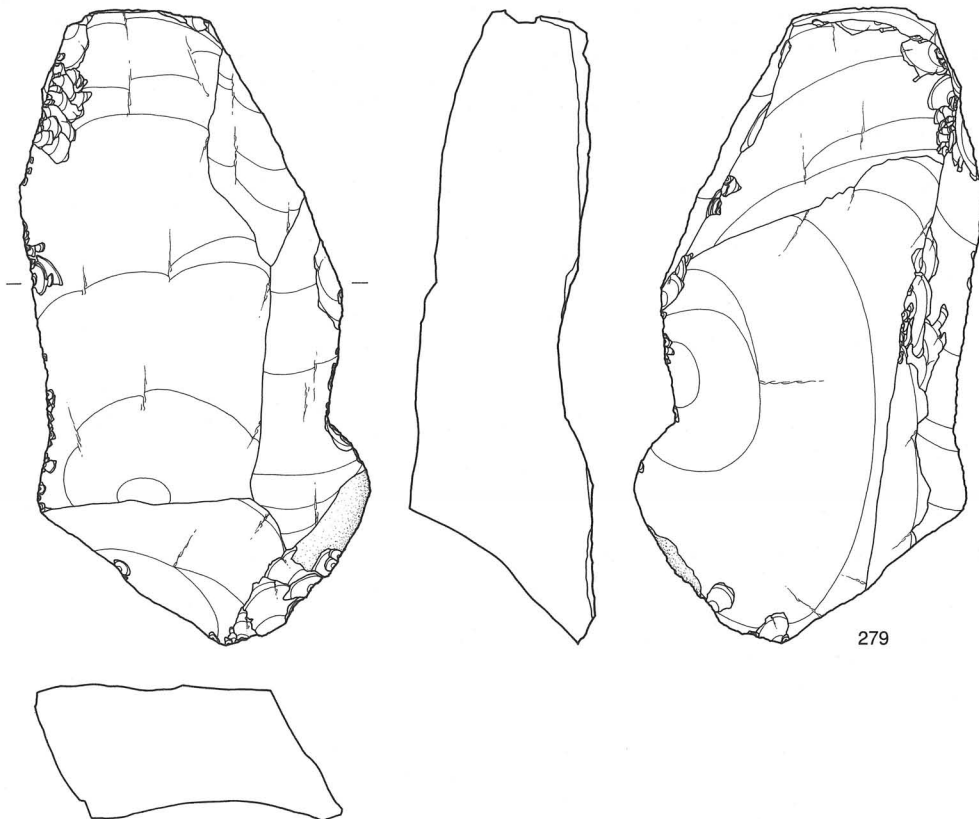
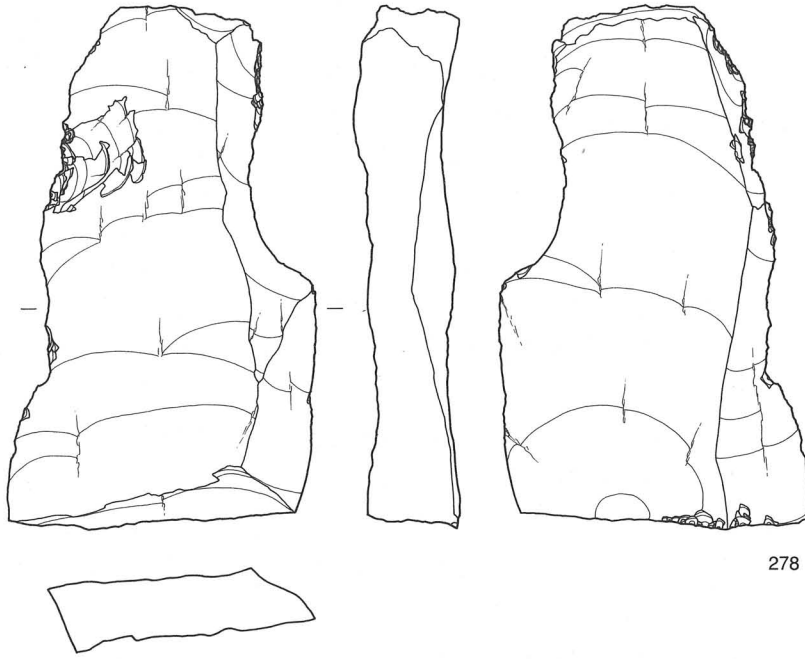
第61図 SI06

第10表 S I 06出土礫観察表

出土地点	出土層位	器種	重さ(g)	石材	産地(生成時期)	備考	遺物No
S I 06	床直	不定形	2,400.0	頁岩	奥羽山脈(新生代新第三紀)		93
S I 06	床直	不定形	1,003.0	頁岩	奥羽山脈(新生代新第三紀)		92
S I 06	埋土	石核	367.0	チャート	北上山地(中生代三疊紀~ジュラ紀)		396
S I 06	埋土	礫石器Ⅶ	378.0	安山岩	奥羽山脈(新生代)		397
S I 06	埋土	礫石器Ⅶ	601.0	安山岩	奥羽山脈(新生代)		398
S I 06	床直	石核	55.3	凝灰岩	奥羽山脈(新生代新第三紀)		399
S I 06	床直	礫石器Ⅱ?	7,000.0	砂岩	奥羽山脈(新生代新第三期)	被熱有り	400
S I 06	床直		451.0	チャート	北上山地(中生代三疊紀~ジュラ紀)		401
S I 06	床直		511.5	デイサイト	奥羽山脈(新生代新第三期)	被熱有り	402
S I 06	床直		686.6	砂岩	奥羽山脈(新生代新第三期)	被熱有り	403
S I 06	床直		837.7	安山岩	奥羽山脈(新生代)		404
S I 06	床直		1,531.9	チャート	北上山地(中生代三疊紀~ジュラ紀)		405
S I 06	床直		1,631.3	安山岩	奥羽山脈(新生代)	被熱有り	406
S I 06	床直		2,300.0	花崗閃緑岩	北上山地(中生代白亜紀)	被熱有り	407
S I 06	床直		2,600.0	安山岩	奥羽山脈(新生代)		408
S I 06	床直		2,700.0	砂岩	奥羽山脈(新生代新第三期)	被熱有り	409
S I 06	床直		3,500.0	安山岩	奥羽山脈(新生代)	被熱有り	410
S I 06	床直		5,500.0	安山岩	奥羽山脈(新生代)		411
S I 06	床直		6,000.0	砂岩	奥羽山脈(新生代新第三期)	被熱有り	412
S I 06	床直		6,200.0	チャート	北上山地(中生代三疊紀~ジュラ紀)	被熱有り	413
S I 06	床直		7,500.0	チャート	北上山地(中生代三疊紀~ジュラ紀)		414
S I 06	床直		7,500.0	砂岩	奥羽山脈(新生代新第三期)	被熱有り	415
S I 06	床直		12,300.0	チャート	北上山地(中生代三疊紀~ジュラ紀)		416



第62図 S I 06出土遺物(1)



0 (1:3) 10cm

第63図 S I 06出土遺物(2)

[堆積土] 黒色土主体で4層に分層される。

[壁・床面] 壁は外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

[出土遺物] 土器が2点出土している。磨滅しているため図化していない。

[所属時期] 不明。

SK12

[位置・検出層位] 調査区北側のRIV84グリッド、標高187.7mの北に面した斜面に位置する。検出層位はⅡ層である。西側上端は生涯学習文化課の試掘トレンチ、北東部分は攪乱と精査時の不備によりそれぞれ削平されている。

[平面形・規模] 平面形は不整楕円形である。規模は1.88×1.00m、深さは72cmである。

[堆積土] 黒褐色土を主体とする5層に分層される。なお、1層には十和田aテフラを含んでいる。なだらかなレンズ状堆積が見られることから自然堆積と思われる。

[壁・底面] 壁は外傾して立ち上がる。底面は南側に傾斜を持った平坦面である。

[出土遺物] なし。

[所属時期] 堆積土の状況から平安時代以前に属すると思われるが詳細は不明。

SK13

[位置・検出層位] 調査区北側のRIV74・75・84・85グリッド、標高187.4mの北に面した斜面に位置する。検出層位はⅡ層である。攪乱により北側部分が削平されている。

[平面形・規模] 平面形は不整楕円形である。規模は116×96cm、深さは30cmである。

[堆積土] 極暗褐色土を主体とする2層に分層される。

[壁・底面] 平坦な底面から壁は外傾して立ち上がる。壁、及び底面は共にしまりが強い。

[出土遺物] なし。

[所属時期] 不明。

SK14

[位置・検出層位] 調査区北側のRIV94グリッド、標高187.9mの北に面した斜面に位置する。検出層位はⅡ層である。北西側の一部は生涯学習文化課の試掘トレンチ、南東側と底面の一部は精査時の不備によってそれぞれ削平されている。

[平面形・規模] 平面形は不整楕円形である。規模は180×112cm、深さは42cmである。

[堆積土] 暗褐色土を主体とする3層に分層される。3層には炭化粒が少量含まれる。

[壁・底面] 平坦な底面から壁は外傾して立ち上がる。

[出土遺物] なし。

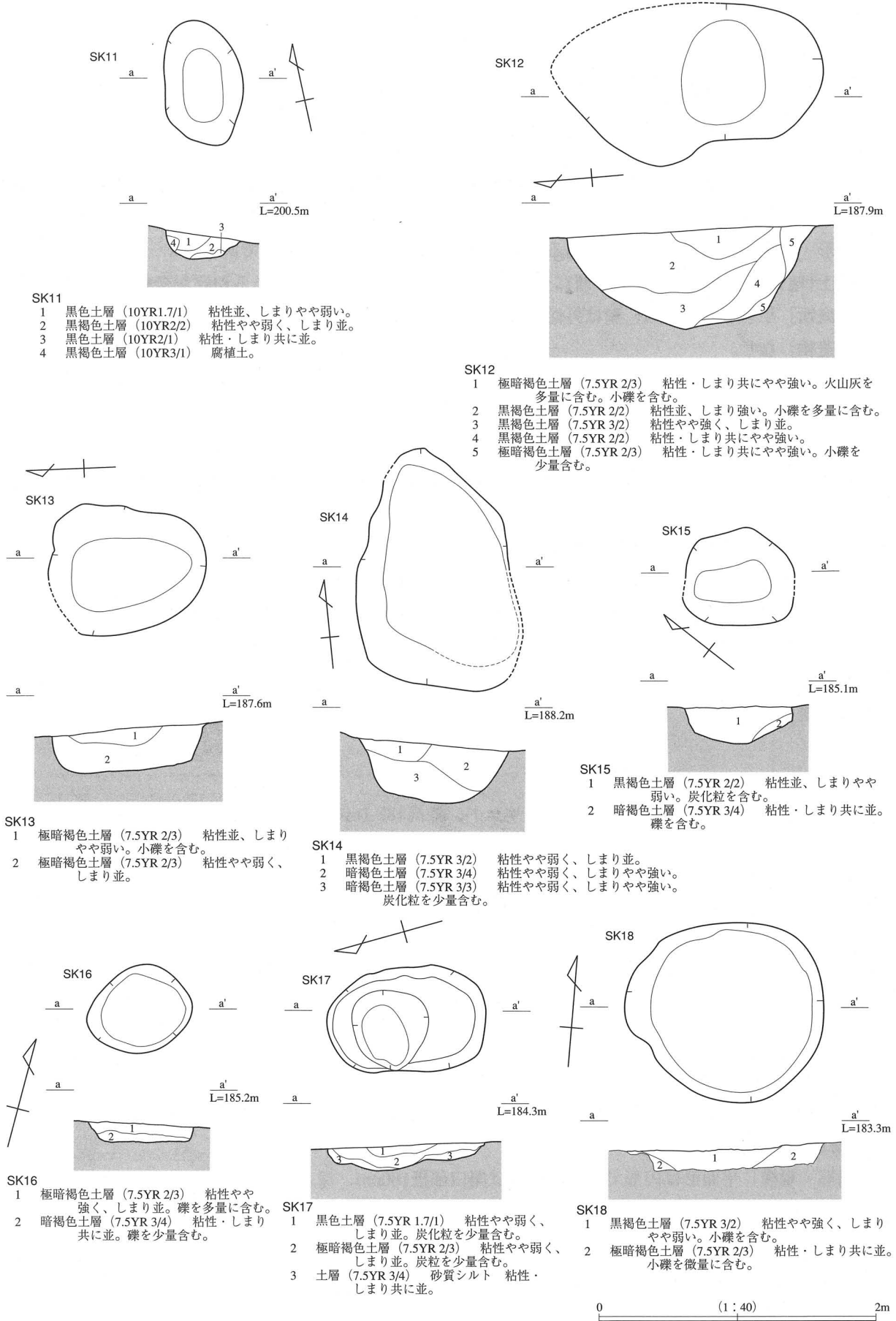
[所属時期] 不明。

SK15

[位置・検出層位] 調査区北側のRIV26グリッド、標高184.9mの北に面した斜面に位置する。検出層位はⅢ層である。

[平面形・規模] 平面形は不整楕円形である。規模は84×76cm、深さは26cmである。

[堆積土] Ⅱ層相当と思われる黒褐色土を主体とした2層に分層される。炭化粒が全体的に含まれる。



第64図 SK11~18

[壁・底面] 底面は中心に向かい播鉢状に落ち込む。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[所属時期] 不明。

S K 16

[位置・検出層位] 調査区北側のRⅣ28・38グリッド、標高185.0mの北に面した斜面に位置する。検出層位はⅢ層である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は76×64cm、深さは14cmである。

[堆積土] 暗褐色土を主体とする2層に分層される。上下で程度の違いはあるが礫が全体的に含まれる。

[壁・底面] 平坦な底面から、壁は外傾して立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[所属時期] 不明。

S K 17

[位置・検出層位] 調査区北側のQⅣ89グリッド、標高184.0mの北に面した斜面に位置する。検出層位はⅢ層である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。規模は116×76cm、深さは16cmである。

[堆積土] 暗褐色土を主体とする3層に分層される。全体的に炭化粒が疎らに含まれる。

[壁・底面] 概ね平坦な底面であるが、中心からやや北側では皿状の緩やかな落ち込みを持つ。壁は外傾して立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[所属時期] 不明。

S K 18

[位置・検出層位] 調査区北側のQⅣ69グリッド、標高183.1mの北に面した斜面に位置する。検出層位はⅢ層である。

[平面形・規模] 平面形は円形である。規模は開口部径137cm、深さは14cmである。

[堆積土] Ⅱ層相当と思われる黒褐色土を主体とした2層に分層される。

[壁・底面] 平坦な底面から、壁は外傾して立ち上がる。

[出土遺物] 土器が12点出土している。磨滅しているため図化していない。

[所属時期] 不明。

S K 19

[位置・検出層位] 調査区北側のQⅣ69グリッド、標高183.1mの東に面した斜面に位置する。検出層位はⅢ層である。

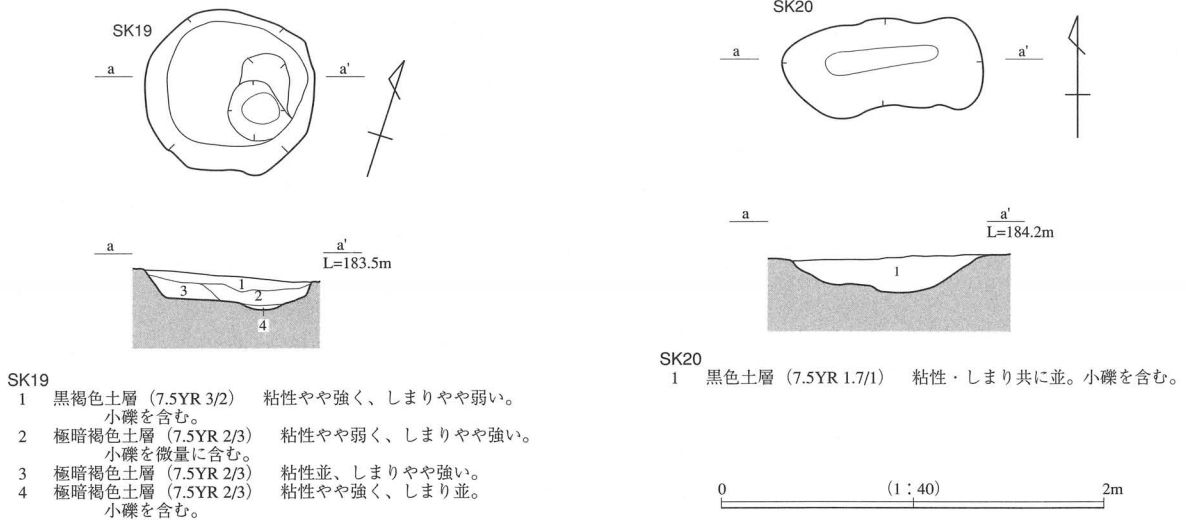
[平面形・規模] 平面形は円形である。規模は開口部径180cm、深さは40cmである。

[堆積土] 極暗褐色土を主体とする4層に分層される。

[壁・底面] 概ね平坦な底面であるが、東側に落ち込みを持つ。壁は外傾して立ち上がる。

[出土遺物] 土器が2点出土している。磨滅しているため図化していない。

[所属時期] 不明。



第65図 SK19・20

SK20

[位置・検出層位] 調査区北側のQIV07・08グリッド、標高184.0mの東に面した斜面に位置する。検出層位はⅢ層である。

[平面形・規模] 平面形は不整形である。規模は104×48cm、深さは18cmである。

[堆積土] Ⅱ層相当と思われる黒色土を主体とした単層で構成される。

[壁・底面] 東側にやや落ち込む底面中心から、壁を経て開口部に到るまで緩やかに外傾して立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[所属時期] 不明。

(3) 柱穴状土坑

本調査区において28個を検出した。調査区南側で確認できたものは縄文時代の可能性があるが、基本層序と対応関係が把握できないことから時期不明とした。規模等は第11表の通りである。

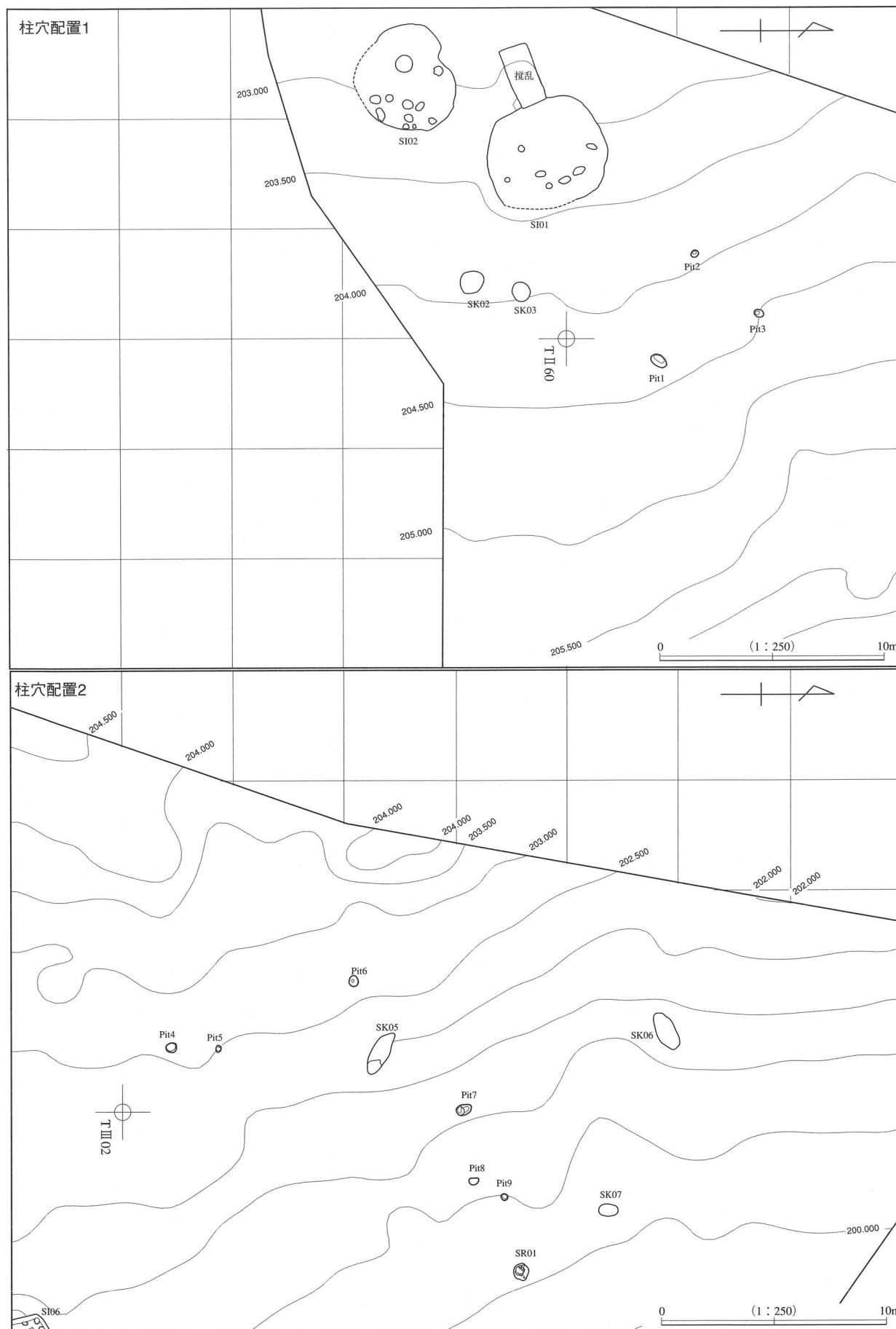
第11表 柱穴観察表

遺構名	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P 10	P 11	P 12	P 13		
位置	T II 50	T II 39	T II 39	S III 91	S III 91	S II 80	S III 61	S III 62	S III 62	T III 05	T III 15	P IV 85・86	P IV 85・86		
開口部径 (cm)	66.9	33.1	42.9	46.1	30.9	49.0	70.3	43.9	32.8	31.1	39.6	30.0	28.0		
深さ (cm)	27.4	25.6	32.5	17.4	15.9	19.5	38.0	35.3	20.2	22.5	37.1	16.0	20.0		
遺構名	P 14	P 15	P 16	P 17	P 18	P 19	P 20	P 21	P 22	P 23	P 24	P 25	P 26	P 27	P 28
位置	P IV 85	P IV 95	P IV 95	R IV 74	R IV 45	R IV 24	R IV 24	R IV 26	R IV 45	Q IV 69	R IV 09	R IV 09	R IV 24	Q IV 49	Q IV 58
開口部径 (cm)	24.0	28.0	28.0	43.0	43.0	38.0	38.0	50.0	57.0	38.0	24.0	23.0	22.0	34.0	32.0
深さ (cm)	12.0	16.0	32.0	-	19.0	24.0	22.0	20.0	22.0	51.0	45.0	29.0	18.0	12.0	24.0

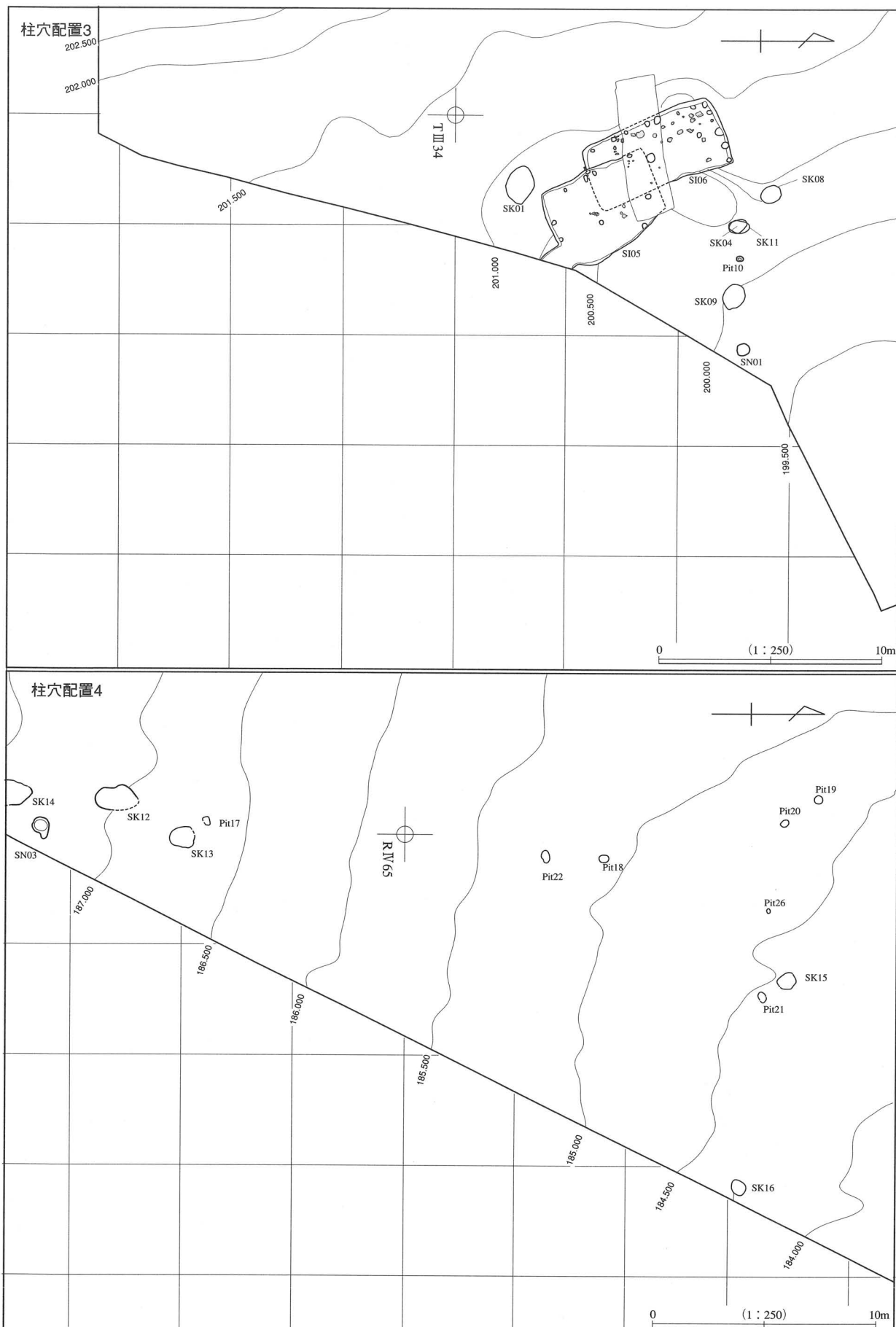
3 中世以降の遺構・遺物



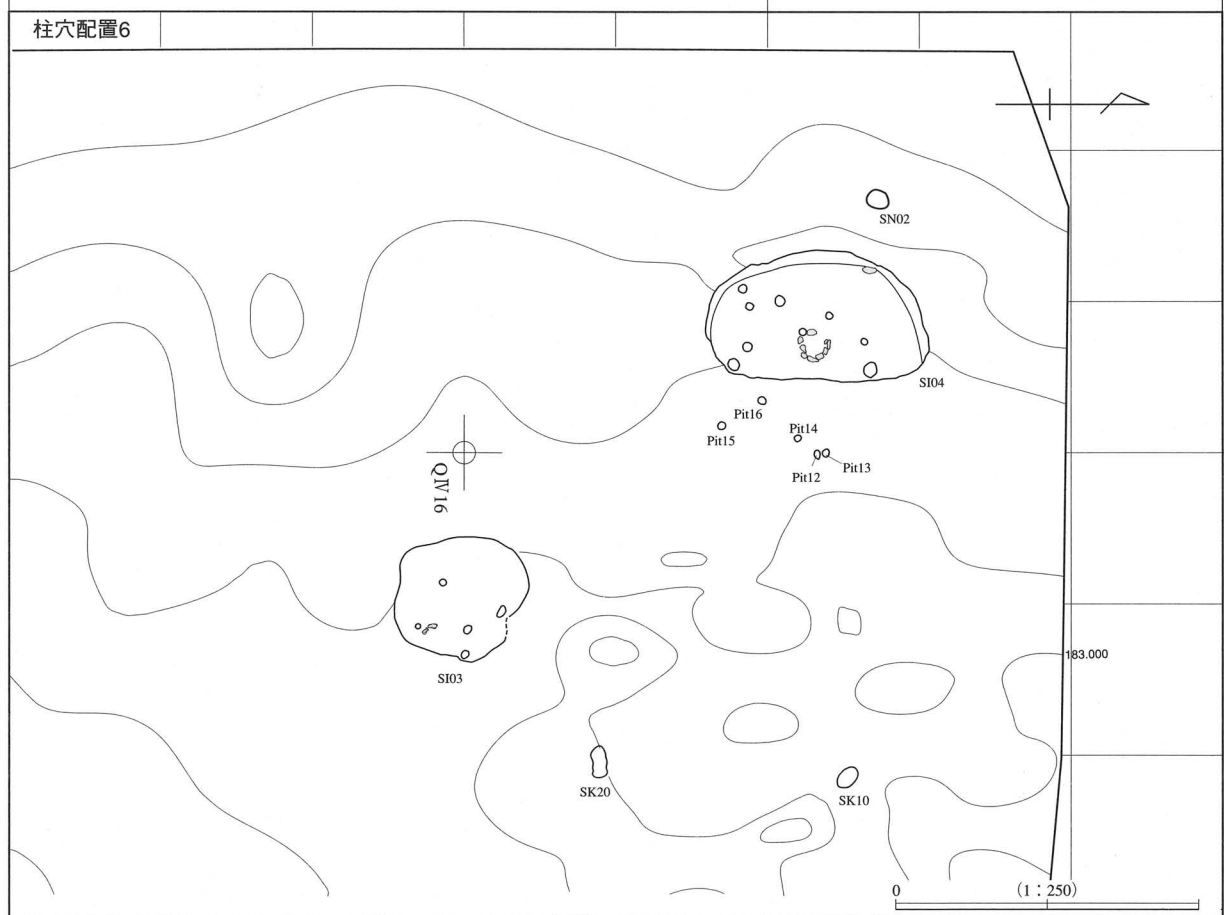
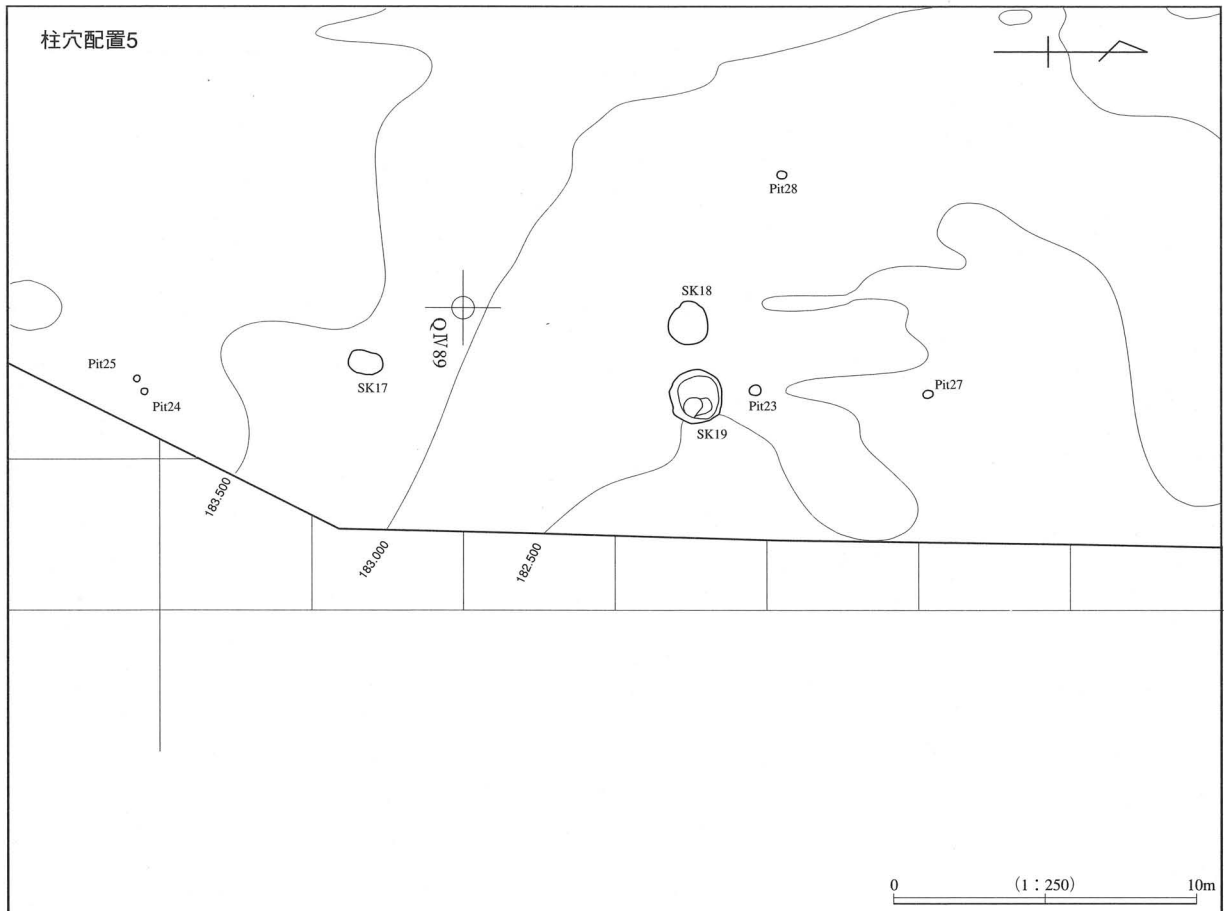
第66図 野里上Ⅱ遺構配置図



第67図 柱穴(1)



第68図 柱穴(2)



第69図 柱穴(3)

第12表 土器観察表 (1)

遺物 No.	図版 No.	写図 No.	登録 No.	出土地点	層位	器種	分類	部位	外面文様	内面文様	地文	口唇部裝飾	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
1	16	12	1	S I 01	床直	深鉢	I	口縁~底部	沈線、磨消縄文		R L	波状	(40.0)		31.5	
2	16	12	2	S I 01	床直	深鉢	I	口縁~底部			L R		(18.3)		26.0	
3	16	12	3	S I 01	床直	深鉢	VI	口縁~底部	沈線、磨消縄文		L R		(16.0)		16.6	
4	16	16	5	S I 01	埋土	深鉢		底部	底部：網代痕		R L			(8.2)	2.8	
5	16	16	4	S I 01	埋土	深鉢		底部	底部：網代痕					(6.5)	2.0	
6	17	16	8	S I 01	埋土	深鉢		口縁	隆帯		L R	波状			3.9	
7	17	16	18	S I 01	床直	深鉢		口縁	隆帯			波状			3.8	
8	17	16	7	S I 01	埋土	深鉢	V?	口縁	沈線、磨消縄文		R L				4.2	
9	17	16	9	S I 01	埋土	深鉢		口縁			R L	波状			4.0	
10	17	16	15	S I 01	床直	深鉢	II	口縁	磨消縄文		RL 輪匝痕、RL	波状			5.9	
11	17	16	21	S I 01	床直	深鉢		口縁	隆帯			波状			6.5	
12	17	16	17	S I 01	床直	深鉢	II	口縁	沈線		L R	波状			2.3	
13	17	16	16	S I 01	床直	深鉢		口縁	沈線、磨消縄文、粘土瘤附、口縁部肥厚		R L				2.7	
14	17	16	6	S I 01	埋土	深鉢		口縁			L R				5.6	
15	17	16	11	S I 01	埋土	深鉢		口縁			L R				4.5	
16	17	16	22	S I 01	床直	深鉢		口縁	沈線、磨消縄文、口縁部肥厚		R L				3.2	
17	17	16	23	S I 01	床直	深鉢	II	口縁	沈線		L R	波状			3.7	
18	17	16	20	S I 01	床直	深鉢	II	口縁			RL 輪匝痕、RL	波状			6.0	
19	17	16	12	S I 01	埋土	浅鉢		口縁	沈線、磨消縄文		L R	刻み			3.4	
20	17	16	10	S I 01	埋土	深鉢		底部	粘土瘤附、沈線、磨消縄文		R L				5.7	
21	17	16	24	S I 01	床直	深鉢		口縁	沈線、磨消縄文		R L				9.1	
22	17	16	13	S I 01	埋土	深鉢		口縁	沈線		R L	波状			1.9	
23	17	16	14	S I 01	埋土	深鉢		口縁	沈線、磨消縄文、口縁部肥厚		R L				4.1	
40	22	12	25	S I 02	床直	深鉢	VII	口縁~底部			単輪条体 I?		(17.2)	(10.0)	19.2	
41	22	16	30	S I 02	床直	深鉢	I	口縁	沈線、磨消縄文		R L				8.9	
42	22	16	31	S I 02	床直	深鉢		口縁			単輪条体 I				3.7	
43	22	16	28	S I 02	床直	深鉢		口縁	沈線、磨消縄文		L R	波状			3.5	
44	22	16	29	S I 02	床直	深鉢	I	口縁	沈線、磨消縄文		R L				9.4	
45	22	16	32	S I 02	床直	深鉢	VII	口縁			L R				3.9	
46	22	16	33	S I 02	床直	深鉢	I	口縁			L R				7.5	
47	22	16	27	S I 02	床直	深鉢		口縁	隆帯			波状			3.9	
48	22	16	26	S I 02	床直	深鉢		底部			単輪条体 I				5.6	
60	25	12	35	S I 03	床直	鉢	I	口縁~底部	沈線、磨消縄文	沈線	L R	突起、沈線	(18.2)		9.8	
61	25	12	34	S I 03	埋土	深鉢	V	口縁~底部	沈線、磨消縄文	沈線	R L	縄文充填	17.2	5.7	17.7	
62	25	17	37	S I 03	床直	壺		底部~底部						(4.2)	7.3	

第13表 土器観察表 (2)

遺物 No.	図版 No.	写真 No.	登録 No.	出土地点	層位	器種	分類	部位	外面文様	内面文様	地文	口唇部裝飾	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
63	25	16	39	S I 03	床直	壺		体部							5.1	
64	25	13	36	S I 03	床直	深鉢		底部			L R			7.6	4.5	
65	25	17	40	S I 03	床直	鉢		体部	沈線		R L				3.2	
66	25	17	41	S I 03	床直	鉢	Ⅲ	口縁～体部			単軸絡条体L				4.8	
67	25	13	38	S I 03	埋土	ミニチュア土器		口縁～底部						(2.8)	3.2	
69	28	13	43	S I 04	床直	鉢	I	口縁～底部			L R	波状(指頭による凹み)	17.1	6.2	15.3	
70	28	13	42	S I 04	床直	鉢	Ⅲ	口縁～底部			L R		(9.6)	5.5	8.3	
71	28	17	44	S I 04	埋土	鉢	Ⅲ	口縁～体部			L R	突起, 頭頂部に刻み, 沈線			5.7	
72	28	17	46	S I 04	埋土	鉢	Ⅲ	口縁～体部	沈線, 刺突	沈線	L R	刻み			5.4	
73	28	17	58	S I 04	埋土	鉢	Ⅲ	口縁～体部				突起(刻み)			4.2	
74	28	17	48	S I 04	埋土	鉢	Ⅲ	口縁～体部	沈線, 刺突	沈線	L R	刻み			2.9	
75	28	17	45	S I 04	埋土	深鉢	Ⅶ	体部	沈線		L R				7.9	
76	28	17	52	S I 04	埋土	鉢, 浅鉢		体部	沈線	沈線					2.9	
77	28	17	56	S I 04	埋土	鉢		体部	沈線						3.3	
78	28	17	53	S I 04	埋土	注口		体部	沈線						3.4	
79	28	17	51	S I 04	埋土	注口		体部	沈線, 磨消縄文						3.8	
80	28	17	47	S I 04	埋土	壺		口縁	隆帯	沈線					2.6	
81	28	17	50	S I 04	埋土	ミニチュア土器		口縁～体部							2.9	
85	31	13	59	S R 01		深鉢	Ⅱ	口縁～底部	沈線, 隆帯, 刺突, 磨消縄文		R L	波状	(20.4)	8.3	26.1	
86	31	17	60	S R 01		深鉢		体部	沈線, ノの字状隆帯, 磨消縄文		L R				5.1	
87	31	17	63	S K 09		鉢	I	口縁～体部	沈線, 刺突		R L	突起, 刻み			4.5	
88	31	17	62	S K 08		深鉢	Ⅳ	口縁～体部			L R				10.0	
89	31	17	61	S K 08		深鉢	I	口縁～体部	沈線, 磨消縄文		L R	波状			6.7	
90	31	17	64	P i t 07		鉢		口縁			L R 側面圧痕				3.4	
94	41	17	145	調査区南側	I 層	注口		体部	沈線, 粘土瘤貼付						4.9	赤色顔料付着
95	41	13	144	調査区南側	I 層	ミニチュア土器		口縁～底部			L		6.7		4.1	
96	41	17	106	S III 41	II b 層	深鉢		口縁	沈線, 磨消縄文	鱗状突起	L R	波状(頭頂部刻みあり)			6.0	
97	41	17	105	S III 41	II b 層	深鉢	I	口縁～体部	沈線, 磨消縄文		L R	波状			7.7	
98	41	17	199	S III 61	II b 層	深鉢		口縁	鱗状突起			波状(頭頂部刻みあり)			6.7	
99	41	17	183	T III 21	II a 層	深鉢	I	口縁～体部	沈線, 磨消縄文		R L	波状			5.7	
100	41	17	116	調査区南側	II a・b 層	深鉢	I	口縁～体部	沈線, 磨消縄文		L R				3.5	
101	41	17	190	T III 31	II a 層	深鉢		口縁	沈線, 磨消縄文		R L				3.8	
102	41	17	164	T II 30	II a 層	深鉢	I	口縁	沈線, 磨消縄文		L R				4.1	
103	41	18	194	T III 41	II a 層	鉢	Ⅱ	口縁	沈線		L R				4.2	
104	41	18	148	S II 80, S III 71	II b 層	深鉢	Ⅸ	体部	沈線, 磨消, 隆帯, 把手剥落		R L				16.3	

第14表 土器観察表 (3)

遺物 No.	図版 No.	写真 No.	登録 No.	出土地点	層位	器種	分類	部位	外面文様	内面文様	地文	口唇部装飾	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
105	41	18	112	S III 41	II b層	深鉢	I	体部	沈線、磨消縄文		LR				8.5	
106	41	18	204	S III 62	II b層	深鉢		体部	磨消縄文		RL				5.3	
107	41	18	206	S III 71	II b層	深鉢		体部	沈線、磨消縄文		RL				7.2	
108	41	18	70	調査区南側	II a・b層	深鉢		体部	沈線、磨消縄文、粘土瘤貼付		RL				7.6	
109	41	18	99	S II 70.S III 61	II b層	深鉢	IX	体部	沈線、磨消縄文、細い隆帯		RL				4.8	
110	42	18	100	S II 70.S III 61	II b層	深鉢	IX	体部	沈線、磨消縄文		RL				3.7	
111	42	18	203	S III 62	II b層	深鉢		体部	磨消縄文		RL				5.3	
112	42	18	124	調査区南側	I層	深鉢		体部	沈線、磨消縄文		LR				4.9	
113	42	18	71	調査区南側	II a・b層	深鉢		体部	磨消縄文		LR				4.5	
114	42	18	196	T III 41	II a層	深鉢		体部	沈線、磨消縄文		RL				4.3	
115	42	18	74	調査区南側	II a・b層	深鉢	IX	体部	沈線、把手(穿孔あり)		RL				4.5	
116	42	18	149	S III 81	II b層	深鉢	IX b	口縁	横位隆帯・把手(穿孔あり)		RL		(11.0)		5.7	
117	42	18	111	S III 41	II b層	深鉢		体部	隆帯、磨消縄文		RL				4.7	
118	42	18	154	T II 30	II a層	深鉢	IX a	口縁～体部	沈線、隆帯				(15.0)		20.7	
119	42	13	153	T II 30	II a層	深鉢	IX a	体部～底部	沈線、隆帯				9.3		16.0	
120	42	13	142	調査区北側	I層	深鉢	IX	体部～底部	沈線、磨消縄文		LR			6.0	9.9	
121	42	18	113	S III 41	II b層	深鉢	IV?	口縁～体部	沈線、磨消縄文		RL				9.7	
122	42	18	86	調査区北側	II層	深鉢	V or IX	口縁～体部	沈線、隆帯						5.6	
123	43	18	97	S II 70.S III 61	II b層	深鉢	VII	口縁～体部	沈線、磨消縄文、隆帯		RL				8.0	
124	43	18	193	T III 41	II～III層	深鉢		口縁	沈線、磨消縄文		LR				6.2	110と同一個体
125	43	18	202	S III 62	II b層	深鉢	VII	口縁～体部	隆帯、磨消縄文		LR				5.8	
126	43	18	195	T III 41	II a層	深鉢		口縁	沈線						3.8	
127	43	18	122	調査区南側	I層	深鉢		口縁	沈線、磨消縄文、刺突列		RL				4.9	
128	43	18	162	T II 29	II a層	深鉢	VI?	口縁	沈線、磨消縄文、口縁部肥厚		RL				5.0	
129	43	19	110	S III 41	II b層	深鉢	VII	口縁	沈線、磨消縄文						3.4	193と同一個体
130	43	19	174	T II 68	II a層	深鉢	IV	口縁	横位沈線		LR・網目状線刻				2.8	
131	43	19	118	S II 70.S III 61	II b層	深鉢		口縁	沈線		LR 側面圧痕				4.4	
132	43	19	68	調査区南側	II a・b層	深鉢	II	口縁	沈線、磨消縄文		RL				3.0	
133	43	19	198	S III 53	II b層	深鉢		口縁	沈線、口縁部肥厚		RL				4.7	
134	43	19	168	T II 30	II a層	深鉢		口縁	沈線、磨消縄文		RL				2.9	
135	43	19	102	S II 70.S III 61	II b層	深鉢	IX	体部	沈線、磨消縄文、隆帯		RL				5.3	107と同一個体の可能性あり
136	43	19	101	S II 70.S III 61	II b層	深鉢	IX	体部	沈線、磨消縄文、隆帯		RL				6.0	104と同一個体
137	43	19	83	調査区北側	II層	深鉢		体部	沈線、粘土粒貼付、磨消縄文		RL				4.3	
138	43	19	72	調査区南側	II a・b層	深鉢		体部	沈線、磨消縄文、粘土瘤貼付		RL				5.0	
139	43	19	143	調査区北側	I層	深鉢		体部	沈線、磨消縄文		LR				3.7	

第15表 土器観察表 (4)

遺物 No.	図版 No.	写真 No.	登録 No.	出土地点	層位	器種	分類	部位	外面文様	内面文様	地文	口唇部裝飾	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
140	43	19	91	調査区南側	II a・b層	深鉢		体部	沈線、磨消縄文		R L				4.7	
141	43	19	146	S III 94	II a層	深鉢	IX	体部	沈線						4.8	
142	43	19	123	調査区南側	I層	深鉢		体部	沈線、磨消縄文		L R				3.7	
143	43	19	147	S III 85・95	II a層	深鉢	IX	体部	沈線						3.1	
144	43	19	69	調査区南側	II a・b層	深鉢		体部	沈線、磨消縄文、穿孔		L R				3.2	
145	43	19	205	S III 62	II b層	深鉢		体部	隆帯						3.0	
146	43	19	81	調査区北側	II層	深鉢		体部	隆帯 (穿孔あり)						2.3	
147	43	19	200	S III 61	II b層	深鉢		体部			単軸絡条体R				3.0	
148	43	19	189	T III 31	II a層	深鉢		体部			網目状燃糸L				3.3	
149	43	19	187	T III 21	II a層	深鉢		体部			網目状燃糸L				2.5	
150	43	19	173	T II 68	II a層	深鉢		体部			網目状燃糸R				3.3	
151	44	14	157	T II 30	II a層	深鉢	I	口縁～底部			R L		27.6	13.5	48.3	
152	44	19	171	T II 30	II a層	深鉢	II	口縁			L R				6.4	
153	44	19	166	T II 30	II a層	深鉢	II	口縁			L R				3.3	
154	44	19	182	T III 11	II a層	深鉢	II	口縁			L R				2.9	
155	45	14	152	T II 19	II a層	深鉢	II	口縁～底部			R L		(9.0)		31.6	
156	45	14	95	S II 70, S III 61	II b層	深鉢	I	口縁～体部			L R 端部結節		(28.6)		15.1	
157	45	19	158	T II 20	II a層	深鉢	II	口縁			L R				2.7	
158	45	19	159	T II 20	II a層	深鉢	II	口縁			L R				3.7	
159	45	19	201	S III 62	II b層	深鉢	IX b	口縁～体部							10.3	
160	46	15	96	S II 70, S III 61	II b層	深鉢	I	口縁～底部			L R 端部結節		(33.0)	(11.4)	58.5	
161	47	14	155	T II 30	II a層	鉢	II	口縁～底部	沈線、刺突、磨消縄文		R L	刻み		4.8	11.8	
162	47	19	94	T II 30	II a層	鉢	II	口縁～体部	沈線、刺突		R L	刻み			5.5	
163	47	19	88	調査区北側	II層	鉢	II	口縁～体部	沈線、刺突		L R	突起 (刻み有り)			4.9	
164	47	19	130	P IV 87・97	II層	鉢	III	口縁～体部	沈線		L R	突起、沈線			4.2	
165	47	19	82	調査区北側	II層	鉢	IV	口縁～体部	沈線	沈線	L R				9.3	
166	47	20	127	P IV 87・97	II層	鉢	III	口縁～体部	沈線、刺突		L R	突起、刻み			6.1	
167	47	20	170	T II 30	II a層	鉢	I	口縁	沈線、刺突、磨消縄文		R L	刻み			3.3	
168	47	20	140	P IV 87・97	II層	鉢	III	口縁	沈線		R L				3.6	
169	47	20	186	T III 21	II a層	鉢	IV	口縁	沈線		R L				3.0	
170	47	20	179	T III 04	II a層	鉢	IV	口縁	沈線、刺突						2.9	
171	47	20	128	P IV 87・97	II層	鉢	II	口縁～体部	沈線		L R	突起、刻み			3.8	
172	47	20	184	T III 21	II a層	鉢		体部	横位沈線		L R				5.1	
173	47	20	133	P IV 87・97	II層	深鉢		体部	沈線		L R				4.7	
174	47	20	136	P IV 87・97	II層	鉢		底部	刺突				6.4		1.3	

第16表 土器観察表 (5)

遺物 No.	図版 No.	写真 No.	登録 No.	出土地点	層位	器種	分類	部位	外面文様	内面文様	地文	口唇部裝飾	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
175	47	14	80	調査区北側	II層	台付鉢		口縁~裾部	沈線、刺突	沈線	L R	突起、刻み	(15.6)		10.8	
176	47	14	78	調査区北側	II層	台付鉢		体部~裾部	沈線、刺突		L R				7.8	
177	47	15	87	調査区北側	II層	台付鉢		体部~裾部	沈線		L R		(6.4)		5.3	
178	47	20	188	T III 21	II a層	台付浅鉢		高台部	横位沈線						1.5	
179	48	20	132	P IV 87・97	II層	浅鉢		口縁~体部	沈線、粘土瘤	沈線		沈線			2.2	
180	48	20	137	P IV 87・97	II層	鉢		口縁	沈線、粘土瘤	沈線					2.3	
181	48	20	93	調査区南側	II a・b層	浅鉢		体部	磨消縄文		L R				2.1	
182	48	20	151	S III 95	II a層	浅鉢		体部	沈線、磨消縄文		L R				2.9	
183	48	20	84	調査区北側	II層	鉢		体部	沈線、磨消縄文		L R				3.8	
184	48	20	141	P IV 87・97	II層	浅鉢		体部	沈線						4.7	赤色顔料付着
185	48	20	129	P IV 87・97	II層	壺		口縁~体部	沈線、粘土瘤貼付	沈線					3.3	
186	48	20	131	P IV 87・97	II層	壺		口縁~体部	沈線、粘土瘤	沈線					2.1	
187	48	20	208	T III 05	II a層	注口		体部	沈線、磨消縄文		L R				2.2	
188	48	15	75	調査区北側	II層	深鉢	III	口縁~底部			L R		(22.0)	(8.8)	30.4	
189	48	15	76	調査区北側	II層	深鉢	III	口縁~体部			L R		(20.2)		16.0	
190	48	20	85	調査区北側	II層	深鉢	III	口縁~体部			L R				6.4	
191	49	15	176	S III 62	II b層	深鉢	IV	口縁~底部			R L		(20.0)	9.2	27.2	
192	49	20	180	T III 06	II a層	深鉢	IV	口縁~体部			R L				12.3	
193	49	20	66	調査区南側	II a・b層	深鉢	III	口縁	穿孔あり		L R				6.5	
194	49	20	121	調査区南側	I層	深鉢	II	口縁			L R				4.2	
195	49	20	73	調査区南側	II a・b層	深鉢	I	口縁			R L				5.7	
196	49	20	108	S III 41	II b層	深鉢	IV	口縁			R L				6.1	
197	49	20	172	T II 68	II a層	深鉢	I	口縁			R L				12.3	
198	49	20	209	T III 06	II a層	深鉢	IV	口縁			L R				6.1	
199	49	20	139	P IV 87・97	II層	鉢	IV	口縁~体部			L R	波状(頭頂部刻みあり)			6.8	
200	49	20	134	P IV 87・97	II層	深鉢	VII	口縁~体部			L R				8.3	
201	49	20	191	T III 41	II a層	深鉢	VII	口縁~体部			R L	端部結節			9.1	
202	49	20	119	調査区南側	I層	深鉢	VII	口縁~体部			L R				9.9	内外面に煤付着
203	49	20	115	T III 15	II a層	深鉢	VII	口縁~体部			L R				5.8	
204	49	21	167	T III 30	II a層	深鉢		口縁	口縁部ナ字消し、口縁部肥厚		L R				4.4	
205	49	21	125	調査区南側	II a・b層	鉢		口縁~体部	沈線		R L	側面圧痕			4.4	
206	49	21	103	S II 70, S III 61	II b層	深鉢	IV	口縁			R L				4.0	
207	49	21	197	S III 53	II b層	深鉢		口縁			L R				4.7	
208	49	21	90	調査区南側	II a・b層	深鉢	IV or VII	口縁	口縁部肥厚						5.8	
209	49	21	181	T III 06	II a層	深鉢		口縁			L R				5.4	

第17表 土器観察表 (6)

遺物 No.	図版 No.	写真 No.	登録 No.	出土地点	層位	器種	分類	部位	外面文様	内面文様	地文	口唇部裝飾	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
210	50	21	175	S II 80	II b 層	深鉢		口縁	刺突列						3.4	
211	50	21	65	調査区南側	II a・b 層	深鉢		口縁～体部			RL				4.5	
212	50	21	161	T II 20	II a 層	深鉢		口縁	口縁部肥厚						3.8	
213	50	21	120	調査区南側	I 層	深鉢		口縁	口縁部肥厚						4.5	
214	50	21	150	S III 95	II a 層	鉢	III	口縁	沈線						2.6	
215	50	21	163	T II 30	II a 層	深鉢		口縁	沈線、口縁部肥厚						4.5	
216	50	21	109	S III 41	II b 層	深鉢	IV	口縁			RL				4.3	
217	50	21	107	S III 41	II b 層	深鉢	VII	口縁			RL				4.3	
218	50	21	89	調査区北側	II 層	深鉢	VII	口縁			L R	波状(指頭による凹み)			4.0	
219	50	21	160	T II 20	II a 層	深鉢	IV or VII	口縁			L R				4.5	
220	50	21	98	S II 70, S III 61	II b 層	深鉢	IV ?	口縁			RL				3.9	
221	50	21	138	P IV 87・97	II 層	深鉢	III	口縁～体部			L R				4.9	
222	50	21	67	調査区南側	II a・b 層	深鉢		口縁			RL				3.4	
223	50	21	114	T III 15	II a 層	深鉢		口縁部	口唇部直下に指頭による凹み列		L R			2.4		
224	50	21	169	T II 30	II a 層	鉢	III	口縁	横位沈線		L				2.7	
225	50	21	92	調査区南側	II a・b 層	鉢		口縁	沈線						1.7	
226	50	21	185	T III 21	II a 層	深鉢		体部			L R				6.7	内面煤付着
227	50	21	177	T III 11	II a 層	深鉢		体部～底部			RL			(7.0)	3.4	
228	50	21	135	P IV 87・97	II 層	深鉢		体部～底部			L R			(7.6)	4.0	
229	50	21	126	P IV 87・97	II 層	深鉢		底部			L R			8.3	4.5	
230	50	16	178	S III 53	II b 層	深鉢		底部						5.4	2.4	
231	50	16	77	調査区北側	II 層	深鉢		体部～底部			RL			(10.2)	9.1	
232	50	21	156	T II 40	II a 層	深鉢		底部						6.5	2.1	
233	50	21	117	S II 70, S III 61	II b 層	鉢		底部							1.7	
234	50	21	207	T III 05	II a 層	深鉢		体部～底部			RL				3.9	
235	50	21	192	T III 41	II～III 層	深鉢		体部～底部			RL				5.9	
236	50	21	79	調査区北側	II 層	注口		注口部							2.6	

第18表 石器観察表 (1)

石器材列 安山岩：An 凝灰岩：Tu 珪質頁岩：Ssh 頁岩：Sh 砂岩：San 乾粒岩：Ser 赤色頁岩：Rsh 閃綠岩：Dio
チャート：Ch デイサイト：Dac 粘板岩：Sla 花崗閃綠岩：Grano 珉岩：Por めのう：Aga

遺物No.	図版No.	写図No.	登録No.	出土地点	出土層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	産地(生成時期)	備考
24	17	22	44	S I 01	床直	不定形	4.65	1.90	0.90	5.7	Sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
25	17	22	42	S I 01	埋土	楔形 I	3.15	3.05	1.75	17.4	Sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
26	18	22	43	S I 01	床直	楔形 I	3.70	3.05	1.95	17.0	Sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
27	18	22	40	S I 01	埋土	楔形 I	2.55	3.60	1.70	11.9	Sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
28	18	22	41	S I 01	埋土	楔形 I	3.30	2.35	2.30	12.2	Tu	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
29	18	22	2	S I 01	埋土	礫石器 II	8.50	8.15	4.45	348.4	An	奥羽山脈(新生代)	
30	18	22	36	S I 01	床直	礫石器 I	7.60	8.60	6.35	365.5	An	奥羽山脈(新生代)	
31	18	22	1	S I 01	埋土	礫石器 VI	12.55	6.50	4.10	336.5	An	奥羽山脈(新生代)	
32	18	22	39	S I 01	埋土	礫石器 IV	11.00	6.50	5.60	506.4	An	奥羽山脈(新生代)	
33	18	22	37	S I 01	床直	礫石器 V	6.70	7.65	5.30	362.7	Dio	北上山地(中生代白亜紀)	
34	19	22	31	S I 01	床直	礫石器 V	9.15	8.70	5.40	562.1	An	奥羽山脈(新生代)	
35	19	22	38	S I 01	床直	礫石器 I	10.05	9.50	7.45	975.6	Dio	北上山地(中生代白亜紀)	
36	19	22	35	S I 01	床直	礫石器 I	8.95	7.50	5.85	493.5	Ch	北上山地(中生代三畳紀~ジュラ紀)	
37	19	22	34	S I 01	床直	礫石器 IV	12.30	8.40	5.10	560.8	An	奥羽山脈(新生代)	
38	19	22	30	S I 01	床直	礫石器 I	14.80	11.60	9.25	1710.1	Dio	北上山地(中生代白亜紀)	
39	19	22	32	S I 01	床直	礫石器 IV	25.35	17.35	12.60	7000.0	Dio	北上山地(中生代白亜紀)	
40	22	22	46	S I 02	埋土	石鏃 I	3.10	2.40	0.95	2.5	Tu	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
50	22	22	9	S I 02	床直	礫石器 III	9.50	0.70	5.60	299.7	Tu	奥羽山脈(新生代)	
51	22	23	10	S I 02	床直	礫石器 VI	9.90	8.85	4.00	554.4	An	奥羽山脈(新生代)	
52	22	23	15	S I 02	埋土	礫石器 I	9.05	8.10	3.15	287.1	An	奥羽山脈(新生代)	
53	23	23	5	S I 02	床直	礫石器 IV	12.10	7.90	7.10	719.5	Tu	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
54	23	23	11	S I 02	床直	礫石器 I	13.00	6.60	5.40	839.9	Dio	北上山地(中生代白亜紀)	
55	23	23	13	S I 02	床直	礫石器 IV	9.05	7.30	5.70	445.1	An	奥羽山脈(新生代)	
56	23	23	12	S I 02	床直	礫石器 VII	8.70	7.70	5.10	498.4	An	奥羽山脈(新生代)	
57	23	23	6	S I 02	床直	礫石器 IV	13.70	9.50	8.00	1,198.0	Tu	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
58	23	23	8	S I 02	床直	礫石器 VI	14.60	9.20	5.75	1,199.6	Grano	北上山地(中生代白亜紀)	
59	23	23	4	S I 02	床直	礫石器 III	20.60	12.60	7.45	2,300.0	An	奥羽山脈(新生代)	
68	25	23	50	S I 03	埋土	スクレイパー類 I	6.15	2.70	1.60	24.2	S sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
82	28	23	51	S I 04	I層	石鏃 II	4.95	3.75	1.45	26.0	Aga	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
83	28	23	53	S I 04	埋土	楔形 II	3.20	2.75	0.70	5.2	S sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
84	28	23	52	S I 04	埋土	スクレイパー類 I	7.50	2.95	1.35	26.7	S sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
92	63	27	49	S I 06	床直	不定形	20.75	12.15	4.20	1,003.0	Sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
93	63	27	48	S I 06	床直	不定形	25.10	13.80	7.30	2,400.0	Sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
237	51	24	69	調査区南側	I層	スクレイパー類 I	4.30	4.30	2.15	37.0	Sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
238	51	23	106	調査区北側	I層	不定形	4.80	2.90	1.30	12.4	S sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
239	51	24	105	調査区北側	I層	スクレイパー類 I	6.90	3.00	2.10	41.2	Sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
240	51	24	87	調査区南側	I層	磨製石斧 II	15.70	4.40	1.40	116.7	Sla	北上山地(中生代三畳紀~ジュラ紀)	
241	51	24	17	調査区南側	I層	礫石器 IV	13.70	7.55	5.80	733.9	An	奥羽山脈(新生代)	
242	52	24	111	P IV 87・88・97・98	II層	石鏃 II	4.60	2.45	0.95	9.8	Aga	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
243	52	24	107	P IV 87・88・97・98	II層	石鏃 III	3.55	1.80	0.70	3.1	Sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
244	52	24	90	調査区南側	表採	石匙	5.65	5.60	1.20	23.8	Sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
245	52	24	122	T II 20	II a層	寛状石器	9.05	3.50	2.55	73.5	S sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
246	52	24	121	T II 19	II a層	スクレイパー類 II	6.30	3.05	1.15	17.6	Sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
247	52	24	112	P IV 87・88・97・98	II層	スクレイパー類 I	7.50	4.50	0.90	20.7	S sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
248	53	24	120	調査区南側	II a・b層	楔形 I	3.05	2.40	1.10	7.8	Aga	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
249	53	24	100	S II 60・70・80・S III 51・52	II b層	楔形 I	1.90	2.45	1.90	8.3	Sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
250	53	25	110	P IV 87・88・97・98	II層	楔形 I	3.10	4.25	1.30	16.8	R sh	北上山地(中生代三畳紀~ジュラ紀)	
251	53	25	109	P IV 87・88・97・98	II層	楔形 I	3.40	2.70	1.40	12.3	Sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
252	53	25	102	S II 60・70・80・S III 51・52	II b層	楔形 I	4.00	2.30	1.65	9.7	Sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
253	53	25	103	S II 60・70・80・S III 51・52	II b層	楔形 I	2.60	2.50	2.00	7.5	Sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	

第19表 石器観察表 (2)

遺物No.	図版No.	写真No.	登録No.	出土地点	出土層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	産地(生成時期)	備考
254	53	25	113	P IV 87・88・97・98	II層	石核	4.90	7.20	3.60	111.7	R sh	北上山地(中生代三畳紀~ジュラ紀)	
255	54	25	108	P IV 87・88・97・98	II層	スクレイパー類 I	4.45	4.05	3.00	58.6	C h	北上山地(中生代三畳紀~ジュラ紀)	
256	54	25	123	T II 20	II a層	スクレイパー類 I	6.00	2.05	1.65	16.1	S sh	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
257	54	25	114	R IV	IV層上面	不定形	4.25	3.40	1.55	16.7	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
258	54	25	115	R IV	IV層上面	不定形	11.00	10.00	6.10	424.6	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
259	55	25	101	S II 60・70・80・S III 51・52	II b層	石核	3.70	2.80	4.55	22.0	T u	北上山地(中生代)	
260	55	25	124	S II 60・70・80・S III 51・52	II b層	磨製石斧 I	(7.80)	4.20	(2.6)	139.8	S er	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
261	55	26	47	T II 40	II a層	磨製石斧 I	12.95	5.25	2.80	306.4	D io	北上山地(中生代白亜紀)	
262	55	26	45	T II 65	II a層	磨製石斧 I	7.70	4.00	2.25	120.2	S er	北上山地(中生代)	
263	55	26	20	T II 30	II a層	礫石器 I	10.20	8.20	7.10	61.40	A n	奥羽山脈(新生代)	
264	55	26	19	T II 20	II a層	礫石器 I	12.50	7.25	5.51	662.0	A n	奥羽山脈(新生代)	
265	56	26	21	T II 30	II a層	礫石器 I	7.90	6.15	5.35	337.0	A n	奥羽山脈(新生代)	
266	56	26	29	S III 62	II b層	礫石器 I	11.70	9.35	5.69	692.8	T u	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
267	56	26	99	調査区南側	II a・b層	礫石器 X I	9.20	6.60	5.00	339.5	C h	北上山地(中生代三畳紀~ジュラ紀)	
268	56	26	125	T III 06	II a層	砥石	(5.75)	5.10	2.25	94.7	D ac	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
269	56	26	25	T III 05	II a層	礫石器 III	22.80	15.05	5.40	1655.7	A n	奥羽山脈(新生代)	
270	56	26	16	S I 04	床直	礫石器 X	17.75	18.00	5.85	2300.0	A n	奥羽山脈(新生代)	
271	57	26	23	S II 80	II b層	礫石器 III	26.10	27.00	7.35	8000.0	A n	奥羽山脈(新生代)	
272	57	27	22	T II 30	II a層	礫石器 X	25.40	26.80	7.10	6700.0	A n	奥羽山脈(新生代)	
273	57	27	28	S III 62	II b層	礫石器 IX	18.00	10.50	13.60	4000.0	A n	奥羽山脈(新生代)	
274	57	27	26	T III 41	II a層	礫石器 III	23.70	19.10	12.90	8500.0	A n	奥羽山脈(新生代)	
275	58	27	18	T II 19	IV層	礫石器 IV	10.60	11.70	2.95	456.1	T u	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
276	58	27	27	T III 42	IV層	礫石器 III	17.60	8.50	7.48	1881.0	P or	北上山地(中生代白亜紀)	

第20表 石器観察表 (3)

遺物No.	出土地点	出土層位	器種	重さ(g)	石材	産地(生成時期)	備考
277	S I 01	埋土	楔形 I	10.0	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
278	S I 01	埋土	楔形 I	13.6	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
279	S I 01	埋土	楔形 I	15.3	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
280	S I 01	埋土	楔形 II	4.6	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
281	S I 01	埋土	剥片	0.2	T u	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
282	S I 01	埋土	剥片	0.2	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
283	S I 01	埋土	剥片	0.5	R sh	北上山地(中生代三畳紀~ジュラ紀)	
284	S I 01	埋土	剥片	0.5	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
285	S I 01	埋土	剥片	0.6	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
286	S I 01	埋土	剥片	0.6	T u	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
287	S I 01	埋土	剥片	0.7	S h	奥羽山脈(新生代三畳紀~ジュラ紀)	
288	S I 01	埋土	剥片	0.8	R sh	北上山地(中生代三畳紀~ジュラ紀)	
289	S I 01	埋土	剥片	0.8	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
290	S I 01	埋土	剥片	0.8	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
291	S I 01	埋土	剥片	0.8	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
292	S I 01	埋土	剥片	0.8	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
293	S I 01	埋土	剥片	0.8	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
294	S I 01	埋土	剥片	0.8	T u	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
295	S I 01	埋土	剥片	0.9	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
296	S I 01	埋土	剥片	1.1	R sh	北上山地(中生代三畳紀~ジュラ紀)	
297	S I 01	埋土	剥片	1.1	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
298	S I 01	埋土	剥片	1.2	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
299	S I 01	埋土	剥片	1.2	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
300	S I 01	埋土	剥片	1.3	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
301	S I 01	埋土	剥片	1.3	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
302	S I 01	埋土	剥片	1.3	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
303	S I 01	埋土	剥片	1.5	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
304	S I 01	埋土	剥片	1.6	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
305	S I 01	埋土	剥片	1.7	R sh	北上山地(中生代三畳紀~ジュラ紀)	
306	S I 01	埋土	剥片	1.7	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
307	S I 01	埋土	剥片	1.8	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
308	S I 01	埋土	剥片	1.9	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
309	S I 01	埋土	剥片	1.9	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
310	S I 01	埋土	剥片	1.9	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
311	S I 01	埋土	剥片	1.9	T u	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
312	S I 01	埋土	剥片	2.0	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
313	S I 01	埋土	剥片	2.2	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
314	S I 01	埋土	剥片	2.4	T u	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
315	S I 01	埋土	剥片	2.6	T u	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
316	S I 01	埋土	剥片	3.0	T u	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
317	S I 01	埋土	剥片	3.0	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
318	S I 01	埋土	剥片	3.2	S h	奥羽山脈(新生代新第三紀)	
319	S I 01	埋土	剥片	3.3	T u	奥羽山脈(新生代新第三紀)	

第21表 石器観察表 (4)

遺物 No.	出土地点	出土層位	器種	重さ(g)	石材	産地 (生成時期)	備考
320	S I 01	埋土	剥片	3.3	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
321	S I 01	埋土	剥片	3.4	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
322	S I 01	埋土	剥片	3.5	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
323	S I 01	埋土	剥片	3.6	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
324	S I 01	埋土	剥片	3.9	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
325	S I 01	埋土	剥片	4.0	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
326	S I 01	埋土	剥片	4.3	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
327	S I 01	埋土	剥片	4.3	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
328	S I 01	埋土	剥片	4.4	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
329	S I 01	埋土	剥片	4.4	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
330	S I 01	埋土	剥片	4.5	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
331	S I 01	埋土	剥片	4.6	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
332	S I 01	埋土	剥片	5.3	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
333	S I 01	埋土	剥片	5.5	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
334	S I 01	埋土	剥片	5.7	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
335	S I 01	埋土	剥片	6.0	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
336	S I 01	埋土	剥片	6.0	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
337	S I 01	埋土	剥片	6.1	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
338	S I 01	埋土	剥片	7.1	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
339	S I 01	埋土	剥片	7.9	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
340	S I 01	埋土	剥片	8.1	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
341	S I 01	埋土	剥片	8.4	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
342	S I 01	埋土	剥片	10.6	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
343	S I 01	埋土	剥片	10.8	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
344	S I 01	埋土	剥片	12.6	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
345	S I 01	埋土	剥片	13.0	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
346	S I 01	埋土	剥片	13.6	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
347	S I 01	埋土	剥片	13.7	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
348	S I 01	埋土	剥片	15.9	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
349	S I 01	埋土	剥片	18.1	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
350	S I 01	埋土	剥片	22.2	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
351	S I 01	埋土	剥片	26.5	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
352	S I 01	埋土	剥片	29.6	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
353	S I 01	埋土	剥片	36.3	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
354	S I 01	埋土	剥片	65.6	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
355	S I 01	床直	楔形 I	67.3	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
356	S I 01	床直	礫石器 I	246.9	An	奥羽山脈 (新生代)	
357	S I 01	床直	礫石器 I	285.5	An	奥羽山脈 (新生代)	
358	S I 01	床直	礫石器 I	734.2	An	奥羽山脈 (新生代)	
359	S I 01	床直	礫石器 Y I	2,500.0	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	登録No 33
360	S I 01	床直	剥片	11.8	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
361	S I 01	床直	剥片	22.6	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
362	S I 01	床直	剥片	26.4	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
363	S I 01	床直	剥片	76.7	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
364	S I 01	床直	剥片	92.8	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
365	S I 01	床直	剥片	118.2	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
366	S I 02	埋土	剥片	2.6	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
367	S I 02	埋土	剥片	5.9	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
368	S I 02	床直	礫石器 I	867.2	Dac	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
369	S I 02	床直	礫石器 I	1,153.9	An	奥羽山脈 (新生代)	
370	S I 02	床直	礫石器 IX	2,500.0	Dac	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	登録No 7
371	S I 02	床直	礫石器 IX	4,500.0	An	奥羽山脈 (新生代)	登録No 14
372	S I 02	床直	原石	912.4	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
373	S I 02	床直	原石	7,000.0	An	奥羽山脈 (新生代)	
374	S I 02	床直	原石	10,500.0	An	奥羽山脈 (新生代)	
375	S I 04	床直	炉石	996.8	An	奥羽山脈 (新生代)	被熱有り
376	S I 04	床直	炉石	13,742.4	An	奥羽山脈 (新生代)	被熱有り
377	S I 04	床直	炉石	2,090.9	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	被熱有り
378	S I 04	床直	炉石	3,329.0	Sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	被熱有り
379	S I 04	床直	炉石	17,549.4	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	被熱有り
380	S I 04	床直	炉石	5,000.0	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	被熱有り
381	S I 04	床直	炉石	6,000.0	An	奥羽山脈 (新生代)	被熱有り
382	S I 04	床直	炉石	7,963.0	An	奥羽山脈 (新生代)	被熱有り
383	S I 04	床直	炉石	10,000.0	San	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	被熱有り
384	S I 05	埋土	石核	864.0	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
385	S I 05	埋土	礫石器 I	264.0	An	奥羽山脈 (新生代)	
386	S I 05	埋土	礫石器 I ?	4,800.0	San	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
387	S I 05	埋土	礫石器 II	515.0	Dac	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
388	S I 05	埋土	礫石器 III	1,424.0	An	奥羽山脈 (新生代)	
389	S I 05	床直	礫石器 I	316.6	Sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
390	S I 05	床直		361.7	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
391	S I 05	床直		488.0	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
392	S I 05	床直		554.3	San	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
393	S I 05	床直		1,358.4	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
394	S I 05	床直		1,786.0	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
395	S I 05	床直		5,400.0	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
396	S I 06	埋土	石核	367.0	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	

第22表 石器観察表 (5)

遺物 No.	出土地点	出土層位	器種	重さ (g)	石材	産地 (生成時期)	備考
397	S I 06	埋土	礫石器Ⅶ	378.0	An	奥羽山脈 (新生代)	
398	S I 06	埋土	礫石器Ⅶ	601.0	An	奥羽山脈 (新生代)	
399	S I 06	床直	石核	55.3	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
400	S I 06	床直	礫石器Ⅰ?	7,000.0	San	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	被熱有り
401	S I 06	床直		451.0	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
402	S I 06	床直		511.5	Dac	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	被熱有り
403	S I 06	床直		686.6	San	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	被熱有り
404	S I 06	床直		837.7	An	奥羽山脈 (新生代)	
405	S I 06	床直		1,531.9	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
406	S I 06	床直		1,631.3	An	奥羽山脈 (新生代)	被熱有り
407	S I 06	床直		2,300.0	Grano	北上山地 (中生代白亜紀)	被熱有り
408	S I 06	床直		2,600.0	An	奥羽山脈 (新生代)	
409	S I 06	床直		2,700.0	San	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	被熱有り
410	S I 06	床直		3,500.0	An	奥羽山脈 (新生代)	被熱有り
411	S I 06	床直		5,500.0	An	奥羽山脈 (新生代)	被熱有り
412	S I 06	床直		6,200.0	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	被熱有り
413	S I 06	床直		6,000.0	San	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	被熱有り
414	S I 06	床直		7,500.0	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
415	S I 06	床直		7,500.0	San	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	被熱有り
416	S I 06	床直		12,300.0	Ch	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
417	S N02	埋土	剥片	6.5	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
418	P 10	埋土	剥片	20.6	S sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
419	P W87	Ⅳ層上面	剥片	11.1	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
420	P W87-88-97-98	Ⅱ層	不定形	6.6	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
421	P W87-88-97-98	Ⅱ層	礫石器Ⅰ	326.2	An	奥羽山脈 (新生代)	
422	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.1	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
423	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.1	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
424	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.1	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
425	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.1	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
426	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.1	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
427	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.1	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
428	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.1	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
429	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.1	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
430	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.1	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
431	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.1	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
432	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.1	S sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
433	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.2	S sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
434	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.1	S sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
435	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.2	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
436	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.2	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
437	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.2	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
438	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.3	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
439	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.4	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
440	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.8	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
441	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	0.9	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
442	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	1.0	S sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
443	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	1.1	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
444	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	1.1	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
445	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	1.1	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
446	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	1.4	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
447	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	1.4	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
448	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	1.7	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
449	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	2.1	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
450	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	2.5	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
451	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	2.9	S sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
452	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	3.3	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
453	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	3.6	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
454	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	4.0	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
455	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	4.1	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
456	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	4.4	S sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
457	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	4.5	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
458	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	5.3	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
459	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	6.4	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
460	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	7.1	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
461	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	7.3	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	
462	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	8.4	S sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
463	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	8.8	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
464	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	10.0	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
465	P W87-88-97-98	Ⅱ層	剥片	15.1	R sh	北上山地 (中生代三畳紀～ジュラ紀)	

第23表 石器観察表 (6)

遺物 No.	出土地点	出土層位	器種	重さ(g)	石材	産地 (生成時期)	備考
466	P IV87・88・97・98	II層	剥片	17.1	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
467	P IV87・88・97・98	II層	剥片	18.1	Rsh	北上山地 (中生代三疊紀～ジュラ紀)	
468	P IV87・88・97・98	II層	剥片	33.5	Rsh	北上山地 (中生代三疊紀～ジュラ紀)	
469	P IV87・88・97・98	II層	剥片	47.0	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
470	R IV	IV層上面	剥片	13.2	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
471	S II60・70・80・S III51・52	IIb層	礫石器 I	795.0	Ch	北上山地 (中生代三疊紀～ジュラ紀)	
472	S II60・70・80・S III51・52	IIb層	剥片	1.1	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
473	S II60・70・80・S III51・52	IIb層	剥片	2.4	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
474	S II60・70・80・S III51・52	IIb層	剥片	4.4	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
475	S II60・70・80・S III51・52	IIb層	剥片	52.5	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
476	S II80	II～III層	礫石器 I	1,060.5	An	奥羽山脈 (新生代)	
477	S III41	IIb層	礫石器 I	795.4	San	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
478	S III61	IIb層	礫石器 I	704.4	An	奥羽山脈 (新生代)	
479	S III61	IIb層	剥片	17.2	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
480	S III62	IIb層	石核	131.5	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	被熟有り
481	S III62	IIb層	礫石器 I	3,000.0	An	奥羽山脈 (新生代)	
482	T II20	IIa層	剥片	2.0	Ssh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
483	T II20	IIa層	剥片	3.1	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
484	T II20	IIa層	剥片	5.1	Ssh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
485	T II20	IIa層	剥片	5.3	Ssh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
486	T II20	IIa層	剥片	6.1	Ssh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	

遺物 No.	出土地点	出土層位	器種	重さ(g)	石材	産地 (生成時期)	備考
487	T II20	IIa層	剥片	6.7	Ssh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
488	T II20	IIa層	剥片	8.5	Ssh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
489	T II20	IIa層	剥片	8.8	Ssh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
490	T II20	IIa層	剥片	12.0	Ssh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
491	T II20	IIa層	剥片	22.0	Ch	北上山地 (中生代三疊紀～ジュラ紀)	
492	T II30	IIa層	剥片	16.8	Ssh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
493	T II59	IV層上面	剥片	68.6	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
494	T II66	IIa層	剥片	16.6	Tu	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
495	T III04	IIa層	礫石器 II	2,100.0	An	奥羽山脈 (新生代)	
496	T III04	IIa層	剥片	34.0	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
497	T III11	IIa層	石核	173.0	Ch	北上山地 (中生代三疊紀～ジュラ紀)	
498	T III11	IIa層	剥片	0.5	Ssh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
499	T III11	IIa層	剥片	2.4	Ssh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
500	T III11	IIa層	剥片	3.6	Ssh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
501	T III11	IIa層	剥片	3.9	Ssh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
502	T III11	IIa層	剥片	4.0	Ssh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
503	T III11	IIa層	剥片	7.5	Ssh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
504	T III21	IIa層	礫石器 I	142.2	An	奥羽山脈 (新生代)	
505	T III21	IIa層	剥片	9.7	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
506	T III41	IIa層	礫石器 II	608.0	Dac	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	
507	T III41	II～III層	礫石器 III	542.0	An	奥羽山脈 (新生代)	
508	T III41	II～III層	礫石器 X	938.0	An	奥羽山脈 (新生代)	
509	調査区南側	II層	剥片	120.0	Ch	北上山地 (中生代三疊紀～ジュラ紀)	
510	調査区内	表深	剥片	7.3	Sh	奥羽山脈 (新生代新第三紀)	

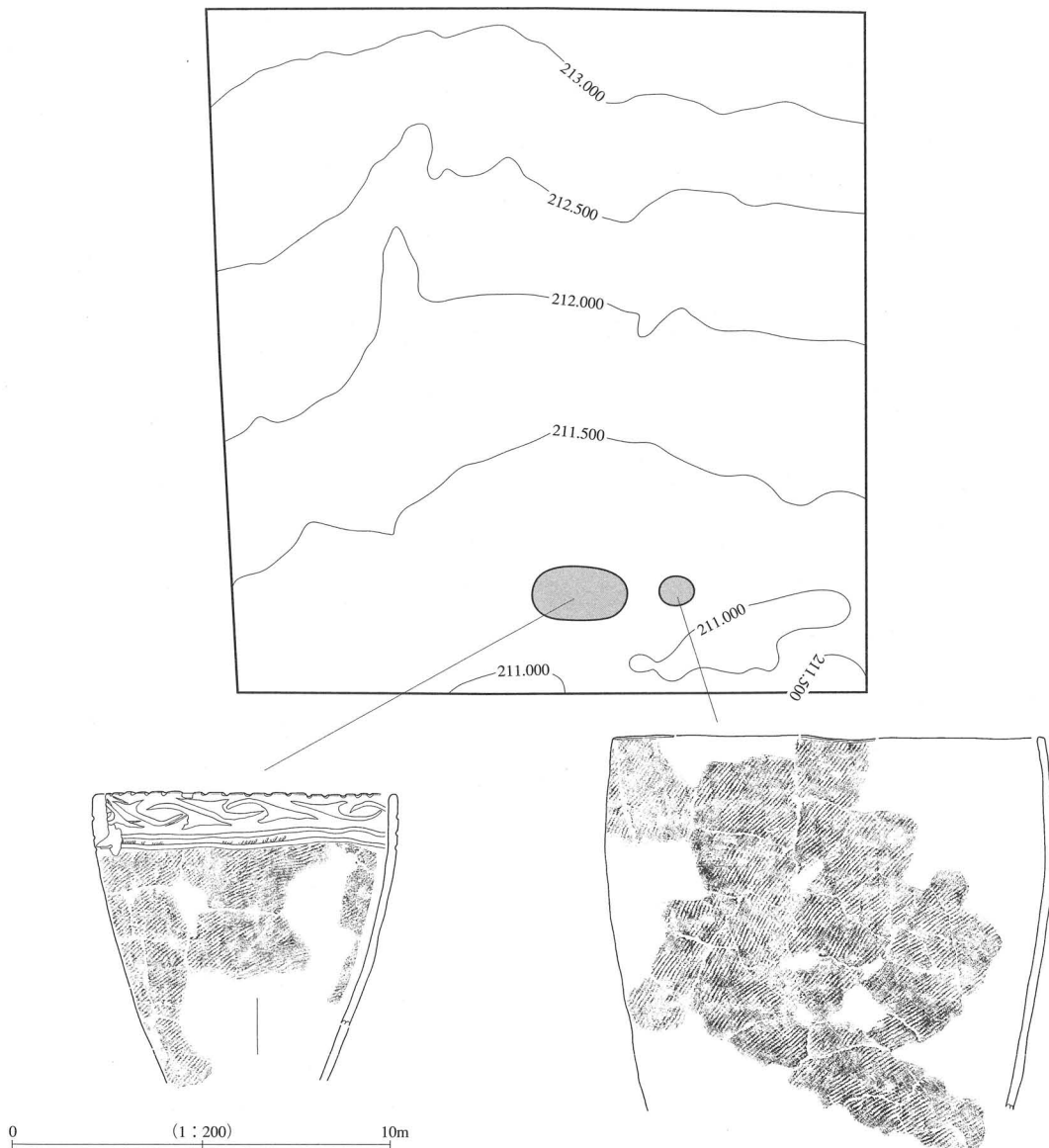
Ⅶ 中屋敷上遺跡の調査成果

1 概 略

本遺跡からは、遺構は検出されず、遺物のみがⅡ層中から出土している。Ⅲ層上面で風倒木が多数と南西から北東にかけて走る旧河道1条を確認しただけに留まっている。調査の結果、調査区の東際に急激に落ちていくことから本段丘の縁辺部であることが判明した。遺物はその縁辺部付近から出土している。

2 出土した遺物

遺物は土器のみでそれ以外は認められない。土器は180点、3913.3gであり、深鉢2個体分が認められた。それらは同一層及びグリッドからの出土である。



第70図 遺物出土状況

2 出土した遺物

1は深鉢Ⅷ類、大洞B2式に比定される。2は深鉢Ⅷ類、所属時期不明である。両者は器形が類似していることと出土位置と層位がほぼ同じであることから同時期に属すると考えられる。



第71図 遺構外出土遺物

第24表 土器観察表

遺物 No	図版 No	写図 No	登録 No	出土地点	層位	器種	分類	部位	外面文様	内面文様	地文	口唇部装飾	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
1	71	—	1	W II 15	II層	深鉢	Ⅷ	口縁~底部	磨消縄文		RL	刻み	23.3		23.2	
2	71	—	2	W II 5・25	II層	深鉢	Ⅷ	口縁~体部			RL		(34.0)		30	

Ⅷ ま と め

本書では、野里上Ⅱ遺跡と中屋敷上遺跡の報告を行ってきた。ここでは遺構と遺物が確認できた野里上Ⅱ遺跡のみをまとめておく。

1 遺 構

野里上Ⅱ遺跡では縄文時代の竪穴住居跡4棟、埋設土器1基、焼土遺構3基、中世以降の竪穴建物跡2棟、各時期の土坑20基が検出された。以下には遺構ごとに記載していく。

(1) 竪 穴 住 居 跡

竪穴住居は4棟検出された。縄文時代中期末～後期初頭が2棟（S I 01・02）、晩期末葉が2棟（S I 03・S I 04）である。それらを比較しておく。

前者は、平面形はほぼ円形～楕円形、規模は4～5mである。柱穴は全周することはなく、基本的には斜面下方に半円状に配置される。炉はS I 02の地床炉のみで、S I 01は流出していることから不明である。近接する仁昌寺Ⅱ遺跡で見られるような複式炉は確認されなかった。

後者は、平面形は楕円形、規模は4mと7mである。柱穴は配置が1棟は半周するもののと不規則に配置されている。S I 04は床面半分が流出したものと想定され、柱穴配列からほぼ円形に近い平面プランとなる。炉はそれぞれに伴い、S I 03は地床炉、S I 04は石囲炉である。

両者は検出数が少ないことから、上記の抽出した要素で比較したが差異は見出せない。違いがあると言えば立地場所のみで、前者は調査区南側の高い段丘、後者は一段低い北側の段丘上にあり、時期によって異なる場所に形成されていたことが窺えた。

(2) 竪 穴 建 物 跡

竪穴建物は2棟検出された。両者共に平面形は長方形、規模は長軸が3～5mである。規模共に類似しているものの、重複する上に調査区外へと延びていくため、不明な点が多い。軸線方向は等高線に平行している。S I 05のみ張り出し部を確認できたが、S I 06はS I 05に切られているため張り出し部そのものが確認できない。また、所属時期を特定できるような出土遺物は認められない。柱穴は壁際を全周するものと「コ字状」に配置されるものが確認されている。S I 06のみ西壁際、柱穴の内側に礫が一行に配置されており、一般的な利用とは異なる可能性がある。

(3) その他の遺構

埋設土器1基、焼土遺構3基、土坑20基が検出された。埋設土器と焼土遺構は縄文時代である。土坑は縄文時代が10基、時期不明が10基である。

基本的に時期が特定できるものはS R 01の大木10式のみで、残りは主体埋土層及び検出層位から判断している。

(4) 遺物出土ブロック

遺物出土ブロックは4カ所認められた。ブロック2において遺物が最も多く出土しており、1・

4・3と少なくなっていく。本文中に記載した通り、ブロック1・4が形成された主体時期は、近接した竪穴住居の所属時期とほぼ一致していることが判明した。ブロック3はブロック1の斜面下方に形成されていることから、そこから流出したものと思われる。ブロック2は遺物が最も多く出土しているものの、周辺に遺構が存在しないことから調査区外にその存在が想定される。

2 遺 物

縄文時代中期末から弥生時代前期にかけての土器と石器が出土した。これらの遺物は大半が包含層からの出土で、遺構に伴うものは少ない。土器は複数の土器群が確認できたことから、各まとまりごとに、石器は特徴を抽出できたことのみを記載しておく。

(1) 土 器

土器は縄文時代中期末から晩期に属するものであった。調査区の南北で出土傾向が大きく異なり、調査区南側では縄文時代中期末から後期初頭、調査区北側では縄文時代晩期と主体とする時期が認められる。調査区南側は主にⅠ群は大木10式、Ⅱ群は馬立式が中心、Ⅲ群は大洞BC～C1式がある。調査区北側では大洞A・A'式が中心である。Ⅰ～Ⅲ群の土器を下記にまとめておく。今回Ⅱ群を設定するにあたって馬立式を用いた理由として、後期初頭の土器群が馬立遺跡や青久保遺跡に類似資料が認められ、かつ鈴木氏が述べている特徴と合致するものが多く存在していることから、ここではその名称を使用している（鈴木2001）。

Ⅰ群はS I 01・02とブロック1・2で認められる。完形品が少なく口縁部及び体部片が多いことから、器形は不明なものが多い。確認できたものは深鉢Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類である。口縁部が平縁と波状口縁がある。文様は鱗状突起を有するもの、S字状、逆U字が施文されているものが認められる。このようなことから当該型式の中でも古いものが多く、隆帯貼付と刺突列を伴うような新しいものの存在は少ない。今回は当該型式に含めたがⅡ群の可能性のある橋状把手を有するものもある。

Ⅱ群はS I 01・02とブロック1・2で認められる。完形品がほとんどないことから、器形は不明なものが多い。口縁部が平縁と波状縁がある。文様は左右対称のコ字状の文様、ノ字隆帯貼付、口縁部に縄文が施文され、その下位に楕円形もしくは方形文や沈線が巡らされているもの、J字文・三角文の磨消縄文と連弧文の組合せ、J字列と斜・横位の縄文帯の組合せが認められる。ただし、本文中にも記載しているが97・125、135・136、137・138・140のように馬立式以外と思われる型式も含まれ、複数型式が混在している様相が窺える。

Ⅲ群は主にS I 05・06とブロック4で認められる。先述したように大洞A・A'式が中心である。鉢・壺類が主体を占める。文様は工字文・変形工字文・矢羽根状沈線文が認められる。

それ以外には二枚橋式に比定される土器がS I 05から出土している。

このように本遺跡ではⅠ・Ⅱ群の中に複数型式が混在しているが、大半は包含層からの出土であるため共伴関係を積極的には論じられない。これらの共伴及び馬立式前後の資料の検討については今後の課題である。

(2) 石 器

石器は剥片石器及び礫石器の出土点数が少ないことから、各時期ごとに対比できず傾向は捉えられなかった。楔形石器が特定の住居から多く出土していることと、石器石材は時期を問わず頁岩が使用

されているという特徴が窺えた。

石材は頁岩が最も高い割合を占め、成果が得られている仁昌寺Ⅱ遺跡とほぼ同様の傾向にある。今回出土した石材であるチャートと頁岩などは自然面を有する剥片が多いことから、当該地域周辺に原産地が存在していることが想定される。

砥石が遺構外から1点出土しているが形状から古代以降のものと考えられる。遺物の周辺には竪穴建物が唯一その時期の遺構として確認できることから、それに帰属するもので中世の可能性がある。

3 竪穴建物跡の検討

今回の調査では中世に位置づけられる竪穴建物跡を2棟検出した。本遺跡の所在する一戸町内を範囲として、これまでに行われた発掘調査で記録されている中世の竪穴建物・竪穴住居跡・竪穴状遺構・工房跡（工房関連施設）・鍛冶工房跡について分類を試み、傾向が把握できるかを分析した。なお一般的に竪穴建物に類似する形状を持つものも分析対象としている。

分類項目、及び記号は以下に示す3項目である。なお、記録にある計測値の中には推定や残存値のものもあったが、確認できる範囲でそれぞれの項目を判断した。

1) 竪穴建物の形状	2) 張り出し部	3) 柱穴配列
I : $1 \leq \text{長軸} / \text{短軸} \leq 1.1$ の方形	A : 有	0 : 柱穴が無い
II : $1.1 < \text{長軸} / \text{短軸}$ の長方形	B : 無	1 : 壁際付近の周囲に配列
* : 不明	* : 不明	2 : 1以外に中心付近にも配列
		* : 不明

この分類の他に第25表の中では長軸と短軸の計測値に推定や残存値の含まれない竪穴建物について長軸×短軸で求めたおよその面積、そして立地状況を示すため等高線に対し竪穴建物の長軸方向が平行ないし直行するかの以上2項目を参考として追記している。尚、立地に関して形状が方形に分類されるものは張り出し部のある方向を長軸とした。

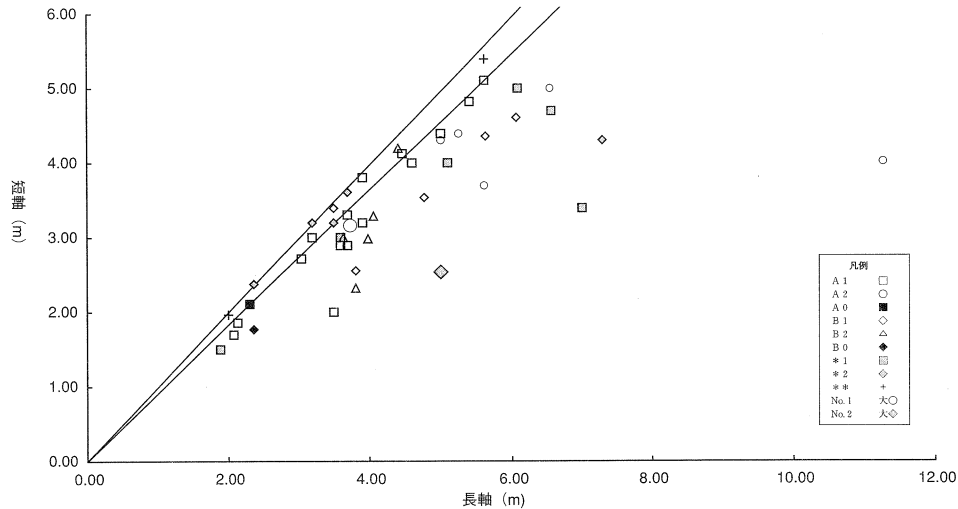
第25表において今回対象とした資料を個々に観察したが関係性は認められなかった。竪穴建物が造られる際、機能を目的とした上で立地という土地環境を意識した要素が含まれる可能性は考慮される。

第25表を元に作成した第72図から竪穴建物の規模は軸の長さが2m程度の小規模グループ、3.8m程度で多くの資料が分布する中規模グループ、4.2m以上になる大規模グループの合計3グループに大きく分けられる。分類別では長軸と短軸の比は規模に関わらずA1類、B1類がそれぞれ一定の値を示すが、A2類は長軸と短軸の比に関わらず規模が20㎡以上に限られ、B2類の長軸の長さは概ね4m程度となる。そして全ての竪穴建物の傾向として、規模が大きくなるにつれ形状は長方形に移行することが認められる。また、竪穴建物の特徴を鍛冶工房や倉庫といった機能への規格的要素に置換できるか観察を試みたが、関連性を認めることは出来なかった。機能についてはむしろ炉や貯蔵穴などの付属施設、もしくは出土遺物から想定される事項と捉えられる。

このような傾向が認められる中で本遺跡で検出されたS I 05・06がどのような性格であったかを検討していきたい。S I 05と06は、それぞれI A2とI * 1に分類される。事実記載でも述べたように遺物が出土せず、試みた分類からも傾向を読み取ることができなかったため、本遺構の性格は不明と言わざるを得ない。ただし、S I 05は一般的な形態を呈しているが、S I 06は先述したような礫の配列は町内には類例が認められなかったことから、一般的な様相とは異なり何らかに使用された可能性

第25表 一戸町内の堅穴建物跡集成表

No.	道跡名	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	長軸×短軸	長軸／短軸	堅穴建物跡の形状	立地	出土品	付属施設	柱穴配列	分類	備考	報告書発行年	調査機関
1	野上上道跡	S I 05	3.16	3.16	—	1.183	長方形	平行	—	—	中	II A 2	—	—	—
2	野上上道跡	S I 06	4.99	2.54	12.6746	1.964	長方形	平行	—	—	中	II B 2	—	—	—
3	仁昌寺上道跡	1号堅穴建物跡	(4.45)	(4.13)	—	1.077	方形	平行	—	—	中	II A 1	—	工房?	(財) 岩文理
4	仁昌寺上道跡	2号堅穴建物跡	5.25	4.30	23.1000	1.193	長方形	平行	—	—	中	II A 2	—	—	2002 (財) 岩文理
5	仁昌寺上道跡	3号堅穴建物跡	4.65	3.28	13.1368	1.227	長方形	平行	—	—	中	II B 2	—	—	2002 (財) 岩文理
6	仁昌寺上道跡	4号堅穴建物跡	5.62	4.35	24.4470	1.291	長方形	平行	—	—	中	II B 1	—	—	2002 (財) 岩文理
7	仁昌寺上道跡	5号堅穴建物跡	4.76	3.54	16.8804	1.344	長方形	平行	—	—	中	II B 2	—	—	2002 (財) 岩文理
8	仁昌寺上道跡	6号堅穴建物跡	3.63	(3.00)	—	1.210	長方形	平行	—	—	中	II B 1	—	—	2002 (財) 岩文理
9	仁昌寺上道跡	1号工房跡	6.07	4.60	27.9220	1.319	長方形	平行	—	—	中	II B 2	—	—	2002 (財) 岩文理
10	仁昌寺上道跡	1号工房跡	8.00	(3.80)	—	—	—	—	—	—	中	II B 2	—	—	2000 (財) 岩文理
11	上野道跡	IA-1 堅穴住居跡	(4.40)	—	—	—	—	—	—	—	中	II B 2	—	—	2000 (財) 岩文理
12	上野道跡	IA-2 堅穴住居跡	(6.00)	—	—	—	—	—	—	—	中	II B 2	—	—	2000 (財) 岩文理
13	上野道跡	ID-1 堅穴住居跡	(1.80)	1.50	—	1.266	長方形	直行	—	—	中	II B 1	—	—	2000 (財) 岩文理
14	上野道跡	ID-4 堅穴住居跡	(3.70)	(3.60)	—	1.027	方形	—	—	—	中	II A 1	—	—	2000 (財) 岩文理
15	上野道跡	ID-15 堅穴住居跡	2.15	1.85	3.9775	1.162	長方形	直行	—	—	中	II A 1	—	—	2000 (財) 岩文理
16	上野道跡	ID-13 堅穴住居跡	(3.74)	—	—	—	—	—	—	—	中	II B 2	—	—	2000 (財) 岩文理
17	上野道跡	II D-1 堅穴住居跡	3.50	3.40	11.9000	1.029	方形	—	—	—	中	II B 1	—	—	1982 戸町教育委員会
18	戸成跡	S I 02 堅穴米遺構	5.00	4.40	22.0000	1.136	長方形	直行	—	—	中	II A 1	—	—	1982 戸町教育委員会
19	戸成跡	S I 22 堅穴米遺構	2.38	(2.38)	—	1.000	方形	—	—	—	中	II B 2	—	—	1982 戸町教育委員会
20	戸成跡	S I 23 堅穴米遺構	(2.00)	1.96	—	1.020	方形	—	—	—	中	II B 2	—	—	1982 戸町教育委員会
21	戸成跡	S I 06 堅穴米遺構	3.99	2.99	11.9301	1.334	長方形	平行	—	—	中	II A 2	—	—	1982 戸町教育委員会
22	戸成跡	S I 07 堅穴米遺構	5.60	(3.70)	—	1.513	長方形	平行	—	—	中	II A 2	—	—	1982 戸町教育委員会
23	戸成跡	S I 08 堅穴米遺構	(5.00)	4.30	—	1.162	長方形	平行	—	—	中	II A 2	—	—	1982 戸町教育委員会
24	戸成跡	S I 09 堅穴米遺構	—	—	—	—	—	—	—	—	中	II A 2	—	—	1982 戸町教育委員会
25	戸成跡	S I 11 堅穴米遺構	(3.30)	—	—	—	—	—	—	—	中	II A 2	—	—	1982 戸町教育委員会
26	戸成跡	S I 14 堅穴米遺構	4.40	4.20	18.4800	1.047	方形	—	—	—	中	II B 2	—	—	1982 戸町教育委員会
27	戸成跡	S I 15 堅穴米遺構	(3.50)	(3.20)	—	1.093	方形	—	—	—	中	II B 2	—	—	1982 戸町教育委員会
28	戸成跡	S I 16 堅穴米遺構	(1.40)	—	—	—	—	—	—	—	中	II B 2	—	—	1982 戸町教育委員会
29	戸成跡	S I 20 堅穴米遺構	3.90	2.20	12.4800	1.218	長方形	平行	—	—	中	II A 1	—	—	1984 戸町教育委員会
30	戸成跡	S I 21 堅穴米遺構	3.70	2.90	10.7300	1.275	長方形	平行	—	—	中	II A 1	—	—	1985 戸町教育委員会
31	戸成跡	S I 28 堅穴米遺構	(3.20)	3.20	—	1.000	方形	—	—	—	中	II A 2	—	—	1985 戸町教育委員会
32	戸成跡	S I 28 堅穴米遺構	(3.50)	2.00	—	1.750	長方形	直行	—	—	中	II A 1	—	—	1985 戸町教育委員会
33	戸成跡	S I 28 堅穴米遺構	3.90	3.80	14.8200	1.026	方形	平行	—	—	中	II A 1	—	—	1985 戸町教育委員会
34	戸成跡	S I 27 堅穴米遺構	3.70	3.30	12.2100	1.121	長方形	平行	—	—	中	II A 1	—	—	1986 戸町教育委員会
35	戸成跡	S I 29 堅穴米遺構	(7.00)	(3.40)	—	2.058	長方形	—	—	—	中	II B 1	—	—	1986 戸町教育委員会
36	戸成跡	S I 30 堅穴米遺構	(9.00)	—	—	—	—	—	—	—	中	II B 1	—	—	1986 戸町教育委員会
37	戸成跡	S I 31 堅穴米遺構	(6.56)	4.70	—	1.395	長方形	直行	—	—	中	II B 1	—	—	1987 戸町教育委員会
38	戸成跡	S I 01 堅穴米遺構	(3.20)	(3.00)	—	1.066	方形	直行	—	—	中	II A 1	—	—	1988 戸町教育委員会
39	戸成跡	S I 02 堅穴米遺構	6.54	(5.00)	—	1.308	長方形	直行	—	—	中	II A 2	—	—	2003 戸町教育委員会
40	戸成跡	S I 04 堅穴米遺構	5.40	4.83	26.0920	1.118	長方形	直行	—	—	中	II A 1	—	—	2003 戸町教育委員会
41	戸成跡	S I 05 堅穴米遺構	6.08	(5.00)	—	1.216	長方形	直行	—	—	中	II B 1	—	—	2003 戸町教育委員会
42	戸成跡	S I 07 堅穴米遺構	4.69	—	—	—	—	—	—	—	中	II B 1	—	—	2003 戸町教育委員会
43	戸成跡	S I 09 堅穴米遺構	—	—	—	—	—	—	—	—	中	II B 1	—	—	2003 戸町教育委員会
44	戸成跡	S I 10 堅穴米遺構	4.16	—	—	—	—	—	—	—	中	II A 1	—	—	2003 戸町教育委員会
45	戸成跡	S I 13 堅穴米遺構	(6.00)	—	—	—	—	—	—	—	中	II A 1	—	—	2003 戸町教育委員会
46	戸成跡	S I 14 堅穴米遺構	—	—	—	—	—	—	—	—	中	II B 1	—	—	2003 戸町教育委員会
47	戸成跡	S I 17 堅穴米遺構	—	—	—	—	—	—	—	—	中	II B 1	—	—	2003 戸町教育委員会
48	戸成跡	S I 19 堅穴米遺構	—	—	—	—	—	—	—	—	中	II B 1	—	—	2003 戸町教育委員会
49	戸成跡	S I 20 堅穴米遺構	(4.90)	—	—	—	—	—	—	—	中	II A 2	—	—	2004 戸町教育委員会
50	戸成跡	S I 22 堅穴米遺構	11.28	4.02	45.3456	2.805	長方形	直行	—	—	中	II A 2	—	—	2004 戸町教育委員会
51	戸成跡	S I 23 堅穴米遺構	2.88	—	—	—	—	—	—	—	中	II B 2	—	—	1989 戸町教育委員会
52	戸成跡	S I 23 堅穴米遺構	3.05	2.71	8.2655	1.125	長方形	平行	—	—	中	II A 1	—	—	1989 戸町教育委員会
53	師帯城跡	血区 S I 01 堅穴米遺構	2.31	2.10	4.8510	1.100	長方形	平行	—	—	中	II A 0	—	—	1989 戸町教育委員会
54	師帯城跡	血区 S I 03 堅穴米遺構	3.80	2.56	9.7280	1.484	長方形	平行	—	—	中	II B 1	—	—	1989 戸町教育委員会
55	師帯城跡	血区 S I 04 堅穴米遺構	2.38	1.76	4.1888	1.352	長方形	直行	—	—	中	II B 0	—	—	1989 戸町教育委員会
56	師帯城跡	血区 S I 05 堅穴米遺構	—	—	—	—	—	—	—	—	中	II B 1	—	—	1989 戸町教育委員会
57	師帯城跡	血区 S I 06 堅穴米遺構	—	—	—	—	—	—	—	—	中	II A 1	—	—	1989 戸町教育委員会
58	師帯城跡	血区 S I 07 堅穴米遺構	2.08	1.70	3.5360	1.223	長方形	平行	—	—	中	II A 1	—	—	1989 戸町教育委員会
59	師帯城跡	N 区 S I 01 堅穴米遺構	(3.10)	(2.26)	—	—	—	—	—	—	中	II B 1	—	—	1989 戸町教育委員会
60	師帯城跡	N 区 S I 02 堅穴米遺構	(1.68)	(1.30)	—	—	—	—	—	—	中	II B 1	—	—	1989 戸町教育委員会
61	師帯城跡	N 区 S I 03 堅穴米遺構	(2.62)	(1.40)	—	—	—	—	—	—	中	II B 1	—	—	1989 戸町教育委員会
62	師帯城跡	N 区 S I 04 堅穴米遺構	(5.10)	(4.00)	—	—	—	—	—	—	中	II B 1	—	—	1989 戸町教育委員会
63	師帯城跡	A 9 堅穴米遺構	(3.60)	(3.00)	—	—	—	—	—	—	中	II B 1	—	—	1989 戸町教育委員会
64	鳥越船跡	A 9 堅穴米遺構	(5.60)	(5.40)	—	1.037	方形	—	—	—	中	II B 1	—	—	1989 戸町教育委員会
65	鳥越船跡	A 9 堅穴米遺構	—	—	—	—	—	—	—	—	中	II B 1	—	—	1989 戸町教育委員会
66	鳥越船跡	B 1 堅穴米遺構	4.60	4.00	18.4000	1.150	長方形	平行	—	—	中	II A 1	—	—	1989 戸町教育委員会
67	鳥越船跡	B 1 堅穴米遺構	5.60	5.10	28.5600	1.098	長方形	直行	—	—	中	II A 1	—	—	1989 戸町教育委員会
68	北館B遺跡	A 1 堅穴米遺構	3.50	(2.36)	—	—	—	—	—	—	中	II A 1	—	—	1978 戸町教育委員会
69	北館B遺跡	B 10 堅穴米遺構	7.30	4.30	—	1.697	長方形	直行	—	—	中	II A 1	—	—	1978 戸町教育委員会
70	北館B遺跡	B 10 堅穴米遺構	(3.60)	2.90	—	1.241	長方形	直行	—	—	中	II A 1	—	—	1978 戸町教育委員会
71	田中3遺跡	D G C 堅穴米遺構	(3.60)	2.90	—	—	—	—	—	—	中	II A 1	—	—	1978 戸町教育委員会
72	田中4遺跡	B G C 鍛冶工房跡	3.80	2.32	8.8160	1.637	長方形	直行	—	—	中	II B 2	—	鍛冶工房跡	1978 戸町教育委員会



第72図 竪穴建物跡散布図

が考えられる。よって両者は時間差と共に利用方法も異なって建てられたと想定される。今回は竪穴建物が単独で有している特徴のみを抽出し傾向を分析したが、複数で構成される集団内での相互関係からの特徴も付加した分析をする必要を感じる。

4 ま と め

各時期ごとにまとめ、周辺遺跡の成果と合わせてその変遷を把握したい。野里上Ⅱ遺跡は段丘の高低により確認できた遺構時期が違うことから、時期により占地する段丘が異なっていたことが捉えられる。

縄文時代：後期は調査区南側の段丘、晩期は調査区北側の段丘である。周辺の成果が得られている仁昌寺Ⅱ遺跡は調査区南側とほぼ同一の段丘上にあることから中期末には当該地域では河川の両脇に形成された低い河岸段丘より上位段丘を占地している。また晩期には平糠川の両岸に形成された調査区南側とほぼ同様の低い段丘面を利用し、それ以降は低い面を主体に占地していたことが明らかになった。このことは野里上遺跡・野中遺跡など同一段丘面に存在する遺跡から、古代以降の遺構・遺物が確認されていることから窺える。縄文時代は時期ごとに異なる段丘を利用しながら生活していることが明らかになった。

中世：本遺跡、仁昌寺遺跡、五月館は中世に機能しており、当該地区の高位段丘面が広く利用されていたことが窺える。この小鳥谷地区は、平糠川を北上していくと突如開け狭小ではあるものの平坦部が存在することから、古代以降は交通の要所であったと考えられるため、中世においても同様の役割を担っていたものと思われる。当然そのような意図から五月館が作られた可能性が高いと考えられ、当該地区が重要な拠点であったことは容易に想像できる。それ以後、小鳥谷地区は誰の支配下にあったとしても、要所として扱われていた可能性が高い。このことから先述したように本遺跡で検出された竪穴建物は他の遺跡と同様、これらの時代背景の中で役割を果たしていたものと考えられる。

このように今回の調査成果と過去の成果を合わせた結果、小鳥谷地区は縄文時代以降、様々な要因によって、この狭い空間の中で移動させながら連綿と生活している土地であったことが窺えた。

参考文献

(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターを岩文埋とする。)

- 岩文埋 1987 『青ノ久保遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第118集
 岩文埋 1987 『平沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第125集
 岩文埋 1987 『馬立Ⅰ・太田遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第123集
 岩文埋 1987 『馬立Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第122集
 岩文埋 2000 『上野遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第359集
 岩文埋 2002 『仁昌寺Ⅱ遺跡・仁昌寺遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第400集
 岩文埋 2003 『五月館跡・仁昌寺Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第424集
 八戸市教育委員会 1988 『田面木平遺跡(1)』八戸市埋蔵文化財調査報告書第20集
 青森県埋蔵文化財センター 1986 『沖附(2)遺跡』青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第101集
 一戸町教育委員会 1982 『一戸町史誌』
 一戸町教育委員会 1978 『一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書-I-』一戸町文化財調査報告書1
 一戸町教育委員会 1982 『一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書-II-』一戸町文化財調査報告書2
 一戸町教育委員会 1984 『一戸城跡』一戸町文化財調査報告書8
 一戸町教育委員会 1985 『一戸城跡』一戸町文化財調査報告書12
 一戸町教育委員会 1986 『一戸城跡』一戸町文化財調査報告書15
 一戸町教育委員会 1987 『上野遺跡・一戸城跡』一戸町文化財調査報告書18
 一戸町教育委員会 1998 『町内遺跡発掘調査報告書』一戸町文化財調査報告書第39集
 一戸町教育委員会 1989 『鳥越館跡』一戸町文化財調査報告書第21集
 一戸町教育委員会 1999 『姉帯城跡』一戸町文化財調査報告書第41集
 一戸町教育委員会 2003 『平成13・14年度 町内遺跡発掘調査報告書』一戸町文化財調査報告書第45集
 一戸町教育委員会 2004 『平成15年度 町内遺跡発掘調査報告書』一戸町文化財調査報告書第49集
 鈴木克彦 2001 『北日本の縄文時代後期土器編年の研究』 雄山閣
 鈴木克彦 2000 「東北地方北半部の中期・後期区分に関する編年学的研究(上)」『縄文時代』第11号
 鈴木克彦 2001 「東北地方北半部の中期・後期区分に関する編年学的研究(下)」『縄文時代』第12号
 本間宏 1987 「縄文時代後期初頭の土器群の研究(1) - 東北地方北部を中心に -」『よねしろ考古』第3号
 池谷信之 1988 「東北地方における縄文時代中期末葉土器の変遷と後期土器の成立」『沼津市博物館紀要』12
 海峡土器編年研究会 2004 『第2回東北・北海道の縄文時代中期後葉の諸問題』
 柳澤清一 1987 「東北縄文中後期編年の諸問題 その1 中期末葉の編年(上)」『古代』第84号
 柳澤清一 1988 「大木10式土器論」続考 『北奥古代文化』第19号
 柳澤清一 1988 「東北縄文中後期編年の諸問題 その1 中期末葉の編年(中)」『古代』第85号
 柳澤清一 1991 「東北縄文中後期編年の諸問題 」『古代』第88号

写真図版





写真図版1 遺跡遠景



野里上Ⅱ遺跡 調査区南側



野里上Ⅱ遺跡 調査区北側



中屋敷上遺跡

SI01 完掘



SI01 断面



SI01 遺物出土状況





SI02 完掘



SI02 断面



SI02 遺物出土状況

SI03 完掘



SI04 完掘

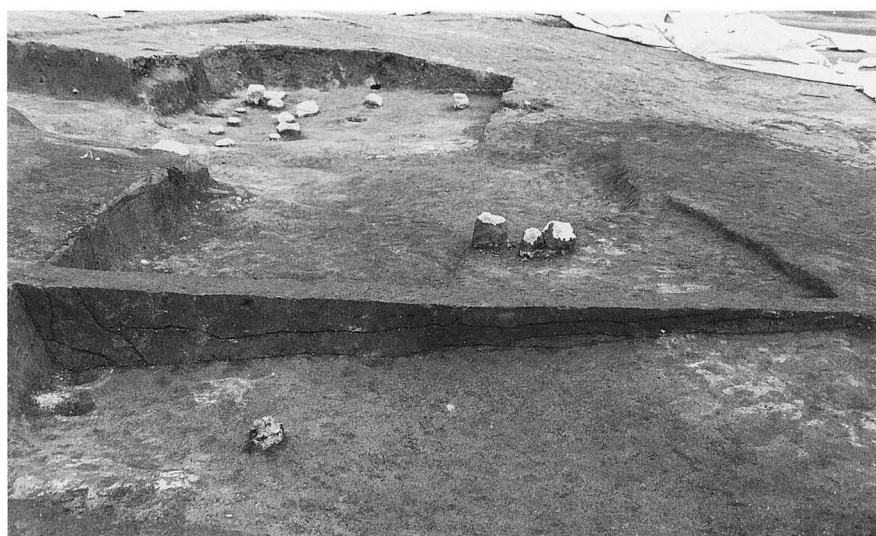


SI04 断面





SI05 完掘



SI05 断面



作業風景

SI06 完掘



SI06 断面





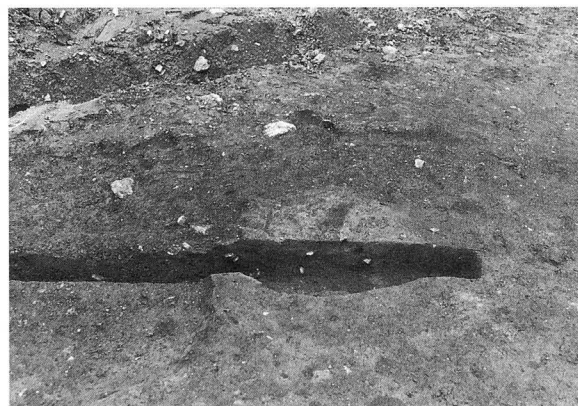
SR01 検出



SR01 断面



SN01 検出



SN02 断面



SN03 検出



SK01 完掘



SK02 完掘



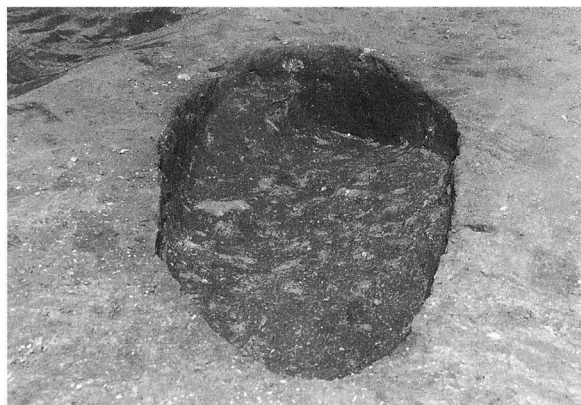
SK03 完掘



SK04 完掘



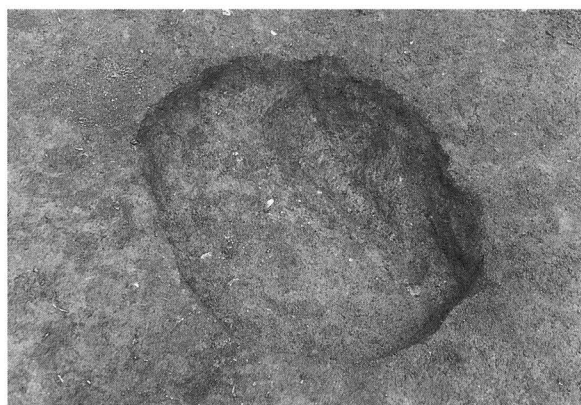
SK05 完掘



SK06 完掘



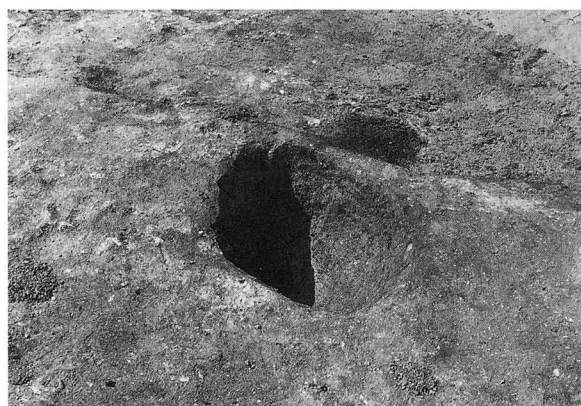
SK07 完掘



SK08 完掘



SK09 完掘



SK10 完掘



SK12 完掘



SK13 完掘



SK14 完掘



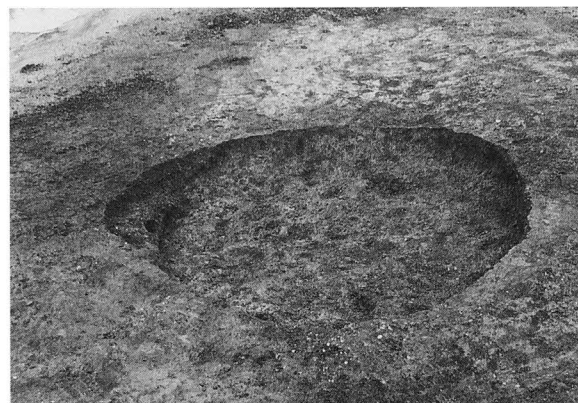
SK15 完掘



SK16 完掘



SK17 完掘



SK18 完掘



SK19 完掘



SK20 完掘

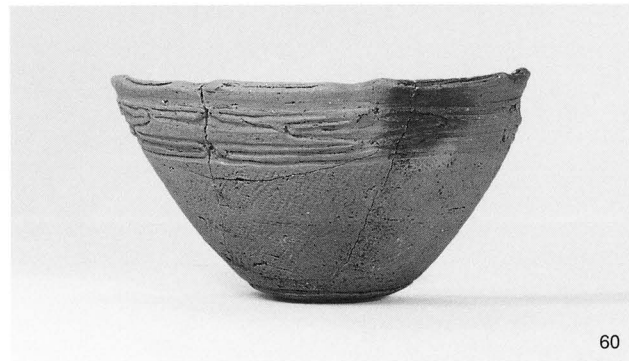
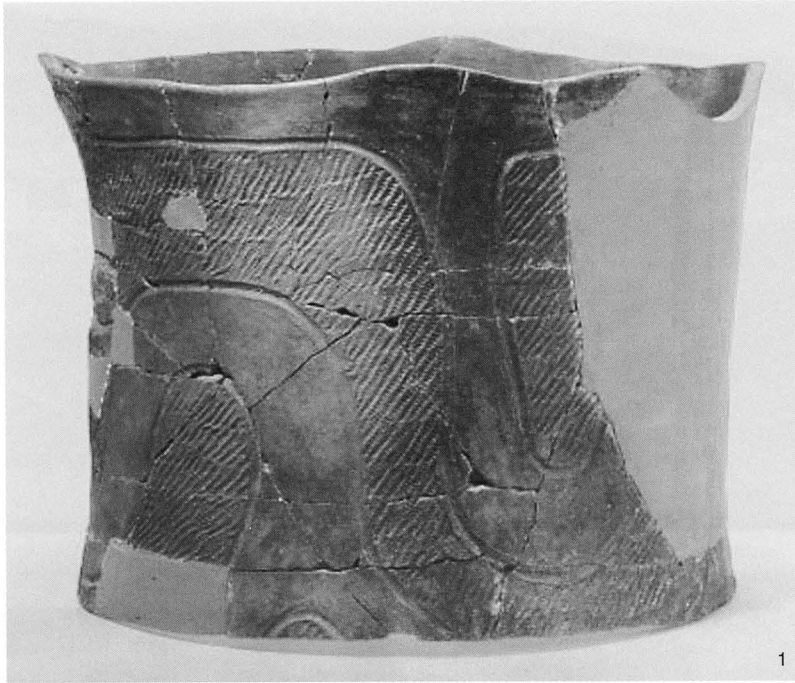
完掘



中屋敷上遺跡

基本層序

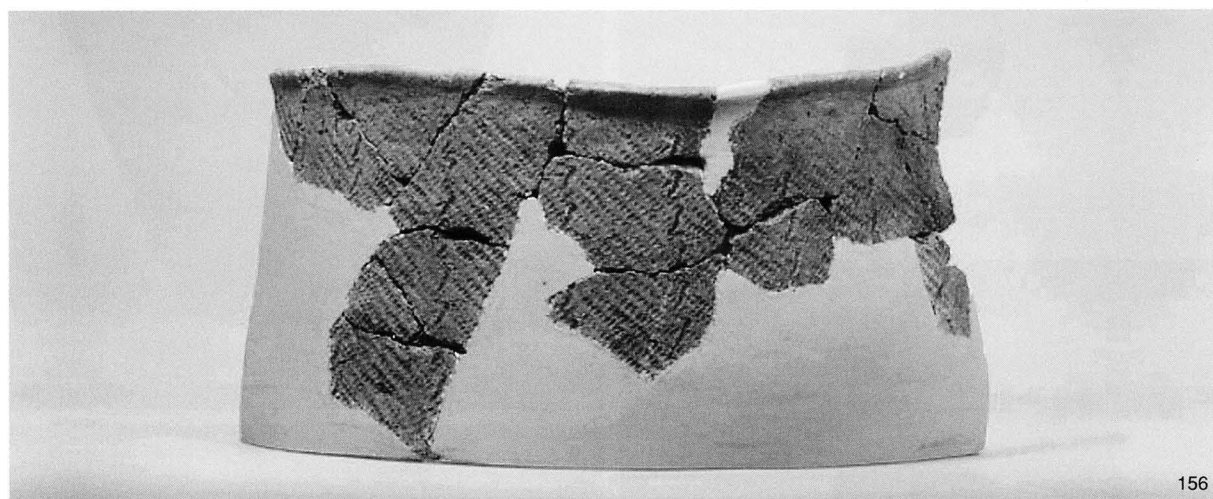




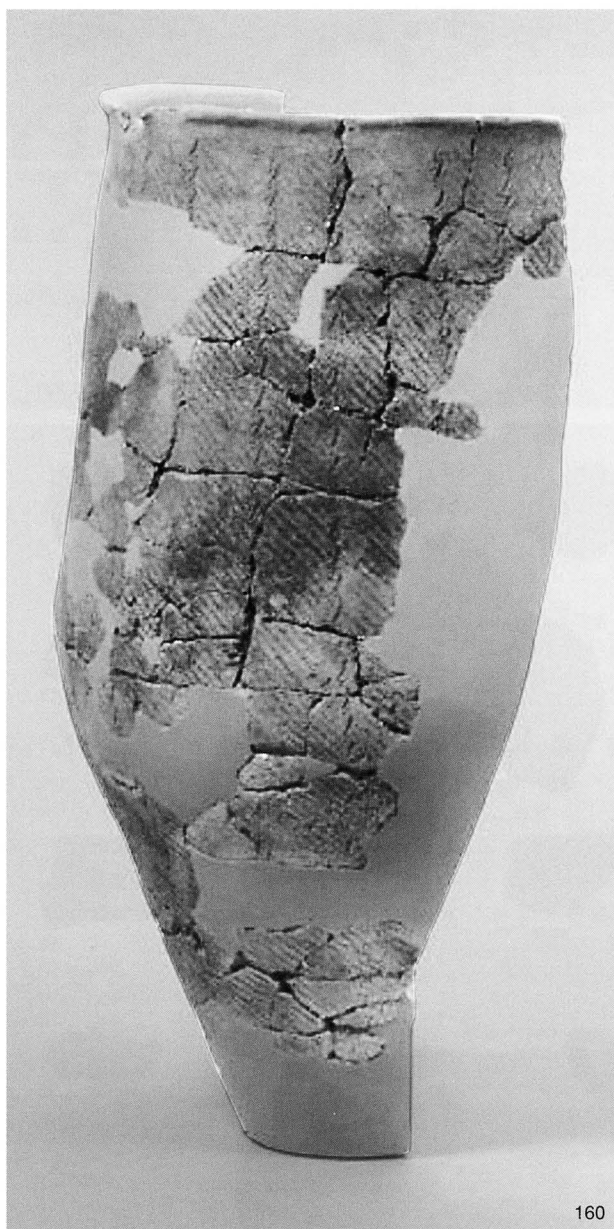
写真図版12 出土土器 (1)



写真図版13 出土土器 (2)



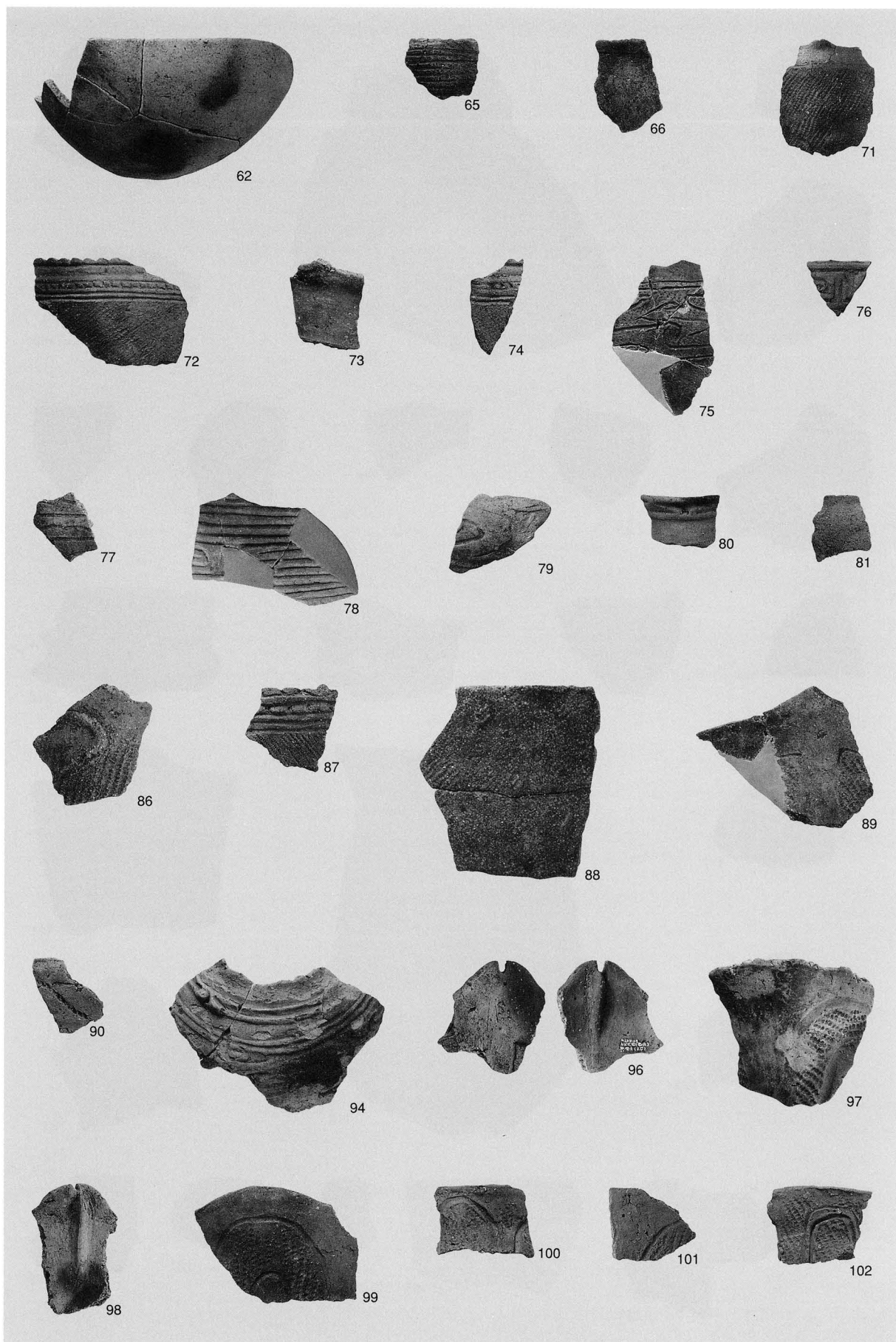
写真図版14 出土土器 (3)



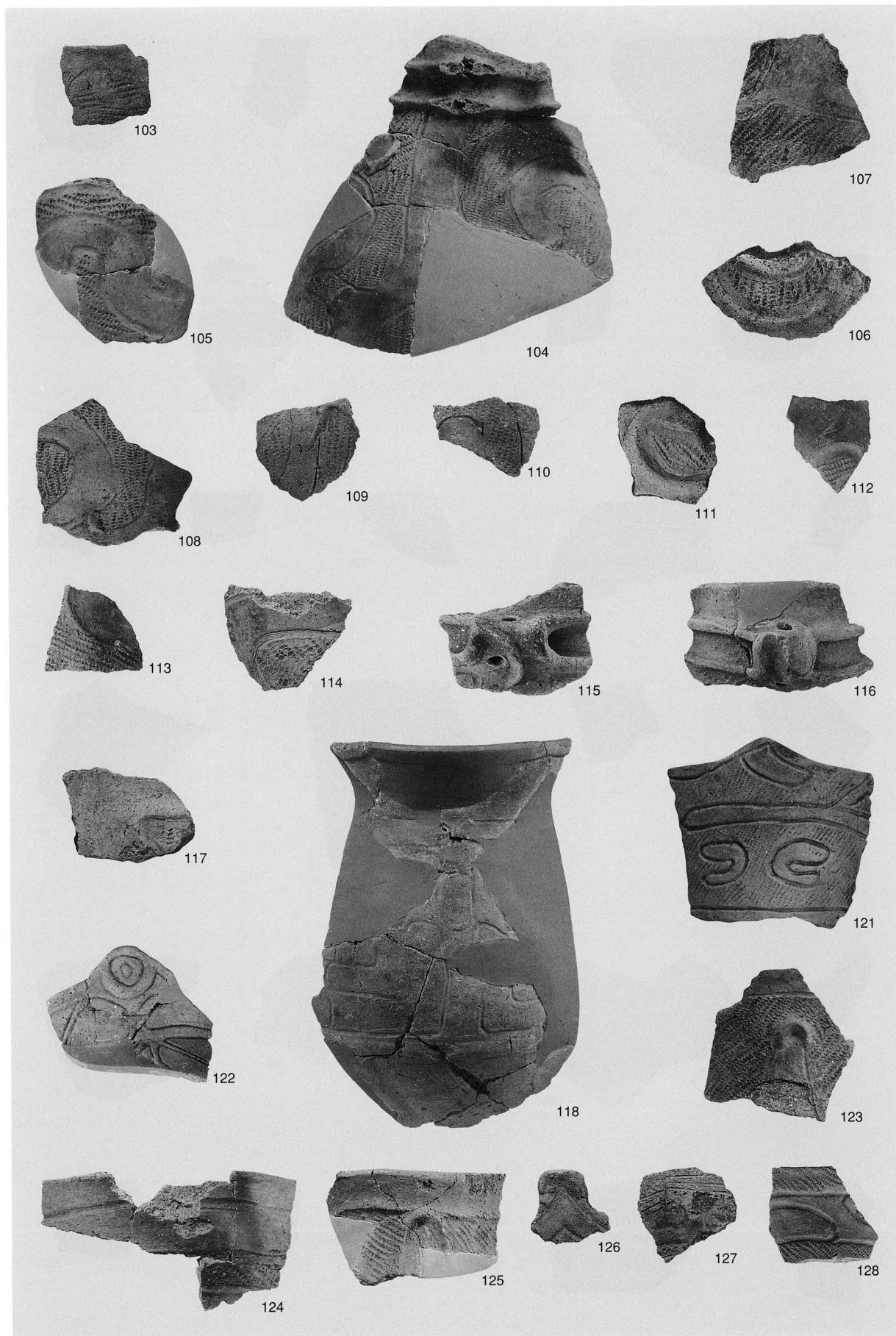
写真図版15 出土土器(4)



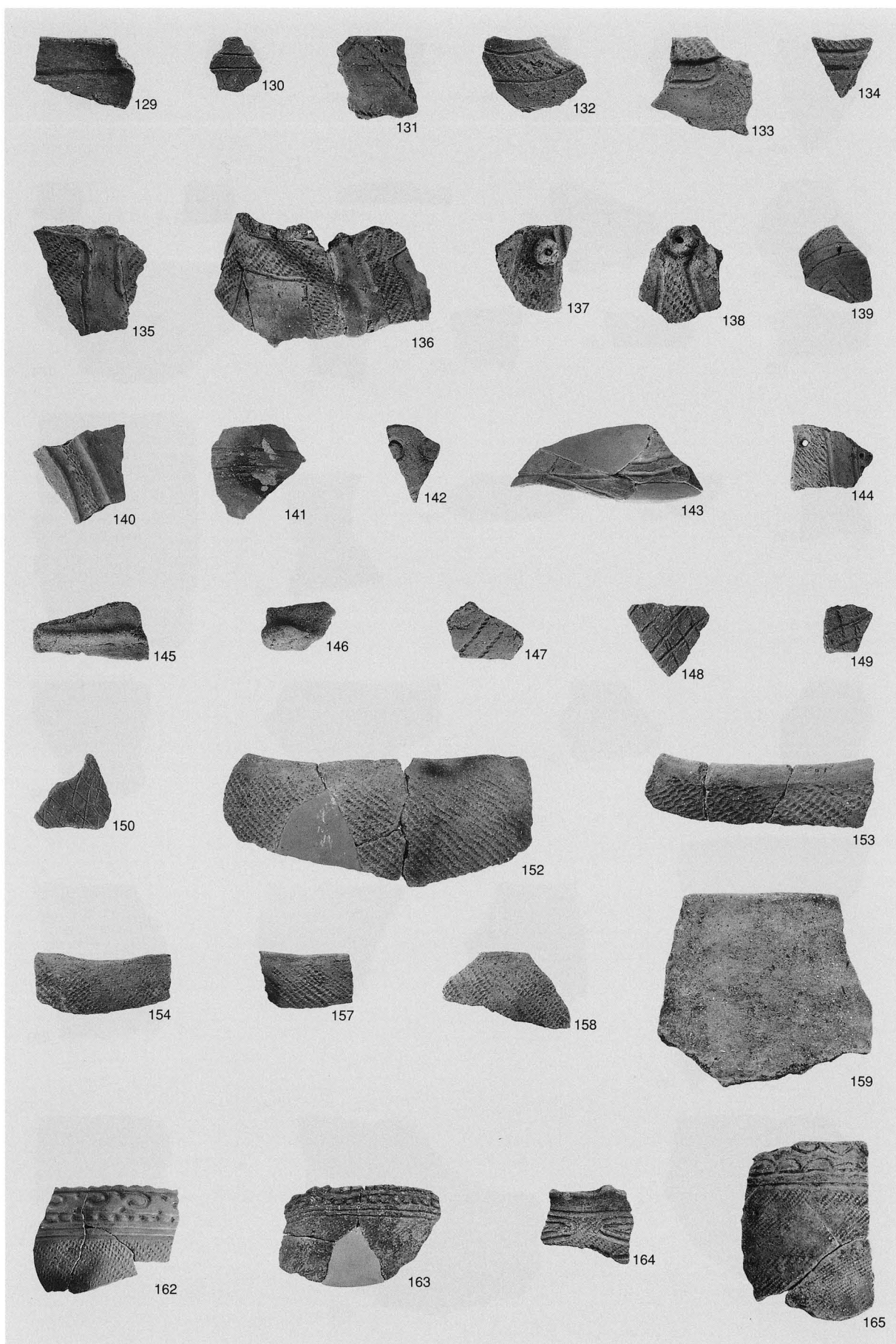
写真図版16 出土土器 (5)



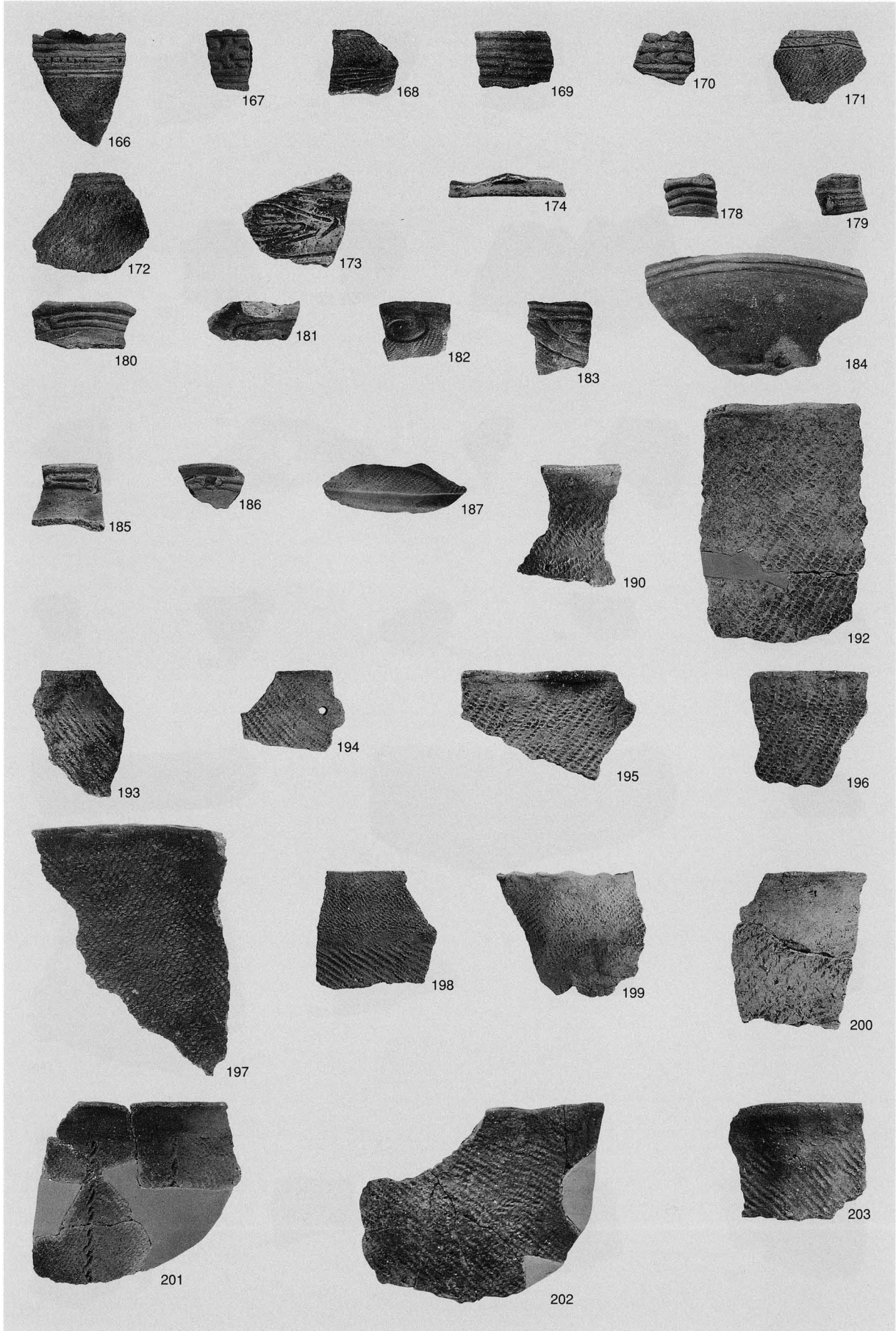
写真図版17 出土土器 (6)



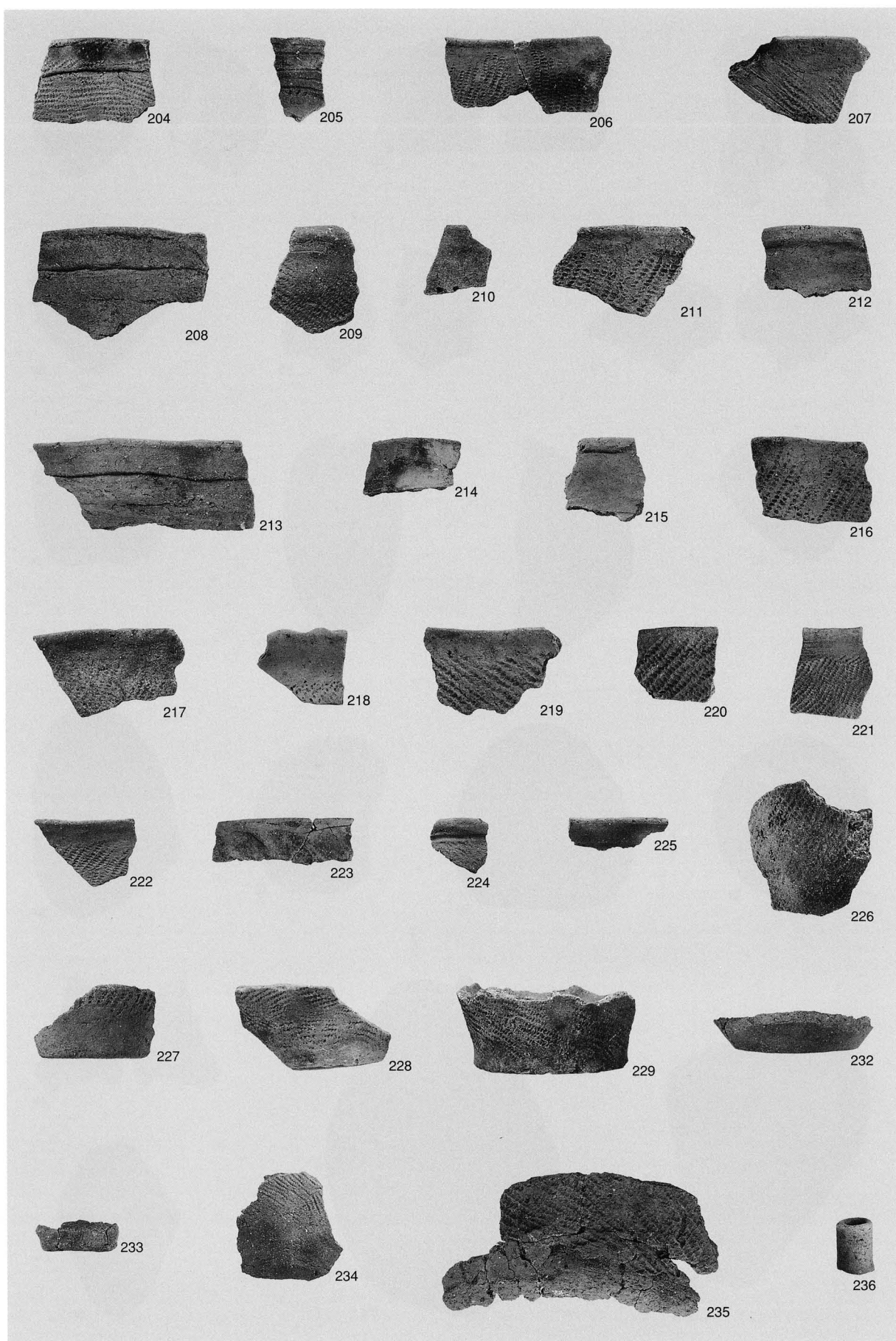
写真図版18 出土土器 (7)



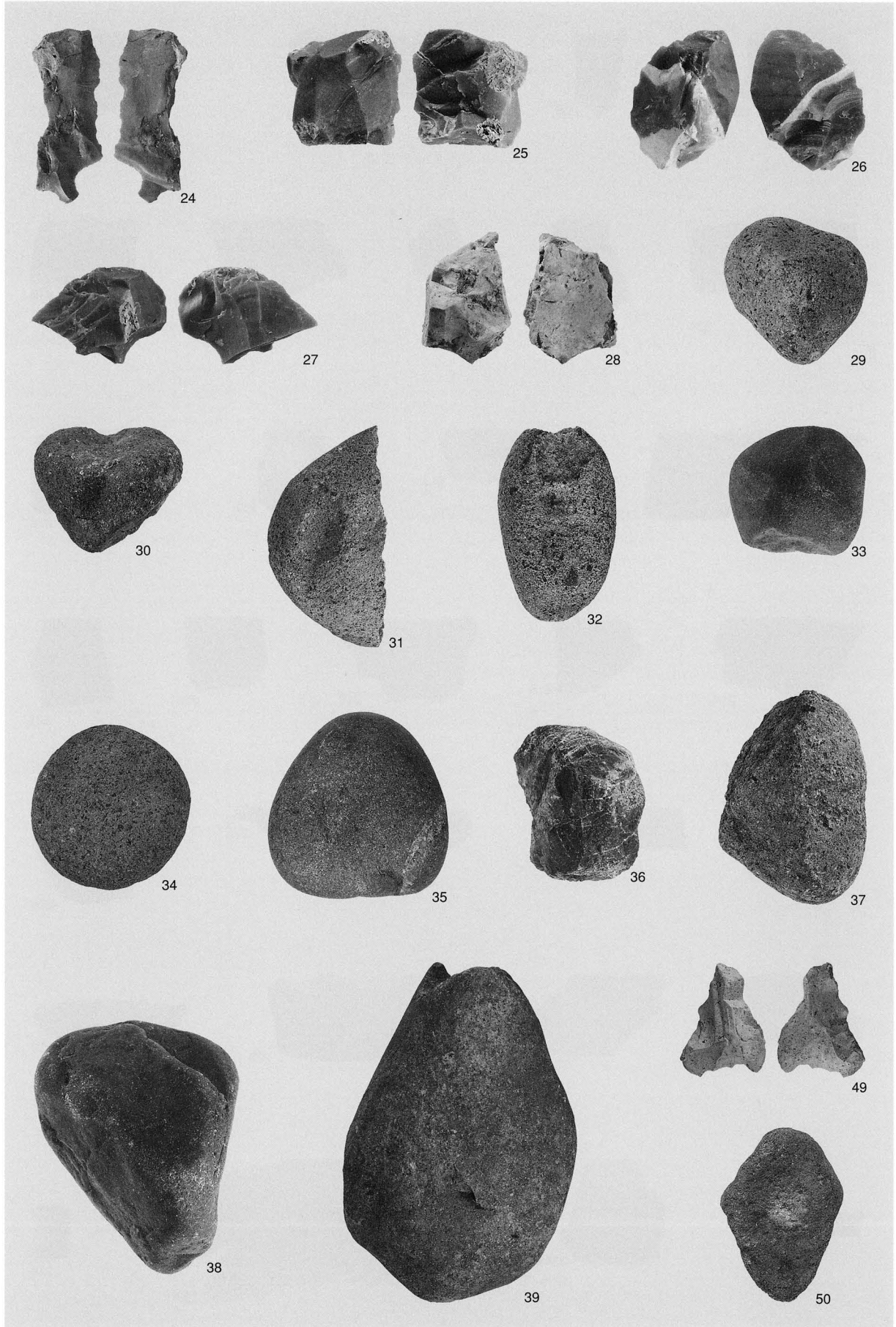
写真図版19 出土土器 (8)



写真図版20 出土土器 (9)



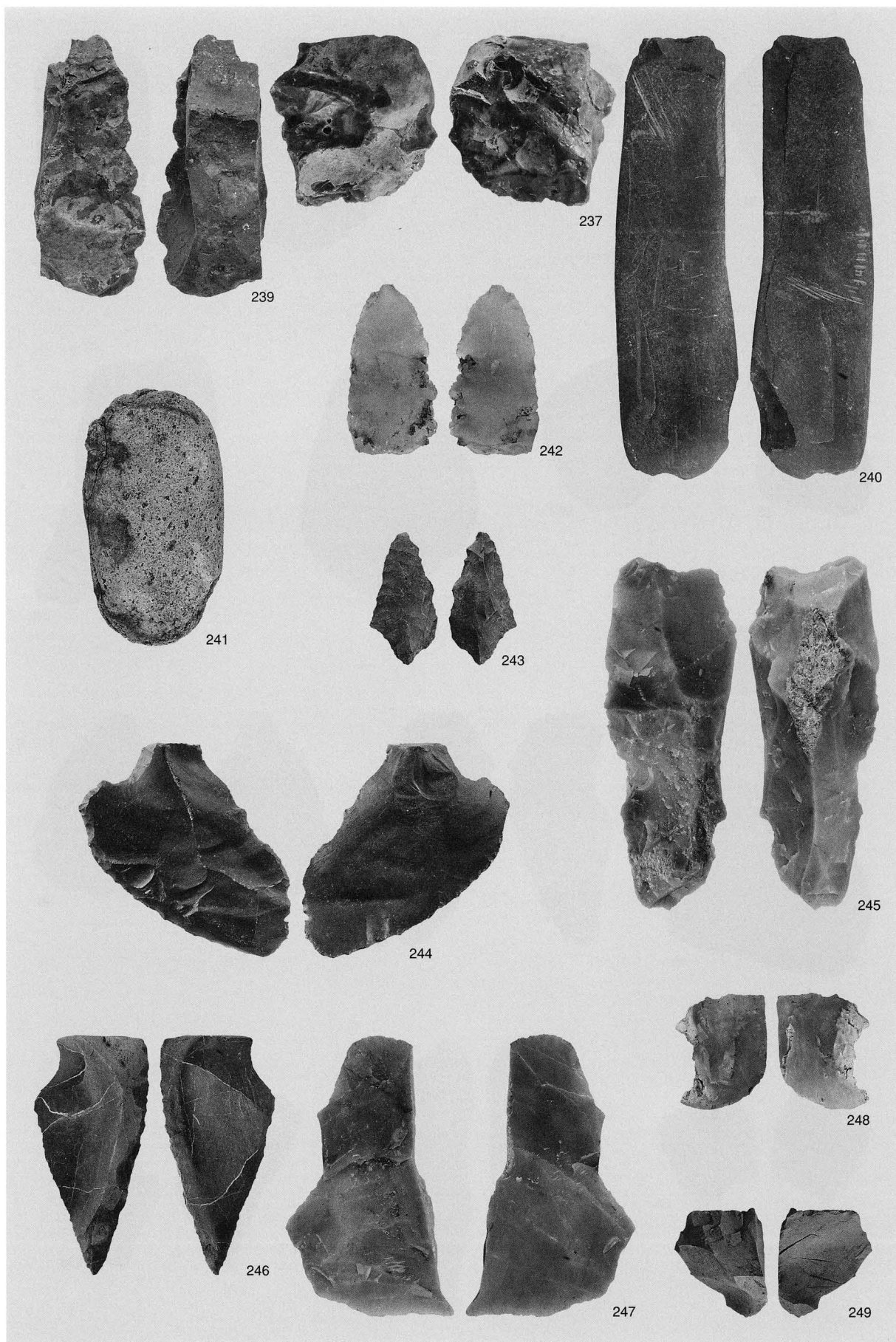
写真図版21 出土土器 (10)



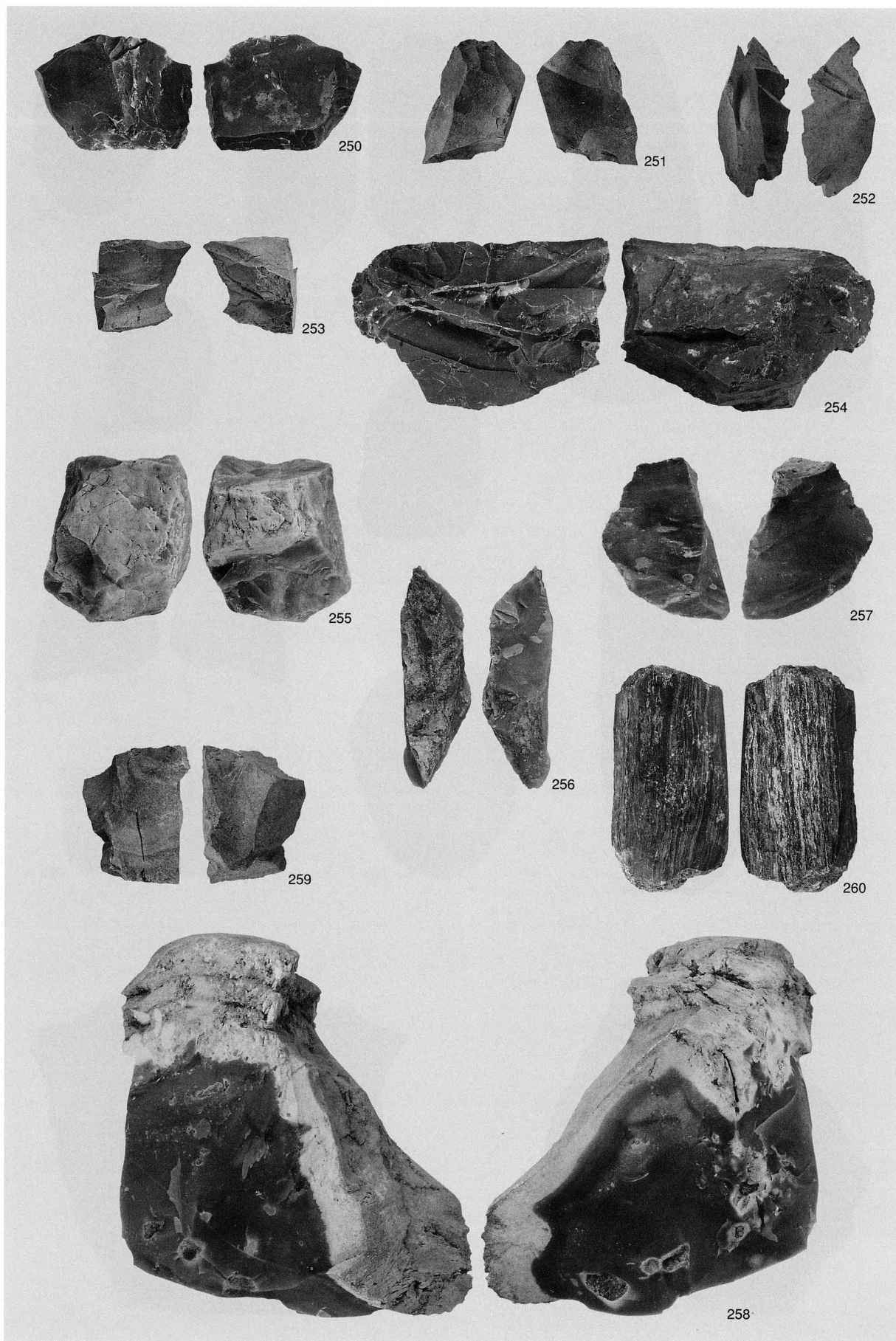
写真図版22 出土石器 (1)



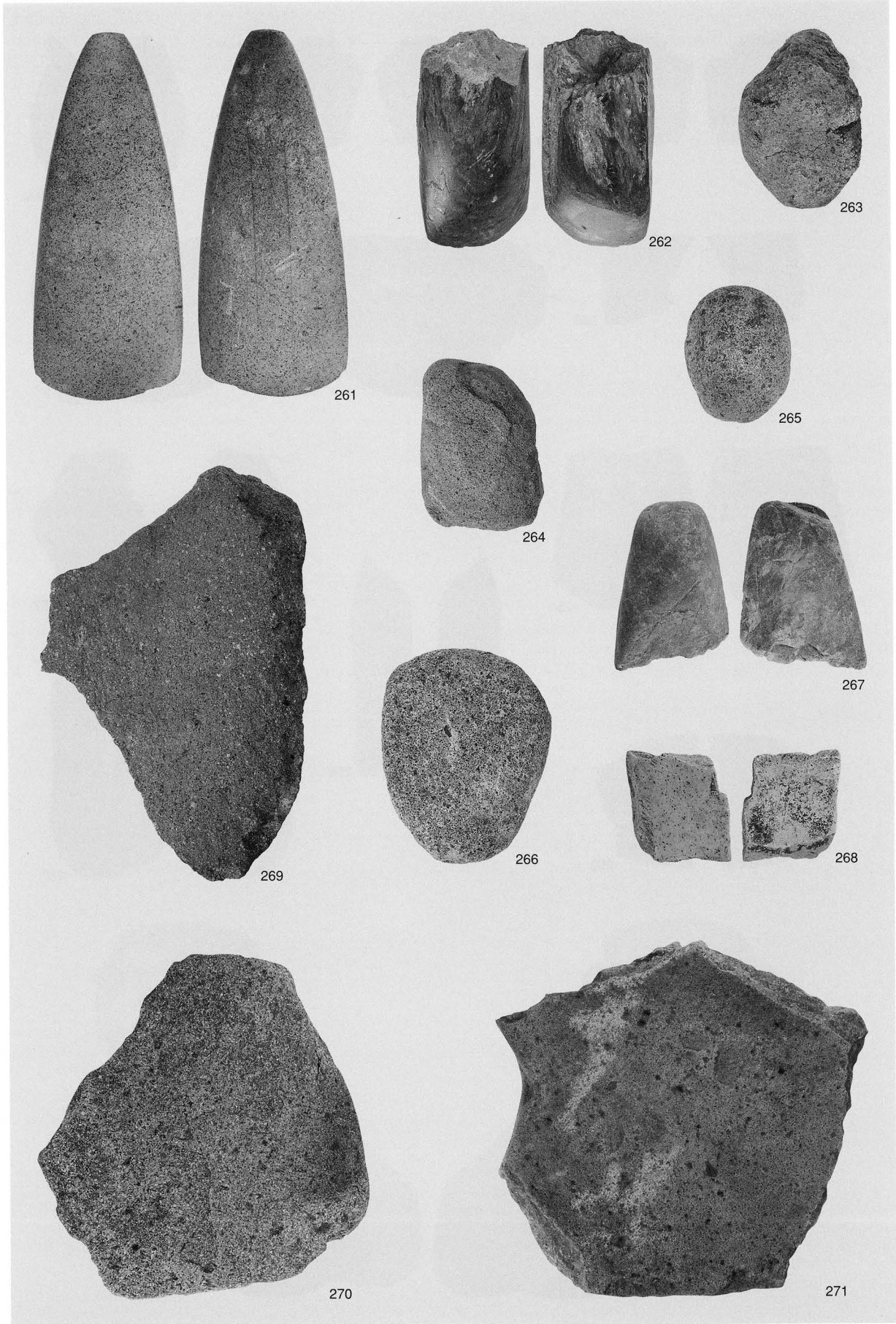
写真図版23 出土石器 (2)



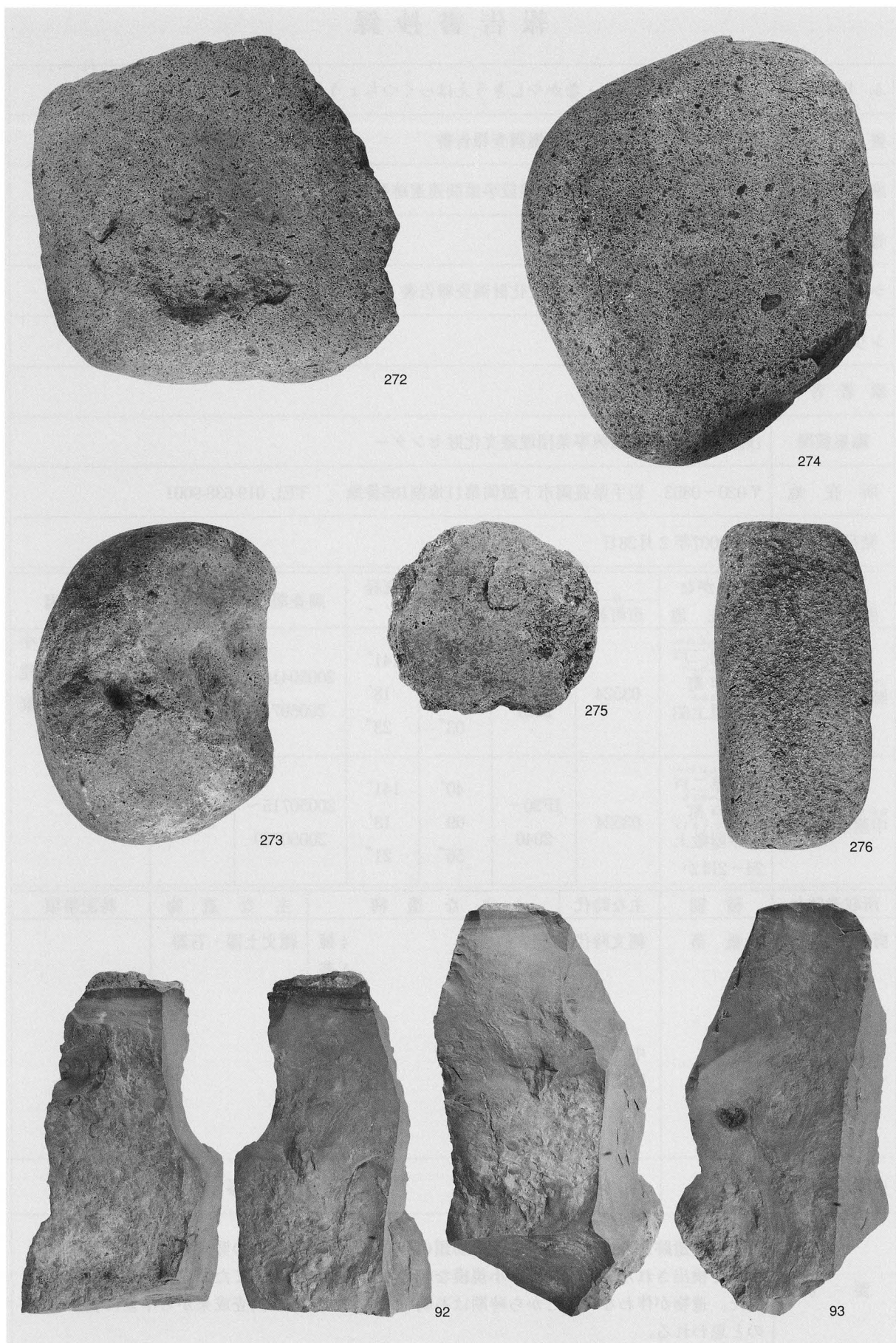
写真図版24 出土石器 (3)



写真図版25 出土石器(4)



写真図版26 出土石器 (5)



写真図版27 出土石器 (6)

報告書抄録

ふりがな	のぎとかみにいせき・なかやしきうえはくつちようさほうこくしょ							
書名	野里上Ⅱ遺跡・中屋敷上発掘調査報告書							
副書名	一般国道4号小鳥谷バイパス建設事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第491集							
編著者名	村木 敬・藤原大輔							
編集機関	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡第11地割185番地 TEL 019-638-9001							
発行年月日	西暦2007年 2月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
のぎとかみに 野里上Ⅱ遺跡	いわてけんのにのへ 岩手県二戸 ぐんいちのへちよう 郡一戸町 あざのぎとかみ 字野里上63 ほか	03524	JF30- 2021	40° 10' 03"	141° 18' 23"	20050416~ 20050714	6,365㎡	一般国道4号小 鳥谷バイパス建 設事業に伴う緊 急発掘調査
なかやしきうえ 中屋敷上遺跡	いわてけんのにのへ 岩手県二戸 ぐんいちのへちよう 郡一戸町 あざなかやしきうえ 字中屋敷上 24-2ほか	03524	JF30- 2040	40° 09' 56"	141° 18' 21"	20050715~ 20050729	356㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
野里上Ⅱ遺跡	集落	縄文時代 中世 時期不明	竪穴住居 埋設土器 焼土 土坑 竪穴建物 土坑 柱穴	4棟 1基 3基 10基 2棟 10基 28個	縄文土器・石器			
中屋敷上遺跡	散布地	縄文時代			縄文土器			
要約	野里上Ⅱ遺跡からは中期末から後期初頭の竪穴住居2棟、晩期の竪穴住居2棟が異なる段丘面で検出された。それに伴い小規模な包含層が確認された。また竪穴建物2棟が検出された。遺物が伴わないことから時期は不明であるが、周辺の調査成果から中世に属するものと思われる。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第491集

野里上Ⅱ遺跡・中屋敷上遺跡発掘調査報告書

一般国道4号小鳥谷バイパス建設事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成19年2月23日

発 行 平成19年2月28日

発 行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電 話 (019) 638-9001
F A X (019) 638-8563

印 刷 (有)小松茂印刷所
〒020-0025 岩手県盛岡市大沢川原二丁目5-37
電 話 (019) 623-6073

